

### 3. みどりの実態調査

### 3. みどりの実態調査

#### 3.1 緑被地調査

##### 3.1.1 調査方法

###### (1) 航空写真撮影

航空写真撮影は GPS/IMU 装置を搭載した計測機器を用いて実施し、カラーデジタルオルソデータ及び近赤外線オルソデータを作成した。樹木の倒れ込みを極力少なくする撮影を行うために、デジタルセンサーシステム諸元及び撮影諸元については表 3.1.1 のとおりとした。また、空中写真撮影コース図を図 3.1.1 に示す。

表 3.1.1 航空写真のデジタルセンサー諸元及び撮影諸元

項 目	摘 要
撮 影 範 囲	港区全域 (20.37 k m <sup>2</sup> )
撮 影 時 期	令和3年6月8日、9日
撮 影 高 度	2,400m
撮 影 コース	南北 14 コース
撮 影 重 複 度	オーバーラップ(80%)、サイドラップ(80%)
デジタル計測機器	デジタル航空カメラ Ultra Cam Eagle
取得画像データ	RGB(カラー)/NIR(近赤外線)を同時取得する
地 上 解 像 度	約 10 c m (縮尺 1/8,333 相当)
地上検証点設置	5 点

###### (2) 画像データ加工

取得画像データより、カラーデジタルオルソデータ及び近赤外線オルソデータを作成した。なお、デジタルオルソ精度は、数値情報レベル 1000 相当 (国土交通省国土地理院デジタルオルソ作成の公共測量作業マニュアル) とした。

# 港区みどりの実態調査(第10次)委託 撮影計画図

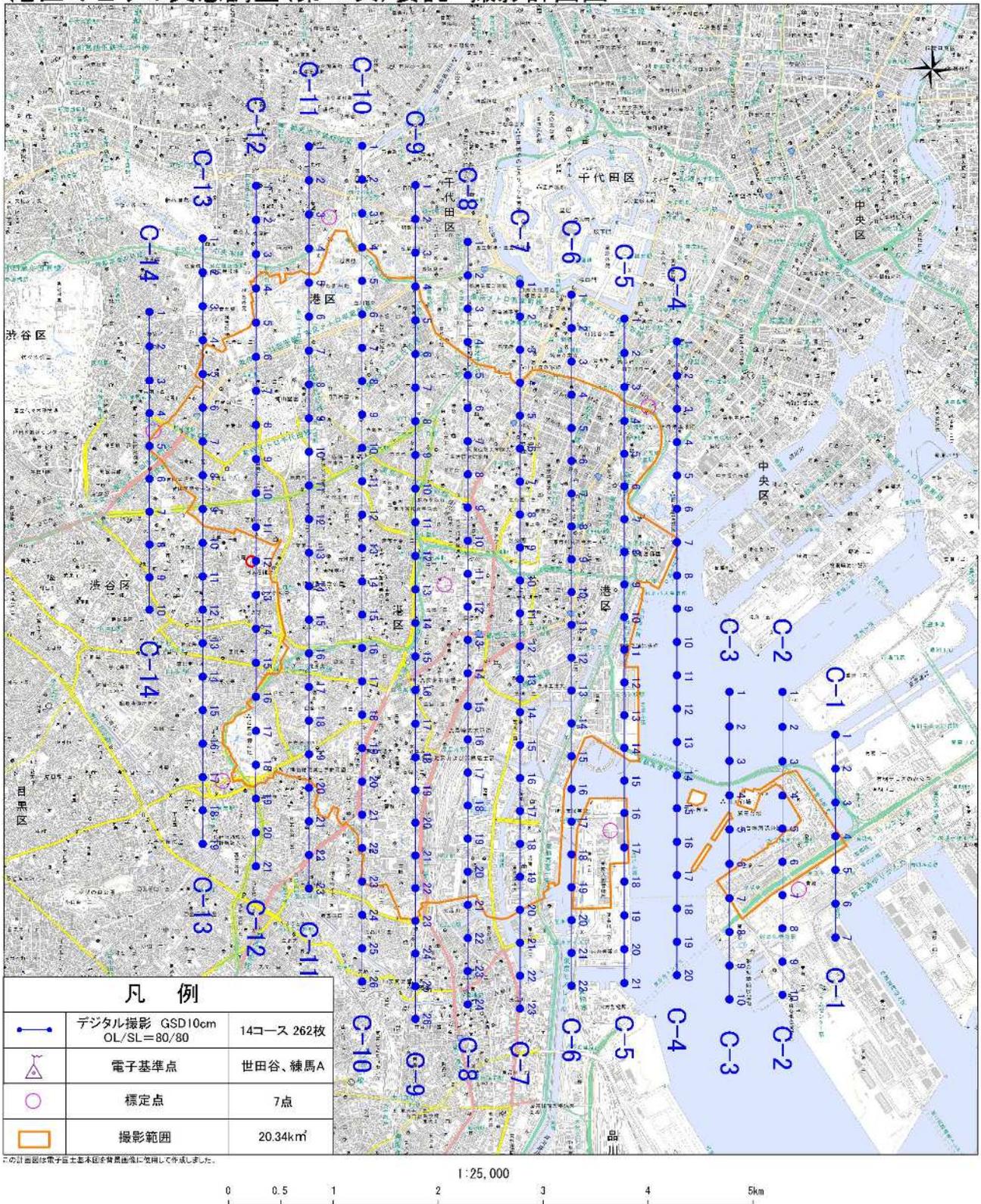


図 3.1.1 空中写真撮影コース

### (3) 緑被の抽出及び区分

カラーデジタルオルソデータ及び近赤外線オルソデータのバンドデータを用いて緑被の自動抽出を行った。抽出規模は1 m<sup>2</sup>（東京都緑被率標準調査マニュアルにおける水準Ⅰ）とした。その結果をカラーデジタルオルソデータと重ね合わせて、目視判読により以下の項目に区分を行った。

- ① 樹木被覆地：公園・道路・敷地内の樹木、樹林に覆われた部分の面積。  
なお、人工地盤上にある樹木は樹木被覆地とした。
- ② 草地：公園・道路・敷地内の草本類による緑被地面積。写真判読上明らかに造成地で管理されていない草地は裸地とした。なお、人工地盤上にある草地は草地とした。
- ③ 屋上緑地：建築物上に植栽された樹木被覆地、地被類、プランター等で面的に広がりをもつもの。
- ④ 裸地：植生のない未舗装地。公園やグラウンドのダスト舗装、未舗装の駐車場、造成地等。
- ⑤ 水面：河川、運河、池、公園区域内の池

### (4) 緑被の面積計測及び集計

緑被判読結果は、町丁目別を最小単位として、5地区総合支所別、都市構造区分別、用途地域別に面積集計を行った。

### 3.1.2 緑被地の現況

#### (1) 区全体の現況

○ 区全体の緑被地等の構成割合	
オープンスペース率	: 25.72%
緑被率	: 22.62%
内訳 ・ 樹木被覆率	: 19.00%
・ 草地率	: 2.55%
・ 屋上緑地率	: 1.07%

区全体の緑被地等の状況は表 3.1.2、図 3.1.2 に示す。また、区全体の緑被地等分布図を図 3.1.3 に示す。

区全体では、緑被地面積は 469.59ha で、緑被率は 22.62% であった。緑被地のうち樹木被覆地は 394.40ha、樹木被覆率 19.00%、草地は 53.03ha、草地率 2.55%、屋上緑地は 22.16ha、屋上緑地率 1.07% であった。樹木被覆地は緑被地全体の約 84% を占めており、樹木被覆地が緑被の主な構成要素となっている。

緑被地に裸地と水面を加えたオープンスペースは 534.03ha、25.72% であった。

オープンスペース以外は、建築物・舗装道路等の構造物によって表面を被覆された土地であり、面積は 1,541.96ha、区全体の 74.28% であった。

なお、今回の調査では東京都都市計画基本図データによる行政界図形をもとにした面積 (2,075.99ha) を調査区域面積としている。

表 3.1.2 区全体の緑被地等の状況

項目	面積(ha)	比率(%)
オープンスペース	534.03	25.72
緑被地	469.59	22.62
樹木被覆地	394.40	19.00
草地	53.03	2.55
屋上緑地	22.16	1.07
裸地	27.58	1.33
水面	36.87	1.78
構造物被覆地	1,541.96	74.28
調査区域面積	2,075.99	100.00

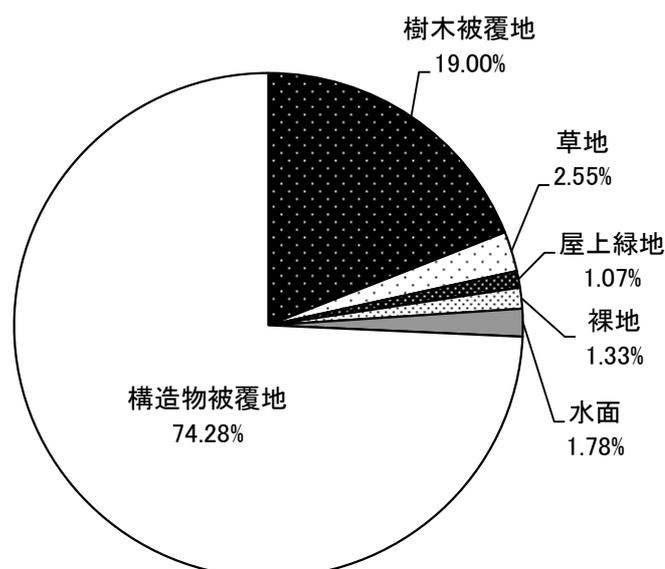


図 3.1.2 区全体の緑被地等の状況

※ 小数第3位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある

※ 調査区域面積は行政界図形面積とするため、公表面積と異なる。

# 緑被地等分布図



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号)3都市基交著第60号

図 3.1.3 緑被地等分布図

## (2) 都市構造区分ごとの緑被地の分布

「港区みどりの実態調査」では実際の土地利用から分類した都市構造区分を設定し、区分ごとに緑被地面積の集計を行っている。区分の内容は平成 28 年東京都土地利用現況データを活用し、表 3.1.3 のとおりとした（説明欄の番号は東京都土地利用現況データの土地利用コードを示す）。表 3.1.3 で整理した項目から作成した区全体の都市構造区分図を図 3.1.4 に示す。

表 3.1.3 都市構造区分項目

No.	区 分	説 明
1	(交通用地) 鉄道用地	520 鉄道・港湾等
2	(交通用地) 道路	510 道路
3	河川・運河	700 水面・河川・水路
4	公園緑地等	300 公園、運動場等
5	(公共公益施設) 大使館	111 官公庁施設より作成
6	(公共公益施設) 宮内庁管理地	111 官公庁施設より作成
7	(公共公益施設) 官公庁施設	111 官公庁施設のうち No. 5、No. 6 を除いたもの
8	(公共公益施設) 学校	112-1 教育施設
9	(公共公益施設) 文化施設 A	112-2 文化施設のうち面積が 1 ha 以上のもの
10	(公共公益施設) 文化施設 B	112-2 文化施設のうち面積が 1 ha 未満のもの
11	社寺	112-3 宗教施設
12	(公共公益施設) 医療・福祉施設	113 厚生医療施設
13	(公共公益施設) 供給処理施設	114 供給処理施設
14	(商業施設) 商業施設 A	122、124、125 商業用地のうち面積 5,000 m <sup>2</sup> 以上で緑被率(樹木・草地・屋上緑化)が 25% 以上のもの
15	(商業施設) 商業施設 B	122、124、125 商業用地のうち商業施設 A 以外のもの
16	(商業施設) 事務所 A	121 事務所建築物のうち面積 5,000 m <sup>2</sup> 以上で緑被率(樹木・草地・屋上緑化)が 25% 以上のもの
17	(商業施設) 事務所 B	121 事務所建築物のうち事務所 A 以外のもの
18	(住宅用地) 独立住宅	131 独立住宅
19	(住宅用地) 集合住宅 A	132 集合住宅のうち面積 5,000 m <sup>2</sup> 以上のもの
20	(住宅用地) 集合住宅 B	132 集合住宅のうち集合住宅 A 以外のもの
21	(住宅用地) 併用住宅	123 住商併用建物、142 住居併用工場
22	工業施設 A	143-1 運輸施設等
23	工業施設 B	141 専用工場、143-2 倉庫施設等
24	その他	210 屋外利用地・仮設建築物、400 未利用地等 800 原野、900 森林、220 その他

# 都市構造区分図



## 凡例

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| 01(交通用地)鉄道用地      | 13(公共公益施設)供給処理施設 |
| 02(交通用地)道路        | 14(商業施設)商業施設A    |
| 03河川・運河           | 15(商業施設)商業施設B    |
| 04公園緑地等           | 16(商業施設)事務所A     |
| 05(公共公益施設)大使館     | 17(商業施設)事務所B     |
| 06(公共公益施設)宮内庁管理地  | 18(住宅用地)独立住宅     |
| 07(公共公益施設)官公庁施設   | 19(住宅用地)集合住宅A    |
| 08(公共公益施設)学校      | 20(住宅用地)集合住宅B    |
| 09(公共公益施設)文化施設A   | 21(住宅用地)併用住宅     |
| 10(公共公益施設)文化施設B   | 22工業施設A          |
| 11社寺              | 23工業施設B          |
| 12(公共公益施設)医療・福祉施設 | 24その他            |

0 250 500 1,000 1,500 2,000  
メートル

図 3.1.4 都市構造区分図

○緑被地面積の順位

- 1 位：公園緑地等（97.16ha）
- 2 位：（公共公益施設）宮内庁管理地（52.93ha）
- 3 位：（交通用地）道路（51.49ha）

○緑被率の順位

- 1 位：（公共公益施設）宮内庁管理地（82.16%）
- 2 位：公園緑地等（64.60%）
- 3 位：（公共公益施設）大使館（50.51%）

○樹木被覆率の順位

- 1 位：（公共公益施設）宮内庁管理地（69.95%）
- 2 位：公園緑地等（55.16%）
- 3 位：（公共公益施設）大使館（43.02%）

都市構造区分別の緑被状況を図 3.1.5、図 3.1.6、表 3.1.4 に示す。

区内の都市構造区分の面積構成では道路が全体の 21.56%（447.60ha）、事務所 B が 13.07%（271.28ha）、集合住宅 B が 10.38%（215.50ha）の割合であった。

緑被地面積が大きい都市構造区分は、面積が大きい順に公園緑地等（97.16ha）、宮内庁管理地（52.93ha）、道路（51.49ha）であった。公園緑地等の敷地面積は区全体面積の 7.24%と小さいが、緑被地面積では全体の 20.69%を占めている。同様に、宮内庁管理地の敷地面積は区全体面積の 3.10%であるが、緑被地面積では 11.27%であった。このように、公園緑地等と宮内庁管理地の緑被地が全体の約 1/3 を構成しており、重要なみどりの拠点となっている。

緑被率が大きい都市構造区分は、宮内庁管理地（82.16%）、公園緑地等（64.60%）、大使館（50.51%）であった。公園緑地等は一般の立ち入りが可能であることに対して、宮内庁管理地と大使館は立ち入りが困難な施設であり、機能の異なるみどりとなっている。道路以外で最も面積割合が高い事務所 B は、緑被率が 11.25%、次いで面積割合の高い集合住宅 B の緑被率は 16.36%であった。商業施設、事務所、集合住宅の各 B 区分は面積が 5,000 m<sup>2</sup>未満で緑被率が 25%未満であるが、集合住宅 B の緑被率が最も高く、樹木被覆地が占める面積が大きい。商業施設 B は屋上緑地率が比較的高く、商業施設 A よりも高い数値を示している。商業施設 A の緑被率は 48.74%と非常に高いが、屋上緑地率は 1.22%と低く、樹木被覆率が 39.99%と高いことが特徴的である。

屋上緑地面積は事務所 B が 5.47ha と最も大きく、次いで集合住宅 B が 3.53ha であった。屋上緑地率では文化施設 B が 4.91%と最も高く、次いで医療・福祉施設 3.30%、

商業施設 2.96%、官公庁施設 2.90%、供給処理施設 2.83%であることから、公共系の施設の屋上緑化率が高いが、事務所や集合住宅にも多くの屋上緑地が整備されていることが分かる。緑化計画書制度では、地上部緑化のみで基準緑化面積が確保できない場合は、建築物上の屋上・壁面緑化も認めていることから、建築計画に伴い面積が増加している。

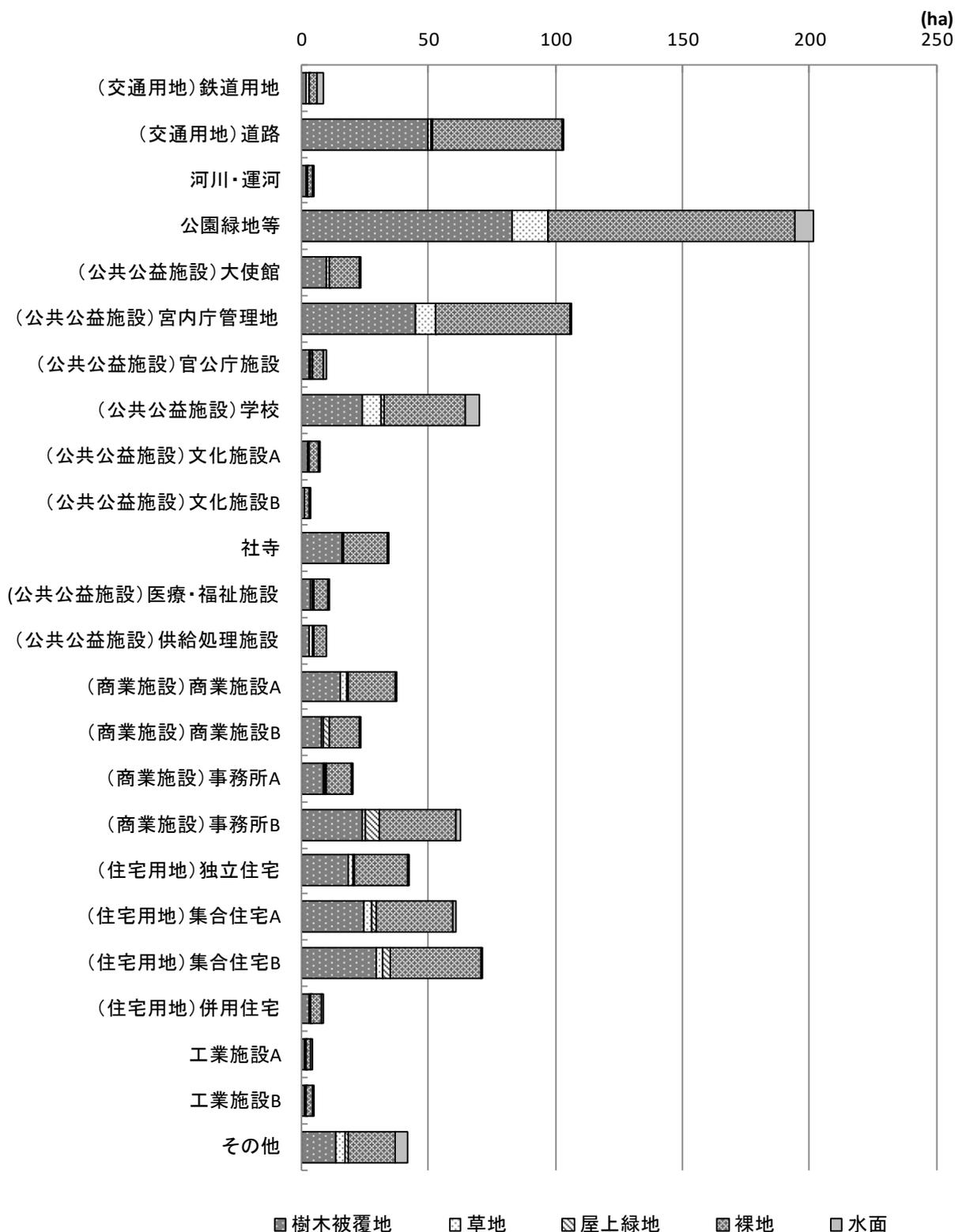


図 3.1.5 都市構造区分別緑被地等面積

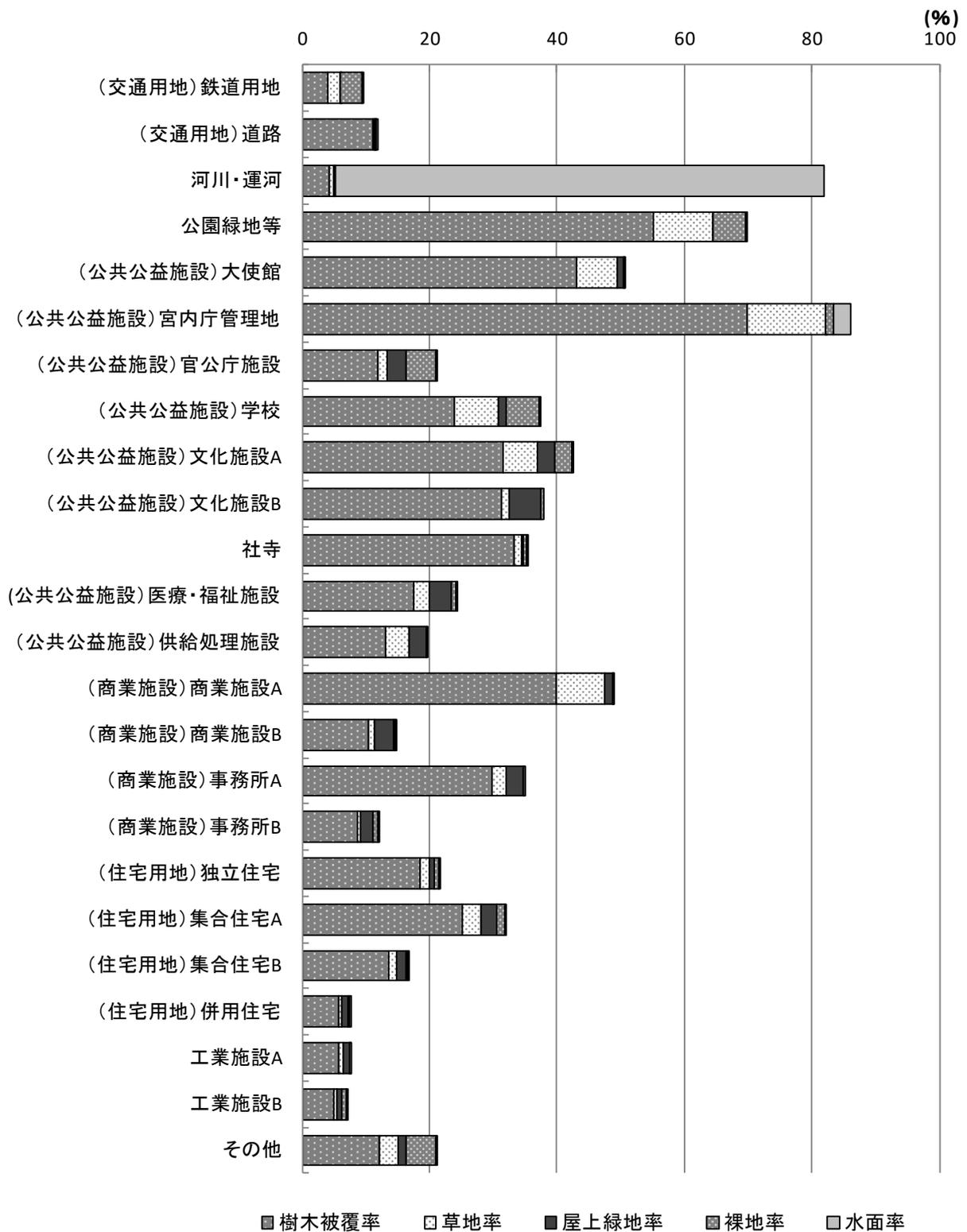


図 3.1.6 都市構造区分別緑被地等の面積比率

表 3.1.4 都市構造区分別緑被地等面積集計表

都市構造区分	面積 (ha)	緑被地(ha)				裸地 (ha)	水面 (ha)	樹木 被覆率 (%)	草地率 (%)	屋上 緑地率 (%)	裸地率 (%)	水面率 (%)	緑被率 (%)	オープンス ペース率 (%)
		樹木 被覆地	草地	屋上 緑地	計									
(交通用地)鉄道用地	54.11	2.19	1.06	0.01	3.25	1.90	0.12	4.04	1.96	0.01	3.51	0.23	6.01	9.75
(交通用地)道路	447.60	49.71	1.64	0.14	51.49	0.43	0.11	11.11	0.37	0.03	0.10	0.03	11.50	11.62
河川・運河	44.41	1.91	0.34	0.00	2.26	0.07	34.03	4.31	0.77	0.00	0.16	76.61	5.09	81.86
公園緑地等	150.40	82.96	14.16	0.04	97.16	7.49	0.35	55.16	9.42	0.02	4.98	0.23	64.60	69.81
(公共公益施設)大使館	22.45	9.66	1.47	0.21	11.34	0.02	0.01	43.02	6.54	0.94	0.08	0.04	50.51	50.63
(公共公益施設)宮内庁管理地	64.42	45.06	7.87	0.00	52.93	0.79	1.72	69.95	12.21	0.00	1.23	2.68	82.16	86.07
(公共公益施設)官公庁施設	27.02	3.24	0.35	0.78	4.38	1.27	0.04	12.01	1.29	2.90	4.68	0.13	16.20	21.02
(公共公益施設)学校	101.36	24.21	7.12	1.04	32.37	5.37	0.01	23.88	7.02	1.03	5.30	0.01	31.93	37.24
(公共公益施設)文化施設A	8.37	2.65	0.44	0.23	3.31	0.22	0.02	31.63	5.24	2.73	2.67	0.23	39.60	42.49
(公共公益施設)文化施設B	4.27	1.33	0.06	0.21	1.60	0.03	0.00	31.19	1.32	4.91	0.61	0.00	37.42	38.03
社寺	48.40	16.08	0.64	0.10	16.82	0.23	0.01	33.23	1.33	0.20	0.47	0.02	34.76	35.24
(公共公益施設)医療・福祉施設	22.19	3.88	0.58	0.73	5.19	0.16	0.02	17.48	2.62	3.30	0.71	0.08	23.39	24.18
(公共公益施設)供給処理施設	24.51	3.21	0.90	0.69	4.81	0.00	0.00	13.12	3.66	2.83	0.00	0.00	19.61	19.61
(商業施設)商業施設A	38.19	15.27	2.88	0.47	18.61	0.01	0.02	39.99	7.53	1.22	0.04	0.05	48.74	48.82
(商業施設)商業施設B	78.86	8.26	0.71	2.34	11.32	0.27	0.03	10.48	0.90	2.96	0.34	0.03	14.35	14.72
(商業施設)事務所A	28.46	8.48	0.65	0.74	9.87	0.02	0.04	29.81	2.27	2.61	0.07	0.14	34.70	34.90
(商業施設)事務所B	271.28	23.90	1.15	5.47	30.52	1.42	0.01	8.81	0.42	2.02	0.52	0.00	11.25	11.78
(住宅用地)独立住宅	100.98	18.62	1.63	0.57	20.82	0.83	0.00	18.44	1.62	0.56	0.82	0.00	20.62	21.44
(住宅用地)集合住宅A	97.38	24.40	3.05	2.43	29.88	1.00	0.12	25.06	3.13	2.50	1.03	0.12	30.69	31.84
(住宅用地)集合住宅B	215.50	29.34	2.39	3.53	35.26	0.58	0.01	13.62	1.11	1.64	0.27	0.00	16.36	16.64
(住宅用地)併用住宅	56.02	3.28	0.24	0.53	4.05	0.19	0.00	5.85	0.43	0.95	0.33	0.01	7.22	7.56
工業施設A	25.08	1.46	0.18	0.25	1.90	0.00	0.02	5.83	0.74	0.99	0.02	0.08	7.56	7.65
工業施設B	32.12	1.62	0.15	0.28	2.04	0.21	0.00	5.03	0.45	0.87	0.65	0.01	6.35	7.01
その他	112.63	13.67	3.38	1.38	18.42	5.08	0.18	12.14	3.00	1.22	4.51	0.16	16.36	21.03
区全体	2,075.99	394.40	53.03	22.16	469.59	27.58	36.87	19.00	2.55	1.07	1.33	1.78	22.62	25.72

※小数第3位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある

### (3) 公共民間別の緑被地の分布

- 公共用地の緑被地面積は 270.07ha、緑被率 27.81%であった。
- 民有地の緑被地面積は 199.52ha、緑被率 18.06%であった。

区内の公共用地及び民有地の緑被地等の状況を表 3.1.5、図 3.1.7、図 3.1.8 に示す。

公共用地面積は 971.12ha で区全体の 46.8%、民有地面積は 1,104.87ha で 53.2%であった。緑被地では公共用地の緑被地面積 270.07ha、緑被率 27.81%、民有地が緑被地面積 199.52ha、緑被率 18.06%であり、緑被地の 57.5%が公共用地で、42.5%が民有地であった。

公共用地の主な緑被地は公園緑地、赤坂御用地であり、担保性が確保されているみどりとなっている。

民有地の主な緑被地は社寺林、集合住宅地の緑地、施設緑地である。また、近年の大規模な施設整備でも緑化指導等においても、一定面積以上の緑地が整備されている。

表 3.1.5 公民別の緑被地等の状況

上段:面積(ha)、下段:比率(%)

区分	面積(ha)	緑被地				裸地	水面	オープンスペース
		樹木被覆地	草地	屋上緑地	計			
公共用地	971.12	230.01	35.98	4.08	270.07	17.74	36.43	324.24
		23.69	3.71	0.42	27.81	1.83	3.75	33.39
民有地	1,104.87	164.39	17.05	18.08	199.52	9.84	0.44	209.79
		14.88	1.54	1.64	18.06	0.89	0.04	18.99
区全体	2,075.99	394.40	53.03	22.16	469.59	27.58	36.87	534.03
		19.00	2.55	1.07	22.62	1.33	1.78	25.72

※ 小数第3位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある  
 ※ 調査区域面積は行政界図形面積とするため、区公表面積と異なる。

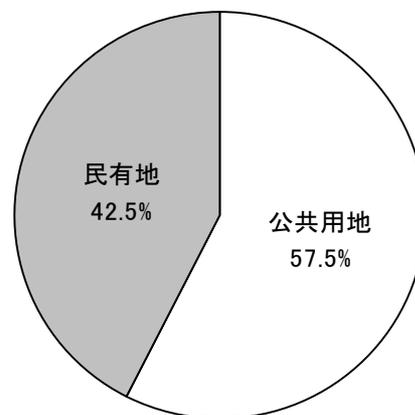
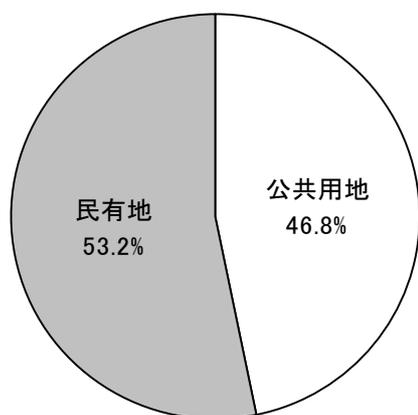


図 3.1.7 公民別敷地面積割合

図 3.1.8 公民別緑被地面積割合

#### (4) 用途地域ごとの緑被地の分布

○緑被地面積の順位
1位:第一種中高層住居専用地域(197.29ha)
2位:商業地域(77.19ha)
3位:第二種住居地域(63.59ha)
○緑被率の順位
1位:第一種中高層住居専用地域(43.44%)
2位:第二種住居地域(29.79%)
3位:第一種低層住居専用地域(26.60%)
○オープンスペース率の順位
1位:第一種中高層住居専用地域(45.89%)
2位:第二種住居地域(31.71%)
3位:第一種住居地域(29.23%)

市街化区域内の用途地域別の面積構成割合を図 3.1.9 に示し、用途地域別の緑被地等状況を図 3.1.10、図 3.1.11、表 3.1.6 に示す。また、用途地域別の緑被地面積等の推移を表 3.1.7 に示す。

用途地域の構成割合は、面積が大きい順に商業地域が 31.41%、第一種中高層住居専用地域 22.46%、準工業地域 18.11%、第二種住居地域 10.55%である。

緑被地面積が大きい用途地域は、第一種中高層住居専用地域(197.29ha)、商業地域(77.19ha)、第二種住居地域(63.59ha)で、緑被率が高いのは第一種中高層住居専用地域(43.44%)、第二種住居地域(29.79%)、第一種低層住居専用地域(26.60%)であった。

住居系の全ての用途地域が、緑被率 20%以上であった。住居系用途地域の多くが台地上に分布しており、赤坂御用地、国立科学博物館附属自然教育園、有栖川宮記念公園、青山霊園などのみどりの拠点となる施設が位置している。

商業系の用途地域の緑被率は 10%前後と低くなっている。用途地域の面積構成比が最も高い商業地域は緑被率 12.15%であり、平成 28 年度調査と比較すると樹木被覆率が 1.45 ポイント、屋上緑地率が 0.30 ポイント増加している。

工業系用途地域は準工業地域のみであり、緑被率は 12.07%であった。準工業地域は湾岸地域に広く分布しており、工業系用途地域であるが、大規模な集合住宅や芝浦中央公園が位置している。平成 28 年度調査と比較すると緑被率は 1.54 ポイント増加しており、特に樹木被覆率が 1.24 ポイントと増加が大きい。

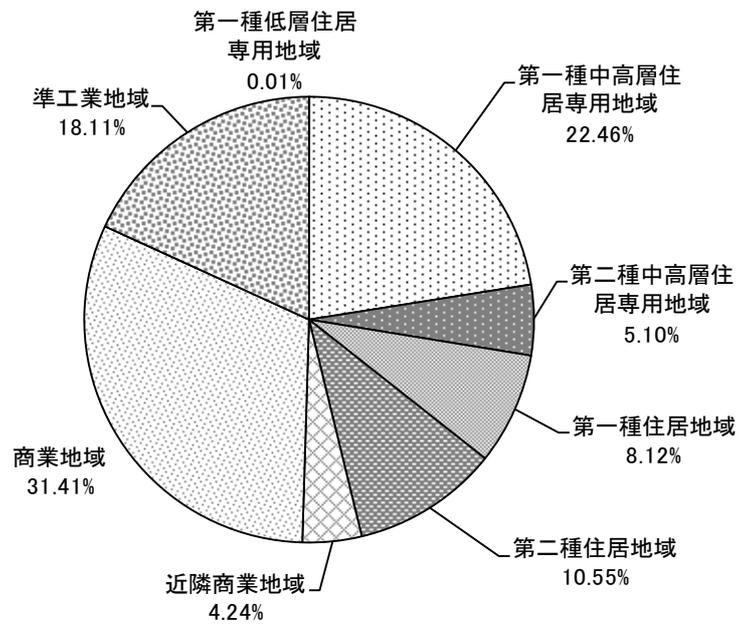


图 3.1.9 用途地域面積構成割合

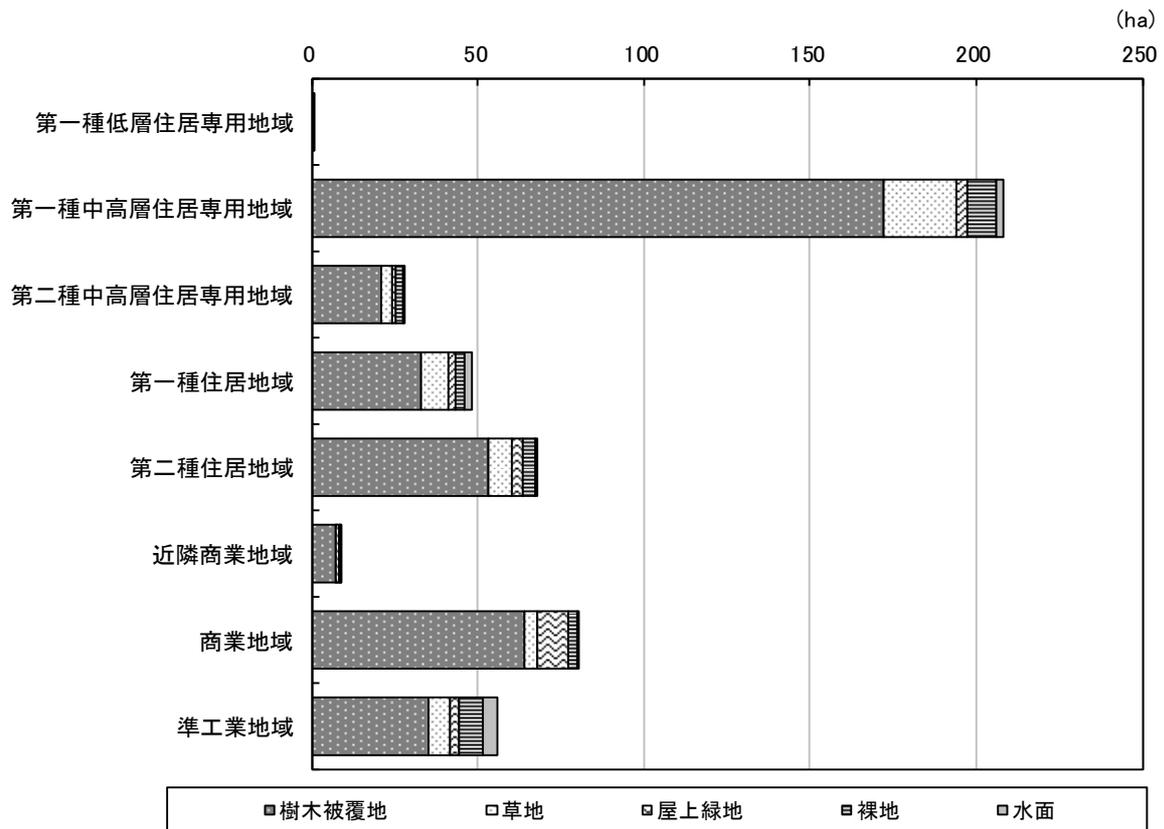


图 3.1.10 用途地域別緑被地等面積

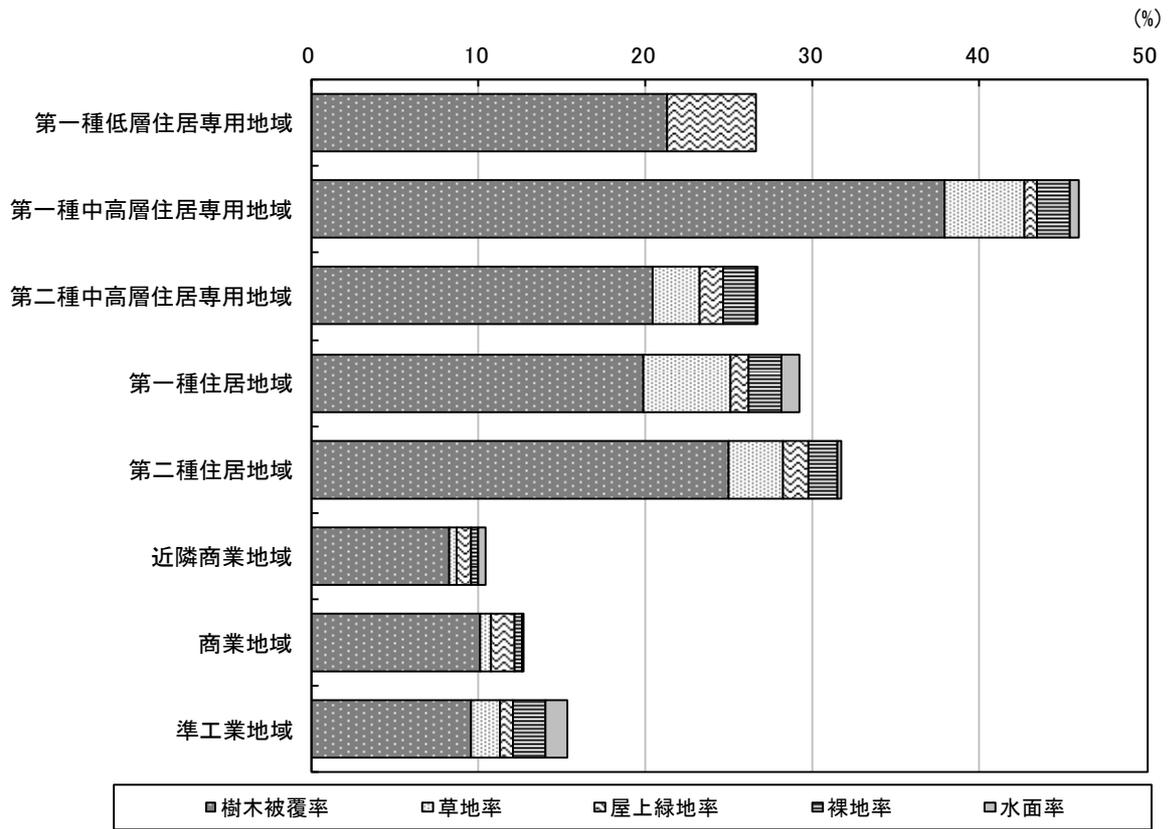


図 3.1.11 用途地域別緑被地等の面積比率

表 3.1.6 用途地域別緑被等面積集計表

用途地域	面積 (ha)	緑被地(ha)				裸地 (ha)	水面 (ha)	樹木 被覆率 (%)	草地率 (%)	屋上 緑地率 (%)	裸地率 (%)	水面率 (%)	緑被率 (%)	オープンス ペース率 (%)
		樹木 被覆地	草地	屋上 緑地	計									
第一種低層住居専用地域	0.17	0.04	0.00	0.01	0.04	0.00	0.00	21.31	0.00	5.29	0.00	0.00	26.60	26.60
第一種中高層住居専用地域	454.15	172.23	21.76	3.30	197.29	8.70	2.43	37.92	4.79	0.73	1.92	0.54	43.44	45.89
第二種中高層住居専用地域	103.20	21.14	2.86	1.42	25.42	2.03	0.01	20.49	2.77	1.37	1.97	0.01	24.64	26.62
第一種住居地域	164.12	32.91	8.55	1.56	43.01	3.06	1.90	20.05	5.21	0.95	1.87	1.16	26.21	29.23
第二種住居地域	213.45	53.37	6.94	3.28	63.59	3.55	0.55	25.00	3.25	1.54	1.66	0.26	29.79	31.71
近隣商業地域	85.75	7.10	0.36	0.70	8.16	0.37	0.44	8.28	0.42	0.82	0.43	0.51	9.52	10.46
商業地域	635.14	64.32	3.84	9.03	77.19	2.53	0.72	10.13	0.60	1.42	0.40	0.11	12.15	12.66
準工業地域	366.34	35.12	6.35	2.76	44.23	7.17	4.66	9.59	1.73	0.75	1.96	1.27	12.07	15.30
合計	2,022.31	386.23	50.66	22.06	458.95	27.41	10.71	19.10	2.51	1.09	1.36	0.53	22.69	24.58

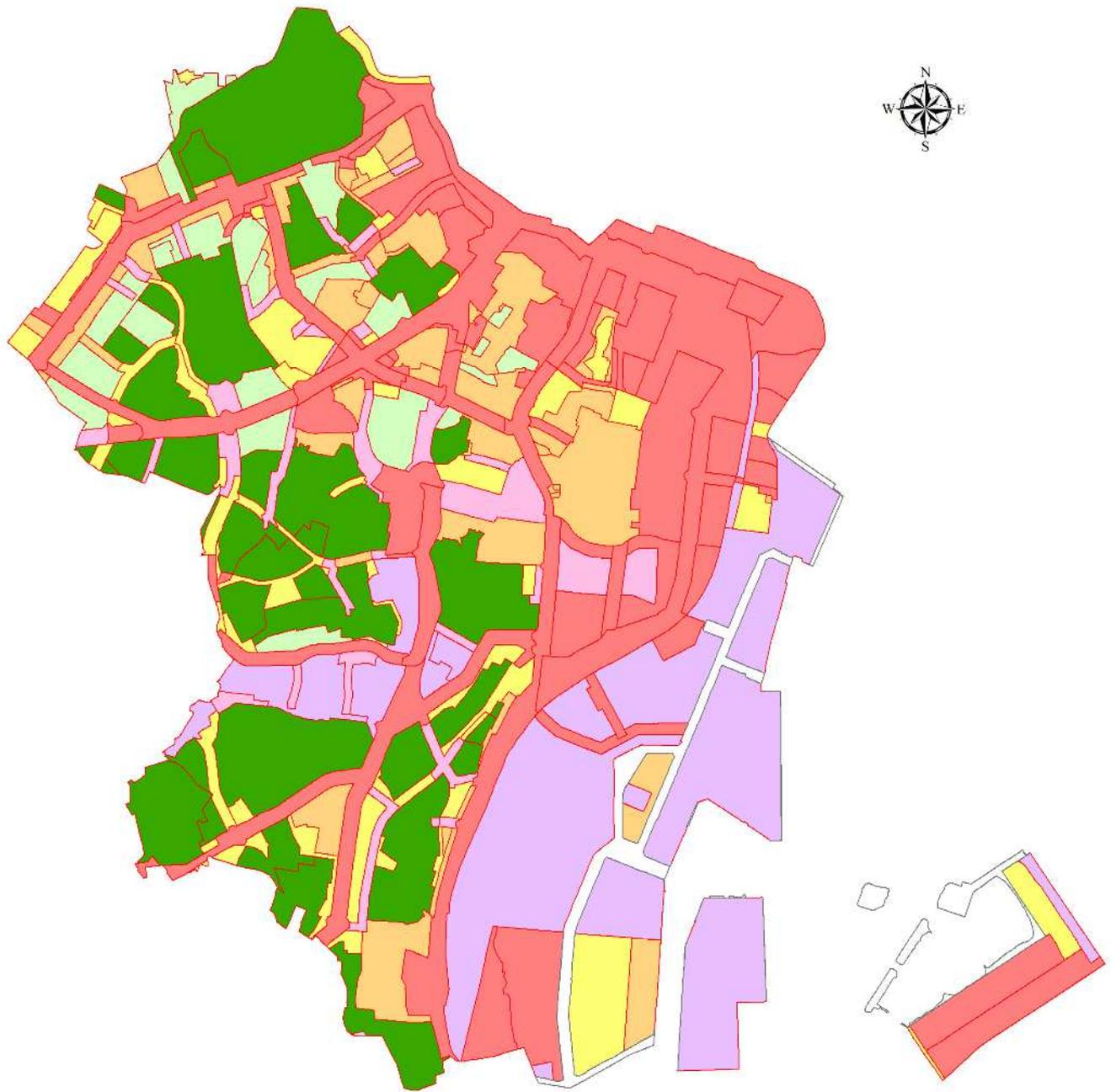
※小数第3位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある  
 ※合計面積は市街化調整区域を除いたものである

表 3.1.7 用途地域別緑被地面積等の推移

用途地域	平成28年度				令和3年度				平成28年度→令和3年度			
	樹木 被覆率(%)	草地率 (%)	屋上 緑地率(%)	緑被率 (%)	樹木 被覆率(%)	草地率 (%)	屋上 緑地率(%)	緑被率 (%)	樹木被覆率 (ポイント)	草地率推移 (ポイント)	屋上緑地率 推移(ポイント)	緑被率推移 (ポイント)
第一種低層住居専用地域	14.61	0.00	4.99	22.87	21.31	0.00	5.29	26.60	6.70	0.00	0.30	3.72
第一種中高層住居専用地域	39.05	4.47	0.59	44.10	37.92	4.79	0.73	43.44	△ 1.12	0.32	0.14	△ 0.66
第二種中高層住居専用地域	20.29	2.27	0.92	23.48	20.49	2.77	1.37	24.64	0.19	0.51	0.45	1.15
第一種住居地域	19.33	5.08	0.74	25.15	20.05	5.21	0.95	26.21	0.72	0.13	0.21	1.06
第二種住居地域	24.56	3.57	1.27	29.40	25.00	3.25	1.54	29.79	0.44	△ 0.32	0.27	0.40
近隣商業地域	7.09	0.50	0.65	8.24	8.28	0.42	0.82	9.52	1.19	△ 0.08	0.17	1.28
商業地域	8.68	0.75	1.13	10.56	10.13	0.60	1.42	12.15	1.45	△ 0.15	0.30	1.60
準工業地域	8.35	1.73	0.45	10.53	9.59	1.73	0.75	12.07	1.24	0.00	0.30	1.54
区全体	18.53	2.48	0.84	21.85	19.10	2.51	1.09	22.69	0.56	0.02	0.26	0.84

※小数第3位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある

# 用途地域図



## 凡例

- 第1種低層住居専用地域
- 第1種中高層住居専用地域
- 第2種中高層住居専用地域
- 第1種住居地域
- 第2種住居地域
- 近隣商業地域
- 商業地域
- 準工業地域

0 250 500 1,000 1,500 2,000  
メートル

图 3.1.12 用途地域図

## (5) 地区別の現況

### ○緑被率の順位

赤坂地区 > 高輪地区 > 麻布地区 > 芝地区 > 芝浦港南地区

### ○オープンスペース率の順位

赤坂地区 > 高輪地区 > 芝浦港南地区 > 麻布地区 > 芝地区

### ○樹木被覆率の順位

赤坂地区 > 高輪地区 > 麻布地区 > 芝地区 > 芝浦港南地区

区内は総合支所別に5地区に区分されており、地区別に緑被地等の状況を把握した。結果を表3.1.8、表3.1.9、図3.1.13、図3.1.14、図3.1.15に示し、地区別の特徴を以下にまとめた。

#### ① 芝地区

芝地区は地区面積448.27ha、樹木被覆率15.27%、緑被率17.76%、オープンスペース率19.34%であった。

地区面積の33%が商業用地、27%が道路用地であり、商業業務地を中心とした地区である。緑被率は2番目に低く、JR山手線西側の業務地一帯の緑被分布が非常に少ない。主な緑被地は区立芝公園、都立芝公園、増上寺及び隣接する商業施設一帯、都立旧芝離宮恩賜庭園、愛宕神社、イタリア大使館、オーストラリア大使館及び隣接する施設一帯である。

#### ② 麻布地区

麻布地区は地区面積385.77ha、樹木被覆率17.21%、緑被率20.42%、オープンスペース率22.22%であった。

地区面積の24%が集合住宅用地、22%が道路用地、16%が商業用地であり、斜面緑地を中心にまとまった緑被地が分布している。主な緑被地は有栖川宮記念公園、善福寺と隣接する集合住宅一帯、麻布台二丁目から麻布永坂町、六本木一丁目の商業業務地及び集合住宅、六本木五・六丁目一帯、社寺、大使館等である。台地上には緑被地が多いが、古川の北側から西側にかけての東麻布や麻布十番といった低地部や都道412号線沿道付近では緑被地が非常に少ない。

#### ③ 赤坂地区

赤坂地区は地区面積412.70ha、樹木被覆率26.90%、緑被率32.44%、オープンスペース率33.98%である。

地区面積の22%が商業用地、31%が公共用地である。赤坂御用地や青山霊園が位置することから公共用地の占める割合が5地区中最も高くなっている。緑被率、オープ

ンスペース率、樹木被覆率、草地率は5地区中最も高い。これは、赤坂御用地、青山霊園、明治神宮外苑等の大規模な緑地が位置するためである。また、赤坂九丁目の檜町公園と隣接する緑地、氷川神社、アメリカ大使館等でまとまった緑地が見られる。一方で国道246号線南側や都道405号線の西側では緑被地の少ない地域も見られる。

#### ④ 高輪地区

高輪地区は地区面積344.16ha、樹木被覆率25.53%、緑被率27.98%、オープンスペース率29.55%となっている。

地区面積の24%が集合住宅用地、商業用地が13%、独立住宅が12%を占めており、独立住宅の割合が5地区中最も高い。緑被率、オープンスペース率、樹木被覆率は赤坂地区に次いで高い。赤坂地区の緑被地の多くが公共用地にあるのに対して、高輪地区では私有地の緑被地が多いことが特徴である。主な緑被地は自然教育園、ホテル等の商業用地、社寺、学校等である。古川南側の白金一・三丁目といった低地部の緑被地は少なくなっている。

#### ⑤ 芝浦港南地区

芝浦港南地区は地区面積485.09ha、樹木被覆率12.51%、緑被率16.70%、オープンスペース率24.67%である。

地区面積の22%が道路用地、9%が鉄道用地で交通関連用地の割合が高い。また、工業用地は9%で5地区中最も高い。樹木被覆率は5地区中最も低いが、運河を有することからオープンスペース率は比較的高くなっている。主な緑被地は、都立お台場海浜公園、芝浦中央公園等の公園や東京海洋大学である。海岸三丁目や港南五丁目の港湾施設では緑被地はほとんど見られない。

表 3.1.8 地区別緑被地等面積集計表（総合支所別）

総合支所	調査区域面積 (ha)	緑被地(ha)				裸地 (ha)	水面 (ha)	構造物 被覆地 (ha)	樹木 被覆率 (%)	草地率 (%)	屋上 緑地率 (%)	裸地率 (%)	水面率 (%)	構造物 被覆率 (%)	緑被率 (%)	オープン スペース 率 (%)
		樹木 被覆地	草地	屋上 緑地	計											
芝地区	448.27	68.44	5.39	5.80	79.63	4.82	2.24	361.57	15.27	1.20	1.29	1.08	0.50	80.66	17.76	19.34
麻布地区	385.77	66.38	6.57	5.83	78.78	6.10	0.84	300.05	17.21	1.70	1.51	1.58	0.22	77.78	20.42	22.22
赤坂地区	412.70	111.01	18.71	4.15	133.87	3.58	2.79	272.46	26.90	4.53	1.01	0.87	0.68	66.02	32.44	33.98
高輪地区	344.16	87.87	6.24	2.19	96.29	4.90	0.51	242.45	25.53	1.81	0.64	1.42	0.15	70.45	27.98	29.55
芝浦港南 地区	485.09	60.70	16.13	4.18	81.01	8.18	30.48	365.42	12.51	3.32	0.86	1.69	6.28	75.33	16.70	24.67
区全体	2,075.99	394.40	53.03	22.16	469.59	27.58	36.87	1,541.96	19.00	2.55	1.07	1.33	1.78	74.28	22.62	25.72

- ※ 小数第3位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある
- ※ 調査区域面積は東京都都市計画基本図データの図形面積とするため、区公表面積と異なる

表 3.1.9 地区別の緑被率等の順位

総合支所	緑被率	樹木被覆率	オープンスペース率	屋上緑地率
A 芝地区	4位	4位	5位	2位
B 麻布地区	3位	3位	4位	1位
C 赤坂地区	1位	1位	1位	3位
D 高輪地区	2位	2位	2位	5位
E 芝浦港南地区	5位	5位	3位	4位

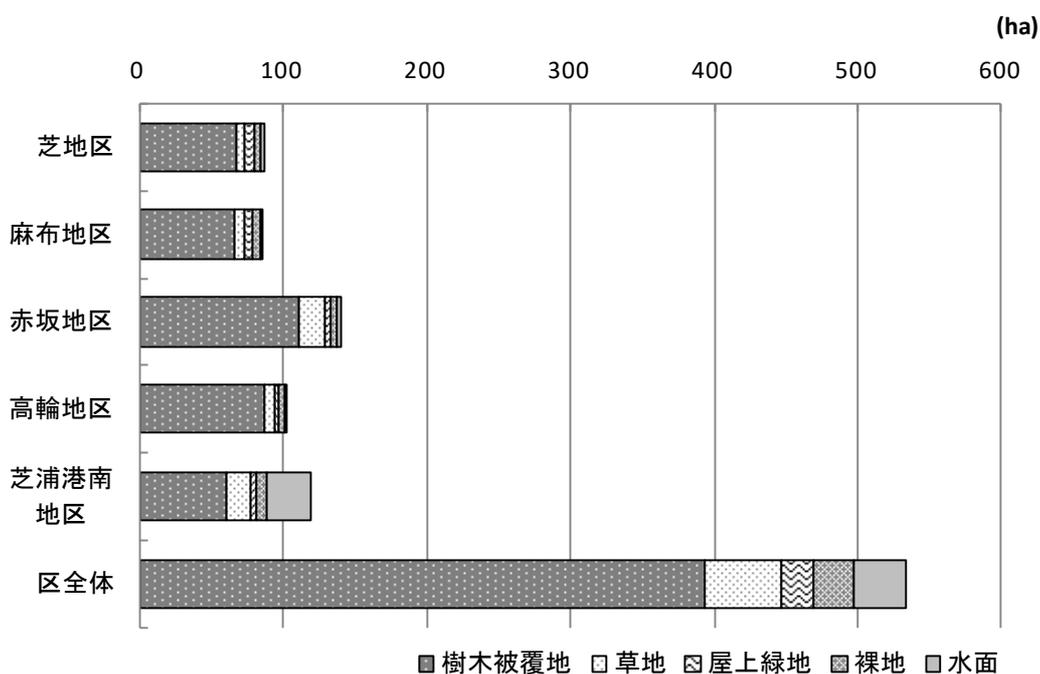


図 3.1.13 地区別の緑被地等の面積

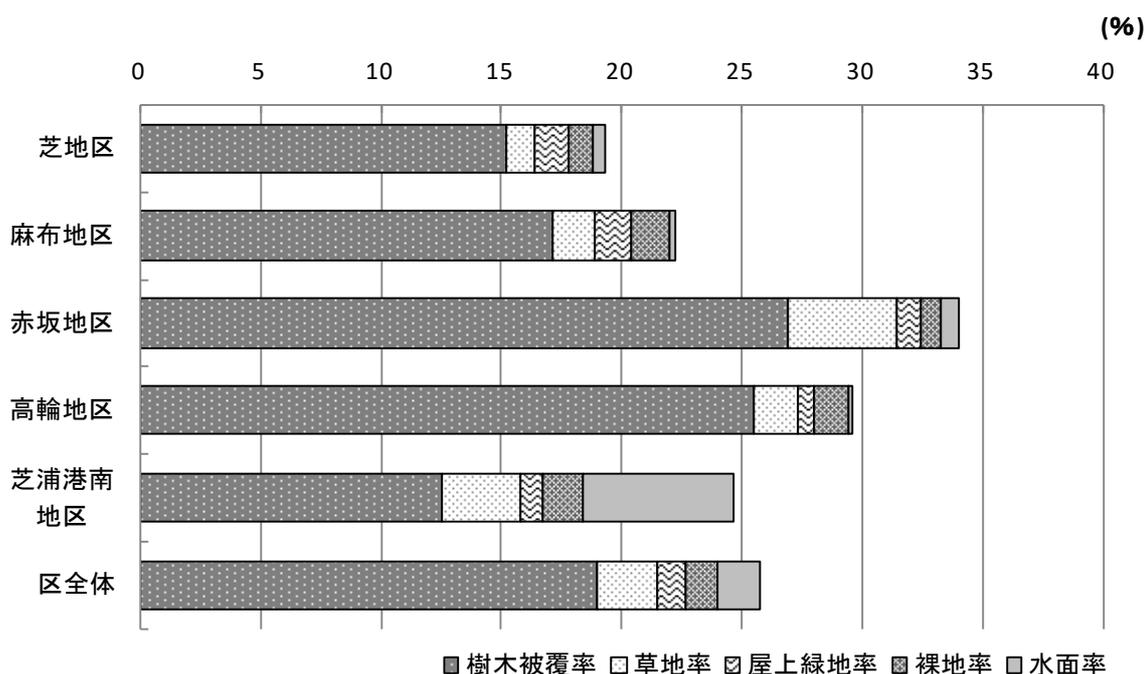


図 3.1.14 地区別の緑被等の面積比率

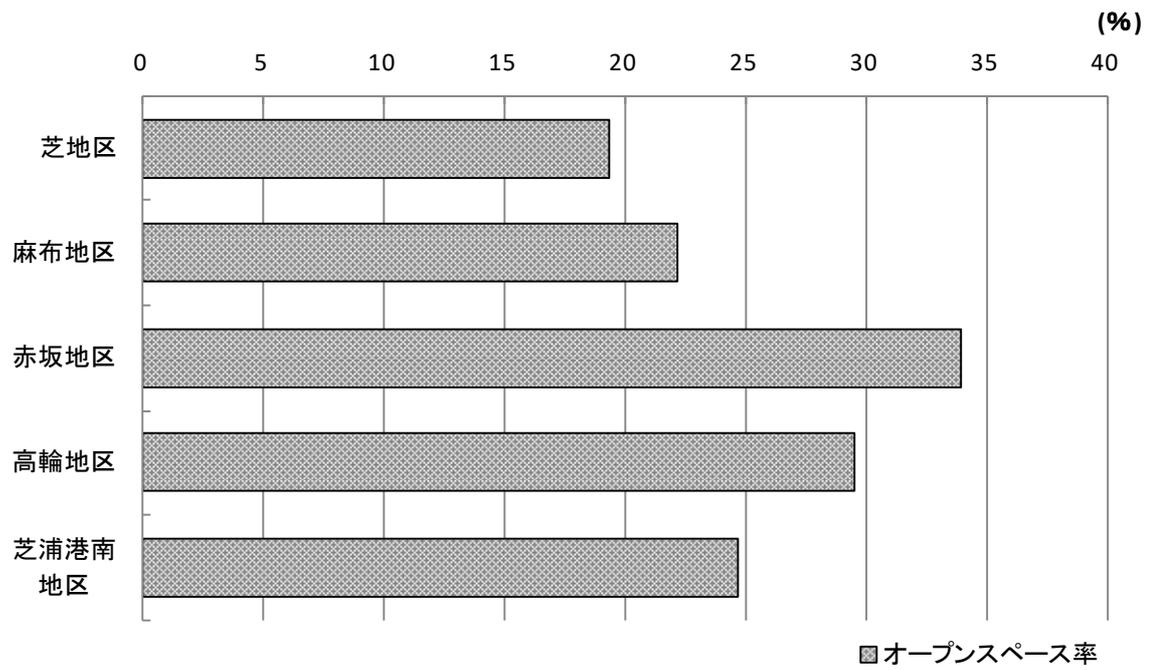


図 3.1.15 地区別のオープンスペース率

※ オープンスペース率は、緑被地に裸地と水面を加えた面積が、区域面積に占める割合

## (6) 他区との比較

緑被率、樹木被覆率の他区との比較を図 3.1.16、図 3.1.17 に示す。各区の数値は調査年度、調査方法、緑被の抽出精度が異なるため、比較は参考となるが、令和3年度調査結果の緑被率 22.6%は第4位、樹木被覆率 19.0%は第2位であった。港区は都心にありながらも23区中ではみどりの多い区であり、特に樹木被覆地の占める割合が高いことが分かる。

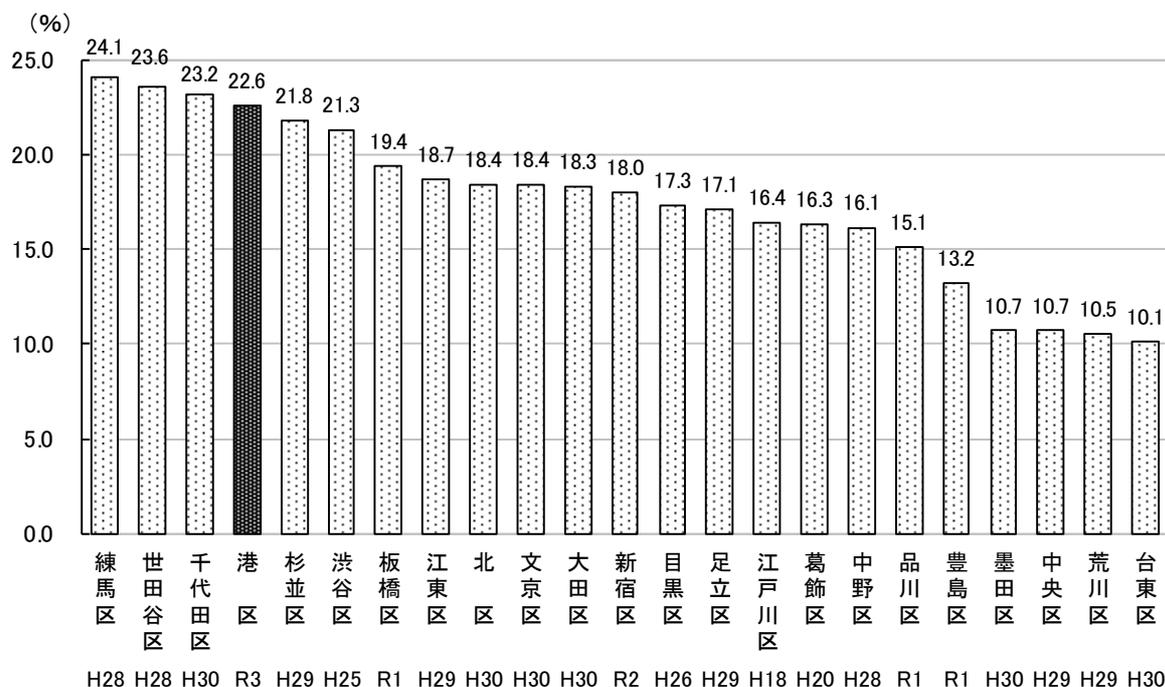


図 3.1.16 東京都 23 区の緑被率

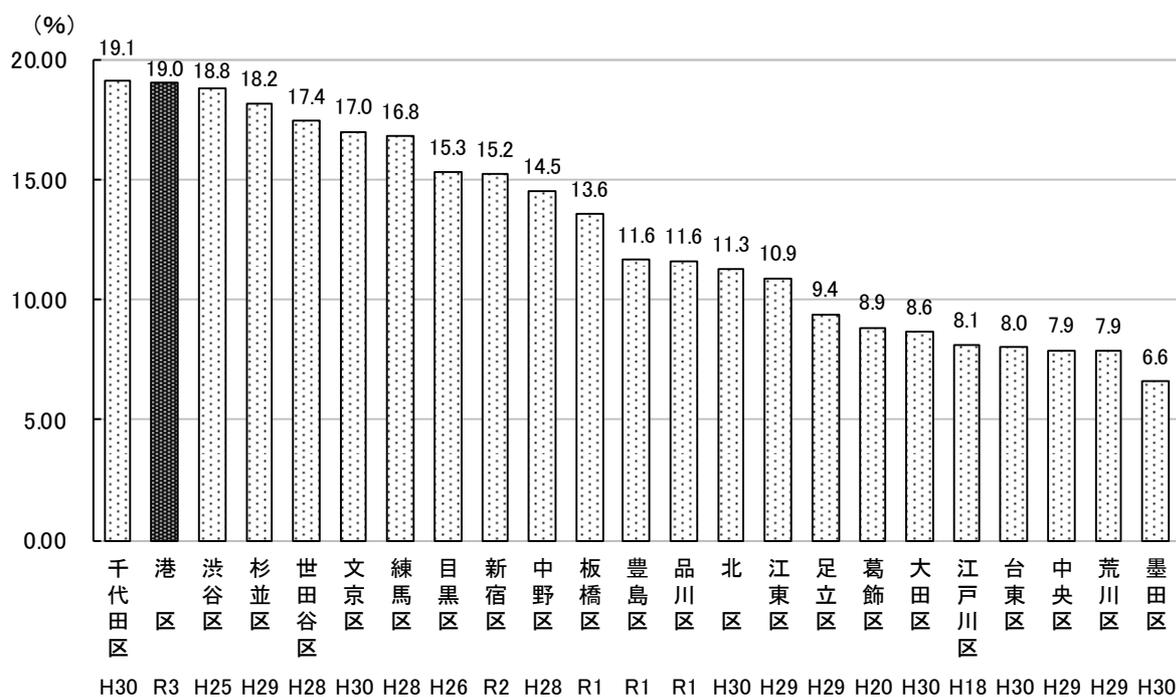


図 3.1.17 東京都 23 区の樹木被覆率

### 3.1.3 緑被地の推移

#### (1) 推移の概要

○ 平成 28 年度調査時の緑被地面積 452.26ha に対し、令和 3 年度調査時の緑被地面積は 469.59ha であり、17.33ha の増加であった。

緑被地面積 : 17.33ha 増加

樹木被覆地面積 : 10.99ha 増加

草地面積 : 1.85ha 増加

屋上緑地面積 : 4.49ha 増加

オープンスペース面積 : 0.69ha 減少

平成 13 年度（第 6 次）調査から令和 3 年度（第 10 次）調査の緑被面積等の推移は表 3.1.10、表 3.1.11、図 3.1.18、図 3.1.19 に示すとおりである。

平成 13 年度調査からの主だった緑被地の変化としては、平成 13 年度調査から平成 18 年度調査にかけて、防衛庁跡地、国立新美術館、汐留地区、六本木六丁目地区をはじめとする大規模なまちづくり事業が行われ、既存の樹木等は減少したものの新たな緑地が創出され、平成 23 年度調査にかけて全体の緑被地は増加傾向となっている。それらの施設整備では、整備後に大規模な屋上緑地が整備されており、特に平成 18 年度から平成 23 年度にかけては屋上緑地も大きく増加した。また、檜町公園、区立芝公園など、公園整備による緑被地の増加も目立っている。

平成 28 年度調査と令和 3 年度調査では、区全体では緑被地面積は 17.33ha の増加で、平成 23 年度から平成 28 年度の 0.41ha の増加よりも大きい。

令和 3 年度調査の緑被地面積が増加した主な要因は、集合住宅や商業・業務施設などの開発事業に伴う緑地整備、公園や街路樹、施設内樹木の生長に伴うものである。敷地規模の大きい建築では大規模な緑地が整備されており、新たな樹木被覆地が増えていることが確認できる。

一方で、麻布台一丁目・虎ノ門五丁目の再開発事業、芝浦一丁目の再開発事業では緑被地が消失しているが、事業の進捗に伴い新たな緑地整備が期待される。この他にも施設の建替えに伴う緑被地の減少箇所は確認されているが、建替え後は緑被地が整備されると考えられる。また、公園等の管理に伴い、お台場海浜公園、旧芝離宮恩賜庭園、青山墓地では樹木被覆地面積は減少している。公園や墓地は管理方法によって、樹木被覆地等が減少する場合もあることが分かる。

表 3.1.10 緑被地等面積及び比率の推移

区分	平成13年度(第6次)		平成18年度(第7次)		平成23年度(第8次)		平成28年度(第9次)		令和3年度(第10次)	
	面積(ha)	比率(%)								
オープンスペース	500.30	24.60	512.37	25.19	544.91	26.26	534.72	25.75	534.03	25.72
緑被地	386.15	18.99	417.04	20.51	451.85	21.78	452.26	21.78	469.59	22.62
樹木被覆地	319.54	15.71	374.58	18.42	381.90	18.41	383.41	18.46	394.40	19.00
草地	55.92	2.75	32.93	1.62	52.95	2.55	51.18	2.46	53.03	2.55
屋上緑地	10.69	0.53	9.52	0.47	17.00	0.82	17.67	0.85	22.16	1.07
裸地	76.87	3.78	56.62	2.78	53.69	2.59	44.64	2.15	27.58	1.33
水面	37.28	1.83	38.70	1.90	39.37	1.90	37.83	1.82	36.87	1.78

※ 小数第3位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある  
 ※ 第6次、第7次調査の区全体面積は公表面積(2,033.90ha)であるが、第8次、第9次調査、第10次調査では調査区域面積(第8次:2,074.96ha、第9次:2,076.70ha、第10次:2,075.99ha)を用いている。(詳細はP1参照)

表 3.1.11 緑被地等面積と比率の推移

区分	平成13年度→平成18年度		平成18年度→平成23年度		平成23年度→平成28年度		平成28年度→令和3年度	
	面積(ha)	増減(ポイント)	面積(ha)	増減(ポイント)	面積(ha)	増減(ポイント)	面積(ha)	増減(ポイント)
オープンスペース	12.07	0.59	32.54	1.07	△ 10.18	△ 0.51	△ 0.69	△ 0.02
緑被地	30.89	1.52	34.81	1.27	0.41	0.00	17.33	0.84
樹木被覆地	55.04	2.71	7.32	△ 0.01	1.51	0.06	10.99	0.54
草地	△ 22.99	△ 1.13	20.02	0.93	△ 1.77	△ 0.09	1.85	0.09
屋上緑地	△ 1.17	△ 0.06	7.47	0.35	0.67	0.03	4.49	0.22
裸地	△ 20.25	△ 1.00	△ 2.94	△ 0.20	△ 9.05	△ 0.44	△ 17.06	△ 0.82
水面	1.42	0.07	0.67	△ 0.01	△ 1.54	△ 0.08	△ 0.96	△ 0.05

※ 増減(ポイント)は各調査年度の比率の差  
 ※ 小数第3位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある  
 ※ △:減少した数値

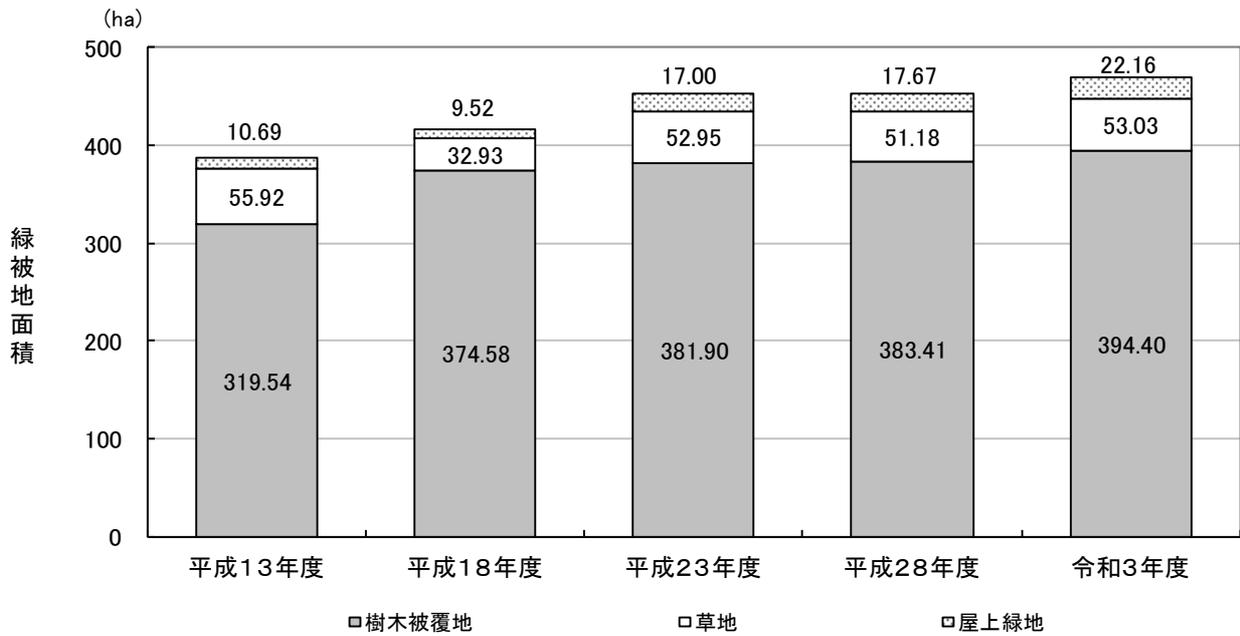


図 3.1.18 緑被地面積の推移

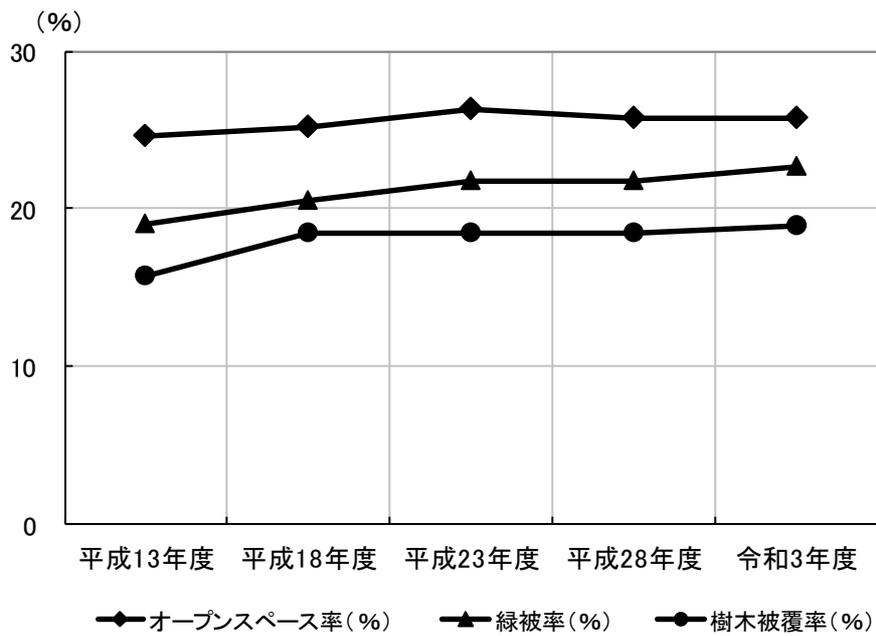


図 3.1.19 オープンスペース率、緑被率、樹木被覆率の推移

## (2) 地区別の推移

### ○ 平成 28 年度調査と比較した地域別の緑被地面積、緑被率の増減

芝地区	: 4.69ha、1.05 ポイント増加
麻布地区	: 3.39ha、0.88 ポイント増加
赤坂地区	: 2.67ha、0.64 ポイント増加
高輪地区	: 2.40ha、0.70 ポイント増加
芝浦港南地区	: 4.19ha、0.86 ポイント増加

### ○ 平成 23 年度調査と比較した地域別の緑被地面積の増減

芝地区	: 3.66ha、0.82 ポイント増加
麻布地区	: 2.83ha、0.73 ポイント増加
赤坂地区	: 1.47ha、0.36 ポイント増加
高輪地区	: 1.05ha、0.31 ポイント増加
芝浦港南地区	: 8.73ha、1.77 ポイント増加

### ○ 平成 18 年度調査と比較した地域別の緑被地面積の増減

芝地区	: 12.18ha、2.50 ポイント増加
麻布地区	: 7.60ha、1.63 ポイント増加
赤坂地区	: 10.53ha、1.65 ポイント増加
高輪地区	: 5.56ha、1.03 ポイント増加
芝浦港南地区	: 16.68ha、3.19 ポイント増加

### 平成 28 年度調査との比較

平成 28 年度調査と比較した地区別緑被地等面積の推移を表 3.1.12 に示す。各地区の変化箇所の詳細は以下のとおりである。また平成 28 年度調査から令和 3 年度調査までの町丁目別緑被率の変化分布図を図 3.1.20 に示す。

#### ① 芝地区

緑被地面積は 4.69ha、緑被率は 1.05 ポイント増加した。内訳は樹木被覆地が 2.33ha (0.52 ポイント) 増加、草地在 0.64ha (0.14 ポイント) 増加、屋上緑地が 1.72ha (0.38 ポイント) 増加であった。緑被率の増加は 5 地区中で最も大きい。

芝地区の樹木被覆地面積の増加では、虎ノ門二丁目が 0.87ha の増加で最も大きい。増加の主な要因はホテル (The Okura Tokyo)、病院 (虎の門病院) の建替えに伴う緑地整備によるものであった。芝公園一丁目、虎ノ門四丁目も樹木被覆地面積の増加が大きい。商業業務ビルの建築 (御成門タワー、神谷町トラストタワー東京ワールドゲート) によるものの他、都立芝公園の樹木面積が増加している。一方、樹木被覆地面積の減少が大きい町丁目は海岸一丁目であった。旧芝離宮恩賜庭園の樹木被覆地の消失や面積縮小によるものであるが、草地面積は増加している。

草地面積の増加箇所は、海岸一丁目の旧芝離宮恩賜庭園、芝公園四丁目の都立芝公園において、樹木被覆地から草地へ変化した箇所である。

屋上緑地面積は、海岸一丁目が 0.33ha、次いで芝公園三丁目が 0.23ha、西新橋三丁目が 0.21ha の増加であった。屋上緑化の増加箇所の多くは、建物の建築に伴う増

加で、平成 28 年度調査時には更地であったが、本調査時は新たに屋上緑地が整備されたものが多い。

## ② 麻布地区

緑被地面積は 3.39ha、緑被率は 0.88 ポイント増加した。内訳は樹木被覆地が 2.13ha (0.55 ポイント) 増加、草地在 0.18ha (0.05 ポイント) 増加、屋上緑地が 1.08ha (0.28 ポイント) 増加であった。

樹木被覆地面積の増加では、六本木六丁目が 0.66ha と最も大きい。建築に伴う増加も確認できるが、街路樹や既存施設内(六本木ヒルズ)の樹木生長による増加が大きい。次いで六本木三丁目が 0.60ha の増加であった。面積規模の大きい事務所ビル建築(六本木グランドタワー)により、大規模な緑地が新たに整備されている。六本木七丁目は 0.42ha の増加であるが、青山公園、天祖神社、街路樹、政策研究大学院大学等の既存樹木の生長が主な増加要因である。一方、麻布台一丁目では、樹木被覆地が 1.14ha 減少している。これは虎ノ門・麻布台地区市街地再開発事業によるものである。

草地では、南麻布五丁目での 0.21ha の増加が最も大きい。建築に伴う新たな草地の整備箇所が複数確認できる。

屋上緑地面積の増加は南麻布四丁目の 0.15ha が最も大きい。区立児童発達支援センター、大規模集合住宅の建築に伴い、屋上緑地が新たに整備されている。次いで六本木六丁目が 1.48ha の増加であった。六本木ヒルズにおいて屋上緑地が増加している。

## ③ 赤坂地区

緑被地面積は 2.67ha、緑被率は 0.64 ポイント増加した。内訳は樹木被覆地が 0.22ha (0.05 ポイント) 増加、草地在 1.56ha (0.38 ポイント) 増加、屋上緑地が 0.88ha (0.21 ポイント) 増加であった。

樹木被覆地面積の増加が最も大きい町丁目は、赤坂一丁目での 0.86ha の増加であった。大規模な商業業務ビル(赤坂インターシティ AIR)の建築によって樹木被覆地が増加している。次いで、赤坂四丁目が 0.48ha、赤坂九丁目が 0.42ha の増加であった。いずれも建替え等に伴う緑地整備によるものであった。一方、樹木被覆地面積が大きく減少した町丁目がある。南青山一丁目の 2.29ha の減少、北青山三丁目の 0.95ha の減少である。南青山一丁目は青山霊園内の樹木被覆地の消失や減少によるものである。北青山三丁目は、都営青山アパート解体によって樹木被覆地が消失したことが主な要因である。一方、都営アパート跡地の一部において、集合住宅が建築されており、新たな緑地も整備され、樹木被覆地の増加が確認されている。

草地面積は、北青山一丁目、二丁目、三丁目において増加面積が大きい。最も面積

増加が大きい北青山三丁目は、都営青山アパート工事のため樹木が伐採され、草地が現れたためである。北青山二丁目の主な増加要因は墓地内の草地面積の増加、北青山一丁目では明治神宮外苑、都営北青山一丁目アパート内での増加であった。

屋上緑地では、赤坂四丁目の増加が最も大きく 0.11ha、次いで赤坂一丁目が増加した。増加要因は、大学（国際医療福祉大学）や商業業務ビル（赤坂インターシティ）の建築に伴う屋上緑地整備によるものであった。

#### ④ 高輪地区

緑被地面積は 2.40ha、緑被率は 0.70 ポイント増加した。内訳は樹木被覆地が 1.69ha（0.49 ポイント）増加、草地が 0.41ha（0.12 ポイント）増加、屋上緑地が 0.30ha（0.09 ポイント）増加であった。

樹木被覆地面積の増加した町丁目では、高輪四丁目の 0.54ha が最も大きい。三菱開東閣の樹木の生長、面積規模は大きくないが建物の建築によって樹木被覆地が確認されている。次いで面積増加の大きい白金二丁目においても既存集合住宅、高輪二丁目の社寺（泉岳寺等）、街路樹等の既存の樹木被覆地の増加が要因となっている。一方、白金四丁目では 0.51ha、白金台四丁目では 0.32ha 減少している。白金四丁目では集合住宅のまとまった樹木被覆地の消失、白金台四丁目では区立郷土資料館において樹木被覆地の減少が確認されている。

草地面積は白金台四丁目において 0.28ha 増加しており、東京大学医科学研究所付属病院内の草地の増加によるものであった。

屋上緑地面積は三田四丁目以外の町丁目が増加しているが、他地区のような大きな増加箇所は少ない。なお、三田四丁目は 0.11ha の減少であり、事務所ビルの屋上緑地が消失していた。

#### ⑤ 芝浦港南地区

緑被地面積は 4.19ha、緑被率は 0.86 ポイント増加した。内訳は樹木被覆地が 4.63ha（0.95 ポイント）増加、草地が 0.95ha（0.19 ポイント）減少、屋上緑地が 0.51ha（0.10 ポイント）増加であった。樹木被覆地の増加は 5 地区中最も大きい。

樹木被覆地では、港南一丁目が増加面積が大きく 1.05ha の増加であった。増加の主な要因は芝浦中央公園、東京都芝浦水再生センターにおいて樹木被覆地が増加したことによる。次いで港南四丁目が増加した。増加の主な要因は、港南緑水公園、港南和楽公園の樹木の生長による樹木被覆地面積の増大である。また街路樹においても面積の増加が確認されている。港南二丁目では 0.76ha の増加であり、品川インターシティ内の樹木の生長が主な要因である。芝浦三丁目においても、商業業務ビル、区立しばうら保育園等の建築に伴う増加が確認されている。一方、樹木被覆地の減少は、芝浦一丁目の建築工事に伴う更地化によって 0.67ha の減少、台

場一丁目ではオリンピック関連工事によって 0.65ha の減少であった。

草地では、芝浦四丁目の 0.52ha、芝浦一丁目の 0.48ha の減少であった。芝浦四丁目の減少の主な要因は、田町車両基地の草地が高輪ゲートウェイの開発事業により減少したためである。芝浦一丁目も J R 線路沿線の草地の減少によるものであった。

表 3.1.12 地区別緑被地等面積の推移（平成 28 年度→令和 3 年度）

上段：面積(ha) 下段：比率(%)

総合支所	樹木被覆地			草地			屋上緑地			緑被地		
	平成 28年	令和 3年	増減	平成 28年	令和 3年	増減	平成 28年	令和 3年	増減	平成 28年	令和 3年	増減
芝地区	66.11	68.44	2.33	4.75	5.39	0.64	4.08	5.80	1.72	74.94	79.63	4.69
	14.76	15.27	0.52	1.06	1.20	0.14	0.91	1.30	0.38	16.73	17.77	1.05
麻布地区	64.25	66.38	2.13	6.39	6.57	0.18	4.75	5.83	1.08	75.40	78.78	3.39
	16.66	17.21	0.55	1.66	1.70	0.05	1.23	1.51	0.28	19.54	20.42	0.88
赤坂地区	110.79	111.01	0.22	17.15	18.71	1.56	3.27	4.15	0.88	131.21	133.87	2.67
	26.80	26.85	0.05	4.15	4.53	0.38	0.79	1.00	0.21	31.74	32.38	0.64
高輪地区	86.18	87.87	1.69	5.82	6.24	0.41	1.89	2.19	0.30	93.90	96.29	2.40
	25.04	25.53	0.49	1.69	1.81	0.12	0.55	0.64	0.09	27.28	27.98	0.70
芝浦港南地区	56.07	60.70	4.63	17.07	16.13	△ 0.95	3.67	4.18	0.51	76.82	81.01	4.19
	11.55	12.51	0.95	3.52	3.32	△ 0.19	0.76	0.86	0.10	15.83	16.69	0.86
区全体	383.41	394.40	10.99	51.18	53.03	1.85	17.67	22.16	4.49	452.26	469.59	17.33
	18.46	18.99	0.53	2.46	2.55	0.09	0.85	1.07	0.22	21.78	22.61	0.83

上段：面積(ha) 下段：比率(%)

総合支所	裸地			水面			オープンスペース		
	平成 28年	令和 3年	増減	平成 28年	令和 3年	増減	平成 28年	令和 3年	増減
芝地区	12.07	4.82	△ 7.25	1.95	2.24	0.30	88.96	86.70	△ 2.27
	2.69	1.08	△ 1.62	0.43	0.50	0.07	19.86	19.35	△ 0.51
麻布地区	4.30	6.10	1.80	0.81	0.84	0.02	80.51	85.72	5.21
	1.11	1.58	0.47	0.21	0.22	0.01	20.87	22.22	1.35
赤坂地区	4.79	3.58	△ 1.21	2.67	2.79	0.12	138.66	140.24	1.58
	1.16	0.87	△ 0.29	0.65	0.68	0.03	33.54	33.92	0.38
高輪地区	3.66	4.90	1.25	0.54	0.51	△ 0.03	98.10	101.71	3.61
	1.06	1.42	0.36	0.16	0.15	△ 0.01	28.50	29.55	1.05
芝浦港南地区	19.82	8.18	△ 11.64	31.85	30.48	△ 1.37	128.49	119.67	△ 8.83
	4.08	1.69	△ 2.40	6.56	6.28	△ 0.28	26.48	24.66	△ 1.82
区全体	44.64		△ 17.06	37.83	36.87	△ 0.96	534.72	534.03	△ 0.69
	2.15	1.33	△ 0.82	1.82	1.78	△ 0.05	25.75	25.72	△ 0.03

※ 小数第 3 位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある

※ △：減少した数値

平成 23 年度調査と比較した地区別緑被地面積の推移を表 3.1.13、平成 18 年度調査と比較した地区別緑被地面積の推移を表 3.1.14 に示す。

表 3.1.13 地区別緑被地等面積の推移（平成 23 年度→令和 3 年度）

上段:面積(ha) 下段:比率(%)

総合支所	樹木被覆地			草地			屋上緑地			緑被地		
	平成 23年	令和 3年	増減	平成 23年	令和 3年	増減	平成 23年	令和 3年	増減	平成 23年	令和 3年	増減
芝地区	66.52	68.44	1.92	5.46	5.39	△ 0.07	4.00	5.80	1.81	75.97	79.63	3.66
	14.84	15.27	0.43	1.22	1.20	△ 0.01	0.89	1.29	0.40	16.95	17.76	0.82
麻布地区	64.78	66.38	1.60	6.75	6.57	△ 0.18	4.42	5.83	1.41	75.95	78.78	2.83
	16.79	17.21	0.41	1.75	1.70	△ 0.05	1.15	1.51	0.36	19.69	20.42	0.73
赤坂地区	112.28	111.01	△ 1.26	16.85	18.71	1.86	3.27	4.15	0.88	132.40	133.87	1.47
	27.21	26.90	△ 0.31	4.08	4.53	0.45	0.79	1.01	0.21	32.08	32.44	0.36
高輪地区	86.34	87.87	1.53	6.86	6.24	△ 0.63	2.04	2.19	0.15	95.24	96.29	1.05
	25.09	25.53	0.44	1.99	1.81	△ 0.18	0.59	0.64	0.04	27.67	27.98	0.31
芝浦港南 地区	51.99	60.70	8.72	17.03	16.13	△ 0.90	3.27	4.18	0.92	72.28	81.01	8.73
	10.74	12.51	1.77	3.52	3.32	△ 0.19	0.67	0.86	0.19	14.93	16.70	1.77
区全体	381.90	394.40	12.50	52.95	53.03	0.08	17.00	22.16	5.16	451.85	469.59	17.74
	18.41	19.00	0.59	2.55	2.55	0.00	0.82	1.07	0.25	21.78	22.62	0.84

上段:面積(ha) 下段:比率(%)

総合支所	裸地			水面			オープンスペース		
	平成 23年	令和 3年	増減	平成 23年	令和 3年	増減	平成 23年	令和 3年	増減
芝地区	11.50	4.82	△ 6.68	2.47	2.24	△ 0.23	89.94	86.70	△ 3.25
	2.56	1.08	△ 1.49	0.55	0.50	△ 0.05	20.06	19.34	△ 0.72
麻布地区	8.94	6.10	△ 2.84	0.92	0.84	△ 0.09	85.81	85.72	△ 0.09
	2.32	1.58	△ 0.74	0.24	0.22	△ 0.02	22.25	22.22	△ 0.03
赤坂地区	6.44	3.58	△ 2.87	2.82	2.79	△ 0.03	141.67	140.24	△ 1.42
	1.56	0.87	△ 0.69	0.68	0.68	△ 0.01	34.33	33.98	△ 0.34
高輪地区	5.46	4.90	△ 0.56	0.70	0.51	△ 0.18	101.40	101.71	0.30
	1.59	1.42	△ 0.16	0.20	0.15	△ 0.05	29.46	29.55	0.09
芝浦港南 地区	21.34	8.18	△ 13.16	32.46	30.48	△ 1.98	126.09	119.67	△ 6.42
	4.41	1.69	△ 2.72	6.71	6.28	△ 0.42	26.05	24.67	△ 1.38
区全体	53.69	27.58	△ 26.11	39.37	36.87	△ 2.50	544.91	534.03	△ 10.87
	2.59	1.33	△ 1.26	1.90	1.78	△ 0.12	26.26	25.72	△ 0.54

※ 小数第 3 位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある

※ △:減少した数値

表 3.1.14 地区別緑被地等面積の推移（平成 18 年度→令和 3 年度）

上段：面積(ha) 下段：比率(%)

総合支所	樹木被覆地			草地			屋上緑地			緑被地		
	平成 18年	令和 3年	増減	平成 18年	令和 3年	増減	平成 18年	令和 3年	増減	平成 18年	令和 3年	増減
芝地区	62.98	68.44	5.46	2.83	5.39	2.56	1.64	5.80	4.16	67.45	79.63	12.18
	14.25	15.27	1.02	0.64	1.20	0.56	0.37	1.29	0.92	15.26	17.76	2.50
麻布地区	64.02	66.38	2.36	4.00	6.57	2.57	3.15	5.83	2.68	71.18	78.78	7.60
	16.91	17.21	0.30	1.06	1.70	0.65	0.83	1.51	0.68	18.80	20.42	1.63
赤坂地区	109.78	111.01	1.23	11.66	18.71	7.06	1.91	4.15	2.24	123.35	133.87	10.53
	27.40	26.90	△ 0.51	2.91	4.53	1.62	0.48	1.01	0.53	30.79	32.44	1.65
高輪地区	86.00	87.87	1.87	3.58	6.24	2.65	1.15	2.19	1.04	90.73	96.29	5.56
	25.54	25.53	△ 0.01	1.06	1.81	0.75	0.34	0.64	0.29	26.95	27.98	1.03
芝浦港南 地区	51.80	60.70	8.90	10.86	16.13	5.26	1.66	4.18	2.52	64.33	81.01	16.68
	10.88	12.51	1.63	2.28	3.32	1.04	0.35	0.86	0.51	13.51	16.70	3.19
区全体	374.58	394.40	19.82	32.93	53.03	20.10	9.52	22.16	12.63	417.04	469.59	52.55
	18.42	19.00	0.58	1.62	2.55	0.94	0.47	1.07	0.60	20.51	22.62	2.11

上段：面積(ha) 下段：比率(%)

総合支所	裸地			水面			オープンスペース		
	平成 18年	令和 3年	増減	平成 18年	令和 3年	増減	平成 18年	令和 3年	増減
芝地区	10.67	4.82	△ 5.85	2.32	2.24	△ 0.08	80.44	86.70	6.26
	2.41	1.08	△ 1.34	0.53	0.50	△ 0.02	18.20	19.34	1.14
麻布地区	11.35	6.10	△ 5.25	0.65	0.84	0.19	83.18	85.72	2.54
	3.00	1.58	△ 1.42	0.17	0.22	0.04	21.96	22.22	0.26
赤坂地区	11.04	3.58	△ 7.46	2.48	2.79	0.32	136.87	140.24	3.38
	2.76	0.87	△ 1.89	0.62	0.68	0.06	34.17	33.98	△ 0.18
高輪地区	9.94	4.90	△ 5.03	0.55	0.51	△ 0.04	101.22	101.71	0.49
	2.95	1.42	△ 1.53	0.16	0.15	△ 0.02	30.06	29.55	△ 0.51
芝浦港南 地区	13.63	8.18	△ 5.45	32.70	30.48	△ 2.22	110.66	119.67	9.01
	2.86	1.69	△ 1.18	6.87	6.28	△ 0.59	23.25	24.67	1.42
区全体	56.62	27.58	△ 29.05	38.70	36.87	△ 1.84	512.37	534.03	21.67
	2.78	1.33	△ 1.46	1.90	1.78	△ 0.13	25.19	25.72	0.53

※ 小数第3位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある

※ △：減少した数値

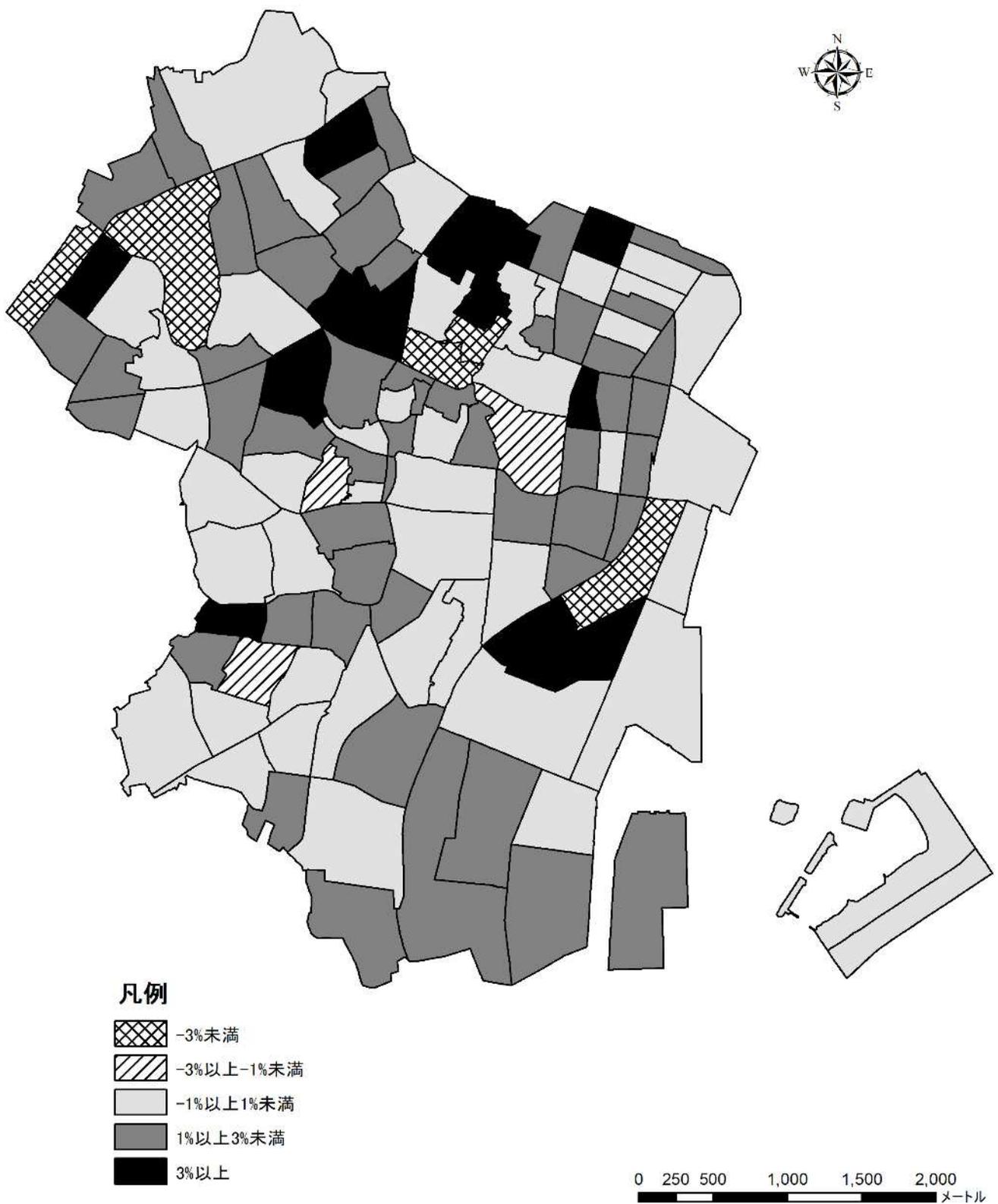


図 3.1.20 町丁目別緑被率の変化分布図（平成 28 年度→令和 3 年度）

※ 町丁目別緑被率の変化は次式による  

$$\frac{(\text{令和 3 年度緑被地面積}) - (\text{平成 28 年度緑被面積})}{(\text{調査区域面積})} \times 100$$

### 3.2 みどり率調査

#### 3.2.1 みどり率

緑被率による植生の分布に対し、公園の開放空間や水面の機能の評価を加味した「みどり率」について集計を行った。

緑被率とみどり率の関係は図 3.2.1 に示すとおりで、公園内の緑被地以外の空間や河川・池沼などをみどりの空間として位置づけたものである。

- 区全体のみどり率は 26.08%であった。
- みどり率の順位  
赤坂地区 > 高輪地区 > 芝浦港南地区 > 麻布地区 > 芝地区

区全体のみどり率の状況を図 3.2.2、図 3.2.3、表 3.2.1 に示す。

区全体のみどり率は 26.08%であった。

最もみどり率が高い地区は赤坂地区の 34.24%、次いで高輪地区 28.70%、芝浦港南地区 26.79%、麻布地区 21.57%、芝地区 19.66%であった。

赤坂地区、高輪地区は緑被率も高く、さらに2地区とも明治神宮外苑や自然教育園等の国の面積規模の大きい公園等を有しているため、緑被率の順位と同様にみどり率の順位も高くなっている。

芝浦港南地区の緑被率は最も低いですが、みどり率では第3位であった。これは芝浦港南地区には都立台場公園、都立お台場海浜公園、都立芝浦南ふ頭公園、芝浦中央公園等の多数の公園が分布しており、さらに運河（水面）を有していることによる。

麻布地区は緑被率が比較的高いものの、公園面積が 13.83ha と2番目に小さいことから、みどり率では第4位となっている。

芝地区は都立芝公園、都立旧芝離宮恩賜庭園等の大規模な公園があるものの、地区北東の緑被分布が少ないことから、みどり率は最も低い結果であった。

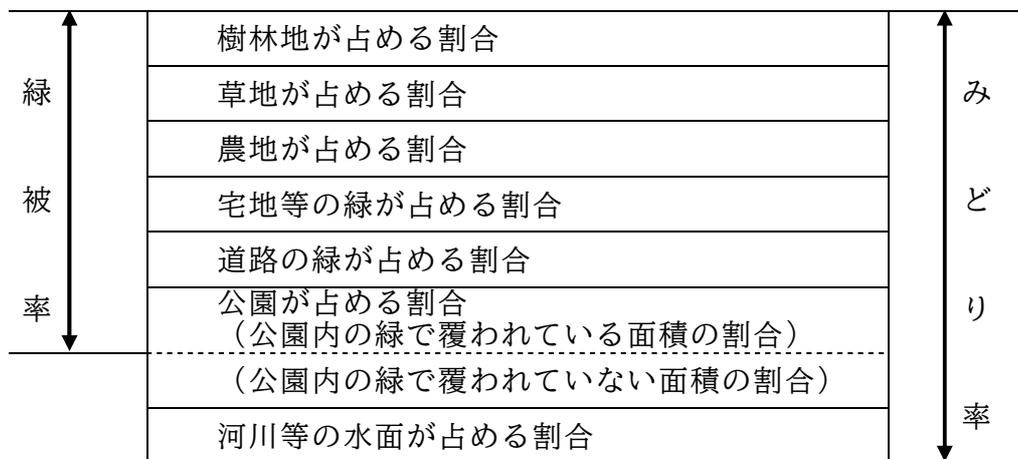


図 3.2.1 みどり率と緑被率の関係

「緑の東京計画」(平成12年12月、東京都)より

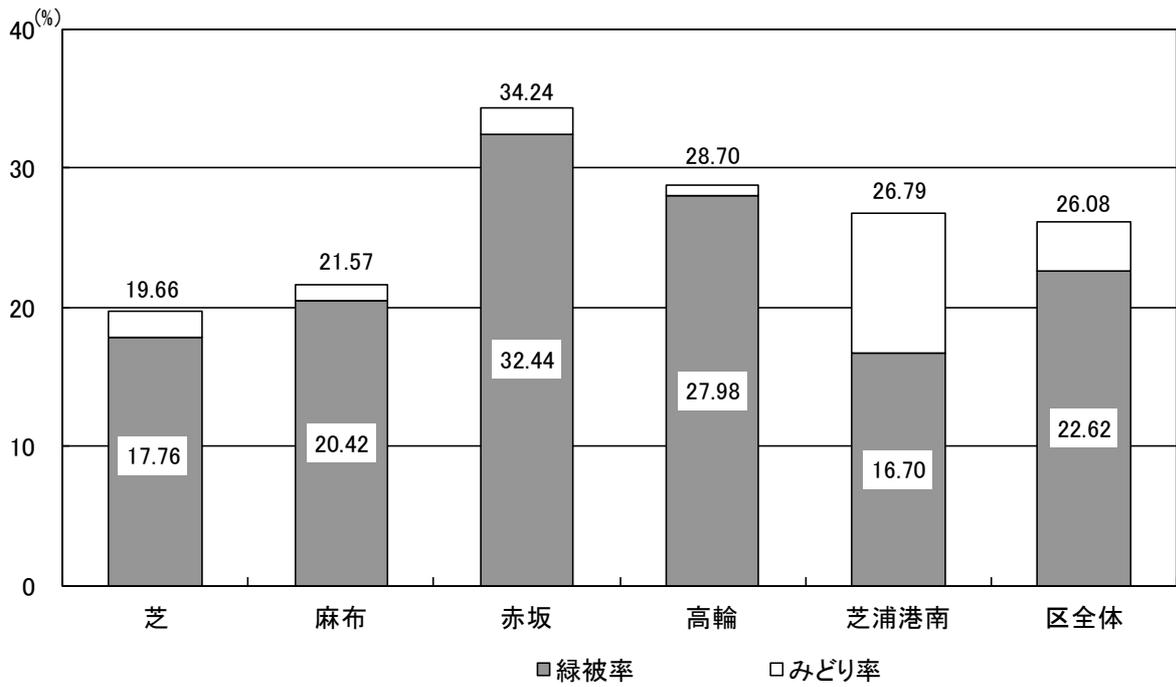


図 3.2.2 地区別のみどり率と緑被率

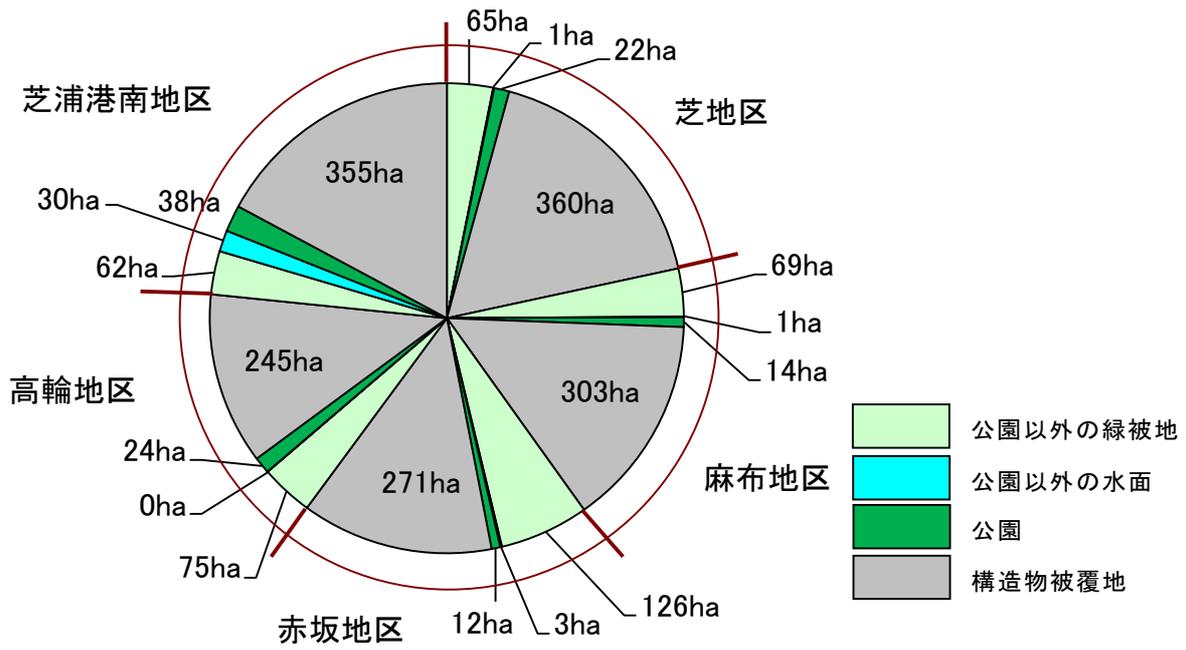


図 3.2.3 地区別みどり率対象面積の割合

表 3.2.1 地区別のみどり率

総合支所	調査区域面積 (ha)	公園分を除く緑被地(ha)				公園分を除く水面 (ha)	公園 (ha)					樹木被覆率 (%)	緑被率 (%)	みどり率 (%)
		樹木被覆地	草地	屋上緑地	計		敷地面積	樹木被覆地	草地	屋上緑地	水面			
芝地区	448.27	56.10	3.31	5.80	65.20	1.30	21.63	12.33	2.08	0.01	0.95	15.27	17.76	19.66
麻布地区	385.77	58.14	4.73	5.83	68.70	0.69	13.83	8.25	1.84	0.00	0.15	17.21	20.42	21.57
赤坂地区	412.70	104.01	18.17	4.15	126.33	2.67	12.30	7.00	0.55	0.00	0.12	26.90	32.44	34.24
高輪地区	344.16	66.69	5.88	2.19	74.76	0.39	23.63	21.18	0.36	0.00	0.12	25.53	27.98	28.70
芝浦港南地区	485.09	46.87	10.55	4.18	61.61	30.45	37.92	13.83	5.57	0.00	0.03	12.51	16.70	26.79
区全体	2,075.99	331.81	42.63	22.15	396.60	35.50	109.31	62.58	10.40	0.01	1.37	19.00	22.62	26.08

- ※ 小数第3位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある
- ※ 調査区域面積は東京都都市計画基本図データの図形面積とするため、区公表面積と異なる

### 3.2.2 みどり率の推移

○ 区全体みどり率は平成 28 年度調査と比較して、面積は 16.07ha、みどり率は 0.78 ポイント増加した。

平成 13 年度調査から令和 3 年度調査のみどり率等の推移を表 3.2.2、図 3.2.4 に示す。

区全体のみどり率は平成 13 年度調査では 22.30%であったが、その後の調査では増加傾向が続き、令和 3 年度調査では 26.08%で 3.78 ポイント増加した。緑被率の増加とともに、公園面積も増加していることからみどり率の増加につながっている。

表 3.2.2 みどり率の推移

調査種別	平成13年度	平成18年度	平成23年度	平成28年度	令和3年度
オープンスペース率(%)	24.60	25.19	26.26	25.75	25.72
みどり率(%)	22.30	23.93	25.31	25.30	26.08
緑被率(%)	18.99	20.51	21.78	21.78	22.62
樹木被覆率(%)	15.71	18.42	18.41	18.46	19.00

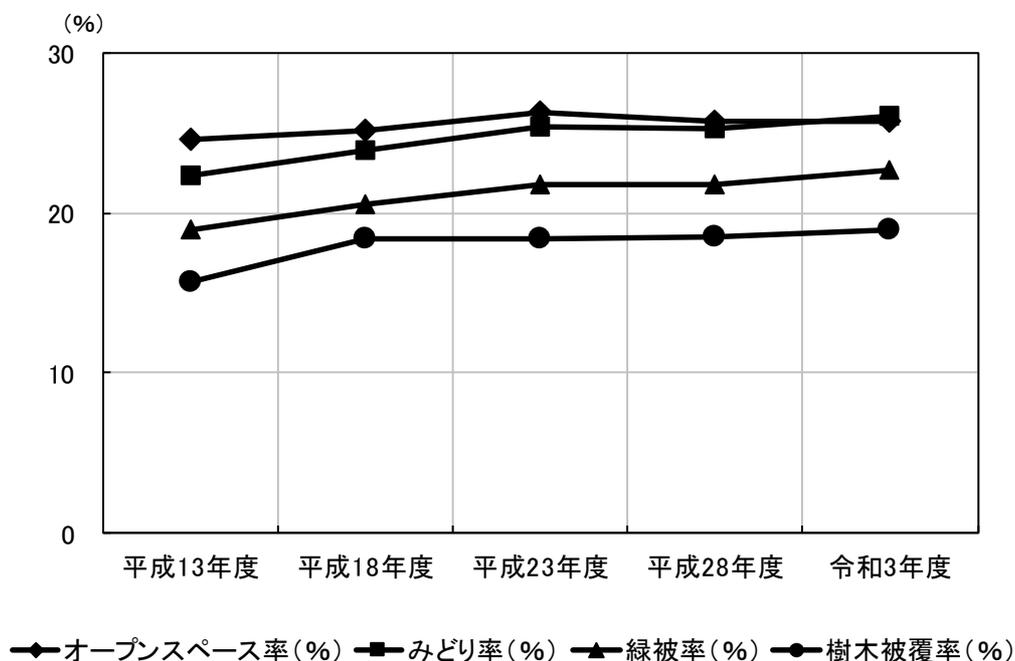


図 3.2.4 みどり率等の推移

平成 28 年度調査と令和 3 年度調査の地区別のみどり率の推移を表 3.2.3 に示す。  
 平成 28 年度から令和 3 年度の変化では、公園の新設及び閉園では大きな変化はないため、みどり率の増加の主な要因は緑被地面積の増加によるものである。特に民有地の緑被地の増加が大きく、樹木等の生長や建物の建築に伴う緑地整備が、みどり率の増加に寄与している。

地区別においても、全ての地区のみどり率が増加している。最もみどり率が増加した地区は芝地区の 1.18 ポイント増、次いで麻布地区の 0.81 ポイント増であった。緑被率の増加の大きい芝地区、麻布地区ではみどり率も増加していることが分かる。

表 3.2.3 地区別のみどり率の推移

総合支所	平成28年度		令和3年度		増減	
	面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	ポイント
芝地区	82.82	18.48	88.13	19.66	5.32	1.18
麻布地区	80.08	20.76	83.22	21.57	3.14	0.81
赤坂地区	138.70	33.55	141.30	34.24	2.61	0.69
高輪地区	96.22	27.96	98.78	28.70	2.56	0.74
芝浦港南地区	127.53	26.28	129.97	26.79	2.44	0.52
区全体	525.34	25.30	541.40	26.08	16.07	0.78

※ 小数第 3 位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある

### 3.3 樹林調査

#### 3.3.1 調査方法

樹木被覆地を敷地単位で分割したもののうち、一群のまとまりをもった樹冠投影面積 200 m<sup>2</sup>以上の樹木の集団を樹林と定義した。さらに各樹林のまとまりの平均高さを樹林の高さとした。この樹林について規模別、地区別の集計を行った。

#### 3.3.2 調査結果

##### (1) 分布状況

- 樹林の総数は 2,081 か所、面積は 249.42ha であった。
- 樹木被覆地に対する樹林の面積割合は 63.3% であった。
- 樹林箇所数の順位  
芝浦港南地区 > 麻布地区・高輪地区 > 赤坂地区 > 芝地区
- 樹林面積の順位  
赤坂地区 > 高輪地区 > 芝地区 > 麻布地区 > 芝浦港南地区

地区別に集計した樹林状況を表 3.3.1、図 3.3.1 に示す。また区全体の樹林分布図を図 3.3.2 に示す。

区内の樹林は、2,081 か所、249.42ha であった。樹木被覆地に占める樹林の割合は 63.3% で、地区別では赤坂地区と高輪地区は 70% 以上である。

樹林 1 か所当たりの平均面積は、区全体では 1,198.56 m<sup>2</sup> であり、地区別では赤坂地区が最も大きく 1,944.33 m<sup>2</sup>、次いで高輪地区 1,416.66 m<sup>2</sup>、芝地区 1,136.22 m<sup>2</sup>、麻布地区 847.82 m<sup>2</sup>、芝浦港南地区 715.91 m<sup>2</sup> であった。

赤坂地区は樹林面積が 5 地区中最も大きい、区内で最大の樹林である赤坂御用地内の樹林があるためである。

表 3.3.1 地区別の樹林状況

総合支所	樹木被覆地 (ha)	樹林		
		箇所数	面積(ha)	1か所あたり 樹林面積(m <sup>2</sup> )
芝地区	68.18	353	40.11	1,136.22
麻布地区	66.19	435	36.88	847.82
赤坂地区	110.90	402	78.16	1,944.33
高輪地区	87.82	435	61.62	1,416.66
芝浦港南地区	60.68	456	32.65	715.91
区全体	393.77	2,081	249.42	1,198.56

※面積は小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

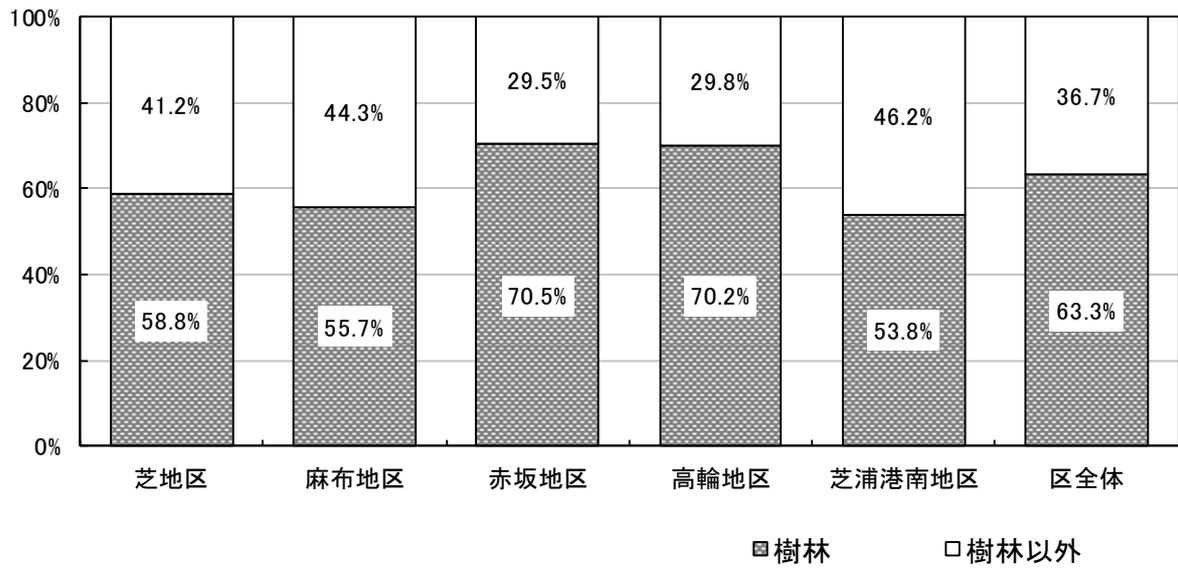
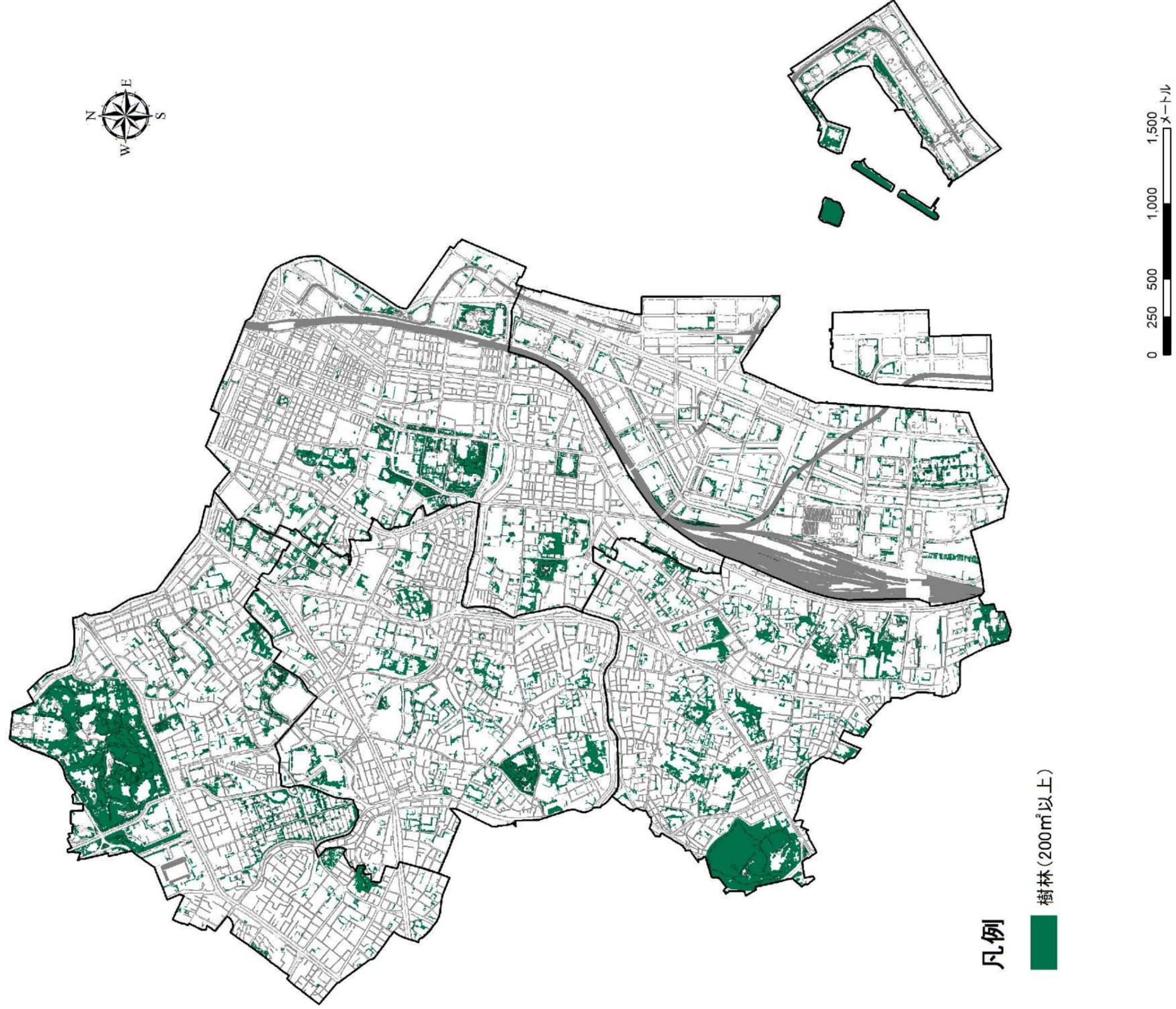


図 3.3.1 樹木被覆地に占める樹林の割合

# 樹林分布図



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号)3都市基交著第60号

図 3.3.2 樹林分布図

都市構造区別に集計した樹林状況を表 3.3.2、図 3.3.3、図 3.3.4に示す。

都市構造区別では、箇所数では公園緑地等が 370 か所で全体の 17.8%を占める。次いで集合住宅 B（面積 5,000 m<sup>2</sup>未満の集合住宅）が 251 か所であり、集合住宅 A（面積 5,000 m<sup>2</sup>以上の集合住宅）を合わせると 451 か所、21.7%となり、集合住宅には多くの樹林があることが分かる。面積では公園緑地が 72.47ha で全体の 29.1%、宮内庁管理地が 44.21ha で全体の 17.7%を占め、これらの樹林が区内の樹林の約半分を占めている。学校は 192 か所、19.78ha で面積では 7.9%を占め、多くの樹林が分布している。商業施設 A（面積 5,000 m<sup>2</sup>以上で緑被率 25%以上の商業用地）は 60 か所で区全体の箇所数に占める割合は 2.9%であるが、面積は 14.29ha で全体の 5.7%であり、1 か所あたりの面積が大きいことがわかる。また商業施設 B（商業用地 A 以外の商業用地）は 74 か所、4.08ha で 1 か所当たりの面積が非常に小さい。

表 3.3.2 都市構造区別地区別の樹林状況

都市構造区分	芝地区		麻布地区		赤坂地区		高輪地区		芝浦港南地区		区全体	
	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)
(交通用地)鉄道用地	1	0.03	0	0.00	0	0.00	0	0.00	15	1.14	16	1.17
河川・運河	3	0.11	4	0.15	4	0.21	6	0.22	10	0.31	27	1.00
公園緑地等	53	11.05	43	7.54	111	16.71	56	24.11	107	13.05	370	72.47
(公共公益施設)大使館	7	2.82	33	4.83	6	1.14	0	0.00	0	0.00	46	8.80
(公共公益施設)宮内庁管理地	0	0.00	0	0.00	16	42.99	2	1.22	0	0.00	18	44.21
(公共公益施設)官公庁施設	6	0.23	8	0.40	5	0.24	5	0.38	12	0.50	36	1.74
(公共公益施設)学校	30	2.78	37	2.89	23	1.29	55	8.70	47	4.12	192	19.78
(公共公益施設)文化施設A	0	0.00	11	1.93	5	0.52	0	0.00	0	0.00	16	2.46
(公共公益施設)文化施設B	4	0.36	4	0.46	1	0.03	3	0.16	0	0.00	12	1.00
社寺	39	4.98	26	1.70	15	2.09	41	2.87	1	0.03	122	11.67
(公共公益施設)医療・福祉施設	7	0.22	3	0.08	0	0.00	16	2.10	2	0.04	28	2.45
(公共公益施設)供給処理施設	3	0.17	0	0.00	0	0.00	0	0.00	37	2.26	40	2.43
(商業施設)商業施設A	21	4.94	10	0.78	12	0.89	17	7.68	0	0.00	60	14.29
(商業施設)商業施設B	7	0.63	11	0.70	24	1.16	11	0.69	21	0.90	74	4.08
(商業施設)事務所A	28	3.65	18	1.08	18	1.46	0	0.00	11	0.68	75	6.87
(商業施設)事務所B	61	2.63	27	1.19	33	1.41	14	0.52	76	3.51	211	9.25
(住宅用地)独立住宅	4	0.11	53	2.78	18	0.55	63	3.96	0	0.00	138	7.41
(住宅用地)集合住宅A	14	1.53	57	6.22	35	3.72	50	3.93	44	3.08	200	18.48
(住宅用地)集合住宅B	23	1.32	71	3.16	48	2.08	81	3.82	28	1.12	251	11.49
(住宅用地)併用住宅	4	0.12	1	0.05	4	0.11	0	0.00	1	0.02	10	0.31
工業施設A	7	0.30	0	0.00	0	0.00	0	0.00	5	0.20	12	0.49
工業施設B	0	0.00	0	0.00	3	0.11	0	0.00	9	0.53	12	0.64
その他	31	2.13	18	0.93	21	1.47	15	1.24	30	1.14	115	6.91
合計	353	40.11	435	36.88	402	78.16	435	61.62	456	32.65	2,081	249.42

※都市構造区分は P28 表 3.1.3 都市構造区分項目を参照

※面積は小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

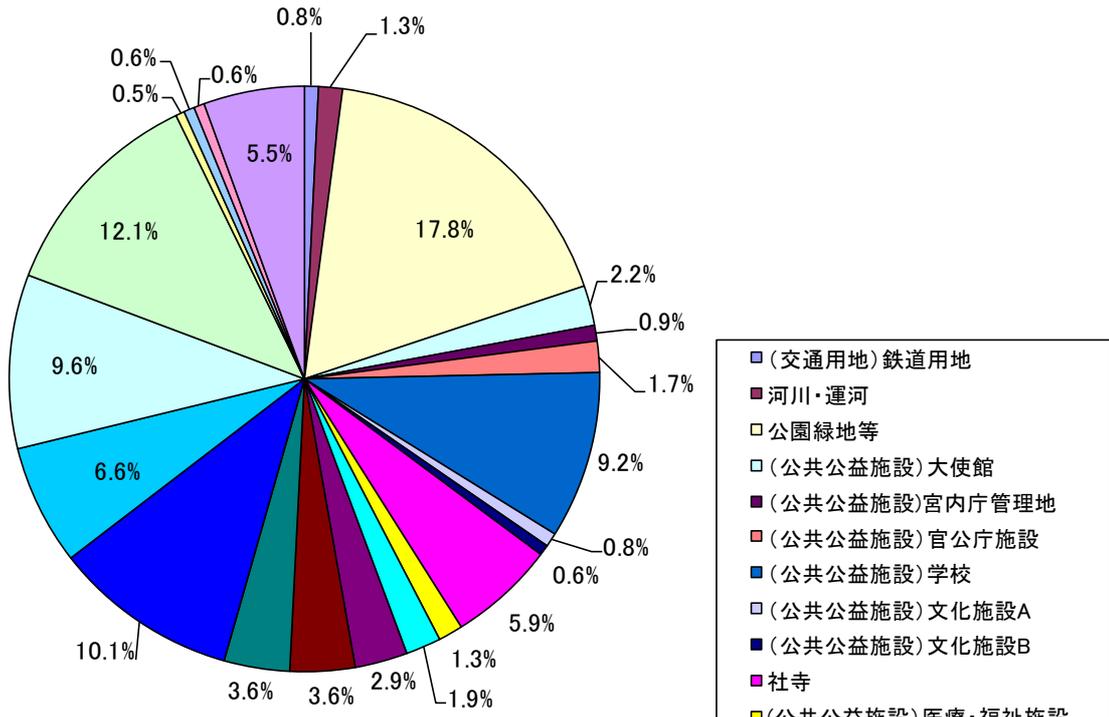


図 3.3.3 都市構造区別樹林箇所数割合

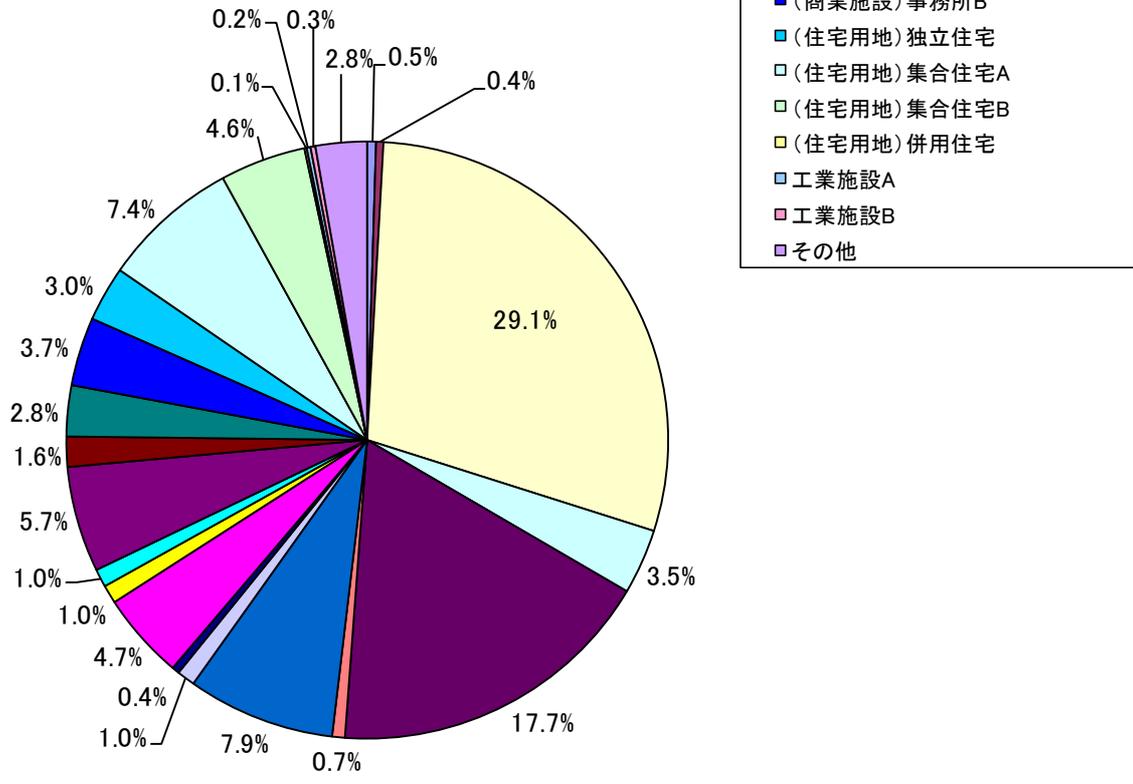


図 3.3.4 都市構造区別樹林面積割合

## (2) 規模

- 0.1ha 未満の樹林が最も多い地区は、箇所数、面積ともに芝浦港南地区で 402 か所、16.44ha であった。
- 1.0ha 以上の樹林が最も多い地区は芝地区と高輪地区の 7 か所、面積では赤坂地区の 46.32ha であった。
- 0.1ha 未満の樹林が最も多い都市構造は公園緑地等の 273 か所、11.31ha であった。
- 1.0ha 以上の樹林が最も多い都市構造は箇所数は公園緑地等の 13 か所、面積は宮内庁管理地の 42.62ha であった。

地区別に集計した樹林規模状況を表 3.3.3、図 3.3.5、図 3.3.6に示し、都市構造区分別に集計した樹林規模別状況を表 3.3.4、図 3.3.7に示す。

面積規模別では、箇所数は 0.1ha 未満の樹林が 1,713 か所と最も多く、面積では 1.0ha 以上の樹林が 95.22ha であった。1.0ha 以上の大規模な樹林は区内に 24 か所あり、公園緑地(13 か所、37.30ha)、商業施設 A(面積 5,000 m<sup>2</sup>以上で緑被率 25%以上の商業用地)(4 か所、8.09ha)、宮内庁管理地(2 か所、42.62ha)、学校(2 か所、3.54ha) であった。

都市構造区分別では、0.1ha 未満の小規模な樹林の箇所数は全ての区分で最も多く、公園緑地等(273 か所、11.31ha)、集合住宅 B(面積 5,000 m<sup>2</sup>未満の集合住宅)(230 か所、8.32ha)、事務所 B(事務所 A 以外の事務所)(204 か所、8.12ha)、学校(150 か所、6.11ha)、集合住宅 A(面積 5,000 m<sup>2</sup>以上の集合住宅)(149 か所、6.59ha)、独立住宅(125 か所、4.46ha) であった。

※事務所 A : 面積 5,000 m<sup>2</sup>以上で緑被率 25%以上の事務所

表 3.3.3 地区別の樹林規模状況

総合支所	0.1ha未満		0.1ha以上 0.5ha未満		0.5ha以上 1.0ha未満		1.0ha以上		合計		1か所あたり 平均面積 (m <sup>2</sup> )
	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	
芝地区	273	10.70	65	13.81	8	5.81	7	9.79	353	40.11	1,136.22
麻布地区	359	13.86	69	14.00	5	3.89	2	5.14	435	36.88	847.82
赤坂地区	333	13.48	60	14.37	5	3.99	4	46.32	402	78.16	1,944.33
高輪地区	346	13.75	75	13.94	7	5.31	7	28.63	435	61.62	1,416.66
芝浦港南地区	402	16.44	48	9.38	2	1.48	4	5.35	456	32.65	715.91
区全体	1,713	68.23	317	65.49	27	20.47	24	95.22	2,081	249.42	1,198.56

※面積は小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

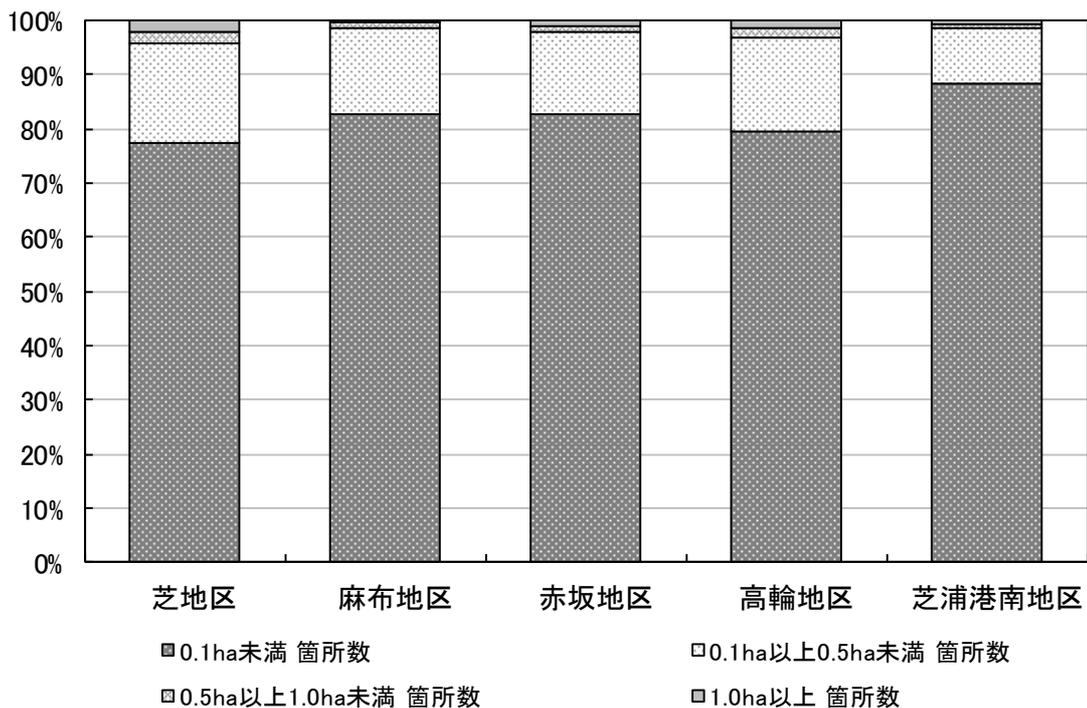


図 3.3.5 樹林規模別の樹林箇所数割合

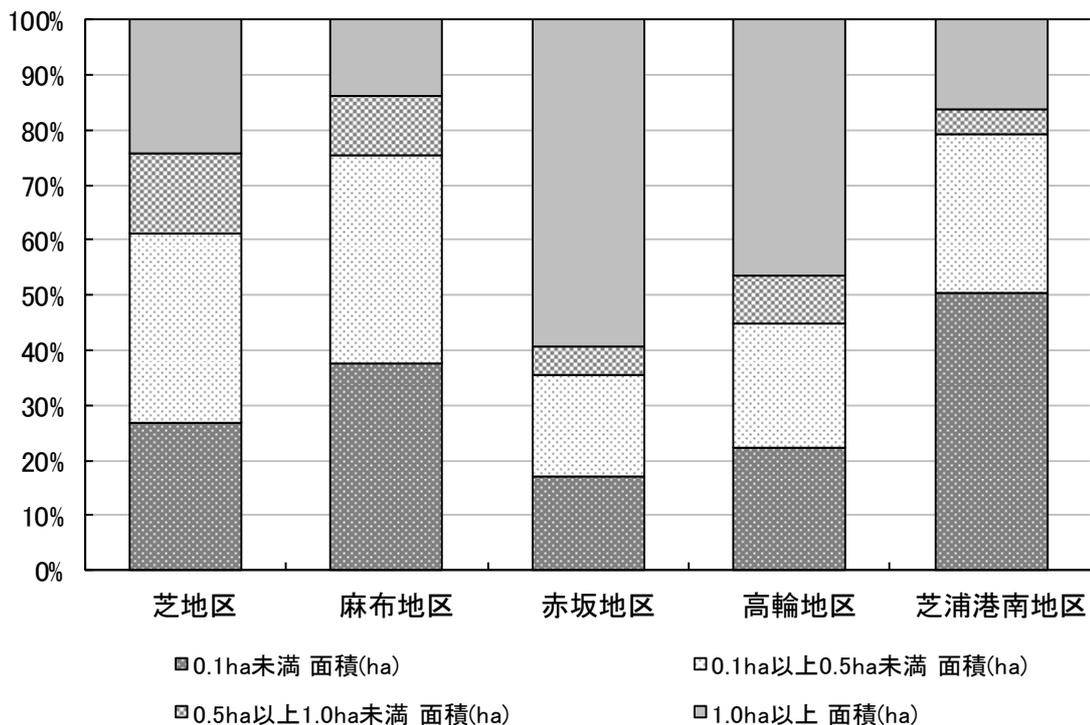


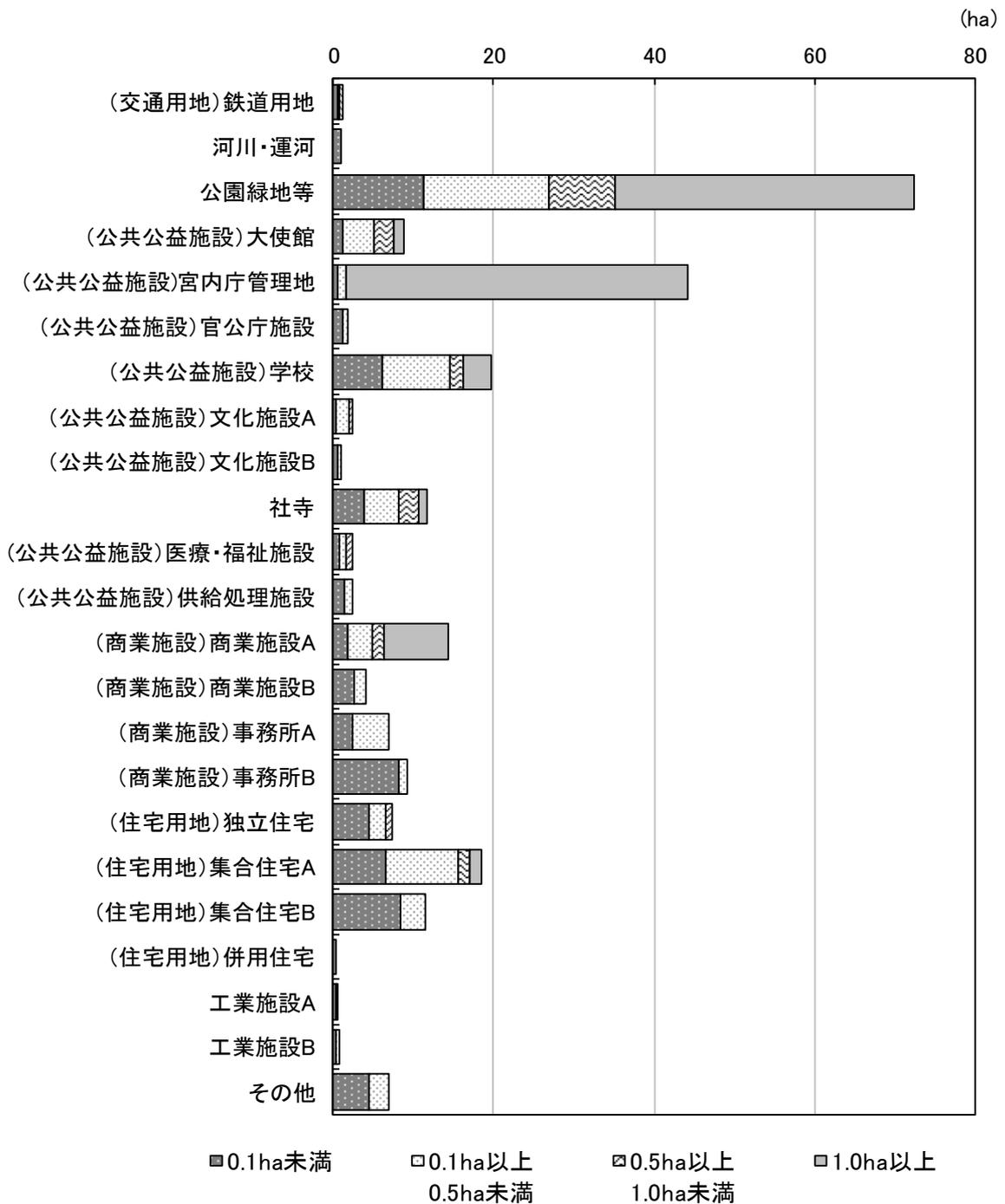
図 3.3.6 樹林規模別の樹林面積割合

表 3.3.4 都市構造区分別の樹林規模別状況

都市構造区分	0.1ha未満		0.1ha以上 0.5ha未満		0.5ha以上 1.0ha未満		1.0ha以上		区全体	
	箇所 数	面積 (ha)	箇所 数	面積 (ha)	箇所 数	面積 (ha)	箇所 数	面積 (ha)	箇所 数	面積 (ha)
(交通用地)鉄道用地	14	0.49	1	0.17	1	0.51	0	0.00	16	1.17
河川・運河	27	1.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	27	1.00
公園緑地等	273	11.31	73	15.57	11	8.29	13	37.30	370	72.47
(公共公益施設)大使館	28	1.18	14	3.80	3	2.61	1	1.21	46	8.80
(公共公益施設)宮内庁管理地	13	0.49	3	1.10	0	0.00	2	42.62	18	44.21
(公共公益施設)官公庁施設	32	1.17	4	0.57	0	0.00	0	0.00	36	1.74
(公共公益施設)学校	150	6.11	38	8.49	2	1.64	2	3.54	192	19.78
(公共公益施設)文化施設A	9	0.33	6	1.61	1	0.52	0	0.00	16	2.46
(公共公益施設)文化施設B	10	0.48	2	0.52	0	0.00	0	0.00	12	1.00
社寺	96	3.85	22	4.40	3	2.38	1	1.04	122	11.67
(公共公益施設)医療・福祉施設	24	0.78	3	0.82	1	0.84	0	0.00	28	2.45
(公共公益施設)供給処理施設	33	1.39	7	1.04	0	0.00	0	0.00	40	2.43
(商業施設)商業施設A	41	1.82	13	3.03	2	1.36	4	8.09	60	14.29
(商業施設)商業施設B	65	2.61	9	1.47	0	0.00	0	0.00	74	4.08
(商業施設)事務所A	55	2.33	20	4.54	0	0.00	0	0.00	75	6.87
(商業施設)事務所B	204	8.12	7	1.14	0	0.00	0	0.00	211	9.25
(住宅用地)独立住宅	125	4.46	12	2.09	1	0.86	0	0.00	138	7.41
(住宅用地)集合住宅A	149	6.59	48	9.02	2	1.46	1	1.42	200	18.48
(住宅用地)集合住宅B	230	8.32	21	3.17	0	0.00	0	0.00	251	11.49
(住宅用地)併用住宅	10	0.31	0	0.00	0	0.00	0	0.00	10	0.31
工業施設A	11	0.39	1	0.10	0	0.00	0	0.00	12	0.49
工業施設B	10	0.32	2	0.33	0	0.00	0	0.00	12	0.64
その他	104	4.42	11	2.50	0	0.00	0	0.00	115	6.91
合計	1,713	68.23	317	65.49	27	20.47	24	95.22	2,081	249.42

※ 都市構造区分は P28 表 3.1.3 都市構造区分項目を参照

※ 面積は小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある



※都市構造区分は P28 表 3.1.3 都市構造区分項目を参照

図 3.3.7 都市構造区分別の規模別樹林面積

### (3) 平均高さ

- 樹林平均高さ 6 m以上 10m未満の箇所数が最も多く、796 か所であった。
- 樹林平均高さ 15m以上の面積が最も大きく、73.25ha であった。

樹林面積規模別に集計した樹林平均高さの状況を表 3.3.5に示す。

箇所数では平均高さ 3 m以上 6 m未満、面積規模 0.1ha 未満の樹林が最も多く 651 か所(24.34ha)であった。これらは、区内に点在する公園緑地、学校、集合住宅、独立住宅、事務所等の樹林である。また、平均高さ 15m以上の樹林は 43 か所(73.25ha)であった。

面積が最も大きいクラスは平均高さ 15m以上、1.0ha 以上のもので 67.68ha(6 か所)であった。これらは、面積が 41.42ha と最も大きい赤坂御用地などの宮内庁管理地、自然教育園や有栖川宮記念公園等の公園緑地等、大規模なホテルなどの民間事業所の樹林である。

社寺林や自然教育園など古くからある樹林だけではなく、大規模な施設建設による商業施設の樹林も平均高さが高く、面積規模の大きいものが多い。また、埋立地など沿岸部の樹林の多くが、樹林平均高さが 6 m未満のものである。台地部の樹林平均高さは多様であるが、面積規模が小さい樹林は樹林平均高さも低い傾向がある。

表 3.3.5 樹林面積規模別の樹林平均高さ状況

面積規模	3m未満		3m以上 6m未満		6m以上 10m未満		10m以上 15m未満		15m以上		合計	
	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)
0.1ha未満	233	8.13	651	24.34	621	26.51	186	8.37	22	0.88	1,713	68.23
0.1ha以上 0.5ha未満	4	0.62	53	9.54	164	32.91	84	20.05	12	2.36	317	65.49
0.5ha以上 1.0ha未満	0	0.00	1	0.51	7	5.20	16	12.43	3	2.33	27	20.47
1.0ha以上	2	2.32	2	2.19	4	6.75	10	16.28	6	67.68	24	95.22
区全体	239	11.08	707	36.58	796	71.38	296	57.13	43	73.25	2,081	249.42

※ 面積は小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

地区別に集計した樹林平均高さの状況を表 3.3.6、図 3.3.8、図 3.3.9に示す。また、都市構造区分別に集計した樹林平均高さの状況を表 3.3.7に示す。

芝地区、麻布地区、赤坂地区、高輪地区は平均高さ 6 m以上 10m未満の箇所数が最も多く、芝浦港南地区では平均高さ 3 m以上 6 m未満の樹林が最も多かった。芝浦港南地区では平均高さが 15m以上のものは存在せず、10m以上 15m未満は 22 か所で、4 地区と比べて平均高さの高い樹林が少ない。芝浦港南地区以外では、平均高さが 6 m以上 10m未満のものが約 4 割、3 m以上 6 m未満が約 3 割となっている。

平均高さ 15m以上の樹林は麻布地区が 13 か所、芝地区が 12 か所、高輪地区が 10 か所、赤坂地区が 8 か所であった。赤坂地区の 15m以上の樹林には赤坂御用地が含まれるため、面積は 45.86ha と非常に大きい。芝地区の 15m以上の主な樹林は芝公園、慶應義塾大学、イタリヤ大使館、社寺等である。麻布地区の 15m以上の主な樹林は有栖川宮記念公園、高輪地区は自然教育園の樹林である。

樹林の面積では、赤坂地区では平均高さ 15m以上の樹林面積が約 6 割を占めており、麻布地区と高輪地区が 10m以上 15m未満の樹林面積が 3 ～ 4 割、芝地区は 6 m以上 10m未満が約 4 割、芝浦港南地区は 3 m以上 6 m未満が約 4 割となっている。

都市構造区分別の樹林平均高さでは、平均高さ 15m以上は公園緑地等と社寺が 8 か所と最も多く、次いで学校の 6 か所であった。一方 3 m未満の箇所数が多い都市構造区分では、事務所 B の 47 か所、公園緑地等 38 か所であった。

表 3.3.6 地区別の樹林平均高さ状況

総合支所	3m未満		3m以上 6m未満		6m以上 10m未満		10m以上 15m未満		15m以上		合計	
	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)
芝地区	37	1.17	103	4.37	145	16.22	56	13.50	12	4.84	353	40.11
麻布地区	18	0.55	132	5.80	180	12.67	92	13.66	13	4.20	435	36.88
赤坂地区	33	1.11	121	6.95	181	15.37	59	8.87	8	45.86	402	78.16
高輪地区	33	1.18	157	6.66	168	16.51	67	18.93	10	18.35	435	61.62
芝浦港南地区	118	7.07	194	12.79	122	10.61	22	2.17	0	0.00	456	32.65
区全体	239	11.08	707	36.58	796	71.38	296	57.13	43	73.25	2,081	249.42

※面積は小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

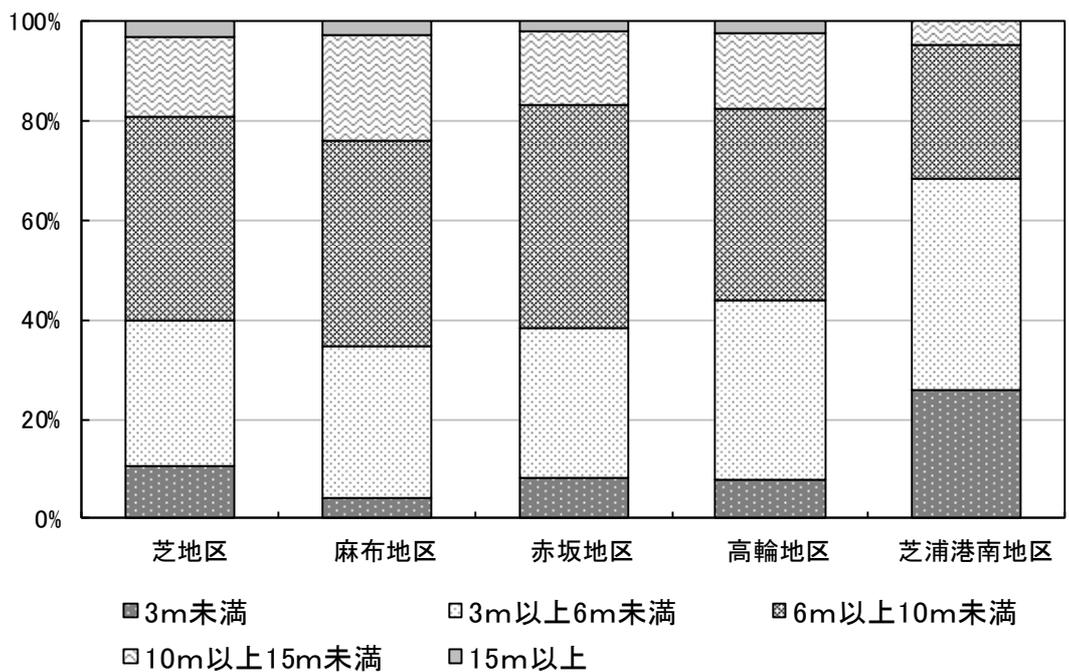


図 3.3.8 平均高さ別の樹林箇所数割合

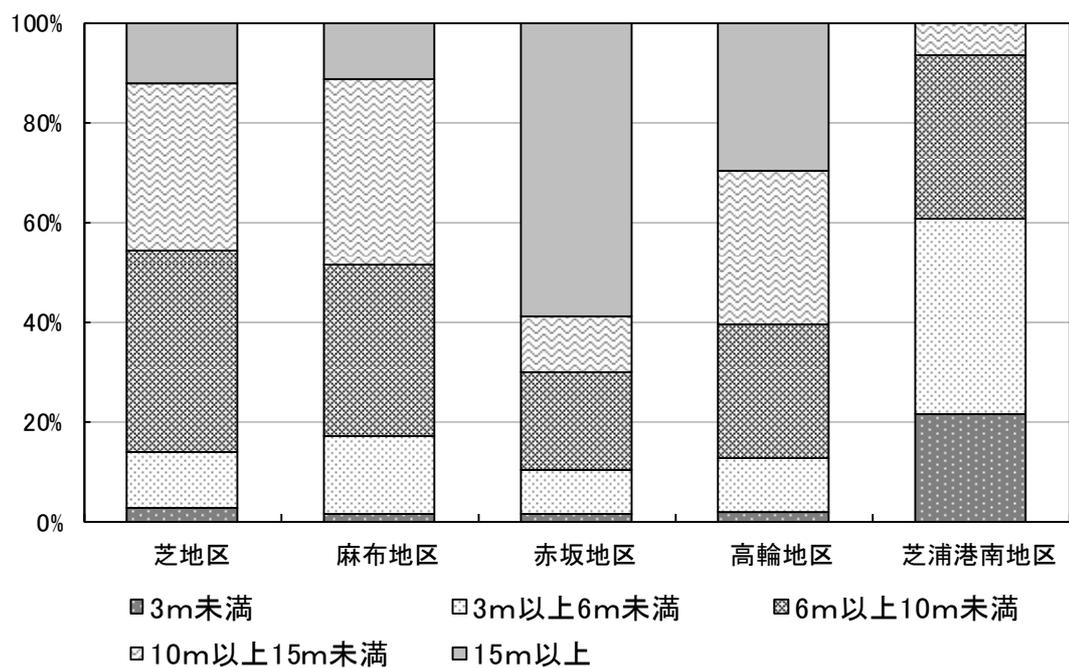


図 3.3.9 平均高さ別の樹林面積割合

表 3.3.7 都市構造区分別平均高さ別の樹林状況

都市構造区分	3m未満		3m以上 6m未満		6m以上 10m未満		10m以上 15m未満		15m以上		区全体	
	箇所 数	面積 (ha)	箇所 数	面積 (ha)	箇所 数	面積 (ha)	箇所 数	面積 (ha)	箇所 数	面積 (ha)	箇所 数	面積 (ha)
(交通用地)鉄道用地	9	0.50	6	0.64	1	0.03	0	0.00	0	0.00	16	1.17
河川・運河	7	0.19	9	0.34	8	0.40	2	0.04	1	0.02	27	1.00
公園緑地等	38	3.72	106	8.33	155	19.32	63	14.27	8	26.84	370	72.47
(公共公益施設)大使館	1	0.03	11	0.57	13	1.11	20	5.88	1	1.21	46	8.80
(公共公益施設)宮内庁管理地	1	0.02	3	0.10	6	0.22	7	2.46	1	41.42	18	44.21
(公共公益施設)官公庁施設	3	0.08	14	0.58	14	0.57	5	0.51	0	0.00	36	1.74
(公共公益施設)学校	6	0.21	57	2.62	79	6.54	44	9.73	6	0.68	192	19.78
(公共公益施設)文化施設A	0	0.00	0	0.00	14	2.29	2	0.17	0	0.00	16	2.46
(公共公益施設)文化施設B	0	0.00	3	0.15	6	0.26	3	0.60	0	0.00	12	1.00
社寺	3	0.10	44	1.77	44	4.29	23	3.53	8	1.98	122	11.67
(公共公益施設)医療・福祉施設	7	0.21	6	0.22	8	0.56	6	1.42	1	0.04	28	2.45
(公共公益施設)供給処理施設	6	0.20	15	1.06	18	1.14	1	0.03	0	0.00	40	2.43
(商業施設)商業施設A	2	0.04	13	1.07	32	6.45	12	6.70	1	0.02	60	14.29
(商業施設)商業施設B	4	0.16	28	1.13	33	2.14	7	0.41	2	0.24	74	4.08
(商業施設)事務所A	7	0.21	19	1.22	36	4.09	11	1.23	2	0.12	75	6.87
(商業施設)事務所B	47	1.73	78	3.31	73	3.52	10	0.58	3	0.11	211	9.25
(住宅用地)独立住宅	12	0.39	58	2.17	48	2.70	18	2.07	2	0.09	138	7.41
(住宅用地)集合住宅A	28	1.40	85	5.34	68	7.12	19	4.63	0	0.00	200	18.48
(住宅用地)集合住宅B	27	0.74	102	3.48	89	5.09	29	1.84	4	0.33	251	11.49
(住宅用地)併用住宅	0	0.00	3	0.10	5	0.16	2	0.04	0	0.00	10	0.31
工業施設A	1	0.03	2	0.07	7	0.30	2	0.10	0	0.00	12	0.49
工業施設B	6	0.35	3	0.10	3	0.19	0	0.00	0	0.00	12	0.64
その他	24	0.75	42	2.21	36	2.91	10	0.88	3	0.16	115	6.91
合計	239	11.08	707	36.58	796	71.38	296	57.13	43	73.25	2,081	249.42

※ 都市構造区分はP28表3.1.3都市構造区分項目を参照

※ 面積は小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

#### (4) 用途地域

○第一種中高層住居専用地域が最も多く、678 か所、135.43ha であった。

用途地域別に集計した樹林状況を表 3.3.8、樹林面積割合を図 3.3.10に示す。

箇所数、面積ともに第一種中高層住居専用地域が 678 か所、135.43ha で最も多い。箇所数では、次いで商業地域 376 か所、第二種住居地域 326 か所であった。面積では、次いで第二種住居地域が 37.03ha、商業地域 23.34ha であった。

表 3.3.8 用途地域別樹林状況

都市構造区分		箇所数	面積(ha)
市街化区域	第一種低層住居専用地域	0	0.00
	第一種中高層住居専用地域	678	135.43
	第二種中高層住居専用地域	129	11.60
	第一種住居地域	214	19.10
	第二種住居地域	326	37.03
	近隣商業地域	34	1.41
	商業地域	376	23.34
	準工業地域	290	14.67
市街化調整区域		34	6.85
合計		2,081	249.42

※面積は小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

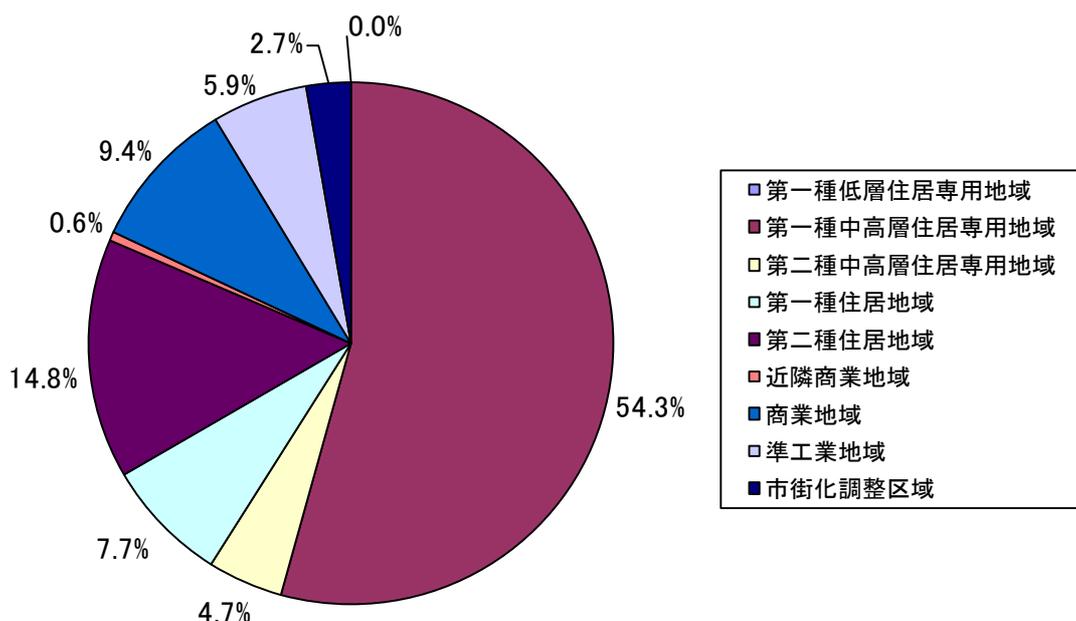


図 3.3.10 用途地域別樹林面積割合

### 3.3.3 樹林の推移

- 樹林は平成 28 年度調査と比較して、46 か所の増加、0.50ha の減少であった。
- 平成 28 年度調査と比較した地域別の樹林面積の増減
  - 芝地区 : 増減なし 0.94ha 減少
  - 麻布地区 : 3 か所増加 1.18ha 増加
  - 赤坂地区 : 7 か所減少 2.84ha 減少
  - 高輪地区 : 6 か所増加 0.30ha 増加
  - 芝浦港南地区 : 44 か所増加 1.80ha 増加

平成 2 年度調査から令和 3 年度調査の樹林の箇所と面積の推移を、表 3.3.9、図 3.3.11 に示す。

平成 2 年度調査の樹林面積は 206.50ha、令和 3 年度調査では 249.42ha であった。各年度の調査精度は異なるが、平成 13 年度から平成 18 年度には箇所、面積ともに減少し、平成 23 年度、平成 28 年度では面積は増えている。令和 3 年度調査では、箇所は増加したが、面積は減少であった。

表 3.3.9 樹林の推移

調査年度	箇所	面積(ha)	面積変化(ha)
平成2年度		206.50	
平成7年度	415	226.44	19.94
平成13年度	1,695	265.54	39.10
平成18年度	1,442	228.47	△ 37.07
平成23年度	2,062	249.89	21.42
平成28年度	2,035	249.92	0.03
令和3年度	2,081	249.42	△ 0.50

※ △:減少した数値

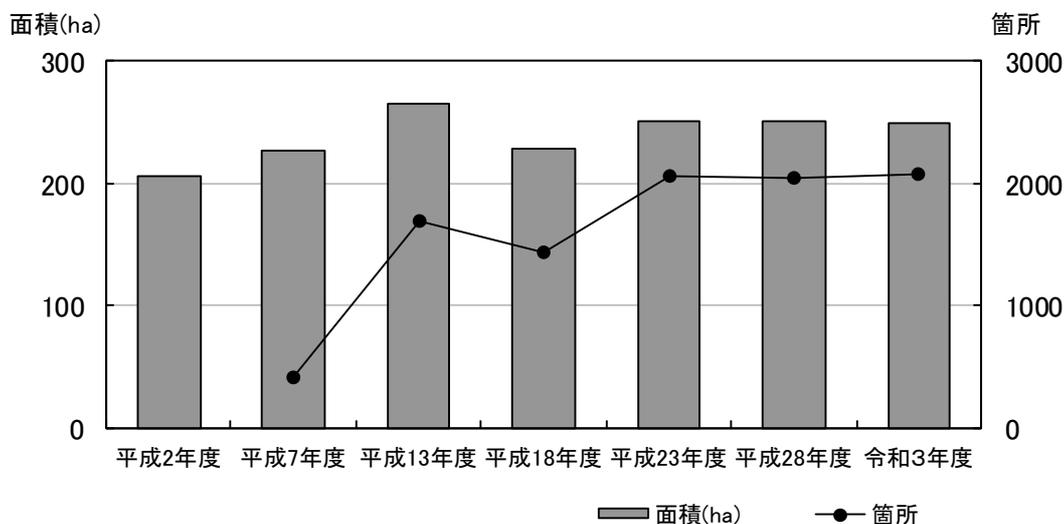


図 3.3.11 樹林の推移

地区別に集計した面積規模別の樹林状況の推移を表 3.3.10、表 3.3.11に示す。各地区の推移の詳細は以下のとおりである。

#### ① 芝地区

芝地区の樹林は箇所数の増減はなく、面積は 0.94ha の減少であった。

面積規模別樹林面積では、0.5ha 以上 1.0ha 未満の樹林 3 か所、1.25ha が減少しており、0.1ha 以上 0.5ha 未満では 5 か所、0.01ha の減少であった。虎ノ門四丁目では建築物（神谷町トラストタワー東京ワールドゲート）の建替えに伴い、樹林の増加箇所と減少箇所が確認されている。三田一丁目では、旧かんぽ生命東京サービスセンターの建替えに伴うまとまった樹林の消失が確認されている。旧芝離宮恩賜庭園内においても、樹林の規模の縮小や箇所数の減少が確認されている。

#### ② 麻布地区

麻布地区の樹林は 3 か所、1.18ha の増加であった。

面積規模別では 0.1ha 未満の樹林が 3 か所、0.42ha の減少、1.0ha 以上の樹林が 1 か所、0.77ha の減少であった。一方、0.1ha 以上 1.0ha 未満の樹林は 2.37ha 増加している。1.0ha 以上の樹林減少は、フランス大使館内の樹林の面積規模がやや小さくなり、1.0ha 未満となったためである。また、樹林の主な増加要因は、六本木三丁目の開発事業（六本木グランドタワー）による緑地整備、南麻布四丁目や元麻布三丁目他において、既存の植栽地の樹木生長により樹冠がつながり、200 m<sup>2</sup>以上の樹林規模となったことによる。

#### ③ 赤坂地区

赤坂地区の樹林は 7 か所、2.84ha の減少であった。箇所、面積の減少は 5 地区中最も大きい。

面積規模別では 1.0ha 以上の樹林が 2.89ha、0.5ha 以上 1.0ha 未満が 1.18ha の減少であった。一方、0.5ha 未満の樹林面積は増加であった。減少した主な樹林は、青山霊園と都営青山北町アパート、赤坂中学校の樹林であった。特に青山霊園の樹林減少が大きいことが、5 地区中最も減少が大きくなった要因である。これらの施設以外では、小規模な樹林の減少のみであった。

#### ④ 高輪地区

高輪地区の樹林は 6 か所、0.30ha の増加であった。

面積規模別では、0.1ha 未満が 6 か所、0.54ha の減少、1.0ha 以上が 2 か所、3.79ha の減少であり、0.1ha 以上 1.0ha 未満では箇所、面積ともに増加している。1.0ha 以上の樹林減少は高輪一丁目の宮内庁管理地、聖心女子学院等において樹林面積が縮小したことによる。その他の変化は、比較的小規模なものが多く、建築に伴う樹林の増加及び減少が確認できる。

⑤ 芝浦港南地区

芝浦港南地区の樹林は44か所、1.80haの増加であった。箇所、面積ともに5地区中で最も増加している。

面積規模別では、0.1ha未満の樹林が44か所、1.85ha増加しているが、0.5ha以上1.0ha未満の樹林では3か所、1.95ha減少している。その他の規模では増加であった。樹林の増加の主な要因は、既存の植栽地の樹木生長により、200㎡以上の樹林規模となったものが多いことによる。減少した主な樹林は、芝浦一丁目の東芝浜松町ビル（建替えによる減少）、台場一丁目のお台場海浜公園である。

表 3.3.10 地区別面積規模別の樹林箇所数の推移

単位:箇所

総合支所	0.1ha未満			0.1ha以上0.5ha未満			0.5ha以上1.0ha未満			1.0ha以上			合計		
	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減
芝地区	266	273	7	70	65	△5	11	8	△3	6	7	1	353	353	0
麻布地区	362	359	△3	63	69	6	4	5	1	3	2	△1	432	435	3
赤坂地区	327	333	6	69	60	△9	7	5	△2	6	4	△2	409	402	△7
高輪地区	352	346	△6	63	75	12	5	7	2	9	7	△2	429	435	6
芝浦港南地区	358	402	44	46	48	2	5	2	△3	3	4	1	412	456	44
区全体	1,665	1,713	48	311	317	6	32	27	△5	27	24	△3	2,035	2,081	46

※ △:減少した数値

表 3.3.11 地区別面積規模別の樹林面積の推移

単位:ha

総合支所	0.1ha未満			0.1ha以上0.5ha未満			0.5ha以上1.0ha未満			1.0ha以上			合計		
	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減	平成28年	令和3年	増減
芝地区	10.33	10.70	0.37	13.82	13.81	△0.01	7.06	5.81	△1.25	9.84	9.79	△0.06	41.05	40.11	△0.94
麻布地区	14.27	13.86	△0.42	12.85	14.00	1.15	2.67	3.89	1.22	5.91	5.14	△0.77	35.70	36.88	1.18
赤坂地区	13.17	13.48	0.31	13.45	14.37	0.92	5.17	3.99	△1.18	49.22	46.32	△2.89	81.00	78.16	△2.84
高輪地区	14.29	13.75	△0.54	11.14	13.94	2.80	3.47	5.31	1.83	32.42	28.63	△3.79	61.32	61.62	0.30
芝浦港南地区	14.59	16.44	1.85	8.74	9.38	0.64	3.42	1.48	△1.95	4.09	5.35	1.26	30.84	32.65	1.80
区全体	66.66	68.23	1.57	59.99	65.49	5.50	21.79	20.47	△1.31	101.47	95.22	△6.25	249.92	249.42	△0.50

※ △:減少した数値

※ 小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

### 3.4 斜面緑地調査

#### 3.4.1 斜面緑地

これまでの港区みどりの実態調査で使用してきた斜面地図形データを用いて、斜面地上にある 10 m<sup>2</sup>以上の緑被地を斜面緑地として定義した。ただし斜面地の道路上の緑被地（街路樹等）は除くものとする。この斜面緑地について緑地の分布、現況について調査を行った。

- 斜面地面積は、287.48ha であった。
- 斜面緑地（道路上を除く 10 m<sup>2</sup>以上の緑被地）は、111.83ha であった。
- 斜面緑地の斜面地に占める割合は、38.90% であった。

港区の地形は台地と低地、埋立地から構成されており、台地と低地の境界部が斜面地となっている。斜面地は青山台地、麻布台地、白金台地、高輪台地等から成る古川流域の斜面地と、赤坂台地、飯倉台地等から成る築地川・汐留川流域の斜面地に大別される。古川流域の斜面地には湧水が多く見られ、特に高輪台地に多数分布している。

斜面地から台地にかけて緑被地の分布が多く、斜面地上の 10 m<sup>2</sup>以上の緑被地の状況は表 3.4.1 のとおりである。斜面地面積は区全体面積の 13.8% であった。斜面緑地の面積は 111.83ha で、斜面地面積の 38.90% であった。区全体面積に対する道路を除く 10 m<sup>2</sup>以上の緑被地の割合は 21.88% であることから、斜面地には多くの緑地が分布していることが分かる。また、区全体の道路を除く 10 m<sup>2</sup>以上の緑被地は 454.14ha であり、緑被地のうち斜面緑地の占める割合は 24.6% であることから、斜面地が区のみどりの骨格を形成していることが分かる。

斜面緑地の主なものは赤坂御用地、青山霊園、根津美術館、有栖川宮記念公園、自然教育園、大使館、社寺等であり、斜面緑地の多くは古くから残る樹林地によって構成されている。

斜面地は平地と比較して造成が困難なこともあり、建物が建築されずに斜面緑地として残っている場合や、建物の裏側等の敷地の一部が斜面緑地のまま帯状に残されている場合がある。

表 3.4.1 斜面緑地の状況

上段:面積(ha)、下段:比率(%)

	上段:面積(ha)、下段:比率(%)				
	面積(ha)	10m <sup>2</sup> 以上の 樹木被覆地	10m <sup>2</sup> 以上の 草地	10m <sup>2</sup> 以上の 屋上緑地	10m <sup>2</sup> 以上の 緑被地
斜面地	287.48	101.93	7.31	2.59	111.83
		35.46	2.54	0.90	38.90
区全体	2,075.99	382.23	51.26	20.65	454.14
		18.41	2.47	0.99	21.88
割合(%)	13.8	26.7	14.3	12.6	24.6

### 3.4.2 200 m<sup>2</sup>以上の斜面緑地

- 200 m<sup>2</sup>以上の斜面緑地は、542 か所、85.62ha であった。
- 斜面地上の樹林（200 m<sup>2</sup>以上の樹木被覆地）は、458 か所、80.81ha であった。
- 区全体の 200 m<sup>2</sup>以上の緑被地に対する斜面緑地の箇所数の割合は、20.2% であった。
- 区全体の 200 m<sup>2</sup>以上の緑被地に対する斜面緑地の面積割合は、29.6% であった。

200 m<sup>2</sup>以上の斜面緑地の状況を表 3.4.2 に示す。

200 m<sup>2</sup>以上の斜面緑地は、542 か所、85.62ha であった。区全体の 200 m<sup>2</sup>以上の緑被地のうち、箇所数では 20.2%、面積では 29.6% を占めている。

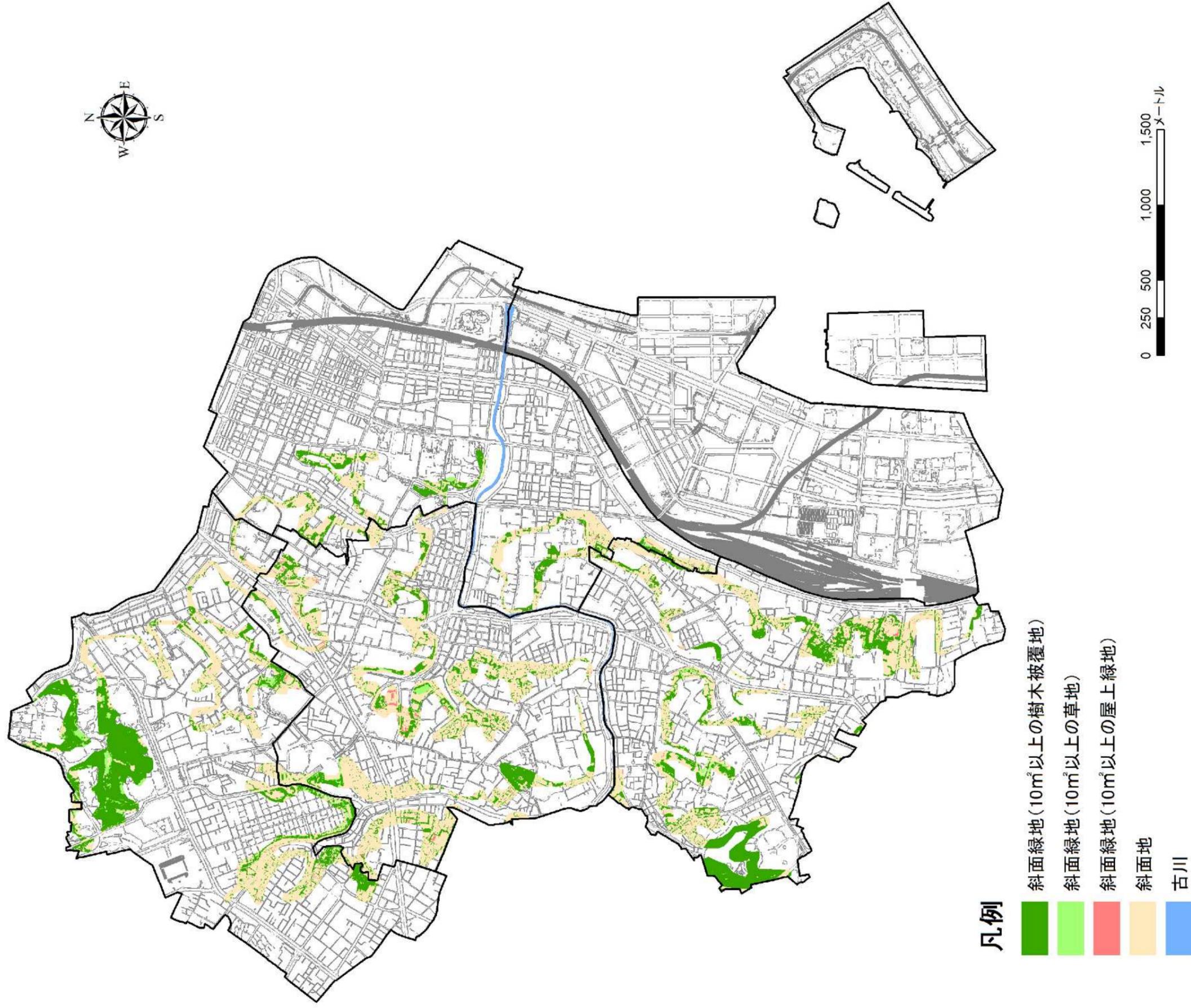
また、斜面緑地（111.83ha）のうち 200 m<sup>2</sup>以上の斜面緑地（85.62ha）の占める面積割合は 76.6% であった。

また、斜面緑地のほとんどが樹林（200 m<sup>2</sup>以上の樹木被覆地）であるが、200 m<sup>2</sup>以上の屋上緑地も 22 か所、0.86ha が存在しており、斜面上にも六本木ヒルズ等の比較的規模の大きい建築物が位置している。

表 3.4.2 200 m<sup>2</sup>以上の斜面緑地の状況

	200m <sup>2</sup> 以上の樹木被覆地(樹林)		200m <sup>2</sup> 以上の草地		200m <sup>2</sup> 以上の屋上緑地		200m <sup>2</sup> 以上の緑被地		
	箇所数	面積(ha)	箇所数	面積(ha)	箇所数	面積(ha)	箇所数	面積(ha)	1箇所あたり面積(ha/箇所)
斜面地	458	80.81	62	3.95	22	0.86	542	85.62	0.16
区全体	2,079	249.35	402	32.54	207	7.48	2,688	289.37	0.11
割合(%)	22.0	32.4	15.4	12.2	10.6	11.6	20.2	29.6	-

# 斜面緑地分布図



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号)3都市基交著第60号

図 3.4.1 斜面緑地分布図

### 3.4.3 斜面緑地の推移

斜面緑地（斜面上の道路を除く 10 m<sup>2</sup>以上の緑被地）のうちほとんどを占める樹木被覆地の推移について調査した。

○ 斜面緑地（うち樹木被覆地）の変化 平成 28 年度の 96.44ha から令和 3 年度は 101.93ha で 5.49ha 増加であった。
○ 斜面地上の樹林（200 m <sup>2</sup> 以上の樹木被覆地）の変化 平成 28 年度の 481 か所、80.62ha から令和 3 年度は 458 か所、80.81ha で 23 か所の減少、0.19ha の増加であった。

斜面緑地（うち樹木被覆地）の推移を表 3.4.3 に示す。

平成 28 年度調査の斜面緑地（樹木被覆地）は 96.44ha であったが、令和 3 年度は 101.93ha で 5.49ha の増加であった。区全体の道路上を除く 10 m<sup>2</sup>以上の樹木被覆地面積は平成 28 年度から 55.37ha 増加しており、区全体の樹木被覆地面積の増加率より斜面緑地の増加率は低くなっている。

一方、斜面地上の樹林（200 m<sup>2</sup>以上の樹木被覆地）は平成 28 年度が 481 か所、80.62ha に対して、令和 3 年度は 458 か所、80.81ha であり、23 か所減少したが 0.19ha の増加であった。斜面地上においても、建築に伴う減少箇所はあるが、樹木の生長や建築に伴う緑地整備による新たな樹林の増加が確認できる。

また、斜面地上の樹林 1 か所当たりの面積は、平成 28 年度の 0.17ha から令和 3 年度は 0.18ha であり、樹林規模はわずかに大きくなっている。

表 3.4.3 斜面緑地等の推移

項目		斜面地	区全体	割合(%)	
10m <sup>2</sup> 以上の 樹木被覆地(ha)	平成28年度	96.44	326.86	29.5	
	令和3年度	101.93	382.23	26.7	
	増減	5.49	55.37	△ 2.84	
樹林	箇所	平成28年度	481	2,035	23.6
		令和3年度	458	2,079	22.0
		増減	△ 23	44	△ 1.6
	面積(ha)	平成28年度	80.62	249.92	32.3
		令和3年度	80.81	249.35	32.4
		増減	0.19	△ 0.57	0.15
	1箇所あたり 面積 (ha/箇所)	平成28年度	0.17	0.12	—
		令和3年度	0.18	0.12	—

※ △: 減少した数値

### 3.5 保護樹木・樹林調査

#### 3.5.1 調査方法

##### (1) 調査対象

令和3年3月31日までに保護樹木、保護樹林に指定している樹木、樹林を調査対象とした。

なお、地区別数量及び基盤条件の集計にあたっては、平成24年1月31日までに指定を行った樹木、樹林の調査は平成23年度に行った調査結果を用いており、平成24年2月1日から平成28年3月31日までに指定した樹木、樹林は平成28年度の調査結果、平成28年4月1日から令和3年3月31日までに指定した樹木、樹林は令和3年度の調査結果を用いている。

活力度及び管理状況の集計にあたっては、平成28年4月1日から令和3年3月31日までに指定した樹木、樹林のみを集計対象とした。

なお、保護樹林には、生垣が含まれる。

##### (2) 調査方法及び項目

###### 【保護樹木】

- 所在地（位置）
- 樹種
- 形状：幹周り(cm)、樹高(m)、枝張り(m)
- プレートの有無
- 活力度、基盤状況、管理状況（表 3.5.1）
- 景観構成要素としての価値、自然環境要素としての価値、歴史・文化要素としての価値（表 3.5.2）
- 写真撮影

表 3.5.1 樹木の活力度、基盤状況、管理状況

活力度	基盤条件	管理状況
1 生育良好	1 平坦地で安定	1 適切な剪定
2 やや不良	2 斜面地だが安定	2 過度の剪定
3 かなり不良	3 傾斜地で崩壊の危険	3 根回りの固結
4 不良		4 病虫害の存在
		5 その他

表 3.5.2 樹木の各種要素の価値

景観構成要素	自然環境要素	歴史文化的要素
0 特になし	0 特になし	0 特になし
1 地域のランドマーク	1 希少性の高い緑の提供	1 歴史的物と一体
2 地域のシンボル	2 ビオトープ空間形成の役割	2 地域の郷土性を示す樹種
3 敷地内のシンボル	3 社寺林として自然性の高い空間を提供	
4 沿道斜面のシンボル		

【保護樹林】

- 所在地（位置）
- 主な樹種
- 形状：樹林の面積(m<sup>2</sup>)、生垣の延長(m)、樹高(m) 最高箇所と平均箇所を目測により測定
- 活力度、基盤状況、管理状況（表 3.5.3）
- 景観構成要素としての価値、自然環境要素としての価値、歴史・文化要素としての価値（表 3.5.4）
- 写真撮影

表 3.5.3 樹林の活力度、基盤状況、管理状況

活力度	基盤条件	管理状況
1 生育良好	1 平坦地で安定	1 適切な剪定
2 やや不良	2 斜面地だが安定	2 過度の剪定
3 かなり不良	3 傾斜地で崩壊の危険	3 根回りの固結
4 不良		4 適切な林内の間伐
		5 適切な枯損木の除去
		6 良好な林床環境の確保
		7 病虫害の存在
		8 その他

表 3.5.4 樹林の各種要素の価値

景観構成要素	自然環境要素	歴史文化的要素
0 特になし	0 特になし	0 特になし
1 地域のランドマーク	1 希少性の高い緑の提供	1 歴史的建物と一体
2 地域のシンボル	2 ビオトープ空間形成の役割	2 地域の郷土性を示す樹種
3 敷地内のシンボル	3 社寺林として自然性の高い空間を提供	
4 沿道斜面のシンボル	4 自然教育空間としての可能性	
	5 環境保全機能を有す	
	6 防災機能を有す	

### 3.5.2 調査結果

#### (1) 保護樹木

- 保護樹木の本数は 680 本であった（令和 3 年 3 月 31 日時点）。
- 保護樹木本数の順位  
高輪地区 271 本 > 麻布地区 180 本 > 芝地区 113 本 > 赤坂地区 100 本 > 芝浦港南地区 16 本

地区別に集計した保護樹木本数を表 3.5.5 に示す。

令和 3 年 3 月 31 日時点の保護樹木本数は 680 本であった。平成 28 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日までに新規指定した保護樹木は 78 本であった。

地区別では高輪地区が最も多く 271 本、次いで麻布地区が 180 本、芝地区が 113 本、赤坂地区が 100 本であった。芝浦港南地区は平成 28 年度調査では保護樹木はなかったが、令和 3 年調査では 16 本が指定されている。

表 3.5.5 地区別の保護樹木本数

総合支所	本数
芝地区	113
麻布地区	180
赤坂地区	100
高輪地区	271
芝浦港南地区	16
区全体	680

基盤条件別の保護樹木本数を表 3.5.6 に、基盤条件割合を図 3.5.1 に示す。

基盤条件は全体の 83.8% にあたる 570 本が平坦地で安定であった。斜面地だが傾斜が緩やかで安定しているものが 70 本で、ほとんどの保護樹木の基盤条件は安定している結果であった。

表 3.5.6 保護樹木の基盤条件

基盤条件	本数
平坦地で安定	570
斜面地だが安定	70
傾斜地で崩壊の危険	9
不明	31
合計	680

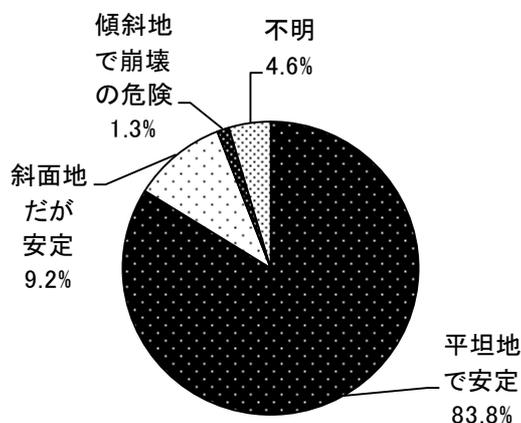


図 3.5.1 保護樹木の基盤条件割合

令和3年度調査で現地調査を行った78本について、活力度別の保護樹木本数を表3.5.7、活力度割合を図3.5.2に示す。

活力度については良好なものが62本で全体の79.5%、やや不良のものが16本で20.5%、かなり不良、不良は今回調査では確認されなかった。

表 3.5.7 保護樹木の活力度

活力度	本数
生育良好	62
やや不良	16
かなり不良	0
不良	0
合計	78

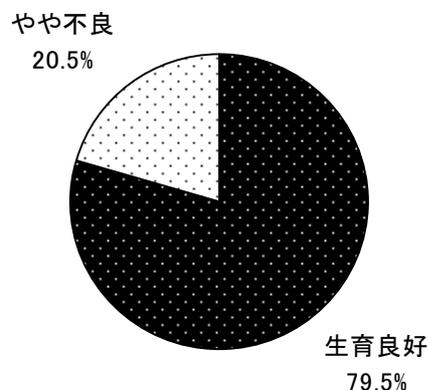


図 3.5.2 保護樹木の活力度割合

令和3年度調査で現地調査を行った78本について、管理状況別の保護樹木本数を表3.5.8に、管理状況割合を図3.5.3に示す。

適切な剪定管理が行われているものが72本で全体の92.3%、過度の剪定管理が行われているものが4本で全体の5.1%であり、ほとんどの保護樹木が適切な剪定を受けている。根回りの固結、病虫害の存在が確認できた樹木は各1本であった。

表 3.5.8 保護樹木の管理状況

管理状況	本数
適切な剪定	72
過度の剪定	4
根回りの固結	1
病虫害の存在	1
合計	78

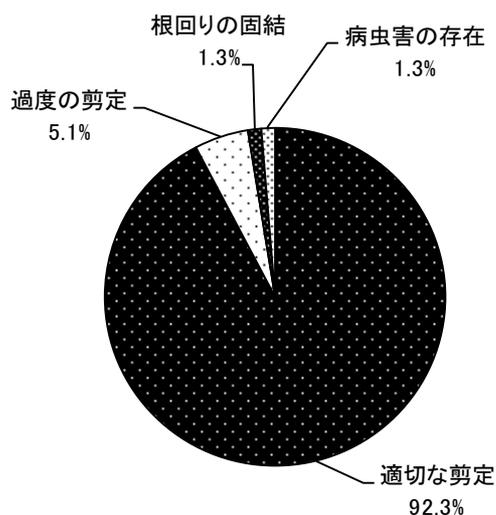


図 3.5.3 保護樹木の管理状況割合

## (2) 保護樹林

- 保護樹林の箇所数は 48 か所であった（令和 3 年 3 月 31 日時点）。
- 保護樹林箇所数の順位  
高輪地区 18 か所 > 芝地区 12 か所 > 麻布地区 9 か所 > 赤坂地区 8 か所 > 芝浦港南地区 1 か所

地区別の保護樹林箇所数を表 3.5.9 に示す。

令和 3 年 3 月 31 日時点の区全体の保護樹林箇所は 48 か所であった。平成 28 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日までに新規指定した保護樹林は 4 か所（樹林 1 か所、生垣 3 か所）であった。

地区別では高輪地区が最も多く 18 か所、次いで芝地区が 12 か所、麻布地区が 9 か所、赤坂地区が 8 か所、芝浦港南地区が 1 か所であった。

表 3.5.9 地区別の保護樹林箇所数

総合支所	樹林	生垣	合計
芝地区	9	3	12
麻布地区	6	3	9
赤坂地区	4	4	8
高輪地区	9	9	18
芝浦港南地区	0	1	1
区全体	28	20	48

基盤条件別の保護樹林箇所数を表 3.5.10 に、基盤条件割合を図 3.5.4 に示す。

平成 18 年度調査までは生垣の現地調査は行っておらず、それらは不明に含めている。

保護樹林の基盤条件は平坦地で安定が 25 か所で全体の約半数であった。斜面地だが傾斜が緩やかで安定しているものは 11 か所 22.9%で、ほとんどの保護樹林について基盤は安定している。

表 3.5.10 保護樹林の基盤条件

基盤条件	箇所数
平坦地で安定	25
斜面地だが安定	11
傾斜地で崩壊の危険	1
不明	11
合計	48

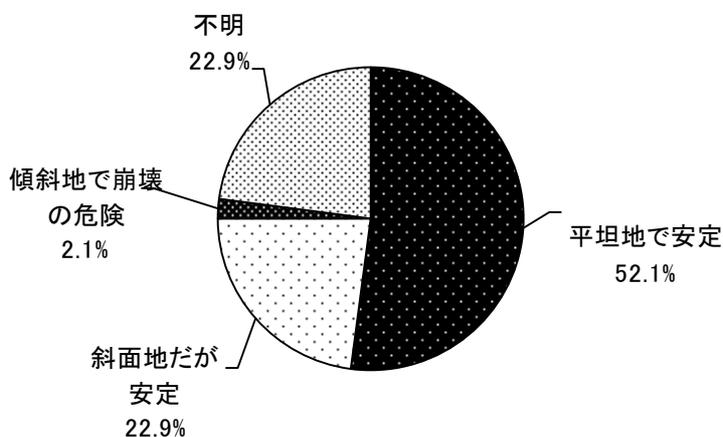


図 3.5.4 保護樹林の基盤条件割合

令和3年度調査で現地調査を行った4か所について、活力度別の保護樹林箇所数を表3.5.11に示す。

活力度別では良好な樹林が3か所、やや不良が1か所であった。

表 3.5.11 保護樹林の活力度

活力度	箇所数
生育良好	3
やや不良	1
かなり不良	0
合計	4

令和3年度調査で現地調査を行った4か所について、管理状況別の保護樹林箇所数を表3.5.12に示す。

保護樹林4か所全てにおいて、適切な剪定が行われていた。

表 3.5.12 保護樹林の管理状況

管理状況	箇所数
適切な剪定	4
過度の剪定	0
根回りの固結	0
適切な林内の間伐	0
適切な枯損木の除去	0
良好な林床環境の確保	0
病虫害の存在	0
合計	4

### 3.6 公園緑地調査

#### 3.6.1 調査方法

公園緑地調査では緑被地調査で作成した緑被データを用いて、公共の公園緑地の緑被率の集計を行った。

#### 3.6.2 調査結果

##### (1) 公園緑地の整備状況

- 公園緑地の整備面積合計は 1,062,440.54 m<sup>2</sup>、166 か所が整備されている。
- 区全体面積 (20.37k m<sup>2</sup>) に対する公園緑地の面積割合は 5.22%であった。
- 区民一人当たりの公園緑地面積は、4.13 m<sup>2</sup>/人(257,506 人、住民基本台帳令和3年12月現在)であった。

公園緑地の公園種別ごとの整備状況は表 3.6.1、表 3.6.2、構成比は図 3.6.1 に示し、区全体の公園緑地分布図を図 3.6.2 に示す。

区内の公園緑地は 166 か所、1,062,440.54 m<sup>2</sup>であり、区全体面積の 5.22%、区民一人あたり面積は 4.13 m<sup>2</sup>であった。

面積が最も大きい公園種別は区立公園の 323,862.11 m<sup>2</sup>であった。箇所数が最も多いのは区立児童遊園で 57 か所であった。

次いで面積が大きい公園種別は、国立科学博物館附属自然教育園と明治神宮外苑である国の公園等の 268,546.08 m<sup>2</sup>、芝公園をはじめとする都立公園の 235,658.05 m<sup>2</sup>である。

表 3.6.1 公園緑地の整備状況

種別	面積(m <sup>2</sup> )	箇所数
区立公園	323,862.11	49
区立児童遊園	41,647.69	57
区立遊び場	8,183.00	10
区立緑地	78,819.84	40
都立公園	235,658.05	4
都立海上公園	105,723.77	4
国の公園等	268,546.08	2
合計	1,062,440.54	166

※令和3年4月1日現在

※一部航空写真撮影日現在のデータを追加

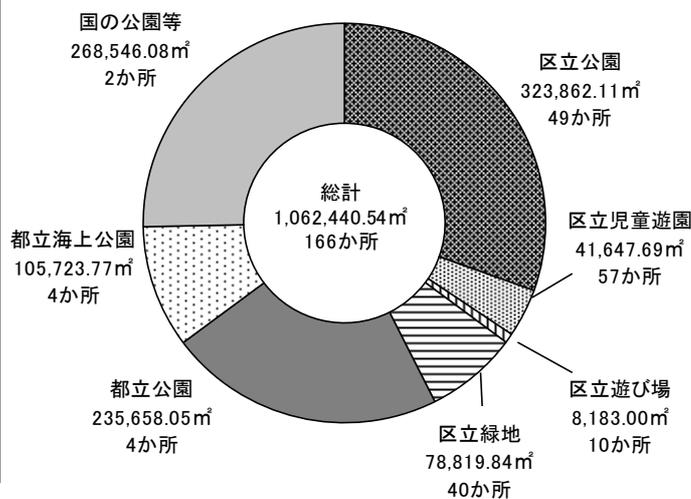


図 3.6.1 公園緑地の構成比

表 3.6.2 公園種別ごとの公園緑地整備状況

【区立公園】(49)

名称	面積 (㎡)	名称	面積 (㎡)
本芝公園	4,297.85	高橋是清翁記念公園	5,320.62
浜崎公園	633.41	乃木公園	3,293.05
イタリア公園	3,659.72	檜町公園	16,369.88
汐留西公園	980.45	青葉公園	1,002.81
桜田公園	2,671.07	青山公園	9,752.74
塩釜公園	841.97	亀塚公園	9,183.38
南桜公園	5,218.86	三田台公園	5,427.45
芝給水所公園	11,062.35	高松くすのき公園	3,639.04
芝公園	13,522.06	高輪森の公園	4,917.29
西桜公園	1,150.01	高輪公園	5,958.11
江戸見坂公園	2,500.02	白金公園	1,483.97
狸穴公園	1,771.90	新浜公園	480.02
本村公園	493.39	芝浦公園	6,800.05
有栖川宮記念公園	67,131.11	プラタナス公園	2,500.00
筭公園	2,441.38	埠頭公園	8,935.27
三河台公園	2,588.42	芝浦中央公園	45,781.97
さくら坂公園	1,539.65	こうなん星の公園	2,150.38
六本木西公園	2,186.90	東八ツ山公園	1,837.27
網代公園	1,358.67	汐の公園	1,500.93
新広尾公園	2,059.12	杜の公園	1,875.16
飯倉公園	2,192.38	港南和楽公園	3,800.82
一の橋公園	4,828.00	港南公園	6,077.29
円通寺坂公園	1,714.72	港南緑水公園	20,206.35
一ツ木公園	4,654.01	お台場レインボー公園	11,000.00
氷川公園	3,070.84		

【区立児童遊園】(57)

名称	面積 (㎡)	名称	面積 (㎡)
金杉橋児童遊園	384.56	南一児童遊園	467.30
芝園児童遊園	103.59	南青山三丁目児童遊園	257.19
芝新堀町児童遊園	351.64	南青山四丁目児童遊園	354.80
松本町児童遊園	247.23	南青山六丁目児童遊園	739.45
芝五丁目児童遊園	1,208.80	北青山一丁目児童遊園	2,458.97
三田小山町児童遊園	188.21	北青山三丁目児童遊園	406.46
三田二丁目児童遊園	503.78	豊岡町児童遊園	190.91
三田綱町児童遊園	457.88	三田松坂児童遊園	772.70
浜松町四丁目児童遊園	428.86	松ヶ丘児童遊園	82.80
芝大門二丁目児童遊園	362.00	高松児童遊園	544.85
虎ノ門三丁目児童遊園	120.00	二本榎児童遊園	379.47
西久保保町児童遊園	179.38	泉岳寺前児童遊園	1,892.39
南麻布一丁目児童遊園	450.55	高輪南町児童遊園	617.90
南麻布新堀児童遊園	533.73	白金志田町児童遊園	1,258.86
南麻布二丁目児童遊園	465.61	白高児童遊園	1,070.06
絶江児童遊園	180.87	白金一丁目児童遊園	1,137.58
古川橋児童遊園	327.89	四の橋通児童遊園	497.31
広尾児童遊園	172.93	三光児童遊園	1,641.13
宮村児童遊園	1,111.81	雷神山児童遊園	990.25
筭児童遊園	848.97	奥三光児童遊園	212.84
西麻布二丁目児童遊園	914.61	白金児童遊園	1,746.72
六本木坂下児童遊園	533.08	白金台四丁目児童遊園	432.35
六本木坂上児童遊園	661.34	白台児童遊園	592.10
六本木三丁目児童遊園	288.18	白金台どんぐり児童遊園	6,103.48
飯倉雁木坂児童遊園	172.36	南浜町児童遊園	232.64
東麻布児童遊園	882.23	船路橋児童遊園	858.05
中ノ橋児童遊園	376.12	末広橋児童遊園	112.80
一ツ木児童遊園	197.48	青山北町児童遊園	1,341.03
桑田記念児童遊園	1,536.61		

出展 区施設 : 「港区の街づくり」令和3年度  
及び航空写真撮影時最新データを追加  
区施設以外 : 関係機関発行の資料

【都立公園】(4)

名称	面積 (㎡)
都立芝公園	122,501.09
都立青山公園	40,018.20
都立台場公園	29,963.40
都立旧芝離宮恩賜庭園	43,175.36

【都立海上公園】(4)

名称	面積 (㎡)
都立シンボルプロムナード公園	14,433.27
都立品川北ふ頭公園	5,950.00
都立芝浦南ふ頭公園	9,925.71
都立お台場海浜公園	75,414.79

【国の公園等】(2)

名称	面積 (㎡)
国立科学博物館附属自然教育園	198,644.00
明治神宮外苑	69,902.08

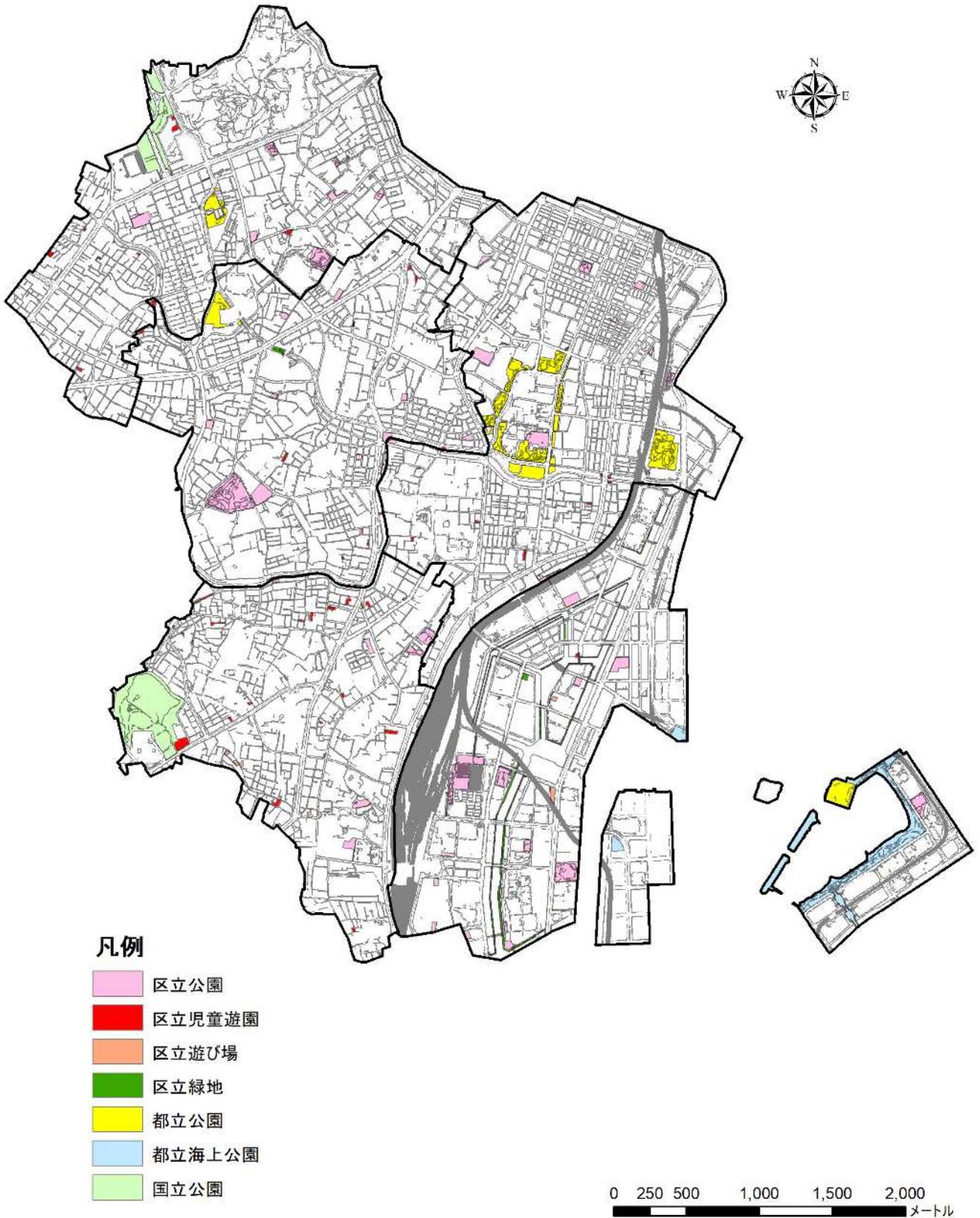
【区立緑地】(40)

名称	面積 (㎡)	名称	面積 (㎡)
金杉濱町緑地	100.11	南青山七丁目緑地	223.65
芝二丁目緑地	46.28	魚籃坂下緑地	352.92
芝三丁目緑地	96.10	高輪一丁目緑地	339.31
御成門緑地	232.92	伊皿子坂緑地	151.86
手まり坂緑地	447.43	白金二丁目緑地	150.00
江戸見坂緑地	170.46	白金二丁目第二緑地	230.16
虎ノ門五丁目緑地	95.69	明治坂緑地	156.00
菜園坂緑地	105.04	白金六丁目緑地	213.07
古川沿緑地	1,286.56	芝浦四丁目緑地	295.80
元麻布三丁目緑地	197.21	トリニティ芝浦緑地	1,651.78
西麻布一丁目緑地	150.00	芝浦運河沿緑地	11,280.56
牛坂緑地	101.79	新芝北運河沿緑地	1,203.00
西麻布四丁目緑地	259.31	新芝運河沿緑地	15,809.98
六本木緑地	2,868.42	新芝南運河沿緑地	900.34
六本木六丁目緑地	213.91	芝浦西運河沿緑地	7,347.22
赤坂榎坂町緑地	150.75	高浜西運河沿緑地	574.68
南青山二丁目緑地	150.02	高浜運河沿緑地	25,564.90
南青山二丁目第二緑地	150.00	京浜運河沿緑地	951.72
南青山三丁目緑地	156.92	港南四丁目緑地	778.46
南青山四丁目緑地	150.31	浜松町一丁目緑地	300.00

【区立遊び場】(10)

名称	面積 (㎡)
久国神社境内遊び場	341
永坂上遊び場	98
氷川神社境内遊び場	284
承教寺前遊び場	40
高輪台遊び場	527
白金台緑の遊び場	878
白金台三丁目遊び場	1,416
日東坂下遊び場	236
夕風橋際遊び場	1,361
港南三丁目遊び場	3,002

# 公園緑地分布図



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号)3都市基交著第60号

図 3.6.2 公園緑地分布図

## (2) 公園緑地内の緑被状況

- 区全体の公園緑地の緑被率は 68.70%、樹木被覆率は 58.91%であった。
- 緑被率が最も高い公園種別は国の公園等の 93.14%であった。

公園種別ごとの緑被状況は表 3.6.3 に示す。

緑被率では国の公園等の 93.14%が最も高い値であった。国の公園等は明治神宮外苑と国立科学博物館附属自然教育園で、樹木被覆地面積が 217,008 m<sup>2</sup>、樹木被覆率 92.09%で最も高く、区内の公園緑地の樹木被覆地の約 35%を占めており、みどりの拠点となっている。

都立公園は芝公園、旧芝離宮恩賜庭園、台場公園、青山公園の 4 公園で、面積規模の大きい公園である。国の公園等と比較して草地等の開放的な空間が広く、草地率は 15.65%と最も高い。樹木被覆率では 51.87%、緑被率では 67.52%であった。都立公園もまとまったみどりの拠点となっている。

区立公園は 49 か所で、敷地面積が最も大きい公園は有栖川宮記念公園である。その他 1 ha 以上の公園は 6 か所ある。区全体の公園緑地面積のうち区立公園の占める割合が最も高く、約 30%を占める。樹木被覆率は 48.18%、緑被率は 60.99%であった。

区立児童遊園は 57 か所で、1,000 m<sup>2</sup>以下の小規模なものが多く、樹木被覆率 49.72%、緑被率 52.77%であった。

都立海上公園は品川北ふ頭公園、芝浦南ふ頭公園、お台場海浜公園、シンボルプロムナード公園の 4 か所で、樹木被覆率は 58.63%、緑被率は 72.38%であった。

表 3.6.3 公園種別ごとの緑被状況

種別	箇所数	面積 (m <sup>2</sup> )	樹木被覆地 (m <sup>2</sup> )	草地 (m <sup>2</sup> )	屋上緑地 (m <sup>2</sup> )	緑被地 (m <sup>2</sup> )	樹木被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
区立公園	49	323,862	156,023	41,392	108	197,523	48.18	12.78	0.03	60.99
区立児童遊園	57	41,648	20,706	1,270	0	21,976	49.72	3.05	0.00	52.77
区立遊び場	10	8,183	4,070	0	0	4,070	49.74	0.00	0.00	49.74
区立緑地	40	78,820	26,753	2,279	0	29,032	33.94	2.89	0.00	36.83
都立公園	4	268,546	139,291	42,038	0	181,330	51.87	15.65	0.00	67.52
都立海上公園	4	105,724	61,988	14,536	0	76,524	58.63	13.75	0.00	72.38
国の公園等	2	235,658	217,008	2,476	0	219,484	92.09	1.05	0.00	93.14
合計	166	1,062,441	625,839	103,991	108	729,938	58.91	9.79	0.01	68.70

※ 面積は東京都都市計画基本図データの図形面積を使用している

※ 面積は小数第 1 位、率は小数第 3 位を四捨五入しているため集計値が合わない場合がある

### (3) 地区別の公園緑地内の緑被状況

- 地区別の公園緑地面積では芝浦港南地区が 37.92ha で最も大きい。
- 公園緑地内の樹木被覆率が最も高いのは、高輪地区の 89.60%であった。
- 公園緑地内の草地率が最も高いのは、芝浦港南地区の 14.69%であった。

地区別の公園箇所数では、地区をまたがる公園については各地区で1か所と数えているため、公園箇所数の合計値が区全体の箇所数と異なっている。地区別に集計した公園種別の緑被状況を表 3.6.4 に示す。

地区別の公園緑地面積は、芝浦港南地区が最も大きい。芝浦港南地区には運河沿いに都立海上公園、区立緑地が位置しているほか、都立台場公園、芝浦中央公園、港南緑水公園、お台場レインボー公園等の面積規模の大きい公園が分布している。

公園緑地内の樹木被覆率が最も高い地区は高輪地区である。国立科学博物館附属自然教育園の樹木被覆率が 98.08%であり、樹木被覆地面積も 17.76ha と大きい。また、区立公園は6か所と5地区中最も少ないが、樹木被覆率は 68.49%と最も高い。高輪森の公園、亀塚公園、高輪公園等の樹木の多い公園が多いためである。

草地率が最も高い地区は芝浦港南地区である。都立台場公園には広大な芝生広場があり、草地率は 51.41%である。また、お台場海浜公園においてもオリンピックの関係により樹木被覆地の芝生化により、草地面積は増加している。

### (4) 公園別の緑被状況

公園別の緑被状況一覧について、資料編 P18 に示す。

区立公園のうち最も面積が大きい公園は、有栖川宮記念公園(67,131 m<sup>2</sup>)、次いで芝浦中央公園(45,782 m<sup>2</sup>)、港南緑水公園(20,206 m<sup>2</sup>)であった。最も樹木被覆率が高い公園は、高輪三丁目の高輪森の公園(93.01%)、次いで赤坂七丁目の高橋是清翁記念公園(92.27%)、赤坂八丁目の乃木公園(78.37%)であった。

区立児童遊園で最も面積が大きいのは、白金台どんぐり児童遊園(6,103 m<sup>2</sup>)、次いで北青山一丁目児童遊園(2,459 m<sup>2</sup>)、泉岳寺前児童遊園(1,892 m<sup>2</sup>)であった。最も樹木被覆率が高いのは白金六丁目の雷神山児童遊園(97.46%)、次いで高輪四丁目の高輪南町児童遊園(93.37%)、東麻布一丁目の東麻布児童遊園(91.98%)であった。

区立遊び場で最も面積が大きいのは港南三丁目遊び場(3,002 m<sup>2</sup>)、次いで白金台三丁目遊び場(1,416 m<sup>2</sup>)、芝浦四丁目の夕風橋際遊び場(1,361 m<sup>2</sup>)であった。最も樹木被覆率が高いのは麻布台三丁目の永坂上遊び場(99.98%)、白金台三丁目の白金台緑の遊び場(94.77%)、赤坂六丁目の氷川神社境内遊び場(88.51%)であった。

区立緑地で最も面積が大きいものは高浜運河沿緑地(27,565 m<sup>2</sup>)、次いで新芝運河沿緑地(15,810 m<sup>2</sup>)、芝浦運河沿緑地(11,281 m<sup>2</sup>)であった。最も樹木被覆率が高いのは南麻布三丁目の薬園坂緑地(100.00%)、白金六丁目の明治坂緑地(99.99%)、西麻布

四丁目の西麻布四丁目緑地(98.25%)であった。

表 3.6.4 地区別の公園種別緑被状況

総合支所	区立公園									
	箇所数	敷地面積 (㎡)	樹木 被覆地 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑地 (㎡)	緑被地 (㎡)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	12	51,361	16,604	6,572	76	23,252	32.33	12.80	0.15	45.27
麻布地区	10	83,267	53,873	5,414	12	59,299	64.70	6.50	0.01	71.22
赤坂地区	8	45,013	26,006	2,852	0	28,858	57.77	6.34	0.00	64.11
高輪地区	6	30,307	20,756	2,339	0	23,095	68.49	7.72	0.00	76.20
芝浦港南地区	13	116,842	38,783	24,216	20	63,019	33.19	20.73	0.02	53.94
計	49	326,790	156,023	41,392	108	197,523	47.74	12.67	0.03	60.44

総合支所	区立児童遊園									
	箇所数	敷地面積 (㎡)	樹木 被覆地 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑地 (㎡)	緑被地 (㎡)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	12	4,476	2,034	0	0	2,034	45.43	0.00	0.00	45.43
麻布地区	15	8,015	3,787	153	0	3,940	47.25	1.90	0.00	49.16
赤坂地区	9	7,575	3,652	275	0	3,927	48.21	3.63	0.00	51.85
高輪地区	18	20,070	10,670	827	0	11,497	53.17	4.12	0.00	57.29
芝浦港南地区	3	1,237	563	16	0	578	45.49	1.26	0.00	46.75
計	57	41,373	20,706	1,270	0	21,976	50.05	3.07	0.00	53.12

総合支所	区立遊び場									
	箇所数	敷地面積 (㎡)	樹木 被覆地 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑地 (㎡)	緑被地 (㎡)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
麻布地区	2	412	203	0	0	203	49.12	0.00	0.00	49.12
赤坂地区	1	283	251	0	0	251	88.51	0.00	0.00	88.51
高輪地区	5	3,105	1,621	0	0	1,621	52.20	0.00	0.00	52.20
芝浦港南地区	2	4,286	1,996	0	0	1,996	46.58	0.00	0.00	46.58
計	10	8,086	4,070	0	0	4,070	50.33	0.00	0.00	50.33

総合支所	区立緑地									
	箇所数	敷地面積 (㎡)	樹木 被覆地 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑地 (㎡)	緑被地 (㎡)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	8	1,490	714	18	0	731	47.89	1.18	0.00	49.07
麻布地区	9	5,334	2,483	59	0	2,542	46.55	1.10	0.00	47.65
赤坂地区	5	835	719	0	0	720	86.10	0.05	0.00	86.15
高輪地区	7	1,729	1,070	283	0	1,353	61.86	16.37	0.00	78.22
芝浦港南地区	11	69,092	21,767	1,919	0	23,686	31.50	2.78	0.00	34.28
計	40	78,481	26,753	2,279	0	29,032	34.09	2.90	0.00	36.99

総合支所	都立公園									
	箇所数	敷地面積 (㎡)	樹木 被覆地 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑地 (㎡)	緑被地 (㎡)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	2	158,966	103,992	14,260	0	118,252	65.42	8.97	0.00	74.39
麻布地区	1	41,261	22,106	12,746	0	34,852	53.58	30.89	0.00	84.47
赤坂地区	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
高輪地区	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
芝浦港南地区	1	29,241	13,193	15,033	0	28,225	45.12	51.41	0.00	96.53
計	4	229,468	139,291	42,038	0	181,330	60.70	18.32	0.00	79.02

総合支所	都立海上公園									
	箇所数	敷地面積 (㎡)	樹木 被覆地 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑地 (㎡)	緑被地 (㎡)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
麻布地区	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
赤坂地区	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
高輪地区	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
芝浦港南地区	4	158,483	61,988	14,536	0	76,524	39.11	9.17	0.00	48.29
計	4	158,483	61,988	14,536	0	76,524	39.11	9.17	0.00	48.29

総合支所	国の公園等									
	箇所数	敷地面積 (㎡)	樹木 被覆地 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑地 (㎡)	緑被地 (㎡)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
麻布地区	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
赤坂地区	1	69,307	39,369	2,325	0	41,693	56.80	3.35	0.00	60.16
高輪地区	1	181,117	177,639	151	0	177,790	98.08	0.08	0.00	98.16
芝浦港南地区	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
計	2	250,424	217,008	2,476	0	219,484	86.66	0.99	0.00	87.64

総合支所	合計									
	箇所数	敷地面積 (㎡)	樹木 被覆地 (㎡)	草地 (㎡)	屋上緑地 (㎡)	緑被地 (㎡)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	34	216,293	123,344	20,849	76	144,269	57.03	9.64	0.04	66.70
麻布地区	37	138,289	82,453	18,371	12	100,835	59.62	13.28	0.01	72.92
赤坂地区	24	123,014	69,997	5,452	0	75,449	56.90	4.43	0.00	61.33
高輪地区	37	236,328	211,756	3,600	0	215,356	89.60	1.52	0.00	91.13
芝浦港南地区	34	379,181	138,289	55,719	20	194,029	36.47	14.69	0.01	51.17
計	166	1,093,106	625,839	103,991	108	729,938	57.25	9.51	0.01	66.78

※公園緑地等の敷地面積には東京都都市計画基本図データの図形面積を使用している  
 ※面積は小数第1位、率は小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある  
 ※地区をまたがる公園緑地については、各地区で1か所と数えている

### 3.6.3 公園緑地の推移

- 区全体の公園緑地面積は平成 28 年度調査から 1,388 ㎡増加した。
- 区立緑地は 2 か所増加、区立児童遊園は 1 か所、区立遊び場は 2 か所減少した。
- 樹木被覆地面積は平成 28 年度調査から 3,772 ㎡増加した。
- 樹木被覆率は 0.28 ポイント増加した。

公園種別に集計した公園緑地の推移を表 3.6.5 に示す。

区内の公園緑地は平成 28 年度調査から 1 か所減少し、面積は 1,388 ㎡増加した。

区立公園では、西桜公園と江戸見坂公園が新たに開園し、横川省三記念公園と高浜公園が廃止された。三田台公園等の区域変更もあり、箇所数の変化はないが公園面積は 1,329 ㎡の増加であった。

区立児童遊園では、青山北町児童遊園が開園し、青山五丁目児童遊園と車町児童遊園が廃止となった。箇所数は 1 か所減少したが、面積は 104 ㎡の増加であった。

区立遊び場では、浜松町二丁目遊び場、瑞聖寺前遊び場が廃止され、2 か所減少した。

区立緑地では、白金二丁目第二緑地、南青山二丁目第二緑地、浜松町一丁目緑地が新たに開園し、三田二丁目緑地が廃止されている。箇所数は 2 か所、面積は 1,865 ㎡の増加であった。

都立公園、都立海上公園、国の公園等では箇所、面積の変更はなかった。

区民 1 人当たりの公園面積では、平成 28 年度が 4.26 ㎡/人に対して、令和 3 年度は 4.13 ㎡/人である。公園面積は増加したが人口の増加が大きいため、一人当たり公園面積は減少している。

樹木被覆地は、公園全体で 3,772 ㎡の増加であった。区立公園、区立児童遊園、区立緑地では増加しているが、区立遊び場、都立公園、都立海上公園、国の公園等では減少であった。区立公園の樹木被覆地面積は 8,081 ㎡、樹木被覆率 2.31 ポイントの増加であった。一方、都立海上公園の樹木被覆地面積は 7,319 ㎡、樹木被覆率 6.92 ポイントの減少であった。

表 3.6.5 公園緑地の推移

公園種別		平成18年度	平成23年度	平成28年度	令和3年度	増減(H28→R03)
区立公園	箇所数	46	48	49	49	0
	敷地面積(m <sup>2</sup> )	287,942	299,150	322,533	323,862	1,329
	樹木被覆地(m <sup>2</sup> )	127,948	141,754	147,942	156,023	8,081
	樹木被覆率(%)	44.44	47.31	45.87	48.18	2.31
区立児童遊園	箇所数	61	58	58	57	△ 1
	敷地面積(m <sup>2</sup> )	41,679	41,725	41,544	41,648	104
	樹木被覆地(m <sup>2</sup> )	19,195	21,795	19,444	20,706	1,262
	樹木被覆率(%)	46.05	52.56	46.80	49.72	2.91
区立遊び場	箇所数	61	58	12	10	△ 2
	敷地面積(m <sup>2</sup> )	41,679	41,725	10,092	8,183	△ 1,909
	樹木被覆地(m <sup>2</sup> )	19,195	21,795	4,927	4,070	△ 857
	樹木被覆率(%)	46.05	52.56	48.82	49.74	0.92
区立緑地	箇所数	28	35	38	40	2
	敷地面積(m <sup>2</sup> )	57,767	73,552	76,955	78,820	1,865
	樹木被覆地(m <sup>2</sup> )	17,317	21,012	20,869	26,753	5,884
	樹木被覆率(%)	29.98	28.12	27.12	33.94	6.82
都立公園	箇所数	4	4	4	4	0
	敷地面積(m <sup>2</sup> )	234,105	234,105	235,658	235,658	0
	樹木被覆地(m <sup>2</sup> )	129,188	144,140	140,829	139,291	△ 1,538
	樹木被覆率(%)	55.18	63.45	59.76	59.11	△ 0.65
都立海上公園	箇所数	3	4	4	4	0
	敷地面積(m <sup>2</sup> )	92,661	102,586	105,724	105,724	0
	樹木被覆地(m <sup>2</sup> )	54,002	66,635	69,307	61,988	△ 7,319
	樹木被覆率(%)	58.28	42.05	65.55	58.63	△ 6.92
国の公園等 (自然教育園 明治神宮外苑)	箇所数	2	2	2	2	0
	敷地面積(m <sup>2</sup> )	268,546	268,546	268,546	268,546	0
	樹木被覆地(m <sup>2</sup> )	234,640	214,920	218,749	217,008	△ 1,741
	樹木被覆率(%)	87.37	85.82	81.46	80.81	△ 0.65
合計	箇所数	144	151	167	166	△ 1
	敷地面積(m <sup>2</sup> )	982,700	1,019,665	1,061,052	1,062,441	1,388
	樹木被覆地(m <sup>2</sup> )	582,290	610,256	622,067	625,839	3,772
	樹木被覆率(%)	59.25	57.97	58.63	58.91	0.28

※樹木被覆地と平成23年度以降の樹木被覆率の分母は東京都都市計画基本図データの図形面積を使用している

※増減欄の樹木被覆率は平成23年度と平成28年度のポイント差

※△は減少した数値

※面積は小数第1位、率は小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

### 3.7 街路樹調査

#### 3.7.1 調査方法

区内の国道・都道・区道における街路樹の位置・本数・主要樹種、街路樹路線延長について、既存資料を用いて調査を行った。延長は両側に街路樹がある場合もすべて片側のみの延長とし計測したものである。なお、交差点部分は前後で路線が異なる場合は延長距離に含めていない。

#### 3.7.2 調査結果

##### (1) 管轄別の分布状況

- 区全体の街路樹本数は 12,315 本、街路樹路線延長は 110,649mであった。
- 区道は街路樹植栽本数が最も多く、都道は街路樹路線延長が最も長い。
- 植栽区間道路面積に占める樹冠面積の割合（緑被率）は区道が最も高い。

管轄別の樹木植栽状況を表 3.7.1 に示す。

樹木植栽本数は区道が 5,389 本、都道が 5,359 本、国道が 1,567 本であった。管理種別ごとの植栽延長が最も長いのは都道の 48,142m、次いで区道の 47,498m、国道 15,009mであった。

区内の国道は 1 号線、15 号線、246 号線、357 号線であり、ほぼ全線に渡って街路樹が植栽されている。都道についても幅員の広い 19 路線のほぼ全線で植栽されている。区道については主要幹線間を繋ぐ連絡道等を中心に植栽されている。

延長 10mあたりの街路樹本数（緑化率）は区道が最も多く、1.13 本/10mであった。しかし、管轄別で大きな差はなく、区内の街路樹の植栽間隔は概ね一定であることがわかる。

植栽区間道路面積に占める樹冠面積の割合（緑被率）は、区全体では 11.30%であった。

表 3.7.1 管轄別の街路樹植栽延長

管轄	本数	街路樹 路線延長 (m)	緑化率 (本/10m)	植栽区間 緑被面積 (㎡)	植栽区間 道路面積 (㎡)	緑被率 (%)	(参考) 道路面積 (㎡)	(参考) 道路延長 (m)
区道	5,389	47,498	1.13	122,014	777,212	15.70	1,845,477	219,506
都道	5,359	48,142	1.11	206,257	1,844,415	11.18	1,570,441	48,760
国道	1,567	15,009	1.04	83,400	1,020,149	8.18	542,769	15,436
合計	12,315	110,649	1.11	411,672	3,641,775	11.30	3,958,687	283,702

※街路樹本数は高木のみを対象としている

※街路樹路線延長の起点終点は交差点を含まない

※道路面積、道路延長は特別区土木関係現況調査(令和3年度)によるものであり、国道は指定区間外を含む

※延長、面積は小数第1位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

管轄別・樹種別の街路樹植栽本数を表 3.7.2 に示す。

樹種別ではイチョウが 2,395 本で最も多く、次いでハナミズキが 2,248 本、プラタナス 1,747 本となっている。

区道における植栽樹種はハナミズキが 1,299 本 (24.1%) で最も多く、次いでサクラが 760 本 (14.1%)、イチョウが 579 本 (10.7%) であった。都道ではイチョウ (1,105 本、20.6%)、プラタナス (1,051 本、19.6%) が特に多く、国道もイチョウ (711 本、45.4%)、プラタナス (340 本、21.7%) となっている。都道、国道は幹線道路として歩道幅員が広い道路が多いため、植栽樹種もプラタナス、イチョウなどの緑陰が大きくとれるものが植えられている。一方、区道の樹種はハナミズキ、サクラなど花木としても楽しめる樹種が多い。特に、区の木であるハナミズキは、区道で圧倒的に多く植栽されている。

表 3.7.2 管轄別・樹種別の街路樹植栽本数

単位:本

樹種	区道	都道	国道	合計
イチョウ	579	1,105	711	2,395
プラタナス	356	1,051	340	1,747
ハナミズキ	1,299	822	127	2,248
アオギリ	47	395	28	470
ヤマモモ	134	462	0	596
エンジュ	1	277	0	278
サクラ	760	55	14	829
トチノキ	2	105	31	138
ユリノキ	61	374	0	435
マテバシイ	247	10	83	340
ヤナギ	76	7	3	86
クスノキ	467	73	9	549
トウカエデ	119	47	0	166
モミジバフウ	23	125	0	148
ケヤキ	115	25	128	268
フウ	0	89	0	89
シラカシ	112	51	0	163
コブシ	42	30	0	72
トネリコ	110	39	0	149
その他	839	217	93	1,149
合計	5,389	5,359	1,567	12,315

## (2) 地区別の分布状況

- 街路樹植栽区間における緑被地面積は、芝浦港南地区が最も大きい。
- 芝浦港南地区に次いで赤坂地区、芝地区の緑被地面積が大きい。
- 街路樹植栽区間の緑被率は、赤坂地区が最も高い。

地区別に集計した街路樹の植栽面積を表 3.7.3 に示す。

赤坂地区では赤坂御用地周辺の都道、青山霊園、赤坂中学校周辺の区道において樹冠面積が大きく、地区全体の緑被率が高くなっている。

また、街路樹は幹線道路を中心に整備が行われているため、幹線道路の占める割合の高い芝地区、芝浦港南地区では街路樹の整備率が高いが、植栽区間道路面積が大きいため、緑被率は区全体よりも低い。

麻布地区は首都高速道路の高架下の広幅員道路が多いため、緑被率は比較的低い。

表 3.7.3 地区別の街路樹植栽面積

総合支所	植栽区間 緑被地面積 (㎡)	植栽区間 道路面積 (㎡)	緑被率(%)			
			区道	都道	国道	
芝地区	91,406	997,237	10.90	9.37	7.60	9.17
麻布地区	67,617	615,261	21.32	9.08	5.83	10.99
赤坂地区	95,092	591,882	25.93	15.28	11.74	16.07
高輪地区	48,996	474,339	17.58	13.33	7.64	10.33
芝浦港南地区	108,560	963,057	14.43	10.71	8.44	11.27
区全体	411,672	3,641,775	15.70	11.18	8.18	11.30

※面積は小数第1位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

### (3) 樹種別の街路樹の状況

- 区道で緑被率が最も高いのはサクラ（44.4％）であった。
- 都道で緑被率が最も高いのはケヤキ（61.4％）であった。
- 国道で緑被率が最も高いのはマテバシイ（15.1％）であった。

単一の樹種で構成されている路線について、主な樹種の管轄別の緑被率を算出した（表 3.7.4）。

管轄別の道路緑被率は道路幅員等の道路状況の違いによって数値の差が生じるため、単純比較はできないが、区道 16.3％、都道 10.8％、国道 8.4％であった。

区道のうち最も緑被率が高いのはサクラで 44.4％、次いでケヤキが 38.5％であった。都道で最も緑被率が高いのはケヤキの 61.4％、次いでエンジュの 28.7％であった。国道で最も緑被率が高いのはマテバシイの 15.1％、次いでトチノキの 11.0％であった。

表 3.7.4 主な樹種の管轄別緑被率

樹種	区道			都道			国道		
	緑被地面積 (㎡)	道路面積 (㎡)	緑被率 (%)	緑被地面積 (㎡)	道路面積 (㎡)	緑被率 (%)	緑被地面積 (㎡)	道路面積 (㎡)	緑被率 (%)
イチヨウ	14,778	100,266	14.7	52,934	407,110	13.0	51,780	629,384	8.2
プラタナス	6,436	51,662	12.5	31,519	390,466	8.1	14,110	159,414	8.9
ハナミズキ	14,988	132,453	11.3	9,030	144,796	6.2	4,760	69,922	6.8
アオギリ	254	6,612	3.8	10,380	89,983	11.5	2,737	33,631	8.1
ヤマモモ	1,430	9,461	15.1	16,074	302,330	5.3	0	0	-
エンジュ	362	5,300	6.8	10,679	37,158	28.7	0	0	-
サクラ	26,584	59,918	44.4	0	0	-	0	0	-
トチノキ	213	1,701	12.5	21	2,161	1.0	3,762	34,172	11.0
ユリノキ	3,257	19,864	16.4	23,450	90,849	25.8	0	0	-
マテバシイ	1,883	18,972	9.9	0	0	-	2,742	18,158	15.1
ヤナギ	1,277	14,615	8.7	6,662	86,778	7.7	211	12,392	1.7
クスノキ	3,926	34,635	11.3	6,767	37,898	17.9	0	0	-
トウカエデ	463	4,278	10.8	0	0	-	0	0	-
モミジバフウ	229	2,670	8.6	5,014	47,493	10.6	0	0	-
ケヤキ	4,926	12,796	38.5	4,410	7,182	61.4	0	0	-
シラカシ	1,202	19,724	6.1	2,438	20,087	12.1	0	0	-
コブシ	1,093	9,183	11.9	0	0	-	0	0	-
トネリコ	1,198	14,727	8.1	0	0	-	0	0	-
合計	84,498	518,837	16.3	179,379	1,664,292	10.8	80,103	957,073	8.4

※面積は小数第1位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

### 3.7.3 街路樹の推移

- 平成28年度と令和3年度の区内の街路樹の推移は169本の増加であった。
- 区道、国道では減少しているが、都道では増加した。

管轄別に集計した街路樹本数の推移を表3.7.5、図3.7.1に示す。

平成7年度から平成18年度までは増加傾向であったが、平成23年度に減少し、その後は大きな変化はない。平成28年度からは区全体では169本の増加であった。都道は190本増加し、区道は20本、国道は1本の減少であった。

表 3.7.5 管轄別の街路樹本数の推移

単位:本

管轄	平成7年度	平成13年度	平成18年度	平成23年度	平成28年度	令和3年度
区道	4,072	4,286	5,120	5,344	5,409	5,389
都道	4,758	5,409	5,569	5,243	5,169	5,359
国道	2,068	2,163	1,854	1,625	1,568	1,567
合計	10,898	11,858	12,543	12,212	12,146	12,315

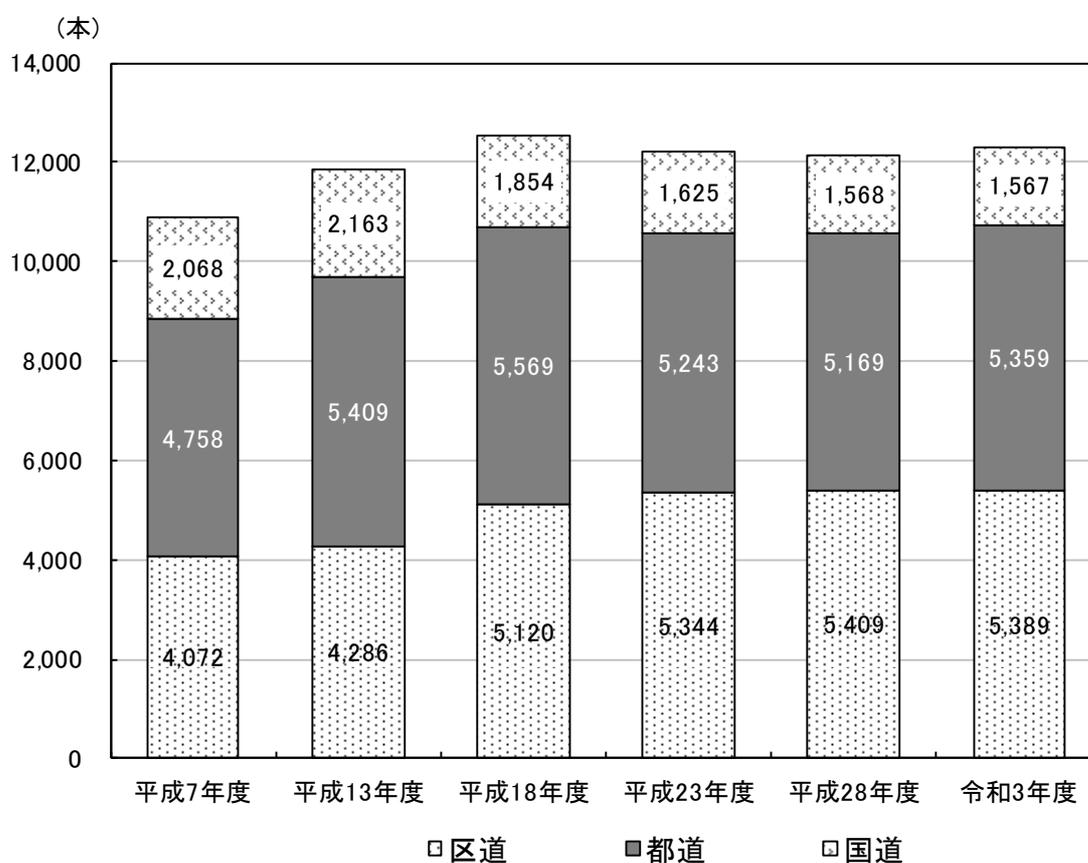


図 3.7.1 管轄別の街路樹本数の推移

# 街路樹路線図

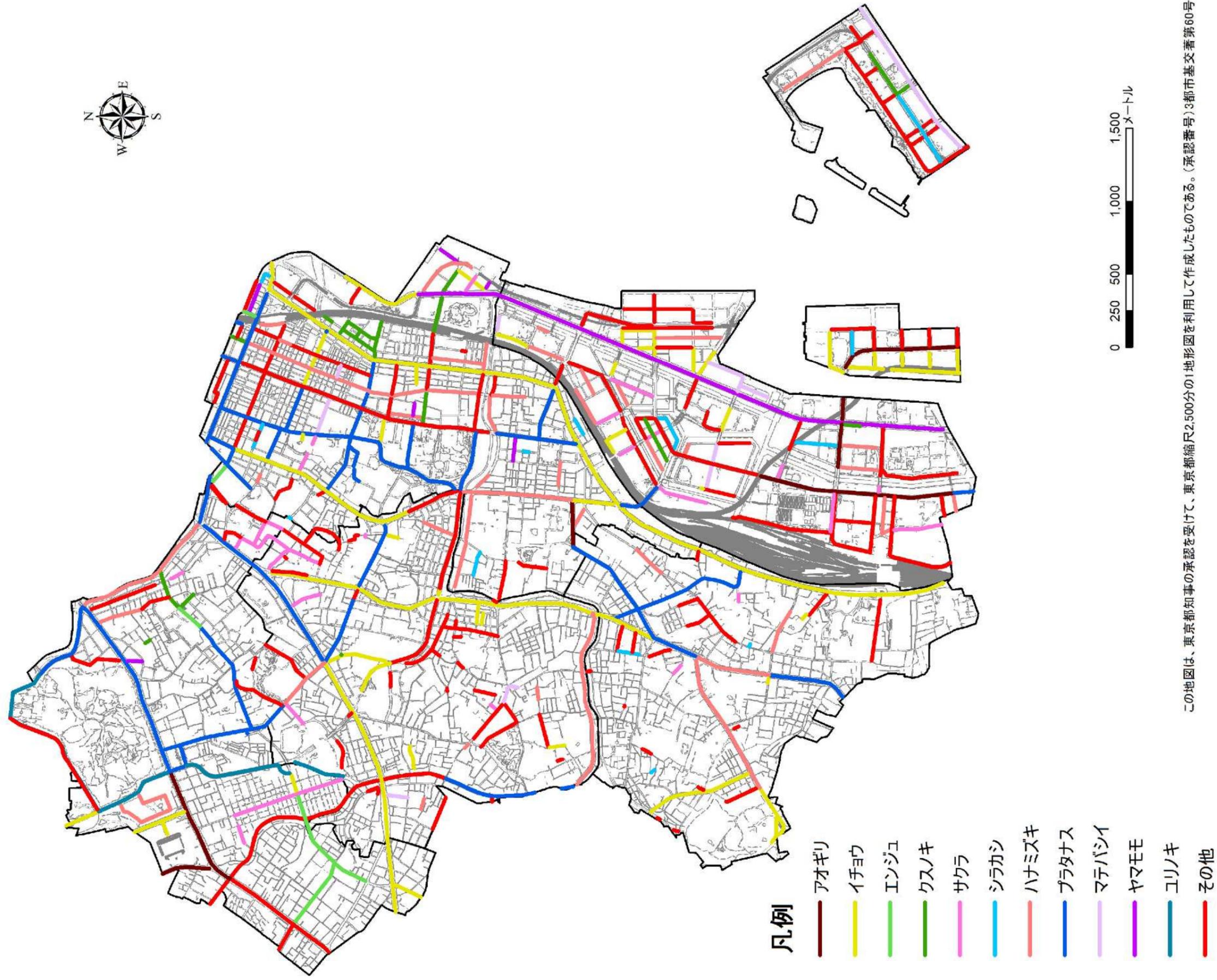


図 3.7.2 街路樹路線図

### 3.8 公共施設調査

#### 3.8.1 調査方法

区立・都立・その他（国及び私立学校等）の主要な公共施設（257施設）について、緑被地調査で作成した緑被データを用いて、各施設の緑被率等の集計を行った。

各施設の敷地面積については東京都2,500分の1地形図データの図形面積を用いた。

#### 3.8.2 調査結果

- 公共施設全体の緑被面積は122.47ha、緑被率は44.30%であった。
- 緑被率が最も高い公共施設は、その他の公共施設62.89%であった。
- 区立施設全体の緑被率は21.33%で、最も緑被率が高い区分は区営住宅の22.33%であった。

管理区分別の公共施設の緑被状況を表3.8.1に示し、区全体の公共施設分布図を図3.8.1に示す。

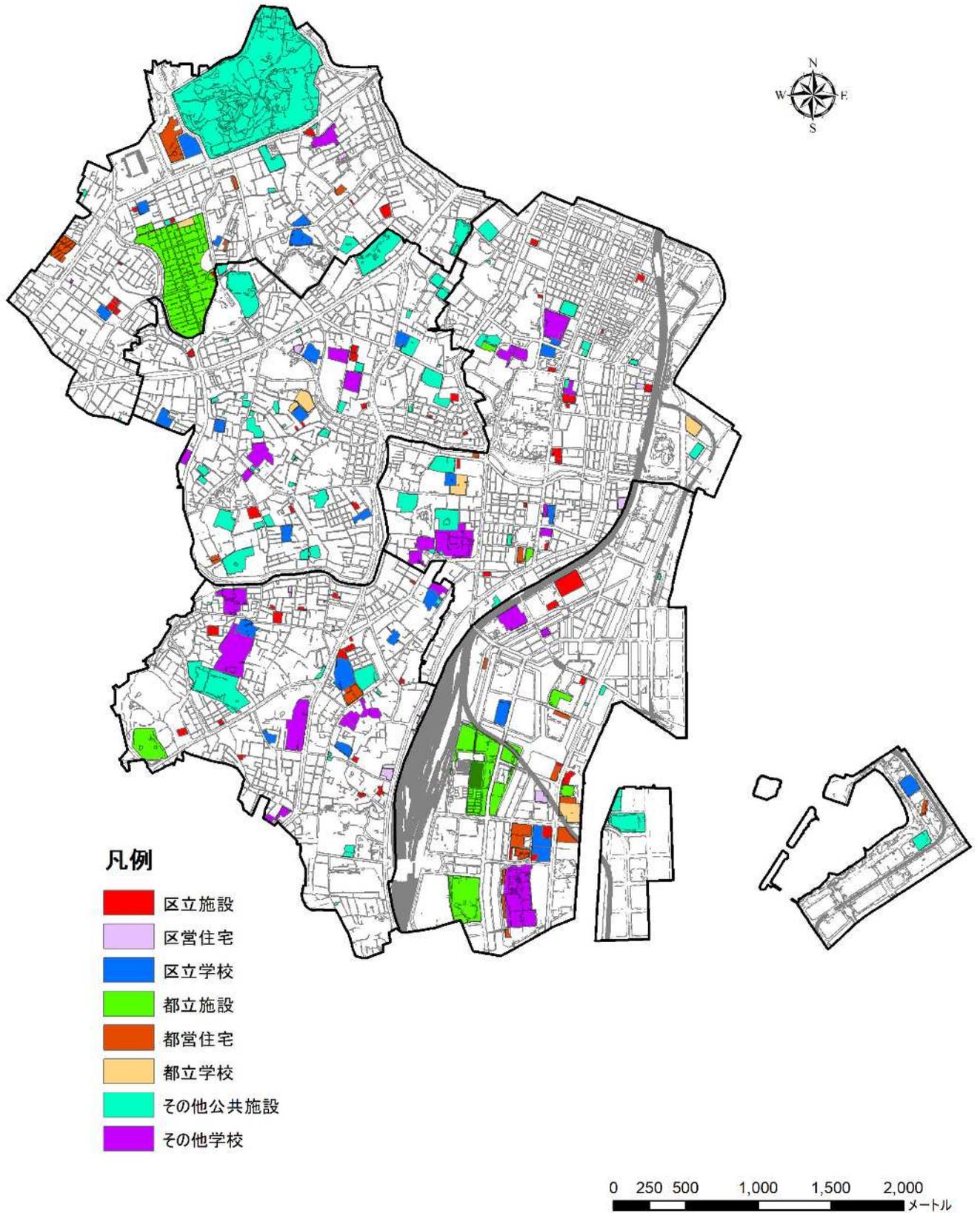
公共施設全体の緑被率は44.30%、樹木被覆率は36.28%であった。区立施設（105施設）は緑被率21.33%で樹木被覆率16.60%、都立施設（33施設）は緑被率36.94%で樹木被覆率27.99%、その他公共施設（119施設）は緑被率53.31%で樹木被覆率44.86%であった。

表 3.8.1 管理区分別の公共施設の緑被状況

区分	施設数	面積(ha)	上段:面積(ha) 下段:割合(%)				
			樹木被覆地	草地	屋上緑地	緑被	
区立	区立施設	64	13.73	1.91	0.16	0.68	2.75
				13.91	1.18	4.93	20.02
	区営住宅	14	3.19	0.57	0.08	0.06	0.71
				17.86	2.62	1.85	22.33
	区立学校	27	24.72	4.43	0.55	0.44	5.42
17.92				2.21	1.80	21.93	
計	105	41.64	6.91	0.79	1.18	8.88	
			16.60	1.90	2.83	21.33	
都立	都立施設	10	51.58	15.70	4.52	0.61	20.83
				30.44	8.76	1.18	40.38
	都営住宅	17	13.22	3.03	0.43	0.20	3.66
				22.93	3.26	1.48	27.67
	都立学校	6	5.98	1.08	0.52	0.06	1.66
18.04				8.72	1.03	27.78	
計	33	70.78	19.81	5.47	0.87	26.15	
			27.99	7.73	1.22	36.94	
その他	公共施設	91	119.06	63.39	10.62	0.87	74.87
				53.24	8.92	0.73	62.89
	学校	28	44.98	10.19	2.01	0.37	12.57
				22.66	4.47	0.82	27.94
	計	119	164.04	73.58	12.63	1.23	87.44
			44.86	7.70	0.75	53.31	
合計	257	276.46	100.30	18.89	3.28	122.47	
			36.28	6.83	1.19	44.30	

※小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある  
 ※敷地面積は東京都都市計画基本図データの図形面積を用いている

# 公共施設分布図



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺2,500分の1地形図を利用して作成したものである。(承認番号)3都市基交著第60号

図 3.8.1 公共施設分布図

地区別の公共施設の樹木被覆地の状況を表 3.8.2 に示す。

最も樹木被覆率が高い地区は赤坂地区で 55.22%であった。赤坂地区には敷地面積と樹木被覆地面積が大きい赤坂御用地が位置しているため、樹木被覆率が高くなっている。次いで樹木被覆率が高い地区は高輪地区（31.81%）で、東京都庭園美術館（都立公共施設）、高輪皇族邸（その他公共施設）が位置していることによる。大使館の分布が多い麻布地区の樹木被覆率は3番目に高い数値で 29.20%であった。

表 3.8.2 地区別の公共施設の樹木被覆地の状況

総合支所	区立											
	公共施設				区営住宅				区立学校			
	施設数	敷地面積 (ha)	樹木被覆地 (ha)	樹木被覆率 (%)	施設数	敷地面積 (ha)	樹木被覆地 (ha)	樹木被覆率 (%)	施設数	敷地面積 (ha)	樹木被覆地 (ha)	樹木被覆率 (%)
芝地区	16	2.57	0.30	11.54	3	0.70	0.11	15.32	4	2.23	0.29	12.87
麻布地区	12	2.16	0.26	12.01	1	0.34	0.07	21.00	7	5.56	0.92	16.46
赤坂地区	11	1.83	0.28	15.15	1	0.19	0.06	32.82	6	5.22	0.89	17.12
高輪地区	17	3.18	0.59	18.70	5	1.13	0.20	17.31	6	6.57	1.80	27.46
芝浦港南地区	8	4.00	0.48	12.08	4	0.83	0.13	16.11	4	5.15	0.53	10.34
計	64	13.73	1.91	13.91	14	3.19	0.57	17.86	27	24.72	4.43	17.92

総合支所	都立											
	公共施設				都営住宅				都立学校			
	施設数	敷地面積 (ha)	樹木被覆地 (ha)	樹木被覆率 (%)	施設数	敷地面積 (ha)	樹木被覆地 (ha)	樹木被覆率 (%)	施設数	敷地面積 (ha)	樹木被覆地 (ha)	樹木被覆率 (%)
芝地区	2	0.80	0.11	13.30	2	0.56	0.06	11.25	2	2.22	0.31	14.04
麻布地区	0	0.00	0.00	-	1	0.25	0.04	14.85	2	1.52	0.41	26.70
赤坂地区	1	25.29	10.66	42.13	5	5.23	1.41	26.91	1	0.50	0.05	10.09
高輪地区	1	3.78	2.63	69.60	1	1.24	0.34	27.73	0	0.00	0.00	-
芝浦港南地区	6	21.70	2.31	10.63	8	5.94	1.18	19.87	1	1.73	0.31	17.87
計	10	51.58	15.70	30.44	17	13.22	3.03	22.93	6	5.98	1.08	18.04

総合支所	その他								計			
	公共施設				学校							
	施設数	敷地面積 (ha)	樹木被覆地 (ha)	樹木被覆率 (%)	施設数	敷地面積 (ha)	樹木被覆地 (ha)	樹木被覆率 (%)	施設数	敷地面積 (ha)	樹木被覆地 (ha)	樹木被覆率 (%)
芝地区	17	10.67	3.53	33.12	10	12.16	2.31	19.04	56	31.91	7.02	22.00
麻布地区	43	24.69	9.18	37.19	5	5.43	0.80	14.65	71	39.96	11.67	29.20
赤坂地区	11	67.89	45.90	67.60	2	1.54	0.22	14.45	38	107.68	59.46	55.22
高輪地区	13	10.76	3.92	36.45	8	15.71	3.99	25.38	51	42.37	13.48	31.81
芝浦港南地区	7	5.06	0.86	16.97	3	10.14	2.87	28.30	41	54.55	8.67	15.90
計	91	119.06	63.39	53.24	28	44.98	10.19	22.66	257	276.46	100.30	36.28

※小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある  
 ※敷地面積は東京都 2,500 分の 1 地形図データの図形面積を用いている

### 3.8.3 公共施設の緑化状況の推移

- 公共施設全体で樹木被覆地面積は 2.15ha の減少であった。
- 公共施設全体で樹木被覆率は 0.82 ポイントの減少であった。

地区別の公共施設緑被地面積等の推移を表 3.8.3 に示す。

緑被地は公共施設全体で、緑被地面積 1.28ha、緑被率 0.52 ポイントの減少であった。

区立施設の緑被地面積は庁舎等の公共施設が 0.02ha、区営住宅が 0.01ha、区立学校が 0.54ha の減少であった。

樹木被覆地は、公共施設全体では樹木被覆地面積 2.15ha、樹木被覆率 0.82 ポイントの減少であった。

区立施設の樹木被覆地面積は庁舎等の公共施設が 0.13ha 増加、区営住宅が 0.06ha の減少、区立学校が 0.47ha の減少であった。

草地は、公共施設全体では草地面積 0.44ha、草地率 0.15 ポイントの増加であった。

区立施設の草地面積は庁舎等の公共施設が 0.30ha 減少、区営住宅が 0.04ha、区立学校が 0.04ha の増加であった。

屋上緑地は、公共施設全体では屋上緑地面積 0.43ha の増加、屋上緑地率 0.16 ポイントの増加であった。

区立施設の屋上緑地面積は庁舎等の公共施設が 0.15ha、区営住宅が 0.02ha の増加、区立学校が 0.12ha の減少であった。

表 3.8.3 地区別の公共施設緑被面積等の推移（平成28年度→令和3年度）

平成28年度

総合支所	区立								
	公共施設								
	敷地面積 (ha)	樹木被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	2.76	0.27	0.01	0.12	0.40	9.63	0.34	4.50	14.47
麻布地区	2.16	0.25	0.18	0.07	0.50	11.43	8.40	3.13	22.96
赤坂地区	1.86	0.26	0.00	0.04	0.31	13.93	0.25	2.41	16.59
高輪地区	3.23	0.55	0.01	0.04	0.60	17.14	0.17	1.24	18.55
芝浦港南地区	4.00	0.45	0.26	0.25	0.96	11.37	6.51	6.17	24.05
計	14.01	1.78	0.46	0.52	2.77	12.71	3.29	3.73	19.73

令和3年度

総合支所	区立								
	公共施設								
	敷地面積 (ha)	樹木被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	2.57	0.30	0.00	0.17	0.47	11.54	0.09	6.79	18.43
麻布地区	2.16	0.26	0.10	0.10	0.46	12.01	4.68	4.64	21.33
赤坂地区	1.83	0.28	0.02	0.04	0.34	15.15	1.05	2.27	18.47
高輪地区	3.18	0.59	0.01	0.06	0.66	18.70	0.42	1.76	20.89
芝浦港南地区	4.00	0.48	0.03	0.30	0.81	12.08	0.66	7.63	20.37
計	13.73	1.91	0.16	0.68	2.75	13.91	1.18	4.93	20.02

平成28年度→令和3年度

総合支所	区立								
	公共施設								
	敷地面積 (ha)	樹木被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木被覆率 (ポイント)	草地 (ポイント)	屋上緑地 (ポイント)	緑被率 (ポイント)
芝地区	△ 0.20	0.03	△ 0.01	0.05	0.07	1.92	△ 0.26	2.30	3.96
麻布地区	△ 0.00	0.01	△ 0.08	0.03	△ 0.04	0.57	△ 3.72	1.51	△ 1.63
赤坂地区	△ 0.03	0.02	0.01	△ 0.00	0.03	1.22	0.80	△ 0.14	1.88
高輪地区	△ 0.05	0.04	0.01	0.02	0.06	1.56	0.25	0.53	2.34
芝浦港南地区	0.00	0.03	△ 0.23	0.06	△ 0.15	0.71	△ 5.86	1.46	△ 3.69
計	△ 0.29	0.13	△ 0.30	0.15	△ 0.02	1.20	△ 2.11	1.20	0.29

※ 小数第3位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある

※ △: 減少した数値

平成28年度

総合支所	区立								
	区営住宅								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	0.70	0.09	0.00	0.03	0.12	12.24	0.53	4.32	17.10
麻布地区	0.34	0.02	0.00	0.00	0.02	7.30	0.00	0.00	7.30
赤坂地区	0.19	0.07	0.01	0.00	0.08	40.28	3.58	0.00	43.87
高輪地区	1.13	0.27	0.04	0.00	0.31	24.23	3.28	0.00	27.52
芝浦港南地区	0.83	0.17	0.00	0.01	0.18	20.19	0.11	1.37	21.68
計	3.19	0.63	0.05	0.04	0.72	19.67	1.52	1.30	22.49

令和3年度

総合支所	区立								
	区営住宅								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	0.70	0.11	0.00	0.04	0.14	15.32	0.00	5.27	20.59
麻布地区	0.34	0.07	0.01	0.01	0.09	21.00	2.67	3.49	27.16
赤坂地区	0.19	0.06	0.01	0.00	0.07	32.82	4.77	0.00	37.59
高輪地区	1.13	0.20	0.06	0.00	0.25	17.31	4.89	0.00	22.19
芝浦港南地区	0.83	0.13	0.01	0.01	0.15	16.11	1.25	1.21	18.58
計	3.19	0.57	0.08	0.06	0.71	17.86	2.62	1.85	22.33

平成28年度→令和3年度

総合支所	区立								
	区営住宅								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (ポイント)	草地 (ポイント)	屋上緑地 (ポイント)	緑被率 (ポイント)
芝地区	△ 0.00	0.02	△ 0.00	0.01	0.02	3.08	△ 0.53	0.95	3.50
麻布地区	△ 0.00	0.05	0.01	0.01	0.07	13.69	2.67	3.49	19.86
赤坂地区	△ 0.00	△ 0.01	0.00	0.00	△ 0.01	△ 7.47	1.19	0.00	△ 6.28
高輪地区	0.00	△ 0.08	0.02	0.00	△ 0.06	△ 6.93	1.60	0.00	△ 5.32
芝浦港南地区	0.00	△ 0.03	0.01	△ 0.00	△ 0.03	△ 4.08	1.14	△ 0.16	△ 3.10
計	0.00	△ 0.06	0.04	0.02	△ 0.01	△ 1.81	1.11	0.54	△ 0.16

※ 小数第3位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある

※ △:減少した数値

平成28年度

総合支所	区立								
	区立学校								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	2.23	0.31	0.01	0.01	0.34	13.96	0.55	0.56	15.06
麻布地区	5.56	0.96	0.06	0.19	1.21	17.31	1.00	3.45	21.76
赤坂地区	4.95	1.23	0.11	0.06	1.39	24.84	2.18	1.13	28.15
高輪地区	6.57	1.77	0.28	0.12	2.16	26.88	4.23	1.79	32.89
芝浦港南地区	5.15	0.63	0.05	0.18	0.86	12.19	0.93	3.57	16.70
計	24.46	4.90	0.50	0.56	5.96	20.02	2.05	2.29	24.37

令和3年度

総合支所	区立								
	区立学校								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	2.23	0.29	0.03	0.02	0.33	12.87	1.37	0.69	14.93
麻布地区	5.56	0.92	0.05	0.10	1.07	16.46	0.94	1.77	19.17
赤坂地区	5.22	0.89	0.14	0.06	1.09	17.12	2.62	1.13	20.87
高輪地区	6.57	1.80	0.25	0.13	2.19	27.46	3.88	1.99	33.32
芝浦港南地区	5.15	0.53	0.07	0.14	0.75	10.34	1.41	2.74	14.49
計	24.72	4.43	0.55	0.44	5.42	17.92	2.21	1.80	21.93

平成28年度→令和3年度

総合支所	区立								
	区立学校								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (ポイント)	草地 (ポイント)	屋上緑地 (ポイント)	緑被率 (ポイント)
芝地区	△ 0.00	△ 0.02	0.02	0.00	△ 0.00	△ 1.08	0.82	0.13	△ 0.13
麻布地区	△ 0.00	△ 0.05	△ 0.00	△ 0.09	△ 0.14	△ 0.85	△ 0.06	△ 1.68	△ 2.59
赤坂地区	0.26	△ 0.34	0.03	0.00	△ 0.31	△ 7.72	0.43	0.00	△ 7.28
高輪地区	0.00	0.04	△ 0.02	0.01	0.03	0.58	△ 0.35	0.20	0.43
芝浦港南地区	△ 0.00	△ 0.10	0.02	△ 0.04	△ 0.11	△ 1.86	0.48	△ 0.83	△ 2.21
計	0.26	△ 0.47	0.04	△ 0.12	△ 0.54	△ 2.10	0.16	△ 0.50	△ 2.43

※ 小数第3位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある

※ △:減少した数値

平成28年度

総合支所	都立								
	公共施設								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	0.80	0.09	0.00	0.07	0.16	10.63	0.59	9.33	20.54
麻布地区	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
赤坂地区	25.29	13.23	3.44	0.00	16.67	52.29	13.62	0.00	65.91
高輪地区	3.78	2.73	0.26	0.00	2.99	72.10	6.94	0.00	79.04
芝浦港南地区	22.18	2.17	0.55	0.59	3.30	9.77	2.46	2.67	14.90
計	52.06	18.21	4.26	0.67	23.13	34.97	8.18	1.28	44.43

令和3年度

総合支所	都立								
	公共施設								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	0.80	0.11	0.00	0.07	0.18	13.30	1.53	4508.57	22.70
麻布地区	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-	-	-	-
赤坂地区	25.29	10.66	3.39	0.00	14.04	42.13	31.79	0.00	55.52
高輪地区	3.78	2.63	0.31	0.00	2.94	69.60	11.76	0.00	77.78
芝浦港南地区	21.70	2.31	0.82	0.53	3.66	10.63	35.45	65.40	16.85
計	51.58	15.70	4.52	0.61	20.83	30.44	8.76	1.18	40.38

平成28年度→令和3年度

総合支所	都立								
	公共施設								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (ポイント)	草地 (ポイント)	屋上緑地 (ポイント)	緑被率 (ポイント)
芝地区	0.00	0.02	△ 0.00	△ 0.00	0.02	2.67	0.95	4,499.24	2.16
麻布地区	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-	-	-	-
赤坂地区	0.00	△ 2.57	△ 0.06	0.00	△ 2.63	△ 10.16	18.17	0.00	△ 10.38
高輪地区	0.00	△ 0.09	0.05	0.00	△ 0.05	△ 2.50	4.82	0.00	△ 1.26
芝浦港南地区	△ 0.48	0.14	0.27	△ 0.06	0.35	0.86	32.98	62.73	1.96
計	△ 0.48	△ 2.50	0.26	△ 0.06	△ 2.30	△ 4.53	0.58	△ 0.10	△ 4.05

※ 小数第3位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある

※ △:減少した数値

平成28年度

総合支所	都立								
	都営住宅								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	0.56	0.05	0.02	0.00	0.07	9.23	2.88	0.00	12.11
麻布地区	0.38	0.06	0.02	0.00	0.08	16.20	4.03	0.00	20.23
赤坂地区	6.70	2.30	0.15	0.00	2.46	34.36	2.25	0.01	36.63
高輪地区	1.24	0.32	0.00	0.00	0.32	25.51	0.00	0.00	25.51
芝浦港南地区	6.08	1.12	0.18	0.18	1.49	18.50	2.99	2.94	24.44
計	14.96	3.86	0.36	0.18	4.40	25.78	2.43	1.20	29.42

令和3年度

総合支所	都立								
	都営住宅								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	0.56	0.06	0.00	0.00	0.06	11.25	0.00	0.00	11.25
麻布地区	0.25	0.04	0.02	0.00	0.05	14.85	6.76	0.00	21.61
赤坂地区	5.23	1.41	0.21	0.01	1.63	26.91	4.02	0.21	31.15
高輪地区	1.24	0.34	0.00	0.00	0.35	27.73	0.00	0.09	27.82
芝浦港南地区	5.94	1.18	0.20	0.18	1.57	19.87	3.44	3.09	26.40
計	13.22	3.03	0.43	0.20	3.66	22.93	3.26	1.48	27.67

平成28年度→令和3年度

総合支所	都立								
	都営住宅								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (ポイント)	草地 (ポイント)	屋上緑地 (ポイント)	緑被率 (ポイント)
芝地区	0.00	0.01	△ 0.02	0.00	△ 0.00	2.02	△ 2.88	0.00	△ 0.86
麻布地区	△ 0.13	△ 0.02	0.00	0.00	△ 0.02	△ 1.34	2.72	0.00	1.38
赤坂地区	△ 1.48	△ 0.90	0.06	0.01	△ 0.83	△ 7.46	1.77	0.20	△ 5.48
高輪地区	0.00	0.03	0.00	0.00	0.03	2.22	0.00	0.09	2.31
芝浦港南地区	△ 0.14	0.05	0.02	0.00	0.08	1.37	0.45	0.15	1.97
計	△ 1.75	△ 0.83	0.07	0.02	△ 0.74	△ 2.85	0.83	0.28	△ 1.74

※ 小数第3位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある

※ △:減少した数値

平成28年度

総合支所	都立								
	都立学校								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	2.22	0.30	0.00	0.04	0.34	13.42	0.00	1.78	15.21
麻布地区	1.52	0.28	0.45	0.00	0.73	18.43	29.48	0.00	47.91
赤坂地区	0.50	0.04	0.00	0.02	0.06	8.30	0.14	3.46	11.90
高輪地区	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-	-	-	-
芝浦港南地区	1.73	0.24	0.14	0.02	0.40	14.13	7.86	0.98	22.96
計	5.98	0.87	0.59	0.07	1.52	14.47	9.79	1.24	25.50

令和3年度

総合支所	都立								
	都立学校								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	2.22	0.31	0.02	0.04	0.37	14.04	5.01	250.93	16.51
麻布地区	1.52	0.41	0.42	0.00	0.82	26.70	102.15	0.00	53.97
赤坂地区	0.50	0.05	0.00	0.01	0.07	10.09	0.92	3152.34	13.11
高輪地区	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-	-	-	-
芝浦港南地区	1.73	0.31	0.09	0.01	0.41	17.87	29.08	8.25	23.49
計	5.98	1.08	0.52	0.06	1.66	18.04	8.72	1.03	27.78

平成28年度→令和3年度

総合支所	都立								
	都立学校								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (ポイント)	草地 (ポイント)	屋上緑地 (ポイント)	緑被率 (ポイント)
芝地区	0.00	0.01	0.02	△ 0.00	0.03	0.62	5.01	249.15	1.31
麻布地区	0.00	0.13	△ 0.03	0.00	0.09	8.27	72.67	0.00	6.05
赤坂地区	△ 0.00	0.01	△ 0.00	△ 0.00	0.01	1.79	0.78	3,148.88	1.22
高輪地区	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-	-	-	-
芝浦港南地区	0.00	0.06	△ 0.05	△ 0.01	0.01	3.74	21.23	7.27	0.53
計	0.00	0.21	△ 0.06	△ 0.01	0.14	3.57	△ 1.07	△ 0.21	2.28

※ 小数第3位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある

※ △:減少した数値

平成28年度

総合支所	その他								
	公共施設								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	10.66	3.20	0.28	0.17	3.65	30.07	2.61	1.60	34.28
麻布地区	24.59	8.74	1.62	0.35	10.71	35.56	6.61	1.42	43.58
赤坂地区	67.89	45.93	8.04	0.02	54.00	67.66	11.84	0.04	79.54
高輪地区	11.26	4.46	0.48	0.04	4.98	39.58	4.29	0.37	44.23
芝浦港南地区	2.13	0.23	0.06	0.01	0.30	10.74	3.02	0.35	14.10
計	116.52	62.56	10.49	0.59	73.64	53.69	9.00	0.51	63.20

令和3年度

総合支所	その他								
	公共施設								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	10.67	3.53	0.26	0.42	4.22	33.12	2.43	3.97	39.53
麻布地区	24.69	9.18	1.58	0.36	11.12	37.19	6.38	1.47	45.04
赤坂地区	67.89	45.90	8.05	0.02	53.97	67.60	11.86	0.03	79.49
高輪地区	10.76	3.92	0.68	0.05	4.65	36.45	6.34	0.44	43.23
芝浦港南地区	5.06	0.86	0.05	0.01	0.92	16.97	1.04	0.19	18.20
計	119.06	63.39	10.62	0.87	74.87	53.24	8.92	0.73	62.89

平成28年度→令和3年度

総合支所	その他								
	公共施設								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (ポイント)	草地 (ポイント)	屋上緑地 (ポイント)	緑被率 (ポイント)
芝地区	0.01	0.33	△ 0.02	0.25	0.56	3.05	△ 0.17	2.38	5.25
麻布地区	0.11	0.44	△ 0.05	0.02	0.41	1.63	△ 0.22	0.06	1.47
赤坂地区	△ 0.00	△ 0.04	0.01	△ 0.00	△ 0.03	△ 0.05	0.02	△ 0.01	△ 0.04
高輪地区	△ 0.50	△ 0.54	0.20	0.01	△ 0.33	△ 3.13	2.05	0.08	△ 1.00
芝浦港南地区	2.93	0.63	△ 0.01	0.00	0.62	6.24	△ 1.98	△ 0.16	4.09
計	2.54	0.83	0.13	0.27	1.23	△ 0.45	△ 0.08	0.22	△ 0.31

※ 小数第3位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある

※ △:減少した数値

平成28年度

総合支所	その他								
	学校								
	敷地面積 (ha)	樹木被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	12.16	2.34	0.07	0.08	2.50	19.25	0.61	0.67	20.53
麻布地区	5.43	0.76	0.05	0.02	0.82	13.94	0.88	0.30	15.12
赤坂地区	1.49	0.15	0.00	0.01	0.16	9.91	0.30	0.43	10.63
高輪地区	15.71	4.01	0.64	0.10	4.75	25.51	4.07	0.64	30.21
芝浦港南地区	10.14	2.40	0.98	0.00	3.39	23.65	9.70	0.05	33.40
計	44.93	9.65	1.75	0.21	11.61	21.48	3.89	0.46	25.84

令和3年度

総合支所	その他								
	学校								
	敷地面積 (ha)	樹木被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	12.16	2.31	0.07	0.22	2.60	19.04	0.58	1.77	21.39
麻布地区	5.43	0.80	0.06	0.01	0.86	14.65	1.02	0.16	15.82
赤坂地区	1.54	0.22	0.01	0.01	0.24	14.45	0.35	0.66	15.46
高輪地区	15.71	3.99	0.76	0.11	4.86	25.38	4.82	0.73	30.93
芝浦港南地区	10.14	2.87	1.12	0.02	4.01	28.30	11.07	0.17	39.54
計	44.98	10.19	2.01	0.37	12.57	22.66	4.47	0.82	27.94

平成28年度→令和3年度

総合支所	その他								
	学校								
	敷地面積 (ha)	樹木被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木被覆率 (ポイント)	草地 (ポイント)	屋上緑地 (ポイント)	緑被率 (ポイント)
芝地区	0.00	△ 0.03	△ 0.00	0.13	0.10	△ 0.22	△ 0.03	1.11	0.86
麻布地区	△ 0.00	0.04	0.01	△ 0.01	0.04	0.71	0.13	△ 0.14	0.70
赤坂地区	0.05	0.07	0.00	0.00	0.08	4.54	0.05	0.23	4.82
高輪地区	0.00	△ 0.02	0.12	0.01	0.11	△ 0.13	0.76	0.09	0.72
芝浦港南地区	△ 0.00	0.47	0.14	0.01	0.62	4.65	1.36	0.13	6.14
計	0.05	0.54	0.26	0.16	0.96	1.18	0.58	0.35	2.10

※ 小数第3位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある

※ △:減少した数値

平成28年度

総合支所	合計								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	32.09	6.64	0.40	0.53	7.57	20.70	1.24	1.66	23.60
麻布地区	39.98	11.07	2.37	0.62	14.07	27.70	5.94	1.56	35.20
赤坂地区	108.88	63.22	11.76	0.15	75.12	58.06	10.80	0.14	69.00
高輪地区	42.92	14.10	1.70	0.30	16.10	32.85	3.97	0.70	37.52
芝浦港南地区	52.24	7.41	2.22	1.24	10.88	14.19	4.25	2.38	20.82
計	276.11	102.45	18.46	2.85	123.75	37.10	6.68	1.03	44.82

令和3年度

総合支所	合計								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (%)	草地 (%)	屋上緑地 (%)	緑被率 (%)
芝地区	31.91	7.02	0.38	0.98	8.38	22.00	1.19	3.07	26.26
麻布地区	39.96	11.67	2.23	0.58	14.48	29.20	5.57	1.46	36.23
赤坂地区	107.68	59.46	11.82	0.16	71.44	55.22	10.98	0.15	66.34
高輪地区	42.37	13.48	2.07	0.35	15.90	31.81	4.89	0.83	37.53
芝浦港南地区	54.55	8.67	2.40	1.21	12.28	15.90	4.39	2.22	22.51
計	276.46	100.30	18.89	3.28	122.47	36.28	6.83	1.19	44.30

平成28年度→令和3年度

総合支所	合計								
	敷地面積 (ha)	樹木 被覆地 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	樹木 被覆率 (ポイント)	草地 (ポイント)	屋上緑地 (ポイント)	緑被率 (ポイント)
芝地区	△ 0.19	0.38	△ 0.02	0.45	0.80	1.30	△ 0.05	1.41	2.66
麻布地区	△ 0.02	0.59	△ 0.15	△ 0.04	0.41	1.50	△ 0.37	△ 0.10	1.03
赤坂地区	△ 1.20	△ 3.75	0.06	0.01	△ 3.69	△ 2.84	0.18	0.01	△ 2.65
高輪地区	△ 0.56	△ 0.62	0.37	0.05	△ 0.20	△ 1.04	0.92	0.13	0.01
芝浦港南地区	2.31	1.26	0.17	△ 0.03	1.40	1.71	0.14	△ 0.16	1.69
計	0.34	△ 2.15	0.44	0.43	△ 1.28	△ 0.82	0.15	0.16	△ 0.52

※ 小数第3位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある

※ △:減少した数値

### 3.9 学校ビオトープ調査

#### 3.9.1 調査目的

本調査は港区みどりの実態調査（第10次）の1つとして、区内のビオトープのある保育園・保育室、幼稚園、小学校及び中学校・高等学校を対象に、ビオトープの現状と課題抽出を行い、ビオトープの専門家の派遣のための検討資料を得ることを目的とする。

#### 3.9.2 調査方法

##### (1) 対象校・園

表 3.9.1 に示す保育園・保育室5園、幼稚園12園、小学校2校、中学校・高等学校2校の合計21校・園を対象とした。

表 3.9.1 調査対象校・園

No.	区分	区立・私立	学校名・園名
1	保育園・保育室	区立	港区立芝公園保育園
2		区立	港区立芝保育園
3		区立	麻布保育園
4		私立	港区桂坂保育室
5		私立	港区志田町保育室
6	幼稚園	区立	赤羽幼稚園
7		区立	港区立港南幼稚園
8		区立	港区立芝浦幼稚園
9		区立	港区立白金台幼稚園
10		区立	港区立にじのはし幼稚園
11		区立	港区立本村幼稚園
12		区立	港区立三光幼稚園
13		区立	青南幼稚園
14		区立	高輪幼稚園
15		私立	麻布みこころ幼稚園
16		私立	東洋英和幼稚園
17		私立	愛育幼稚園
18	小学校	区立	赤羽小学校
19		区立	白金の丘小学校※
20	中学校・高等学校	区立	港南中学校
21		私立	都立六本木高等学校
合計	-	-	21校

※白金の丘小学校は敷地内の緑地をビオトープとして管理していないが、比較的規模の大きい草地や樹林が生きものの生育・生息環境として機能していると考えられるため、ビオトープとして調査を行った。

##### (2) ヒアリング調査

ヒアリングには、ビオトープの現状や課題など、次項以降に示す計18項目の質問を設定した。

ヒアリングは質問事項に基づき、口頭により実施した。なお、質問No.17は区立の対象校・園に対して実施した。

## ビオトープに関するヒアリング質問事項

学校（園）名：

ご回答者氏名・所属（役職）：

No.	質問	回答
1	ビオトープはいつ頃整備されましたか。	①S, H 年 ②分からない
2	ビオトープの整備は誰が行いましたか。(複数回答可)	①園児・学生 ②教員 ③学校職員 ④委託・工事業者 ⑤ボランティア ⑥その他( )
3	ビオトープには、どんな植物や動物などが生育・生息していますか。	①確認された植物や動物 ( ) ②生きものがあまりいない
4	ビオトープの利用状況を教えてください(複数回答可)	①授業で利用している ②授業以外で利用している (例)クラブ活動、地域の事業 具体的な利用状況( ) ③ほとんど利用していない
5	ビオトープの維持管理は誰が行っていますか(複数回答可)	①園児・学生 ②教員 ③学校職員 ④委託業者 ⑤ボランティア ⑥その他( )
6	ビオトープの維持管理の課題はありますか(複数回答可)	①有る ⇒有る場合の具体的な課題 a.管理方法が不明 b.活用方法が不明 c.指導者不足 d.水回りのトラブル(水漏れなど) e.生きものの管理(藻、ザリガニ、ボウフラなど) f.その他( ) ②過去に有ったが解決した ⇒過去にあった課題と解決方法 ( ) ③無い
7	教員や管理者等の入れ替わりによって、ビオトープの維持に影響はありましたか。また、課題はありますか。	①有った ⇒有った場合の具体的な課題 ( ) ②無かった
8	ビオトープに関する教材、資料等がありますか。(複数回答可)	①教材 ②調査結果 ③写真 ④なし ⑤その他( )
9	ビオトープ以外で、生きものが棲める場所は、校内(園内)にありますか。	①生きものが棲める場所が、多くある ⇒具体的な場所( ) ②生きものが棲める場所が、少しある ⇒具体的な場所( ) ③生きものが棲める場所は、ほとんど無い ④その他( )

	質問	ご回答
10	ビオトープの新設・改良や生きものの生育・生息空間の充実に向けた取り組みを希望しますか。(複数回答可)	①ビオトープの新設を希望する ②既存ビオトープの充実や改良を希望する ③ビオトープ以外の生きものの生育・生息空間の充実を希望する ④生きものの生育・生息空間の充実に向けた取り組みは、希望しない ⑤分からない ⑥その他( )
11	ビオトープの新設・改良や生きものの生育・生息空間の充実に向けた取り組みは、どのような方法で行いたいですか。(複数回答可)	①学校が実施主体となって取り組みたい ②学校が専門家の支援を受けて取り組みたい ③学校がボランティアの参加と協力を受け取り組みたい ④学校と行政が協力して取り組みたい ⑤分からない ⑥その他( )
12	ビオトープについて専門家の支援を受けていますか。	①受けている ②過去に受けていた ⇒どこからどのような支援を受けている(いた)か。 ( ) ⇒支援を受けなくなった理由(②と回答した場合) ( ) ③受けていない
13	地域と連携したビオトープの整備等の活動の事例はありますか。	①ある ⇒活動内容( ) ②ない
14	地域学校協働活動推進事業との関わりはありますか。	①ある ⇒内容( ) ②ない
15	教育委員会のビオトープ整備への関与はありますか。	①ある ⇒内容( ) ②ない
16	「質を高めるための具体策」はビオトープの維持管理に反映していますか。	①反映している ②反映していない ③資料を知らない
17	港区からのビオトープの専門家派遣の受け入れの希望はありますか。	①希望する ⇒期待すること ( ) ②希望しない
18	今後、ビオトープの支援に関して、希望することはありますか。	

### (3) 現地調査

ヒアリングと併せて現地調査を実施した。現地調査では、ビオトープの緑化状況や生きものの生育・生息状況の調査を行い、状況写真を撮影した。



調査実施状況(ヒアリング(左)、現地調査(右))

#### 3.9.3 調査結果

##### (1) ヒアリング及び現地調査の実施状況

表 3.9.2 にヒアリング及び現地調査実施状況を示す。調査は令和3年7月～令和3年9月にかけて実施した。

表 3.9.2 ヒアリング及び現地調査実施状況

No.	学校名	調査日	調査時間	ヒアリング担当者
1	港区立芝公園保育園	9月9日(木)	11時00分～12時00分	園長、副園長
2	港区立芝保育園	8月4日(水)	13時30分～14時00分	副園長
3	麻布保育園	8月4日(水)	15時15分～15時45分	副園長
4	港区桂坂保育室	8月17日(火)	10時30分～11時10分	園長、主任
5	港区志田町保育室	8月5日(木)	9時00分～9時30分	園長
6	赤羽幼稚園	7月21日(水)	15時00分～15時30分	副園長
7	港区立港南幼稚園	8月17日(火)	9時00分～9時40分	主任
8	港区立芝浦幼稚園	9月14日(火)	13時00分～13時30分	主任
9	港区立白金台幼稚園	9月14日(火)	14時00分～14時30分	主任
10	港区立にじのはし幼稚園	8月25日(水)	11時00分～11時30分	主任
11	港区立本村幼稚園	7月21日(水)	13時00分～13時40分	副園長、教員 <sup>注)</sup>
12	港区立三光幼稚園	8月6日(金)	9時00分～9時30分	教員
13	青南幼稚園	7月12日(月)	14時30分～15時10分	園長、教員
14	高輪幼稚園	8月24日(火)	13時00分～13時30分	教員
15	麻布みこころ幼稚園	7月13日(火)	13時00分～13時30分	園長
16	東洋英和幼稚園	7月13日(火)	14時30分～15時10分	園長
17	愛育幼稚園	7月21日(水)	10時30分～11時00分	非常勤職員
18	赤羽小学校	7月27日(火)	9時00分～9時30分	教員
19	白金の丘小学校	7月27日(火)	13時00分～13時45分	副校長
20	港南中学校	8月23日(月)	9時30分～10時20分	教員
21	都立六本木高等学校	7月12日(月)	10時00分～10時30分	職員

注)本村小学校教員

## (2) ヒアリング調査結果

### ① ビオトープの整備時期（質問 No. 1）

ビオトープの整備時期は表 3.9.3 に示すとおりである。

表 3.9.3 ビオトープの整備年

学校名	整備年	備考
港区立芝公園保育園	2014 年	
港区立芝保育園	2008 年位	10 年位経っているとのこと回答。
麻布保育園	2020 年	
港区桂坂保育室	2014 年	
港区志田町保育室	2019 年位	
赤羽幼稚園	不明	かなり古いとのこと回答。
港区立港南幼稚園	不明	2011 年の新園舎完成時にはあったとのこと回答。
港区立芝浦幼稚園	2011 年位	
港区立白金台幼稚園	2009 年位	
港区立にじのはし幼稚園	1996 年以降	
港区立本村幼稚園	不明	
港区立三光幼稚園	不明	
青南幼稚園	2004 年	
高輪幼稚園	2006 年	
麻布みこころ幼稚園	1971 年以前	
東洋英和幼稚園	1961 年頃	
愛育幼稚園	2018 年位	
赤羽小学校	不明	
白金の丘小学校	2015 年	
港南中学校	不明	
都立六本木高等学校	不明	

### ② ビオトープの整備主体（質問 No. 2）

各校のビオトープの整備主体を図 3.9.1 に示す。整備主体はその他が最も多く、次いで学校職員、委託・工事業者、教員、園児・学生となった。その他としては、不明（港区立港南幼稚園、港区立本村幼稚園、港区立三光幼稚園、麻布みこころ幼稚園、東洋英和幼稚園、赤羽小学校）、保護者（港区立白金台幼稚園、青南幼稚園）が挙げられた。

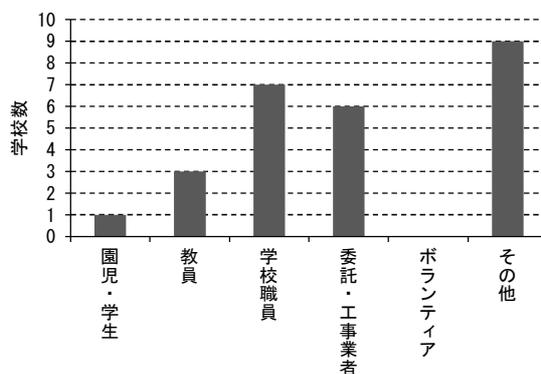


図 3.9.1 ビオトープの整備主体（複数回答可）

③ ビオトープにおいて確認された生きもの（質問 No. 3）

各校のビオトープにおいて確認された生きものを表 3.9.4 に示す。

水域を利用する生きものが比較的多く、メダカ、ヤゴ、カエルなどが複数の学校で共通で確認されていた。

表 3.9.4(1) ビオトープにおいて確認された生きもの

学校名	確認された生きもの						
	魚類	鳥類	両生類	昆虫類	甲殻類	貝類	植物
港区立芝公園保育園	メダカ			トンボ、ヤゴ			水生植物 2 種程度
港区立芝保育園	メダカ		カエル（以前）	ヤゴ			
麻布保育園	メダカ					タニシ	ホテイアオイ
港区桂坂保育室	メダカ、キンギョ		カエル、アズマヒキガエル(オタマジャクシ)	ヤゴ、トンボ		タニシ	モ等抽水植物
港区志田町保育室	メダカ					タニシ	水草
赤羽幼稚園			オタマジャクシ、カエル（ヒキガエル）				
港区立港南幼稚園			オタマジャクシ、カエル	トンボ			
港区立芝浦幼稚園	メダカ	スズメ、カラス	オタマジャクシ	トンボ、ヤゴ、チョウ			
港区立白金台幼稚園	メダカ		オタマジャクシ(春)、カエル	ヤゴ		タニシ	
港区立にじのはし幼稚園	メダカ		オタマジャクシ(以前)				
港区立本村幼稚園			カエル(オタマジャクシ)	ヤゴ(トンボ類)			
港区立三光幼稚園	メダカ(以前)				ザリガニ(以前)		
青南幼稚園			オタマジャクシ、ヒキガエル	ヤゴ(オニヤンマ、シオカラトンボ、イトトンボ)、アメンボ		タニシ	
高輪幼稚園			オタマジャクシ	ボウフラ、ハナアブの幼虫			

表 3.9.4(2) ビオトープにおいて確認された生きもの

学校名	確認された生きもの						
	魚類	鳥類	両生類	昆虫類	甲殻類	貝類	植物
麻布みこころ幼稚園	キンギョ、コイ	キジバト					
東洋英和幼稚園	キンギョ		カエル				
愛育幼稚園	メダカ						
赤羽小学校	メダカ						
白金の丘小学校		ホトトギス	カエル	モンシロチョウ、昆虫類多数		カタツムリ	
港南中学校	メダカ、フナ(2~3匹)		オタマジャクシ	ヤゴ、トンボ	ミナミヌマエビ		ホテイアオイ、サンカクイ、ショウブ類、ヤナギ類
都立六本木高等学校	キンギョ						

④ ビオトープの利用状況（質問 No. 4）

各校のビオトープの利用状況を図 3.9.2 に示す。全 21 校のうち、17 校がビオトープを利用しており、うち 13 校は授業以外での利用であった。本調査の対象は幼稚園や保育園が多かったため、保育の時間や日常的に園児が観察出来るようにしているという回答が多かった。

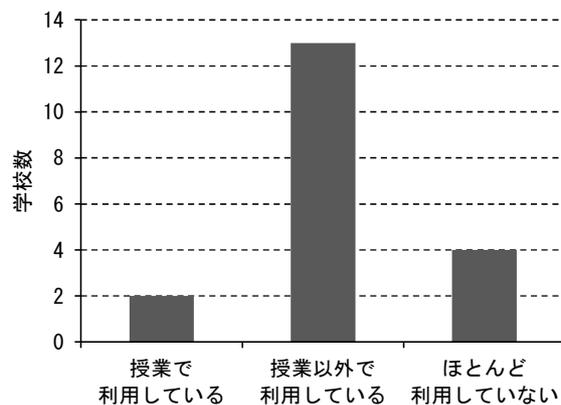


図 3.9.2 ビオトープの利用状況（複数回答可）

⑤ ビオトープの維持管理者（質問 No. 5）

各校のビオトープの維持管理者を図 3.9.3 に示す。最も多かったのは学校職員で、次いで教員、その他、委託業者、園児・学生となった。

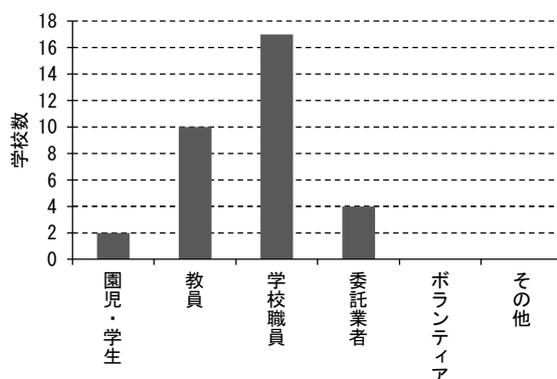


図 3.9.3 ビオトープの維持管理者（複数回答可）

⑥ ビオトープの課題（質問 No. 6）

各校のビオトープの課題を図 3.9.4 に示す。全 21 校のうち、3 校以外は、何かしらの課題を抱えていた。

課題で多かったのは水回りのトラブルであり、次いで生きものの管理、その他、管理方法が不明、活用方法が不明となった。その他としては、安全管理（港区立芝公園保育園、白金の丘小学校）、砂の堆積（港区立港南幼稚園）、日当たりが悪い（港区立白金台幼稚園、高輪幼稚園）、小学校との連携（港区立本村幼稚園）が挙げられた。

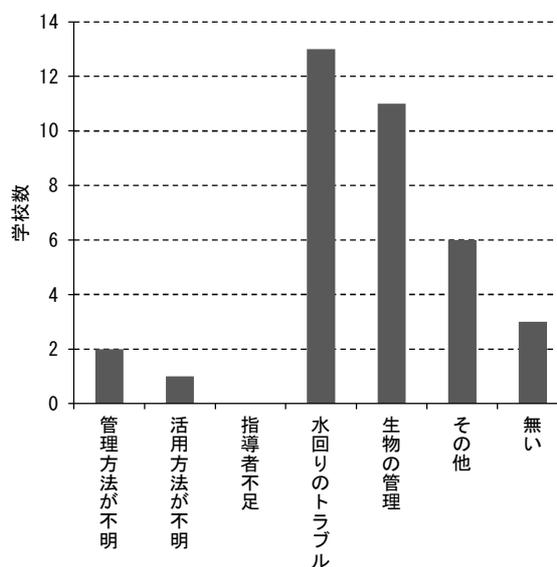


図 3.9.4 ビオトープの課題（複数回答可）

⑦ 教員の入れ替わりによるビオトープの維持に関する影響・課題（質問 No. 7）

全 21 校のうち、9 校で教員の入れ替わりによる影響や課題があると回答した。挙げられた影響・課題を表 3.9.5 に示す。

表 3.9.5 教員の入れ替わりによる影響・課題

学校名	教員の入れ替わりによる影響・課題
港区立芝公園保育園	一時、教員の入れ替わりや管理の頻度低下により、ビオトープが荒廃したので、適正な管理を行うよう努めている。
麻布保育園	引継ぎ方法の検討やマニュアルの作成等は必要だと考えている。
赤羽幼稚園	池の管理方法の確立と引継ぎが課題である。
港区立本村幼稚園	引継ぎ事項が明確でなく、管理方法等の引継ぎが出来ていない。誰が管理を行うのかがはっきりしていない。
港区立三光幼稚園	どのような生きものを導入するか等、利用方法が不明確で引き継ぎも出来ていないのが課題である。
青南幼稚園	管理方法等の引継ぎが課題である。また、園長も異動があるが、人によって意識に違いがあることも課題である。
高輪幼稚園	生きものに配慮した管理をすることが難しい。知識がある人が 1 人はいて欲しい。
愛育幼稚園	今後入れ替わりがある際はメダカの世話の方法等、引き継いでいく必要があると考えている。
港南中学校	用務主事によって管理の頻度が異なる。引継ぎの内容も、引き継ぐ教員の教科担当分野によりまちまちとなる恐れがある。

⑧ ビオトープに関する教材、資料の有無（質問 No. 8）

各校のビオトープに関する教材、資料の有無を図 3.9.5 に示す。ほぼ全ての学校で教材や資料はないとの回答であった。その他としては、絵（港区立港南幼稚園）、動画（麻布みこころ幼稚園）が挙げられた。

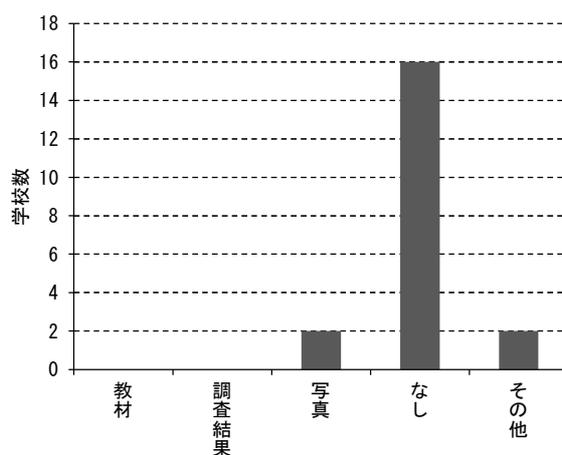


図 3.9.5 ビオトープに関する教材、資料の有無（複数回答可）

⑨ ビオトープ以外の生きものの生息・生育空間（質問 No. 9）

各校におけるビオトープ以外の生きものの生息・生育空間の状況について、表 3.9.6 に示す。

多くあると回答した学校が最も多く、次に少しある、ほとんどないと続いた。具体的な場所としては、敷地内の植栽箇所を挙げる学校が多かった。

表 3.9.6 ビオトープ以外の生きものの生息・生育空間の状況

学校名	生息・生育空間状況	具体的な場所
港区立芝公園保育園	多くある。	3階建ての屋上の畑、2階の緑地、1階のプランターや柑橘類の鉢植え
港区立芝保育園	少しある。	ミカンの木、植栽箇所
麻布保育園	多くある。	植栽箇所
港区桂坂保育室	多くある。	園庭の植栽箇所、園庭プランターの下
港区志田町保育室	少しある。	植栽箇所
赤羽幼稚園	多くある。	植栽箇所、三田高校の緑地からも生きものがくる。
港区立港南幼稚園	多くある。	園庭の植栽箇所、畑
港区立芝浦幼稚園	多くある。	園庭の植栽箇所
港区立白金台幼稚園	多くある。	屋上の畑とガーデニングスペース、園庭の植栽箇所
港区立にじのはし幼稚園	多いか少ないかは何とも言えない。	園庭の実がなる樹種の植栽箇所
港区立本村幼稚園	少しある。	園内の植栽箇所
港区立三光幼稚園	ほとんど無い。	
青南幼稚園	多くある。	エコスタック、園内の植栽箇所
高輪幼稚園	多くある。	園内の草地、園内の植栽箇所
麻布みこころ幼稚園	多くある。	園内の植栽箇所
東洋英和幼稚園	多くある。	園内の植栽箇所、土壌中
愛育幼稚園	多くある。	土管の遊具がある築山、砂場、園内の植栽箇所
赤羽小学校	少しある。	プール
白金の丘小学校	少しある。	校庭の小規模な植栽※
港南中学校	多くある。	園内の植栽箇所、草地、畑、グリーンカーテン
都立六本木高等学校	多くある。	校庭の芝生や畑等

※白金の丘小学校の敷地内の主要な緑地はビオトープとして扱うものとした。

⑩ ビオトープの新設・改良や生きものの生息・生育空間への取り組みの希望（質問 No. 10）

各校のビオトープの新設・改良や生きものの生育・生息空間の充実に向けた取り組みの希望状況について、図 3.9.6 に示す。

既存ビオトープの充実や改良を希望する回答が最も多く、次いで希望しない及びその他、新設を希望、わからないとなった。

その他の回答の内容としては、園内の畑の拡大（港区桂坂保育室）や園内の生息・生育する種数を増やす取り組み（青南幼稚園）、 Deng 熱が落ち着いた後に取り組みを希望（港区立三光幼稚園）、改修工事が終わってから取り組みを検討（赤羽幼稚園、赤羽小学校）が挙げられた。

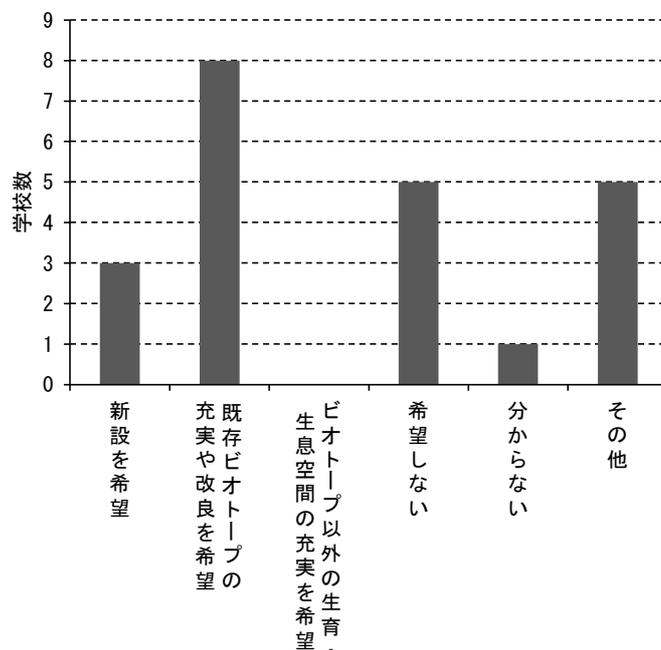


図 3.9.6 ビオトープの新設・改良や生きものの生育・生息空間の充実に向けた取り組みの希望（複数回答可）

⑪ ビオトープの新設・改良や生きものの生育・生息空間への取り組み方法（質問 No. 11）

各校のビオトープの新設・改良や生きものの生育・生息環境の充実に向けた取り組み方法の希望状況について、図 3.9.7 に示す。

取り組みの方法としては、専門家の支援を受けて取り組みたいという回答が最も多く、次いで、学校が実施主体、ボランティアの参加と協力及び行政との協力を受けて、分からないとなった。

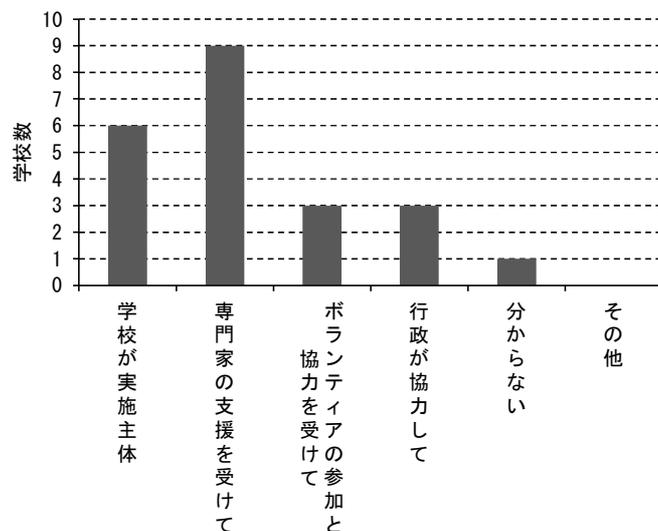


図 3.9.7 取り組み方法の希望（複数回答可）

### ⑫ ビオトープについての専門家の支援状況（質問 No. 12）

各校のビオトープについての専門家の支援状況を図 3.9.8 に示す。専門家の支援は受けていないと回答した学校が最も多く、次いで、過去に受けていた、受けているとなった。過去に受けていた学校はいずれも期間が限定された支援を受けていた。

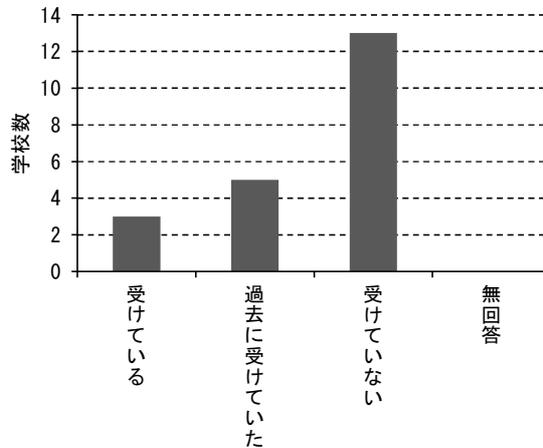


図 3.9.8 ビオトープについての専門家の支援状況

### ⑬ 地域と連携したビオトープの事例（質問 No. 13）

青南幼稚園、麻布保育園、港南中学校の3校で地域との連携の事例があるとのヒアリング結果を得た。

青南幼稚園では個人の方や園児の保護者の方から種子や植栽木のための土壌の提供を受けていた。麻布保育園ではグリーンカーテンの水やりを近隣の住民と協力しながら行っていた。港南中学校では隣接する港南小学校の学生が観察で利用していた。

### ⑭ 地域学校協働活動推進事業との関わり（質問 No. 14）

いずれの学校も地域学校協働活動推進事業とビオトープの関わりは無いという回答であった。

### ⑮ 教育委員会のビオトープ整備への関与状況（質問 No. 15）

青南幼稚園の1校で教育委員会のビオトープ整備への関与があるとのヒアリング結果を得た。

青南幼稚園ではアベリア、ヤマブキ、ブルーベリーの苗の提供や、園内の木の剪定の協力を受けていた。

### ⑯ 「質を高めるための具体策」の活用状況（質問 No. 16）

「質を高めるための具体策」※の資料は港区立芝公園保育園、港区立港南幼稚園、港区立にじのはし幼稚園、白金の丘小学校、港区立港南中学校の5校で資料が把握されていた。

このうち、資料を活用したと回答したのは、港区立芝公園保育園、港区立にじのはし幼稚園、港区立港南中学校の3校、反映していないと回答したのは、港区立港南幼稚園、白金の丘小学校の2校であった。なお、白金の丘小学校では資料の存在は知っているが、植栽箇所をビオトープとして認識していないため、反映できる環境にないとのことであった。

※「学校ビオトープ実態調査報告書」（平成24年3月港区）において提示されている、「質を高めるため

の具体策」が各校に配布されている。

⑰ 港区からの専門家派遣の希望と期待すること（質問 No. 17）

港区からの専門家の派遣について、9校が希望すると回答した。期待することとしては、活用方法や維持管理のアドバイス、観察会の開催等が挙げられた（表 3.9.7）。

表 3.9.7 港区からの専門家派遣の希望と期待すること

学校名	希望	期待すること
港区立芝公園保育園	希望する	園庭において安全を確保しながら、具体的に一緒に行ってほしい。
港区立芝保育園	希望する	現状のビオトープで観察会をして、どんな生きものがあるか教えて欲しい。
麻布保育園	希望する	ビオトープを大きくしたいと考えているが、整備する場所はどこが適切か教えてもらいたい。
赤羽幼稚園	希望する	改修までの直近の2年間については、現状の池に対して出来ることで取り組みを行いたい。
港区立港南幼稚園	不明	検討する。
港区立芝浦幼稚園	希望する	専門家の派遣を希望する。
港区立白金台幼稚園	不明	検討する。
港区立にじのはし幼稚園	希望しない	
港区立本村幼稚園	希望する	幼稚園としては、小学校との連携が取れたうえで受け入れたい。 小学校としては、低学年に対しての観察会の実施等があれば受け入れたい。
港区立三光幼稚園	希望しない	
青南幼稚園	希望する	園内の木の管理方法について教えて欲しい。今年になってグミの木が衰弱して実をつけなくなってしまった。またマテバシイの木にドングリがならない理由や、ドングリがなるための管理方法を知りたい。
高輪幼稚園	希望する	ビオトープを新設した際に希望する。
赤羽小学校	希望する	ビオトープの授業への取り込み方や活用方法についての話が聞けると良い。
白金の丘小学校	希望しない	
港南中学校	希望しない	

⑱ 今後の支援について希望すること（質問 No. 18）

今後の支援について希望することとして、12校から意見を頂いた。多かった意見としては、活用方法やあるべき姿についてのアドバイス、維持管理のための予算などが挙げられる。

表 3.9.8 港区からの今後の支援について希望すること

学校名	希望すること
港区立芝公園保育園	ビオトープや緑地に関する気軽な相談窓口などを設けていただき、双方向での交流を期待したい。
港区立芝保育園	観察会の開催やビオトープの管理方法の指導を希望する。
麻布保育園	専門家の派遣があると良いと思う。ビオトープの管理方法等についてアドバイスをもらいたい。
港区桂坂保育室	維持管理に係る改善策、指導を受けられれば良い(ボランティアなど)
港区志田町保育室	ビオトープの維持管理方法等が記載されたパンフレット等があると良い。
赤羽幼稚園	ビオトープの管理費は教材費から出すことになっているが、それだと使いにくい。ビオトープの管理費の名目としての支給があるとありがたい。
港区立港南幼稚園	維持管理について専門家の支援を受けたい。
港区立芝浦幼稚園	専門家の派遣を希望する。
港区立白金台幼稚園	ビオトープの整備に対する補助金制度が必要と考える。
港区立にじのはし幼稚園	特になし。
港区立本村幼稚園	定期的に来て維持管理や作業の方法等を実際にやりながら指導して欲しい。話を聞くだけではなかなか難しい。また、生きものの観察会の講師を呼びたい。
港区立三光幼稚園	現在は Deng 熱への対策のため、ビオトープが使えず希望しないが、専門家による支援は続けて欲しいと考えている。活用方法等について、アドバイスを貰いたい。以前に専門家からアドバイスは貰ったが、また新たな課題も出てきている。
青南幼稚園	園内の木の管理方法について教えて欲しい。今年になってグミの木が衰弱して実をつけなくなってしまった。またマテバシイの木にドングリがならない理由やなるための管理方法を知りたい。
高輪幼稚園	同じところから継続的に支援を受けられると良いと思う。
麻布みこころ幼稚園	現状のビオトープに対しては特に希望はないが、他の幼稚園のビオトープの様子や生きものの紹介等の配信があると参考になって良いと思う。
東洋英和幼稚園	現時点では工事を伴うような支援は希望しないが、生きものの観察会等、現状のビオトープや自然を使って出来ることがあれば支援して欲しい。
愛育幼稚園	特に希望はないが、アメリカザリガニの取扱いについて心配している。有栖川公園でアメリカザリガニ釣りを行っているが、アメリカザリガニは外来種なので、釣ったものを放してはいけないという話も聞く。子供が自然と触れ合える機会になっているので、あまり規制が多くなりそれが制限されてしまうと困ってしまう。
赤羽小学校	現時点では特になし。
白金の丘小学校	瓦礫の撤去と、安全に対する施設の修繕工事を希望する。
港南中学校	特になし。
都立六本木高等学校	特になし。

### (3) 現地調査結果

#### ① ビオトープの造成場所

各校のビオトープの設置場所を図 3.9.9 に示す。いずれの学校もビオトープは地上に造成されていた。また、白金の丘小学校については、地上のほか、屋上にも草地が造成されていた。

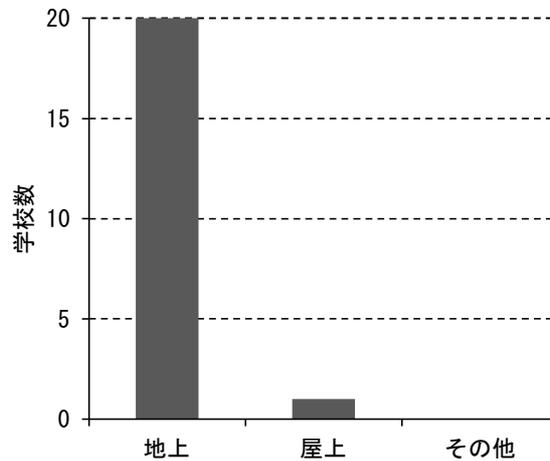


図 3.9.9 ビオトープの設置場所（複数回答可）

#### ② ビオトープの広さ

各校のビオトープの広さを区分別に図 3.9.10 に示す。5 m<sup>2</sup>未満又は5 m<sup>2</sup>以上 10 m<sup>2</sup>未満の比較的小規模のビオトープが多い傾向にあった。

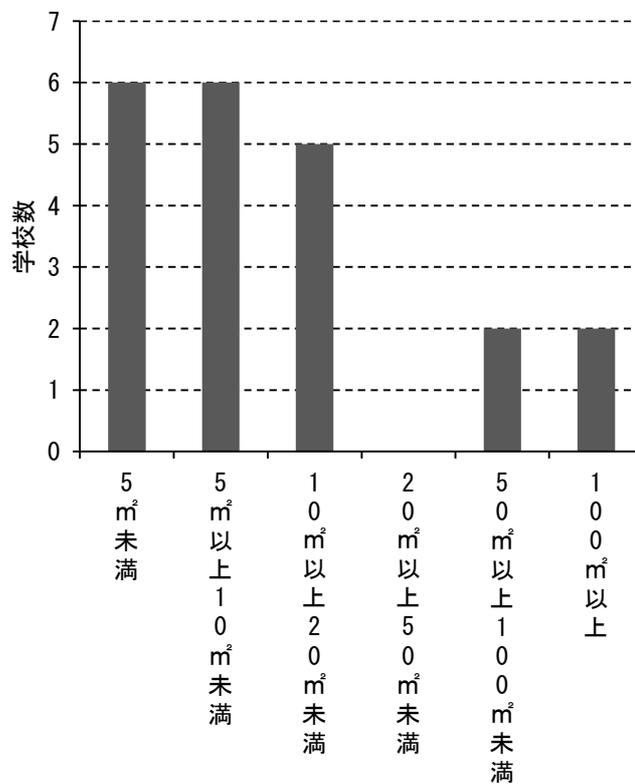


図 3.9.10 ビオトープの広さ

### ③ ビオトープの水場の有無

各校のビオトープの水場の有無を図 3.9.11 に示す。

計 21 校のうち 20 校のビオトープに水場が設置されていた。また、そのうち 1 校は水場に水を張っていないかった。

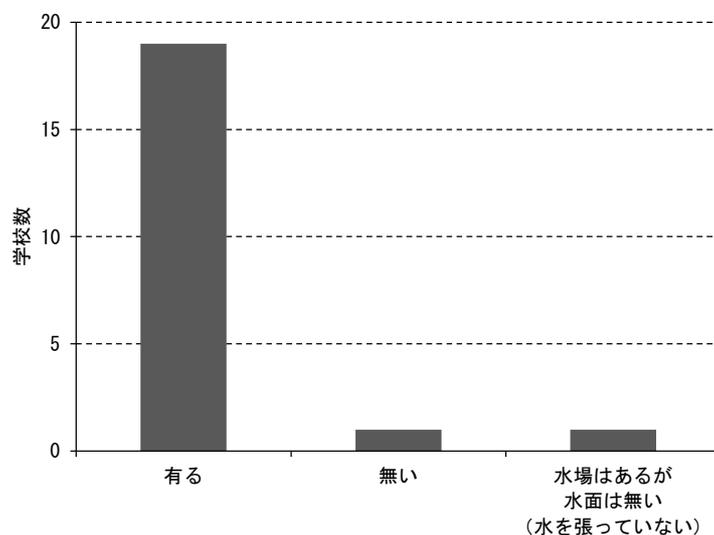


図 3.9.11 ビオトープの水場の有無

### ④ ビオトープの現況及び生きものの生息生育状況

各校の現地調査結果として、ビオトープの現況、緑化状況及び生きものの生息状況を、別冊の図 1 ～図 21 及び表 1 ～表 21 に整理した。

### 3.9.4 課題の抽出及び改善策

ヒアリング調査、現地調査を踏まえ、調査対象校のビオトープの課題と改善策を下記に整理した。

#### ① 維持管理

##### a) 課題

複数の学校において、ビオトープの維持管理にあたり、水回りのトラブルや、池に繁茂した藻や落ち葉の除去の管理が課題として聞かれた。

##### b) 改善策

水回りのトラブルについては、水の滞りや排水不良等の設備の不良に由来するものが多く、ポンプの設置や排水設備の整備により改善される可能性が高いと考えられる。しかし、具体的な対策が不明であることや、設備の修繕にかけられる予算が不足していることから、状況が改善しない例もみられた。そのため、まずは専門家の派遣により具体的な解決策を示す必要があると考えられる。更に、ビオトープの維持管理のための予算の確保も必要である。

池に繁茂した藻や落ち葉の除去については、継続的な除去作業が必要であるが、効率的な方法やどの程度の除去が必要であるかなど、具体的な方法の指導を行う必要があると考えられる。また、教員や職員だけでは作業にかけられる労力に限界がある場合もあるため、地域住民やボランティアとの連携体制の構築も必要と考えられる。

#### ② 管理の引継ぎ

##### a) 課題

教員や職員が異動することにより、管理がうまく引き継がれずにビオトープが荒廃することが懸念された。また、ビオトープの担当者により熱意が違い、維持管理方法に統一性がなくなることも課題である。

##### b) 改善策

継続的にビオトープを管理するためには、教員や職員のほか、継続的にビオトープの維持管理に携わる地域のボランティアとの協力体制の構築が必要であると考えられる。そのほか、企業のCSR事業やボランティアの紹介を通して、継続的にビオトープの維持管理が出来る環境を提供することも有効であると考えられる。

また、ビオトープの活用方法や維持管理方法を整理したマニュアルをビオトープの管理者間で引き継いでいくことで、継続的なビオトープの活用と維持管理につながると考えられる。

#### ③ 安全管理

##### a) 課題

園児や学生の安全管理を課題とする意見も聞かれた。具体的には、池への転落の危険性や、足場が悪いことによる転倒や屋上からの転落の危険性等が挙げられる。

##### b) 改善策

学校のビオトープは園児や学生が自然と触れ合える貴重な場所であるため、過度に隔離するのは望ましくない。ただし、水難事故や転倒による怪我等の危険性があるため、

教職員の死角となる場所にあるビオトープは、園児や学生だけでの立ち入りを避ける必要があると考えられる。また、柵の設置や足場の改修により危険性が低減する場合もあるため、ビオトープの維持管理のための予算を確保し必要に応じて修繕ができる体制を構築する必要がある。

また、危険生物への対策として、安易に植物を口にしないことや、蜂がいた場合は刺激しないでその場から離れるなど、ビオトープで気をつける事項を園児や学生に指導することが大切である。

#### ④ 活用方法

##### a) 課題

ビオトープを整備していきたいが、具体的な造成方法が分からないという意見や、生きものの指導を出来る人材がないという意見が聞かれた。

##### b) 改善策

ビオトープの目指すべき姿や、そのための具体的な整備方法を整理したガイドブックを配布することで、管理の方針の検討が可能になると考えられる。その際、学校によってビオトープの規模に大きな違いがみられたため、規模に応じた内容を網羅したガイドラインの充実が望まれる。

また、季節や対象とする園児や学生の成長段階に応じたビオトープの活用のカリキュラムを策定し、配布することでビオトープの活用が促進されることが考えられる。

そのほか、専門家の派遣を継続し、園児や学生が生きものに親しむ機会やビオトープの維持管理方法を学ぶ機会を引き続き提供していく必要があると考えられる。

#### ⑤ 外来種の取り扱い

##### a) 課題

ビオトープへの植栽種として、生態系被害防止外来種<sup>※</sup>であるホテイアオイ等の外来種が導入されている事例が確認された。

※「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」（2015年3月、環境省、農林水産省）記載種

##### b) 改善策

外来種が持ち込まれると在来種と競合して生態系に悪影響を与える可能性があるため、取り扱いに留意することを共通認識として持てるように、普及啓発活動を行う必要がある。

また、ビオトープに導入する種に関する項目をガイドブックに追加し、適切な導入種についての指導を行うことも有効と考えられる。

#### ⑥ その他

学校によりビオトープの規模に大きな違いがみられるため、画一的な維持管理手法の確立は困難であると考えられる。そのため、支援にあたっては、各学校の実情にあった提案、カリキュラムの策定が必要と考えられる。

### 3.10 屋上緑地調査

#### 3.10.1 調査方法

緑被地調査の緑被区分のうち屋上緑地について、建物1棟に分布する屋上緑地を1か所として、屋上緑地箇所、面積等について集計を行った。

#### 3.10.2 屋上緑地の現況

- 屋上緑地箇所数は、3,424 か所であった。
- 屋上緑地面積は、221,579.6 m<sup>2</sup>であった。
- 麻布地区が屋上緑地の箇所、面積ともに最も大きい。
- 芝浦港南地区の1か所当たりの屋上緑地面積が他地区に比べ大幅に大きい。

地区別に集計した屋上緑地の状況を図 3.10.1、表 3.10.1 に示す。

区全体の屋上緑地は、区全体で 3,424 か所、221,579.6 m<sup>2</sup>であった。

地区別では、麻布地区が 1,053 か所、58,513.4 m<sup>2</sup>で箇所、面積ともに最も大きい。六本木六丁目の商業業務ビルや集合住宅等において大規模な屋上緑地が整備されている。

1か所当たりの面積が最も大きいのは芝浦港南地区で 209.0 m<sup>2</sup>/か所であった。屋上緑地箇所数は最も少なく 200 か所であった。芝浦港南地区は他地区と比較して街区の規模が大きく、面積規模の大きい建築物が多いため、屋上緑地も比較的規模が大きい。また、他地区では小規模な屋上緑地が多いが、芝浦港南地区では小規模な屋上緑地が少ないため、1か所当たりの面積が大きくなっている。

屋上緑地面積が最も小さい地区は高輪地区で、21,928.2 m<sup>2</sup>であった。高輪地区の屋上緑地の多くが住宅であり、面積規模も小さいものが多いことから、屋上緑地面積が最も小さくなっている。

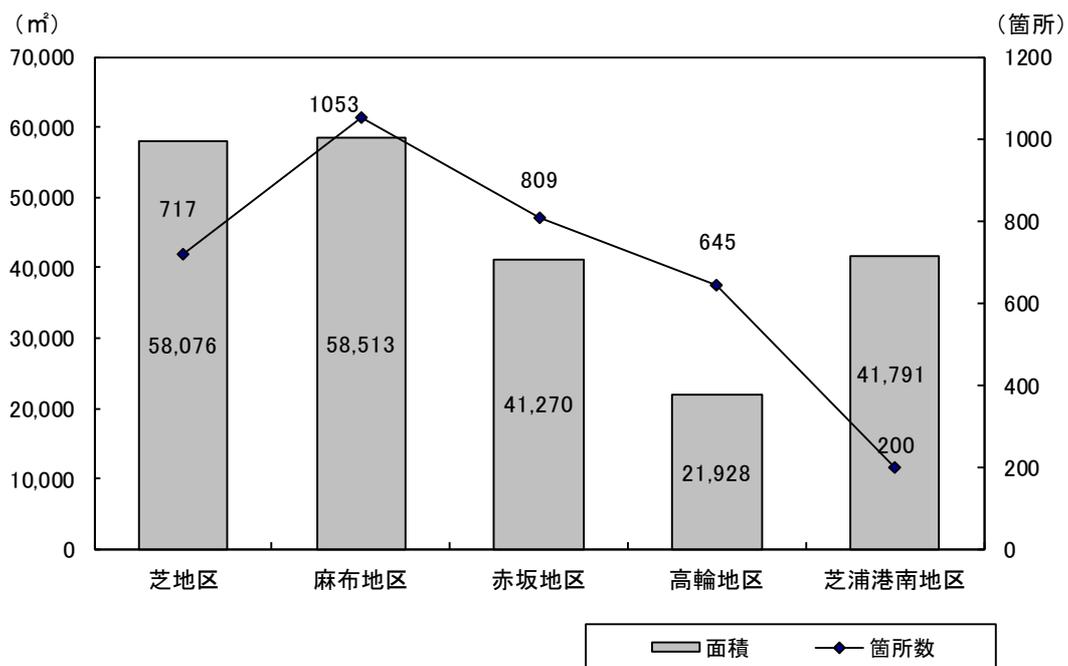


図 3.10.1 地区別の屋上緑地箇所数と面積

表 3.10.1 地区別の屋上緑地箇所数と面積

総合支所	地区面積 (ha)	屋上緑地 箇所数 (箇所)	屋上緑地 面積 (m <sup>2</sup> )	1箇所あたり 面積 (m <sup>2</sup> /箇所)	haあたり 面積 (m <sup>2</sup> /ha)	km <sup>2</sup> あたり 箇所数 (箇所/km <sup>2</sup> )
芝地区	448.27	717	58,076.3	81.0	129.6	160
麻布地区	385.77	1,053	58,513.4	55.6	151.7	273
赤坂地区	412.70	809	41,270.2	51.0	100.0	196
高輪地区	344.16	645	21,928.2	34.0	63.7	187
芝浦港南地区	485.09	200	41,791.5	209.0	86.2	41
区全体	2,075.99	3,424	221,579.6	64.7	106.7	165

※ 地区面積等は東京都都市計画基本図データの図形面積を用いているため、区公表面積と異なる

※ 面積は小数第2位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

用途地域別の屋上緑地の状況を表 3.10.2 に示す。

屋上緑地の箇所数、面積は商業地域が最も多く、1,154 か所、92,721.0 m<sup>2</sup>であった。

次いで、箇所数では第一種中高層住居専用地域の 775 か所、面積では第二種住居地域の 33,156.8 m<sup>2</sup>であった。

商業地域の緑被率は 12.15% であり、区全体緑被率 22.62% と比べ低い値であるが、屋上緑地の整備箇所数は多いことが分かる。最も屋上緑地面積が大きい建築物は、商業地域である六本木六丁目の六本木ヒルズ（テレビ朝日本社）、次いで同地域の虎ノ門一丁目の虎ノ門ヒルズであった。第二種住居地域には屋上緑地面積が 3 番目に大きい東京ミッドタウンが位置している。

1 か所当たりの緑地面積では準工業地域が最も大きく 112.0 m<sup>2</sup>/か所である。準工業地域の主な屋上緑地は、芝浦一丁目のみなとパーク芝浦、海岸一丁目の業務ビル（東京ポートシティ竹芝オフィスタワー）、港南一丁目の業務ビル（品川シーズンテラスタワー）である。

表 3.10.2 用途地域別の屋上緑地箇所数と面積

用途地域	用途地域 面積 (ha)	屋上緑地 箇所数 (箇所)	屋上緑地 面積 (m <sup>2</sup> )	1箇所当たり 面積 (m <sup>2</sup> /箇所)	ha当たり 面積 (m <sup>2</sup> /ha)	km <sup>2</sup> 当たり 箇所数 (箇所/km <sup>2</sup> )
第一種低層住居専用地域	0.17	1	88.3	88.3	529.2	600
第一種中高層住居専用地域	454.15	775	31,973.4	41.3	70.4	171
第二種中高層住居専用地域	103.20	285	12,773.5	44.8	123.8	276
第一種住居地域	164.12	329	15,341.0	46.6	93.5	200
第二種住居地域	213.45	302	33,156.8	109.8	155.3	141
近隣商業地域	85.75	331	7,016.3	21.2	81.8	386
商業地域	635.14	1,154	92,721.0	80.3	146.0	182
準工業地域	366.34	246	27,557.7	112.0	75.2	67
用途地域外	-	1	951.5	951.5	-	-
合計	2,022.31	3,424	221,579.6	64.7	109.6	169

※ 用途地域面積は小数第3位、屋上緑地面積は小数第2位を四捨五入しているため集計値が合わない場合がある

※ 合計面積は市街化調整区域を除いたものである

都市構造区別の屋上緑地の状況を表 3.10.3 に示す。

屋上緑地の箇所数は集合住宅 B（面積 5,000 m<sup>2</sup>未満の集合住宅）が 897 か所と最も多く、面積では事務所 B（面積 5,000 m<sup>2</sup>以上で緑被率 25%以上以外の事務所）が 55,954.5 m<sup>2</sup>で最も大きい。

箇所数では集合住宅 B（897 か所）、併用住宅（456 か所）、独立住宅（450 か所）集合住宅 A（196 か所）と、住宅に多くの屋上緑地があることが分かる。

面積では事務所 B に次いで集合住宅 B（34,977.1 m<sup>2</sup>）、集合住宅 A（面積 5,000 m<sup>2</sup>以上の集合住宅）（24,272.7 m<sup>2</sup>）、商業施設 B（22,730.6 m<sup>2</sup>）が大きい。

表 3.10.3 都市構造区別の屋上緑地箇所数と面積

都市構造区分	面積 (ha)	屋上緑地 箇所数 (箇所)	屋上緑地 面積 (m <sup>2</sup> )	1箇所当たり 面積 (m <sup>2</sup> /箇所)	ha当たり 面積 (m <sup>2</sup> /ha)	km <sup>2</sup> 当たり 箇所数 (箇所/km <sup>2</sup> )
(交通用地)鉄道用地	54.11	1	23.8	23.8	0.4	2
(交通用地)道路	447.60	6	91.9	0.0	0.2	1
河川・運河	44.41	0	0.0	0.0	0.0	0
公園緑地等	150.40	3	250.7	83.6	1.7	2
(公共公益施設)大使館	22.45	27	1,977.1	73.2	88.1	120
(公共公益施設)宮内庁管理地	64.42	2	18.7	9.3	0.3	3
(公共公益施設)官公庁施設	27.02	28	7,951.4	284.0	294.2	104
(公共公益施設)学校	101.36	73	10,319.2	141.4	101.8	72
(公共公益施設)文化施設A	8.37	4	2,282.0	570.5	272.7	48
(公共公益施設)文化施設B	4.27	6	2,095.6	349.3	490.9	141
社寺	48.40	28	1,091.8	39.0	22.6	58
(公共公益施設)医療・福祉施設	22.19	30	7,321.7	244.1	329.9	135
(公共公益施設)供給処理施設	24.51	20	6,948.6	347.4	283.6	82
(商業施設)商業施設A	38.19	18	5,025.8	279.2	131.6	47
(商業施設)商業施設B	78.86	231	22,730.6	98.4	288.3	293
(商業施設)事務所A	28.46	18	7,426.6	412.6	261.0	63
(商業施設)事務所B	271.28	796	55,954.5	70.3	206.3	293
(住宅用地)独立住宅	100.98	450	6,331.5	14.1	62.7	446
(住宅用地)集合住宅A	97.38	196	24,272.7	123.8	249.3	201
(住宅用地)集合住宅B	215.50	897	34,977.1	39.0	162.3	416
(住宅用地)併用住宅	56.02	456	5,571.6	12.2	99.5	814
工業施設A	25.08	17	2,574.5	151.4	102.7	68
工業施設B	32.12	21	2,784.7	132.6	86.7	65
その他	112.63	96	13,557.6	0.0	120.4	85
合計	2,075.99	3,424	221,579.6	64.7	106.7	165

※ 都市構造区分面積は図形面積を用いている

※ 面積は小数第2位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

### 3.10.3 屋上緑地の推移

- 屋上緑地は平成28年度調査から、1,301か所、44,884.3㎡増加した。
- 平成28年度調査と比較した地区別の屋上緑地の増減
 

芝地区	：	288か所増加	17,463.4㎡増加
麻布地区	：	403か所増加	10,681.9㎡増加
赤坂地区	：	282か所増加	8,590.6㎡増加
高輪地区	：	294か所増加	3,101.1㎡増加
芝浦港南地区	：	34か所増加	5,047.3㎡増加

平成7年度調査から令和3年度調査の屋上緑地の推移を図3.10.2、平成28年度調査と令和3年度調査の推移を表3.10.4に示す。

平成28年度調査から、区全体の屋上緑地は1,301か所、44,884.3㎡増加した。平成13年度調査と平成18年度調査では屋上緑地面積は減少、平成23年度調査と平成28年度調査では増加面積はわずかであったが、平成18年度と平成23年度、平成28年度と令和3年度では面積が大きく増加している。

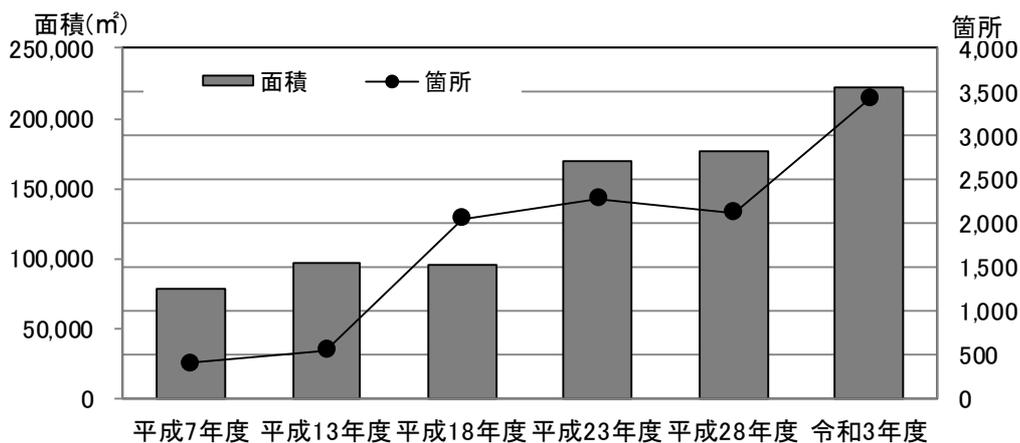


図 3.10.2 屋上緑地の推移

表 3.10.4 地区別の屋上緑地の推移

総合支所	平成28年度		令和3年度		増減(H28年→R3年)	
	箇所数 (箇所)	面積 (㎡)	箇所数 (箇所)	面積 (㎡)	箇所数 (箇所)	面積 (㎡)
芝地区	429	40,612.9	717	58,076.3	288	17,463.4
麻布地区	650	47,831.5	1,053	58,513.4	403	10,681.9
赤坂地区	527	32,679.6	809	41,270.2	282	8,590.6
高輪地区	351	18,827.1	645	21,928.2	294	3,101.1
芝浦港南地区	166	36,744.2	200	41,791.5	34	5,047.3
<b>区全体</b>	<b>2,123</b>	<b>176,695.3</b>	<b>3,424</b>	<b>221,579.6</b>	<b>1,301</b>	<b>44,884.3</b>

## 平成 28 年度調査と令和 3 年度調査の比較

地区別の屋上緑地の推移について、詳細は以下のとおりである。

### ① 芝地区

芝地区の屋上緑地は 288 か所、17,463.4 m<sup>2</sup>の増加であり、5 地区の中で最も面積の増加が大きい。

建物の建替えに伴い、面積規模の大きい屋上緑地が新たに多数整備されていることが分かる。特に海岸一丁目の業務ビル（東京ポートシティ竹芝オフィスタワー）、西新橋三丁目の東京慈恵会医科大学付属病院では、大規模な屋上緑地が整備されている。

### ② 麻布地区

麻布地区の屋上緑地は 403 か所、10,681.9 m<sup>2</sup>の増加であり、5 地区の中で最も箇所数の増加が大きく、面積では 2 番目に大きい。

集合住宅の建築により、面積規模の大きい屋上緑地が整備されているが、比較的面積規模の小さい屋上緑地も増えていることから、整備箇所数の増加が大きくなっている。特に増加箇所が大きい町丁目は、西麻布三丁目（37 か所増）、東麻布二丁目（29 か所増）であった。

### ③ 赤坂地区

赤坂地区の屋上緑地は 282 か所、8,590.6 m<sup>2</sup>の増加であった。面積の増加は 5 地区の中で 3 番目に大きい。

赤坂四丁目の国際医療福祉大学の建築により、面積規模の大きい屋上緑地が整備されているが、地区全体としては比較的面積規模の小さい屋上緑地が増えていることが分かる。特に南青山、北青山の地区の南側での増加が多くなっている。

### ④ 高輪地区

高輪地区の屋上緑地は 294 か所、3,101.1 m<sup>2</sup>の増加であり、箇所数の増加は 5 地区の中で 2 番目に大きいですが、面積の増加は 5 地区中最も小さい。

高輪地区では、他地区で確認できたような大規模な屋上緑地の増加箇所はなかった。一方で三田四丁目の業務ビル（N T T データ三田ビル本館）では、面積規模の大きい屋上緑地が消失している。

### ⑤ 芝浦港南地区

芝浦港南地区の屋上緑地は 34 か所、5,047.3 m<sup>2</sup>の増加であり、5 地区の中で最も箇所数の増加が小さい。

芝浦三丁目の田町駅前の建築（msbTamachi 田町ステーションタワー）により、大

規模な屋上緑地が整備されているが、その他の区域では屋上緑地の大きな変化は少ない。港南一丁目、三丁目では屋上緑地の消失により、面積が減少している。

都市構造区分別の屋上緑地の推移を表 3.10.5 に示す。

箇所数の推移では集合住宅 B が 435 か所の増加で最も大きく、次いで独立住宅 229 か所、事務所 B 213 か所、併用住宅 209 か所であった。面積の推移では増加が最も大きい都市構造区分は集合住宅 B(14,104.9 m<sup>2</sup>増)、次いで事務所 B(6,266.1 m<sup>2</sup>増)、商業施設 B(5,314.4 m<sup>2</sup>増)であった。面積では供給処理施設が 2,147.4 m<sup>2</sup>、学校が 455.1 m<sup>2</sup>の減少であり、面積が減少している都市構造区分が 7 区分あった。東京都下水道局芝浦水再生センター内の一部建築物上の屋上緑地が消失しているが、減少の主な要因は、東京都土地利用データの用途変更によるものであった。学校では、南山小学校、東町小学校等において、屋上緑地が消失している。

表 3.10.5 都市構造区分別の屋上緑地の推移

都市構造区分	平成28年度		令和3年度		増減(H28→R3)	
	箇所数 (箇所)	面積 (m <sup>2</sup> )	箇所数 (箇所)	面積 (m <sup>2</sup> )	箇所数 (箇所)	面積 (m <sup>2</sup> )
(交通用地)鉄道用地	1	29.1	1	23.8	0	△ 5.3
(交通用地)道路	2	110.2	6	91.9	4	△ 18.3
河川・運河	0	0.0	0	0.0	0	0.0
公園緑地等	1	66.9	3	250.7	2	183.8
(公共公益施設)大使館	21	1,704.1	27	1,977.1	6	273.1
(公共公益施設)宮内庁管理地	1	121.6	2	18.7	1	△ 103.0
(公共公益施設)官公庁施設	21	2,853.4	28	7,951.4	7	5,098.0
(公共公益施設)学校	57	10,774.3	73	10,319.2	16	△ 455.1
(公共公益施設)文化施設A	4	1,847.7	4	2,282.0	0	434.3
(公共公益施設)文化施設B	7	1,886.3	6	2,095.6	△ 1	209.2
社寺	18	706.8	28	1,091.8	10	385.0
(公共公益施設)医療・福祉施設	21	2,710.5	30	7,321.7	9	4,611.2
(公共公益施設)供給処理施設	17	9,096.0	20	6,948.6	3	△ 2,147.4
(商業施設)商業施設A	16	5,391.8	18	5,025.8	2	△ 366.1
(商業施設)商業施設B	151	17,416.3	231	22,730.6	80	5,314.4
(商業施設)事務所A	10	5,166.4	18	7,426.6	8	2,260.2
(商業施設)事務所B	583	49,688.4	796	55,954.5	213	6,266.1
(住宅用地)独立住宅	221	3,910.9	450	6,331.5	229	2,420.5
(住宅用地)集合住宅A	140	19,640.4	196	24,272.7	56	4,632.4
(住宅用地)集合住宅B	462	20,872.2	897	34,977.1	435	14,104.9
(住宅用地)併用住宅	247	4,925.4	456	5,571.6	209	646.1
工業施設A	15	1,704.7	17	2,574.5	2	869.8
工業施設B	15	1,873.5	21	2,784.7	6	911.2
その他	92	14,198.4	96	13,557.6	4	△ 640.8
合計	2,123	176,695.3	3,424	221,579.6	1,301	44,884.3

### 3.11 壁面緑化調査

#### 3.11.1 調査方法

区内にある壁面緑化について、以下のとおり調査を行った。調査対象とした壁面緑化は図 3.11.1 に示すとおりである。

##### 【調査対象】

以下の条件を全て満たすものを調査対象とした。

- 壁面前面を登はん、または下垂するもの及び壁面に植栽されたもの
- ツル性植物及び木本・草本性植物によるもの
- 接道部に位置するもの（接道部からの距離は 10m を限度とする）
- 枝葉の面積（緑化面積）が概ね 20 m<sup>2</sup> 以上のもの（密度約 50% 以上）

※調査対象となる壁面とは、建物、宅地擁壁、道路構造物、河川護岸とする。

※ツル性植物及び木本・草本性植物には、ヘチマやアサガオのような季節性のある樹種による壁面緑化（緑のカーテン）も含む。

##### 【調査項目】

- 平成 28 年度調査時の壁面緑化の有無
- 所在地（位置）
- 緑化樹種（主要構成樹種、複数の場合は数種）
- 単一樹種・複数樹種の区分
- 面積（計測単位 1 m<sup>2</sup>：小数点以下は計上しない）
- 土地利用
- 対象構造物（建物、宅地擁壁、高架道路等の道路構造物、護岸等の河川構造物、その他）
- 生育状況（良好・普通・不良）
- 支持材の有無
- 緑化形態（登はん型、下垂型、パネル型、その他）
- 写真撮影（個人住宅は除く）

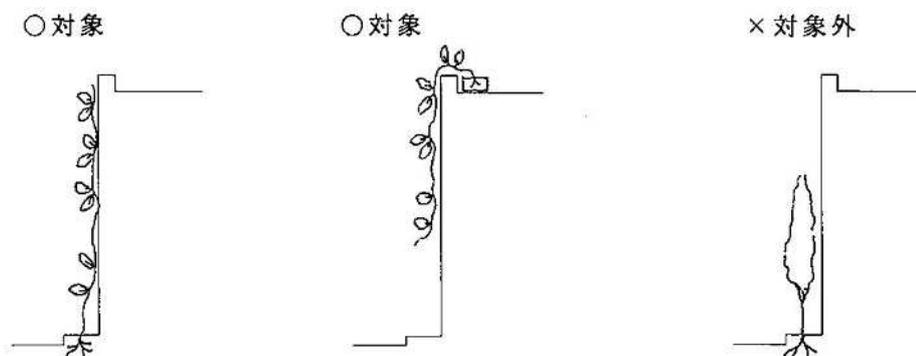


図 3.11.1 調査対象とする壁面緑化の形態

### 3.11.2 調査結果

#### (1) 分布状況

- 壁面緑化箇所は 164 か所であった。
- km<sup>2</sup> 当たりの箇所数の順位  
芝地区 > 高輪地区 > 麻布地区 > 赤坂地区 > 芝浦港南地区
- km<sup>2</sup> 当たりの緑化面積の順位  
芝地区 > 麻布地区 > 赤坂地区 > 芝浦港南地区 > 高輪地区

地区別の壁面緑化状況を表 3.11.1 に、壁面緑化形態割合を図 3.11.2 に、支持材の有無の割合を図 3.11.3 に示す。また、区内の良好な壁面緑化の事例を図 3.11.4 に示す。

区全体では 164 か所、緑化面積 11,242 m<sup>2</sup> の壁面緑化が確認できた。1 か所当たりの平均緑化面積が 68.5 m<sup>2</sup> であった。

地区別の分布状況では、箇所数、面積とも最も多いのは芝地区の 70 か所、6,216 m<sup>2</sup> であった。次いで麻布地区が 26 か所、1,683 m<sup>2</sup> であった。

壁面緑化の形態は登はん型が最も多く 77 か所、次いで下垂型が 47 か所、パネル型が 40 か所であった。

また、支持材の有無については、支持材が有るものが 88 か所、無いものが 76 か所で、支持材があるものが多くなっている。

表 3.11.1 地区別の壁面緑化状況

総合支所	地区面積 (ha)	箇所数	緑化面積 (m <sup>2</sup> )	単位当たり か所 (か所/km <sup>2</sup> )	単位当たり 緑化面積 (m <sup>2</sup> /km <sup>2</sup> )	1か所当たり 面積 (m <sup>2</sup> /か所)
芝地区	4.483	70	6,216	15.6	1,386.7	88.8
麻布地区	3.858	26	1,683	6.7	436.3	64.7
赤坂地区	4.127	23	1,310	5.6	317.4	57.0
高輪地区	3.442	24	774	7.0	224.9	32.3
芝浦港南地区	4.851	21	1,259	4.3	259.5	60.0
区全体	20.760	164	11,242	7.9	541.5	68.5

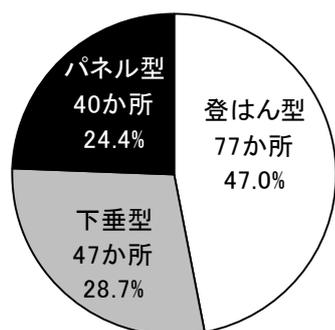


図 3.11.2 壁面緑化形態割合

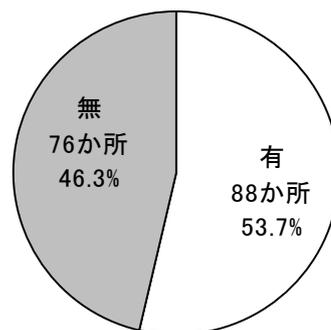


図 3.11.3 支持材の有無の割合



虎ノ門ファーストガーデン（虎ノ門一丁目）



東京ポートシティ竹芝（海岸一丁目）



トスラブ山王健保会館（赤坂二丁目）



KDX 虎ノ門1丁目ビル  
（虎ノ門一丁目）



SMBC 新橋ビル（新橋一丁目）

図 3.11.4 壁面緑化事例

壁面緑化が行われている対象構造の地区別状況を表 3.11.2 に示す。

壁面緑化の対象建築物は、建物に対する緑化が最も多く 124 か所、9,143 m<sup>2</sup>で、次いで宅地擁壁が 20 か所、1,255 m<sup>2</sup>であった。地区別では全ての地区において建物に対する緑化箇所、緑化面積が最も多い。

表 3.11.2 地区別の壁面緑化対象構造物の状況

対象構造物	芝地区		麻布地区		赤坂地区		高輪地区		芝浦港南地区		区全体	
	箇所	面積(m <sup>2</sup> )	箇所	面積(m <sup>2</sup> )	箇所	面積(m <sup>2</sup> )	箇所	面積(m <sup>2</sup> )	箇所	面積(m <sup>2</sup> )	箇所	面積(m <sup>2</sup> )
建物	58	5,672	20	1,117	16	1,153	16	442	14	759	124	9,143
宅地擁壁	4	320	3	426	4	97	8	332	1	80	20	1,255
道路構造物	1	22	0	0	2	40	0	0	0	0	3	62
河川構造物	1	20	0	0	0	0	0	0	0	0	1	20
その他	6	182	3	140	1	20	0	0	6	420	16	762
合計	70	6,216	26	1,683	23	1,310	24	774	21	1,259	164	11,242

壁面緑化が行われている土地利用の状況を表 3.11.3 に示す。

壁面緑化のある土地利用で最も多いものは会社工場敷地の 93 か所、7,385 m<sup>2</sup>であった。次いで集合住宅が 36 か所、2,089 m<sup>2</sup>であった。

芝地区では会社工場敷地の壁面緑化が 56 か所、5,176 m<sup>2</sup>あり、区全体箇所数の約 3 割、緑化面積の約 5 割が芝地区の会社工場敷地である。麻布地区では学校の壁面緑化が 3 か所、435 m<sup>2</sup>あるが、擁壁上の壁面緑化である。赤坂地区では集合住宅の壁面緑化面積 606 m<sup>2</sup>と多い。パネル型の規模の大きい壁面緑化が確認されている。高輪地区では個人住宅や集合住宅の壁面緑化が多く、個人住宅は 7 か所、222 m<sup>2</sup>であった。芝浦港南地区は会社工場敷地の壁面緑化が芝地区に次いで多い。

表 3.11.3 地区別の壁面緑化の土地利用状況

土地利用	芝地区		麻布地区		赤坂地区		高輪地区		芝浦港南地区		区全体	
	箇所	面積(m <sup>2</sup> )	箇所	面積(m <sup>2</sup> )	箇所	面積(m <sup>2</sup> )	箇所	面積(m <sup>2</sup> )	箇所	面積(m <sup>2</sup> )	箇所	面積(m <sup>2</sup> )
公園	2	85	0	0	0	0	0	0	1	120	3	205
学校	0	0	3	435	0	0	1	90	0	0	4	525
公共施設	2	115	2	160	2	40	2	60	1	30	9	405
社寺境内地	0	0	2	100	0	0	0	0	0	0	2	100
会社工場敷地	56	5,176	8	467	11	628	5	199	13	915	93	7,385
集合住宅	5	715	7	371	9	606	9	203	6	194	36	2,089
個人住宅	5	125	2	40	1	36	7	222	0	0	15	423
駐車場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	2	110	0	0	0	0	0	0	2	110
合計	70	6,216	26	1,683	23	1,310	24	774	21	1,259	164	11,242

## (2) 樹種等

○ 緑化樹種はキツタ、混植、ナツツタが多い。

壁面緑化の樹種別の箇所割合と面積割合を図 3.11.5、図 3.11.6 に示す。

壁面緑化樹種として最も多いものがキツタで、次いで2種以上の樹種を用いた混植であった。

その他の樹種としてはナツツタ、テイカカズラ、ヒメイタビ等であった。

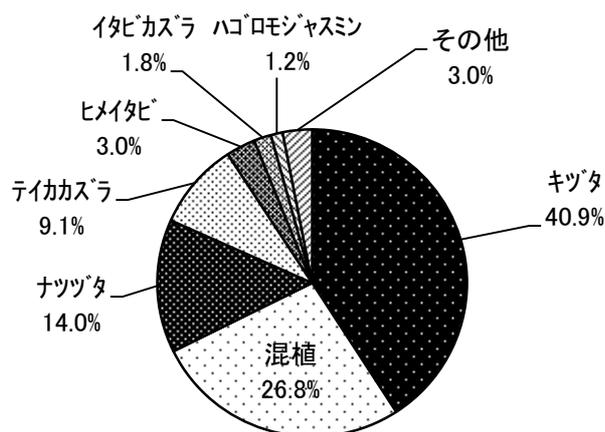


図 3.11.5 壁面緑化の樹種別箇所の割合

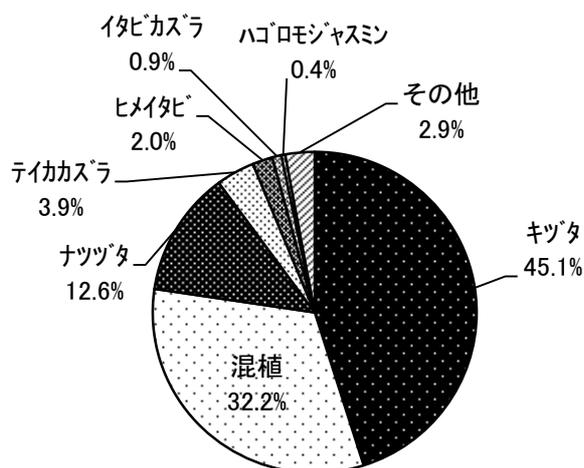


図 3.11.6 壁面緑化の樹種別緑化面積の割合

### 3.11.3 壁面緑化の推移

- 壁面緑化は、平成 28 年度調査と比べ 47 か所、5,072 m<sup>2</sup>の増加であった。
- 壁面緑化の増加の順位(箇所)  
芝地区 > 芝浦港南地区 > 高輪地区 > 赤坂地区 > 麻布地区
- 壁面緑化の増加の順位(面積)  
芝地区 > 芝浦港南地区 > 赤坂地区 > 高輪地区 > 麻布地区

地区別の壁面緑化の推移を表 3.11.4、新規に確認できた壁面緑化の状況を表 3.11.5、消失した壁面緑化の状況を表 3.11.6 に示す。

平成 28 年度調査から区全体の壁面緑化は、箇所数が 47 か所、面積が 5,072 m<sup>2</sup>の増加であった。

壁面緑化が最も増加した芝地区では 22 か所、3,447 m<sup>2</sup>の増加であった。次いで芝浦港南地区が 12 か所、604 m<sup>2</sup>の増加であった。麻布地区では箇所数が 1 か所減少した。

現地調査では、平成 28 年度調査での壁面緑化箇所の確認を行っている。新規に確認できたものは区全体では 67 か所、6,187 m<sup>2</sup>であった。全ての地区で新規の壁面緑化が確認できているが、特に増加の大きい地区が芝地区（24 か所、4,377 m<sup>2</sup>）であった。また、平成 28 年度調査で壁面緑化が確認されていたが、令和 3 年度調査では確認できなかったものが区全体で 14 か所、980 m<sup>2</sup>あった。従来までの調査では消失する壁面緑化が多い傾向にあるが（平成 28 年度調査では 33 か所、2,138 m<sup>2</sup>の消失）、本調査では消失箇所が少なくなっている。パネル型の壁面緑化の割合や支持材のある緑化割合が増えていることから、維持管理を考慮した壁面緑化が増えていると考えられる。

表 3.11.4 地区別の壁面緑化の推移

総合支所	平成28年度		令和3年度		増減	
	箇所	面積(m <sup>2</sup> )	箇所	面積(m <sup>2</sup> )	箇所	面積(m <sup>2</sup> )
芝地区	48	2,769	70	6,216	22	3,447
麻布地区	27	1,625	26	1,683	△ 1	58
赤坂地区	19	749	23	1,310	4	561
高輪地区	14	372	24	774	10	402
芝浦港南地区	9	655	21	1,259	12	604
区全体	117	6,170	164	11,242	47	5,072

※ △:減少した数値

表 3.11.5 地区別の新規の壁面緑化

総合支所	箇所数	緑化面積 (㎡)
芝地区	24	4,377
麻布地区	6	155
赤坂地区	10	486
高輪地区	14	399
芝浦港南地区	13	770
区全体	67	6,187

表 3.11.6 地区別の消失した壁面緑化

総合支所	箇所数	緑化面積 (㎡)
芝地区	7	788
麻布地区	4	120
赤坂地区	1	40
高輪地区	2	32
芝浦港南地区	0	0
区全体	14	980

土地利用別の壁面緑化の推移を表 3.11.7 に示す。

学校の壁面緑化が 182 ㎡の減少（箇所数は変化なし）、社寺境内地が 2 か所、20 ㎡の減少、駐車場は本調査では確認できなかった。最も増加が大きい土地利用は会社工場敷地で、35 か所、3,709 ㎡の増加、次いで集合住宅が 10 か所、1,330 ㎡の増加であった。緑化計画書制度では、地上部緑化のみで基準緑化面積が確保できない場合は、建築物上の屋上・壁面緑化も認めていることから、屋上だけではなく壁面を利用した緑化が増えており、新たに整備された壁面緑化では高層階まで緑化されているなど大規模なものが多い。

表 3.11.7 土地利用別の壁面緑化の推移

土地利用	平成28年度		令和3年度		増減	
	箇所	面積(㎡)	箇所	面積(㎡)	箇所	面積(㎡)
公園	3	205	3	205	0	0
学校	4	707	4	525	0	△ 182
公共施設	6	262	9	405	3	143
社寺境内地	4	120	2	100	△ 2	△ 20
会社工場敷地	58	3,676	93	7,385	35	3,709
集合住宅	26	759	36	2,089	10	1,330
個人庭園	13	337	15	423	2	86
駐車場	1	8	0	0	△ 1	△ 8
その他	2	96	2	110	0	14
合計	117	6,170	164	11,242	47	5,072

### 3.12 緑視率調査

#### 3.12.1 緑視率

空中写真判読による区内の緑の平面的な把握に加え、人の視点から見た立面的なみどり環境を把握するために、61 交差点について緑視率の測定を行った。

調査方法は、人の視野に近い範囲で交差点中心側から各交差路を写真撮影し（地上高さ約 1.5m、撮影範囲 35 mm フィルムレンズ相当）、各写真内に占めるみどりの割合を視点数（交差点に接続する道路の数）で平均した。

また、今回は新たに 4 地点緑視率調査地点を追加した。追加した地点は主に開発予定地を中心に選定し、今後の緑視率の変化を比較することができるようにした。

#### (1) 地区別等の緑視率

- 全調査地点の平均緑視率は 19.8%であった。
- 地区別では赤坂地区が 29.5%で最も高く、麻布地区が 15.8%で最も低かった。

地点別に集計した緑視率を表 3.12.1、地区別に集計した緑視率を表 3.12.2、図 3.12.1 に示し、緑視率別の箇所数を図 3.12.2 に示す。また、緑視率調査地点の位置図を図 3.12.3 に示す。

全調査地点の緑視率の平均は 19.8%であり、地区別の平均では最も高い地区が赤坂地区の 29.5%で、最も低い地区が麻布地区の 15.8%であった。

地点別では、最も高い値を示した地点は地点 35（南青山二丁目－34、青山墓地中央）の 61.8%、次いで地点 61（虎ノ門二丁目－2、ホテルオークラ付近）の 53.0%であった。

「緑視率が 25%以上になるとみどりが多いと感じる」との調査結果があるが（「都市の緑量と心理的効果の相関関係の社会実験調査について」（国土交通省都市・地域整備局公園緑地課緑地環境推進室 平成 17 年 8 月発表））、今回調査を行った 207 か所のうち緑視率 25%以上の地点は 69 か所であった。また、5%未満の箇所は 40 か所であった。公園、敷地内の樹木、または緑量のある街路樹が見える場合は緑視率は高くなるが、幅員の広い幹線道路や街路樹等の植栽余地のない道路では緑視率は低い結果であった。

表 3.12.1 地点別の緑視率

地点	場所	住所	支所	用途地域	平均緑視率 (%)
1	コムシス品川港南ビル横	港南五丁目-3	芝浦・港南地区	準工業地域	24.2
2	港南中学校前	港南三丁目-9	芝浦・港南地区	第2種住居地域	15.5
3	新港南橋交差点	港南一丁目-6	芝浦・港南地区	準工業地域	21.5
4	品川東武ホテル前	高輪四丁目-8	高輪地区	第2種住居地域	28.0
5	高輪警察署前	高輪三丁目-15	高輪地区	近隣商業地域	8.3
6	白金小学校前	白金台二丁目-5	高輪地区	第1種住居地域	11.4
7	緑の多い住宅街	白金台三丁目-12	高輪地区	第1種中高層住居専用地域	32.8
8	日吉坂上交差点	白金台四丁目-5	高輪地区	商業地域	16.3
9	東海大学高輪キャンパス横	高輪一丁目-20	高輪地区	近隣商業地域	18.7
10	伊皿子交差点	高輪一丁目-5	高輪地区	近隣商業地域	20.4
11	グランドパレス田町前	芝浦四丁目-9	芝浦・港南地区	準工業地域	26.8
12	芝浦2丁目交差点	芝浦二丁目-10	芝浦・港南地区	商業地域	13.9
13	パーク芝浦前	海岸三丁目-26	芝浦・港南地区	準工業地域	17.0
14	芝4丁目交差点	芝二丁目-29	芝地区	商業地域	13.1
15	三田2丁目交差点	芝五丁目-14	芝地区	商業地域	11.5
16	日本電気本社横	芝五丁目-6	芝地区	商業地域	25.9
17	三菱東京UFJ芝ビル前	芝二丁目-16	芝地区	商業地域	24.4
18	芝公園前	芝公園二丁目-1	芝地区	第2種住居地域	41.6
19	大門	芝大門一丁目-16	芝地区	商業地域	13.0
20	東京タワー前	芝公園三丁目-4	芝地区	第2種住居地域	42.6
21	ゆらりん東麻布保育園前	東麻布一丁目-24	麻布地区	商業地域	4.0
22	成城石井東麻布店前	東麻布一丁目-18	麻布地区	近隣商業地域	15.1
23	元神明治神宮天祖神社前	三田一丁目-4	芝地区	第2種住居地域	34.2
24	四之橋通りの商店街	白金三丁目-9	高輪地区	近隣商業地域	4.4
25	養老橋	南麻布四丁目-15	麻布地区	商業地域	5.2
26	有栖川宮記念公園横	南麻布四丁目-6	麻布地区	第1種住居地域	38.6
27	セブンイレブン港区麻布十番3丁目店前	麻布十番三丁目-12	麻布地区	商業地域	2.5
28	麻布十番駅からの商店街	麻布十番二丁目-14	麻布地区	商業地域	2.7
29	東洋英和女学院前	六本木五丁目-14	麻布地区	第2種中高層住居専用地域	29.3
30	心臓血管研究所付属病院前	西麻布三丁目-2	麻布地区	近隣商業地域	6.6
31	住宅街	西麻布三丁目-17	麻布地区	第2種中高層住居専用地域	7.7
32	西麻布交差点	西麻布一丁目-15	麻布地区	近隣商業地域	15.9
33	根津美術館横	西麻布二丁目-20	麻布地区	第1種中高層住居専用地域	23.6
34	青山児童館前	北青山三丁目-3	赤坂地区	商業地域	21.7
35	青山墓地中央	南青山二丁目-34	赤坂地区	第1種中高層住居専用地域	61.8
36	青山墓地横	南青山二丁目-32	赤坂地区	第1種中高層住居専用地域	33.8
37	スタジアム通り	北青山二丁目-7	赤坂地区	商業地域	10.9
38	絵画館前のイチョウ並木	北青山二丁目-1	赤坂地区	第2種中高層住居専用地域	50.5
39	カナダ大使館横	赤坂八丁目-2	赤坂地区	第1種中高層住居専用地域	22.6
40	TBS放送センター横	赤坂五丁目-3	赤坂地区	商業地域	27.6
41	赤坂bizタワー前	赤坂五丁目-1	赤坂地区	商業地域	4.8
42	赤坂二交番前	赤坂二丁目-17	赤坂地区	商業地域	28.1
43	三河台公園手前	六本木四丁目-5	麻布地区	第1種住居地域	17.8
44	檜町公園横	赤坂九丁目-7	赤坂地区	第2種住居地域	33.2
45	虎ノ門3丁目交差点	虎ノ門三丁目-3	芝地区	商業地域	9.8
46	港虎ノ門三郵便局横	虎ノ門三丁目-11	芝地区	商業地域	18.6
47	西新橋交番前北	虎ノ門一丁目-9	芝地区	商業地域	19.2
48	商業・業務地	西新橋一丁目-11	芝地区	商業地域	8.1
49	新橋三丁目交番前第二	新橋二丁目-10	芝地区	商業地域	5.8
50	新橋さくらの園横	新橋六丁目-19	芝地区	商業地域	16.7
51	六本木ヒルズ	六本木六丁目-12	麻布地区	商業地域	38.7
52	汐留	東新橋一丁目-7	芝地区	商業地域	29.8
53	品川駅港南口	港南二丁目-16	芝浦・港南地区	商業地域	13.3
54	補助123号	港南四丁目-3	芝浦・港南地区	第1種住居地域	16.8
55	プラチナ通り	白金台五丁目-12	高輪地区	第1種住居地域	41.7
56	環状2号	西新橋二丁目-23	芝地区	商業地域	12.7
57	都道482号台場青梅線	台場二丁目-4	芝浦・港南地区	商業地域	15.9
58	高輪ゲートウェイ付近	港南二丁目-1	芝浦・港南地区	準工業地域	1.4
59	三田四丁目15番地(再開発)	三田四丁目-15	高輪地区	第1種住居地域	4.1
60	三田三丁目5番地(再開発)	三田三丁目-5	芝地区	商業地域	10.3
61	ホテルオークラ付近	虎ノ門二丁目-2	芝地区	商業地域	53.0

表 3.12.2 地区別の緑視率

総合支所	地点数	平均緑視率(%)
芝地区	18	20.3
麻布地区	13	15.8
赤坂地区	10	29.5
高輪地区	10	17.9
芝浦港南地区	10	17.6
全体平均	61	19.8

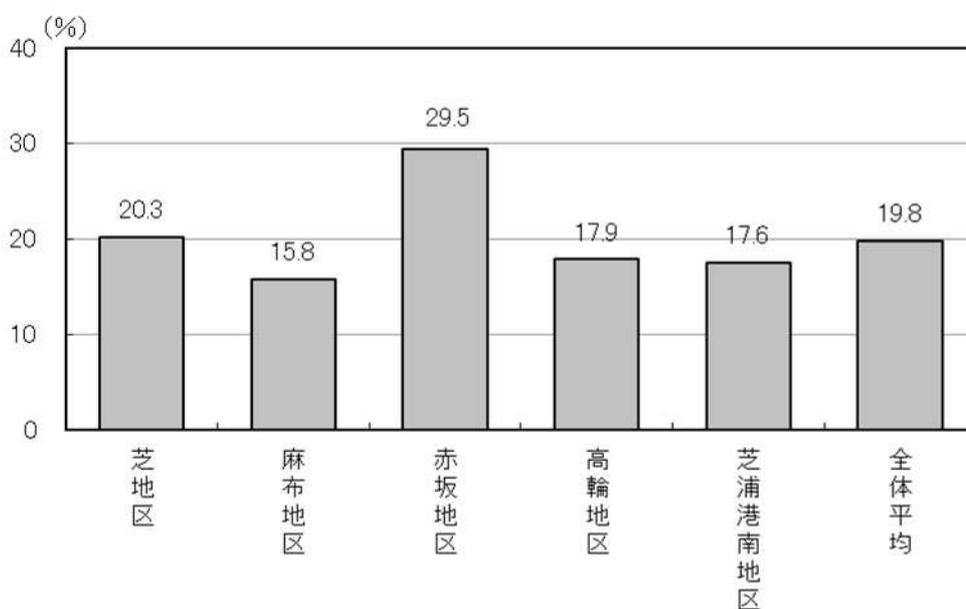


図 3.12.1 地区別の緑視率

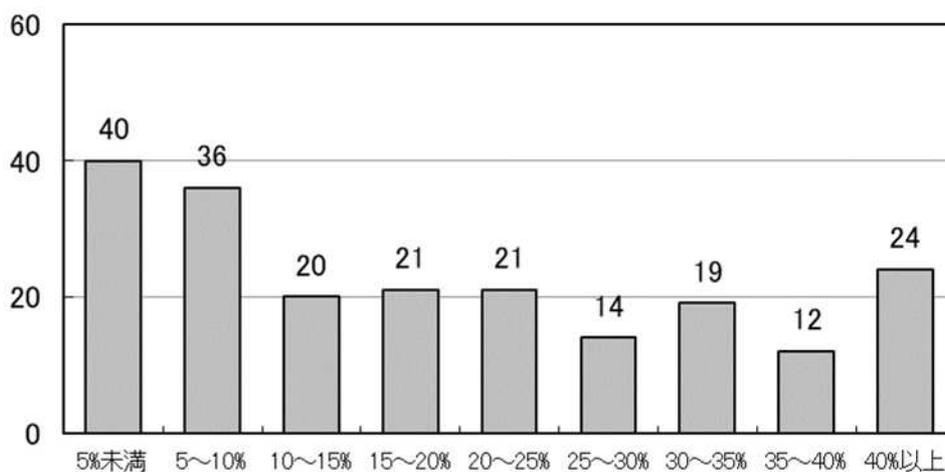


図 3.12.2 緑視率別の箇所数

# 緑視率調査地点位置図



この地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。  
 (承認番号) 3都市基交著第 60 号

図 3.12.3 緑視率調査地点位置図

## (2) 用途地域別の緑視率

- 第一種中高層住居専用地域の平均緑視率が最も高く 35.7%であった。
- 平均緑視率の順位  
住居系 > 工業系 > 商業系

用途地域別の緑視率を表 3.12.3 に示す。

第一種中高層住居専用地域の平均緑視率が最も高く 35.7%で、平均緑視率が最も低いのは近隣商業地域の 12.7%であった。また、用途地域を住居系、商業系、工業系に区分した平均では、住居系が最も高く 28.4%、次いで工業系が 20.1%、商業系が 14.2%であった。

住居系の用途地域では、20 地点のうち、緑視率が 25.0%以上の地点が 12 か所あった。特に地点 35（南青山二丁目－34、青山墓地中央）、地点 38（北青山二丁目－1、絵画館前のイチョウ並木）の緑視率は非常に高く、共に 50%以上であった。

工業系の地域では、幅員の広い幹線道路が多く中央分離帯部分の植栽や植栽密度の高い街路樹などにより、緑視率の高い地点も見られる。

商業系の地域では、地点により緑視率の差が大きく、最も高い値を示した地点は地点 61（虎ノ門二丁目－2、ホテルオークラ付近）の 53.0%であり、最も低い値を示した地点は地点 27（麻布十番三丁目－12、セブンイレブン港区麻布十番 3 丁目店前）の 2.5%であった。

表 3.12.3 用途地域別の緑視率

用途地域区分		地点数	平均緑視率(%)
	第一種中高層住居専用地域	5	35.7
	第二種中高層住居専用地域	3	24.4
	第一種住居地域	6	21.7
	第二種住居地域	6	31.6
住居系		20	28.4
	近隣商業地域	7	12.7
	商業地域	29	15.8
商業系		36	14.2
	準工業地域	5	20.1
工業系		5	20.1

### 3.12.2 緑視率の推移

#### (1) 地区別の緑視率の推移

○ 区全体の平均緑視率は、平成 28 年度調査の 16.6%から 19.8%へ 3.2 ポイント増加した。

地区別の平均緑視率の推移を表 3.12.4 に、増加した箇所の事例を図 3.12.4、図 3.12.5 に、減少した箇所の事例を図 3.12.6 に示す。

区全体の平均緑視率は、平成 28 年度調査の 16.6%から 19.8%へ 3.2 ポイント増加した。

地区別で見ると、芝地区、赤坂地区は平成 28 年度調査から平均緑視率が 6.0 ポイント以上高くなっており、麻布地区、高輪地区、芝浦港南地区も平均緑視率は微増する結果となった。

次に、199 か所の平成 28 年度撮影写真と令和 3 年度撮影写真を比較して、緑視率の変化要因を調べた。その結果、数値上は変化があっても緑化状況に変化がないものが 139 か所（全体の 70%）であった。また、緑化や植物の生長等により緑が増えたものは 48 か所（全体の 24%）、開発や宅地化等により緑が減ったものが 12 か所（全体の 6%）であった。

増加箇所は街路樹の生長によるものが最も多く、全体で 25 か所の増加がみられた。また、商業施設の緑地整備による緑視率の増加箇所は 5 か所あるが、そのうち 4 か所で 10 ポイント以上の増加がみられた。

減少箇所では、建て替えによる樹木の伐採や民間施設のプランターの撤去などに伴い緑視率が下がった例が多く見られた。その他、麻布テニスコート再整備による樹木の伐採や緩衝緑地等の消失も見られた。

表 3.12.4 地区別の平均緑視率の推移

総合支所	平成28年度 (%)	令和3年度 (%)	増減 (ポイント)
芝地区	13.8	20.3	6.5
麻布地区	13.4	15.8	2.4
赤坂地区	23.1	29.5	6.3
高輪地区	16.4	17.9	1.5
芝浦港南地区	14.3	17.6	3.3
全体平均	16.6	19.8	3.2

※ 増減（ポイント）は平成 28 年度と令和 3 年度の平均緑視率の差

【民間施設緑地の整備による増加の例 三田一丁目-4 地点 23-3】



【民間施設緑地の整備による増加の例 六本木四丁目-5 地点 43-2】



【街路樹の生長による増加の例 虎ノ門一丁目-9 地点 47-3】



図 3.12.4 緑視率の推移 (増加の例 1)

【樹木等の生長による増加の例 南青山二丁目-34 地点 35-4】



【移転した麻布警察署建築による増加の例 六本木四丁目-5 地点 43-3】



【芝公園の樹木の生長による増加の例 芝公園二丁目-1 地点 18-1】



図 3.12.5 緑視率の推移（増加の例 2）

【緩衝緑地の消失による減少の例 東新橋一丁目-7 地点 52-2】



【建て替えによる減少の例 白金台三丁目-12 地点 7-2】



【街路樹の植え替えによる減少の例 西新橋一丁目-11 地点 48-3】



図 3.12.6 緑視率の推移（減少の例）

## (2) 用途地域別の緑視率の推移

- 住居系、商業系、工業系共に平均緑視率の増加が見られた。
- 特に第二種中高層住居専用地域は平均緑視率が8.0ポイント増加した。

用途地域別の平均緑視率の推移を表3.12.5に示す。

用途地域別に見ると、全ての用途地域で平均緑視率が増加する結果となった。特に第二種中高層住居専用地域が最も増加しており、平均緑視率は8.0ポイント増加した。次いで、商業地域と準工業地域の平均緑視率が4.9ポイント増加した。

また、用途地域を住居系、商業系、工業系に区分した平均では、工業系が最も増加しており、平均緑視率は4.9ポイント増加した。次いで、商業系、住居系が増加しており、平均緑視率はそれぞれ3.8ポイント、3.3ポイント増加した。

住居系では個人住宅の樹木の生長や大規模マンションの建設による増加が多く見られた。また一部ではあるが建て替えによる樹木の消失や生垣の消失による減少も見られた。

商業系では多くが街路樹の生長による増加であった。また、大規模マンションの建設や民間施設の建設による増加も見られた。

工業系では増加した箇所の全てが街路樹の生長によるものであった。一方、減少地点は1地点のみであり、植栽帯の消失によるものであった。

表 3.12.5 用途地域別の平均緑視率の推移

用途地域区分	平成28年度		令和3年度		増減	
	地点数	平均緑視率 (%)	地点数	平均緑視率 (%)	地点数	平均緑視率 (%)
第一種中高層住居専用地域	6	35.2	5	35.7	△ 1	0.6
第二種中高層住居専用地域	3	16.4	3	24.4	0	8.0
第一種住居地域	5	17.9	6	21.7	1	3.8
第二種住居地域	5	31.0	6	31.6	1	0.7
住居系	19	25.1	20	28.4	1	3.3
近隣商業地域	7	9.9	7	12.7	0	2.8
商業地域	26	11.0	29	15.8	3	4.9
商業系	33	10.4	36	14.2	3	3.8
準工業地域	5	15.2	5	20.1	0	4.9
工業系	5	15.2	5	20.1	0	4.9

### (3) 新規の緑視率調査地点について

- 地点番号 58～60 は今後開発予定のため緑視率は概ね 10%以下となった。
- 地点番号 61 は商業地域のなかで、最も高い結果となった。(緑視率 53.0%)

新たに追加した緑視率調査地点の写真を図 3.12.7、図 3.12.8 に示す。

地点 58 は高輪ゲートウェイ付近であるが、大規模な再開発事業があり現在は工事中のため緑視率は低い結果となった。再開発事業は令和 6 年度に完了予定のため、次回の緑視率調査では再開発で整備された緑地の変化を確認することができるものと思われる。

地点 59、60 は（仮称）三田三・四丁目地区第一種市街地再開発事業により現在は工事中のため、こちらも緑視率は低い結果となった。また、こちらの再開発事業も令和 6 年度に工事が完了予定であり、開発後は複合棟や住宅棟だけでなく、緑地も整備されることから、次回の緑視率調査では緑視率の大幅な向上が期待できるものと思われる。

地点 61 はホテルオークラ付近であるが、ここは令和元年度に The Okura Tokyo が建設されたことにより、大規模な緑地が整備された。そのため、商業系の用途地域の地点のなかでは最も緑視率が高い地点となった。

【高輪ゲートウェイ付近 港南二丁目-1 平均緑視率 1.4%】



図 3.12.7 新たに追加した緑視率調査地点(1)

【三田四丁目 15 番地（再開発） 三田四丁目-15 平均緑視率 4.1%】



【三田三丁目 5 番地（再開発） 三田三丁目-5 平均緑視率 10.3%】



【ホテルオークラ付近 虎ノ門二丁目-2 平均緑視率 53.0%】



図 3.12.8 新たに追加した緑視率調査地点(2)

### 3.13 緑化指導実績調査

#### 3.13.1 緑化指導実績の推移

- 緑化指導件数は近年減少傾向にある。
- 昭和 54 年度から令和 2 年度までの緑化計画面積の累計は約 260ha であった。
- 平成 28 年度から令和 2 年度では 325 件、緑化計画面積 108,298 m<sup>2</sup>、計画緑化率 21.31%であった。

昭和 54 年度から令和 2 年度までに提出された緑化計画書のうち、変更と取り下げを除いて集計を行った（図 3.13.1、表 3.13.1）。また、過去 5 年間の緑化指導について分析を行った。

指導件数は平成 16 年度をピークに平成 21 年度までは減少したが、平成 27 年度まで増加し、それ以降は減少している。特に令和元年度は 48 件、令和 2 年度は 31 件と少なくなっている。制度が実施された昭和 54 年度から令和 2 年度までの緑化計画面積の累計は約 260ha となっている。緑化計画書が重複して提出されている場合も含まれるが、緑化指導によって多くの緑地が整備されている。

過去 5 年間の公共施設・民間施設別、敷地規模別に集計した結果は表 3.13.2 に示すとおりである。

平成 28 年度から令和 2 年度には 325 件の指導実績があり、そのうち公共施設は 14 件、民間施設は 311 件であった。敷地規模別では敷地面積が 250 m<sup>2</sup>以上 1,000 m<sup>2</sup>未満の建築が 228 件と最も多く、過去 5 年間では敷地面積 30,000 m<sup>2</sup>以上の緑化計画は提出されていない。敷地面積が大きいほど緑化計画書制度で基準としている緑化率は高くなるため、提出された緑化計画書においても、敷地規模が大きいほど計画緑化率（敷地面積に対する緑化計画面積）も高く、10,000 m<sup>2</sup>以上 30,000 m<sup>2</sup>未満の計画緑化率は 32.01%であった。

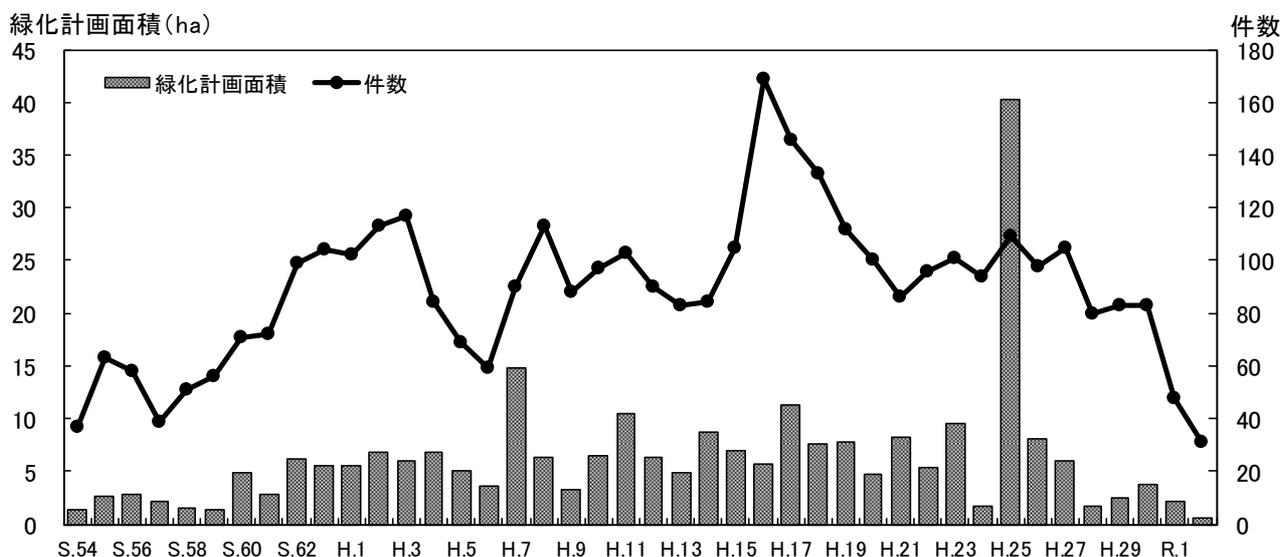


図 3.13.1 緑化計画の指導件数と緑化計画面積

表 3.13.1 緑化指導実績

年度	件数	敷地面積(m <sup>2</sup> )	緑化計画面積(m <sup>2</sup> )	計画緑化率(%)
昭和 54	37	123,796	14,186	11.5
55	63	199,495	26,580	13.3
56	58	195,293	28,450	14.6
57	39	101,898	21,721	21.3
58	51	109,092	14,910	13.7
59	56	119,048	13,172	11.1
60	71	271,368	48,396	17.8
61	72	172,451	28,388	16.5
62	99	290,593	61,055	21.0
63	104	328,263	55,330	16.9
平成 元	102	346,012	54,990	15.9
2	113	309,607	68,088	22.0
3	117	319,694	59,706	18.7
4	84	329,094	68,012	20.7
5	69	318,769	49,713	15.6
6	59	387,686	36,809	9.5
7	90	625,464	148,905	23.8
8	113	357,263	62,744	17.6
9	88	221,547	33,536	15.1
10	97	331,204	64,877	19.6
11	103	571,349	104,266	18.2
12	90	461,921	63,505	13.7
13	83	269,264	48,803	18.1
14	84	459,223	86,568	18.9
15	105	302,034	70,061	23.2
16	169	430,811	56,517	13.1
17	146	524,609	113,553	21.6
18	133	365,728	75,501	20.6
19	112	329,842	77,593	23.5
20	100	272,650	47,305	17.4
21	86	459,190	82,573	18.0
22	96	193,637	53,920	27.8
23	101	291,529	96,009	32.9
24	94	121,105	17,336	14.3
25	109	627,551	402,784	64.2
26	98	409,846	80,169	19.6
27	105	255,707	60,493	23.7
28	80	77,957	17,029	21.8
29	83	144,847	25,395	17.5
30	83	168,161	37,492	22.3
令和 元	48	84,768	22,369	26.4
2	31	32,425	6,013	18.5

※令和3年3月31日現在

表 3.13.2 過去5年間の緑化計画の内訳

年	区分	敷地規模										合計	
		250㎡以上 1000㎡未満		1000㎡以上 3000㎡未満		3000㎡以上 5000㎡未満		5000㎡以上 10000㎡未満		10000㎡以上 30000㎡未満			
		件数	計画 緑化率	件数	計画 緑化率	件数	計画 緑化率	件数	計画 緑化率	件数	計画 緑化率	件数	計画 緑化率
H28	公	2	10.52	0	-	0	-	0	-	0	-	2	10.52
	民	61	12.08	14	18.33	1	26.17	0	-	2	39.61	78	22.03
	計	63	12.01	14	18.33	1	26.17	0	-	2	39.61	80	21.84
H29	公	1	9.73	1	20.92	0	-	2	14.60	0	-	4	15.30
	民	50	11.28	20	15.48	4	27.53	4	26.35	1	12.36	79	17.86
	計	51	11.25	21	15.84	4	27.53	6	22.18	1	12.36	83	17.53
H30	公	1	5.57	3	6.45	1	17.99	0	-	0	-	5	11.12
	民	56	11.62	15	12.80	1	17.11	1	19.97	5	29.91	78	22.97
	計	57	11.53	18	11.80	2	17.54	1	19.97	5	29.91	83	22.30
R1	公	0	-	1	9.73	0	-	1	25.01	0	-	2	21.17
	民	31	9.22	9	15.80	1	25.53	4	22.10	1	82.32	46	27.23
	計	31	9.22	10	14.78	1	25.53	5	22.76	1	82.32	48	26.39
R2	公	0	-	0	-	1	11.50	0	-	0	-	1	11.50
	民	26	10.40	2	38.37	1	26.88	1	18.99	0	-	30	19.31
	計	26	10.40	2	38.37	2	19.51	1	18.99	0	-	31	18.55
計	公	4	9.46	5	10.70	2	15.08	3	18.40	0	-	14	15.55
	民	224	11.21	60	16.38	8	25.60	10	23.09	9	32.01	311	21.86
	計	228	11.17	65	15.86	10	23.58	13	21.94	9	32.01	325	21.31

### 3.13.2 緑化計画の計画緑化率と緑被率

- 平成 28 年度から令和 2 年度までの緑化計画に基づく計画緑化率の平均は 21.31%であった。
- 令和 3 年度調査での緑被率は 19.70%であった。

平成 28 年度から令和 2 年度までに提出された緑化計画書のうち、令和 3 年 3 月 31 日までに完了を確認した 325 件について、緑化計画書の計画緑化率及び令和 3 年度の緑被率の集計を行った。

敷地面積別の計画緑化率と緑被率の状況を表 3.13.3 に示す。

平成 28 年度から令和 2 年度の計画緑化率と令和 3 年度の緑被を比較すると、敷地面積 5,000 m<sup>2</sup>未満では、計画緑化率より実際の緑被率が高い。敷地面積 5,000 m<sup>2</sup>以上では、計画緑化率より緑被率の方が低くなっている。

計画緑化面積には、屋上緑地や壁面緑化の建築物上の緑化も含まれている。計画緑化率より実際の緑被率が小さい理由は、計画緑化面積には壁面緑化面積が含まれていることが考えられる。壁面緑化調査結果においても分かるとおり、近年の壁面緑化は大規模なものが多いが、航空写真では緑被として判読されず、壁面緑化は緑被率に含まれていないことから、計画緑化率が高くなったと考えられる。

表 3.13.3 敷地面積別平成 28 年度～令和 2 年度の緑化指導実績と令和 3 年度緑被状況

規模	件数	計画緑化率(%)	令和3年度緑被地調査				緑被率(%)
			樹木 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	
250m <sup>2</sup> 以上 1000m <sup>2</sup> 未満	228	11.17	1.02	0.03	0.19	1.24	11.38
1000m <sup>2</sup> 以上 3000m <sup>2</sup> 未満	65	15.86	1.42	0.07	0.36	1.85	16.04
3000m <sup>2</sup> 以上 5000m <sup>2</sup> 未満	10	23.58	0.63	0.08	0.19	0.90	24.88
5000m <sup>2</sup> 以上 10000m <sup>2</sup> 未満	13	21.94	1.45	0.15	0.33	1.93	18.60
10000m <sup>2</sup> 以上 30000m <sup>2</sup> 未満	9	32.01	3.50	0.07	0.72	4.29	27.81
合計	325	21.31	8.02	0.39	1.79	10.20	19.70

※ 小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

申請者別の計画緑化率と緑被率の状況を表 3.13.4 に示す。

過去5年間では国の施設の申請はなかった。区立施設、都立施設では計画緑化率より緑被率が高く、民間施設では計画緑化率より緑被率が低い。区立施設（11件）計画緑化率 12.50%に対して緑被率は 15.37%であった。都立施設（3件）も計画緑化率 22.60%と高いが、緑被率はさらに高い 30.45%であった。民間施設は、壁面緑化が計画緑化面積に含まれている例が多いため、計画緑化率より緑被率が低くなっていると考えられる。

表 3.13.4 申請者別平成 28 年度～令和 2 年度の緑化指導実績と令和 3 年度緑被状況

申請者	件数	計画緑化率(%)	令和3年度緑被地調査				
			樹木 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	緑被率(%)
区立施設	11	12.50	0.32	0.03	0.09	0.43	15.37
国立施設	0	-	0.00	0.00	0.00	0.00	-
都立施設	3	22.60	0.39	0.01	0.00	0.41	30.45
民間施設	311	21.86	7.30	0.36	1.70	9.36	19.65
合計	325	21.31	8.02	0.39	1.79	10.20	19.70

※ 小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

土地用途別の計画緑化率と緑被率の状況を表 3.13.5 に示す。

過去5年間の緑化計画書のうち約8割が事業所と共同住宅であった。計画緑化率より緑被率が高い用途は、戸建住宅、共同住宅、学校、その他であった。特に戸建住宅と共同住宅は計画緑化率よりも緑被率が高くなっている。共同住宅は壁面緑化の整備が難しいことから、地上部緑化と屋上緑地が多いと考えられ、新規植栽の場合は植栽基盤面積を計上しているが、樹冠が広がることで緑被率は高くなると考えられる。

表 3.13.5 土地用途別平成 28 年度～令和 2 年度の緑化指導実績と令和 3 年度緑被状況

土地用途	件数	計画緑化率(%)	令和3年度緑被地調査				
			樹木 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	緑被率(%)
戸建住宅	16	11.10	0.19	0.00	0.02	0.21	24.61
共同住宅	129	16.01	1.98	0.14	0.28	2.40	20.48
事業所	145	23.56	4.11	0.21	1.26	5.58	18.13
学校	16	13.91	0.41	0.03	0.14	0.58	16.83
庁舎	3	22.90	0.20	0.00	0.04	0.24	22.83
その他	16	28.38	1.12	0.01	0.05	1.18	30.27
合計	325	21.31	8.02	0.39	1.79	10.20	19.70

※ 小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

緑化計画書の提出年度別の計画緑化率と緑被率の状況を表 3.13.6 に示す。

計画緑化率と令和3年度調査の緑被率を比較すると、令和元年度を除いて、計画緑化率よりも令和3年度緑被率が低くなっている。

表 3.13.6 提出年度別平成28年度～令和2年度の緑化指導実績と令和3年度緑被状況

年度	件数	計画緑化率(%)	令和3年度緑被地調査				
			樹木 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	緑被率(%)
H28	80	21.84	1.34	0.02	0.22	1.58	18.95
H29	83	17.53	1.68	0.19	0.44	2.31	15.06
H30	83	22.30	2.69	0.11	0.71	3.51	21.37
R1	48	26.39	2.06	0.08	0.24	2.38	28.65
R2	31	18.55	0.24	0.00	0.18	0.42	12.45
合計	325	21.31	8.02	0.39	1.79	10.20	19.70

※ 小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

緑化計画書の完了年から現在までの経過年別の計画緑化率と緑被率の状況を表 3.13.7 に示す。

経過年別の計画緑化率と令和3年度緑被率を比較すると、経過年に対して緑被率の傾向は特にみられなかった。経過年数が大きくなるほど樹木は生長し樹冠面積は大きくなるが、緑地の状態や剪定管理によって緑被状況は異なるため、経過年数によって緑被率には影響がなかったと考えられる。経過年数4年と5年は計画緑化率に対して緑被率はやや高くなっており、ある程度適正に維持管理されていることが分かる。

表 3.13.7 経過年別平成28年度～令和2年度の緑化指導実績と令和3年度緑被状況

経過年	件数	計画緑化率(%)	令和3年度緑被地調査				
			樹木 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	緑被率(%)
0年	37	25.65	1.42	0.01	0.26	1.69	26.82
1年	98	23.00	3.26	0.16	0.87	4.29	19.14
2年	69	18.51	1.67	0.09	0.30	2.06	20.87
3年	87	16.15	0.86	0.03	0.15	1.04	13.00
4年	25	20.00	0.38	0.10	0.08	0.56	20.24
5年	9	22.77	0.43	0.01	0.12	0.55	22.94
合計	325	21.31	8.02	0.39	1.79	10.20	19.70

※ 小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

用途地域（建ぺい率）別の計画緑化率と緑被率の状況を表 3.13.8 に示す。

住居系の用途地域では計画緑化率よりも令和3年度緑被率が高く、商業系、工業系の用途地域では、計画緑化率よりも緑被率が低い。商業系の用途地域の建ぺい率は80%であることから、壁面緑化等の建築物上の緑化が多く、緑被率が低くなっていると考えられる。

表 3.13.8 用途地域別の平成28年度～令和2年度の緑化指導実績と令和3年度緑被状況

用途地域	建ぺい率	件数	計画緑化率(%)	令和3年度緑被地調査				
				樹木(ha)	草地(ha)	屋上緑地(ha)	緑被地(ha)	緑被率(%)
第一種中高層住居専用地域	60	60	22.19	1.64	0.05	0.16	1.85	26.88
第二種中高層住居専用地域	60	20	13.11	0.24	0.02	0.08	0.34	16.15
第一種住居地域	60	36	17.71	0.95	0.07	0.12	1.14	23.65
第二種住居地域	60	33	21.38	1.76	0.12	0.47	2.34	24.47
近隣商業地域	80	12	9.86	0.04	0.00	0.00	0.05	7.93
商業地域	80	119	24.80	2.10	0.06	0.46	2.63	16.32
準工業地域	60	45	20.11	1.28	0.07	0.50	1.84	15.81
合計		325	21.31	8.02	0.39	1.79	10.20	19.70

※ 小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

容積率別の計画緑化率と緑被率の状況を表 3.13.9 に示す。

計画緑化率と令和3年度緑被率を比較すると、容積率が高くなるほど、計画緑化率よりも緑被率が低くなる傾向がある。容積率が高くなるほど計画緑化率より緑被率が低くなる理由として、緑化計画の緑化基準では、敷地面積と延べ床面積に対してそれぞれ基準となる緑化率が設定されている。そのため、容積率が高いほど延べ床面積の大きい建築物となるが、計画緑化率も高く設定されることから建築物上の緑化が増えることが考えられ、壁面緑化を行った場合は緑被率に含まれないため、緑被率が低くなったと考えられる。

表 3.13.9 容積率別の平成 28～令和 2 年度の緑化指導実績と令和 3 年度緑被状況

容積率	件数	計画緑化率(%)	令和3年度緑被地調査				
			樹木 (ha)	草地 (ha)	屋上緑地 (ha)	緑被地 (ha)	緑被率(%)
200	23	10.90	0.28	0.00	0.03	0.32	17.42
300	94	18.95	2.04	0.09	0.26	2.40	22.51
400	92	20.92	3.59	0.24	1.04	4.87	20.84
500	38	22.21	1.42	0.06	0.23	1.71	22.11
600	38	29.02	0.46	0.01	0.13	0.60	11.32
700	32	21.49	0.09	0.00	0.07	0.16	8.14
800	8	33.45	0.13	0.00	0.03	0.16	15.20
合計	325	21.31	8.02	0.39	1.79	10.20	19.70

※ 小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

### 3.13.3 港区みどりの街づくり賞の緑被状況

港区みどりの街づくり賞を受賞した 72 施設の緑被状況を表 3.13.10、表 3.13.11 に示す。

港区みどりの街づくり賞は、緑化計画書の完了届が提出された物件を主な対象とし、周辺景観との調和や地区貢献度の高さ、自然環境の保護と再生、既存樹木や在来植物の活用などの選定基準に基づき、選定審査会により受賞物件の選定を行っている。平成 16 年度から行われており、現在は 72 施設が受賞している。

港区みどりの街づくり賞受賞施設全体の緑被率は 31.96% で、区全体の緑被率 (22.62%) より高い。

最も緑被率が高いのは麻布ガーデンズ 61.59%、次いでパークコート青山ザタワー 56.87% であった。緑被率が 50% 以上の施設は 5 施設であった。

表 3.13.10 港区みどりの街づくり賞受賞施設の緑化状況 (1)

ID	受賞施設	年度	敷地面積(m <sup>2</sup> )	緑被地			緑被地(m <sup>2</sup> )	緑被率(%)
				樹木被覆地(m <sup>2</sup> )	草地(m <sup>2</sup> )	屋上緑地(m <sup>2</sup> )		
1	ペンブローク ヒカワガーデンズ	H16	1,113	213	0	145	358	32.20
2	品川グランドcommons及び品川セントラルガーデン	H16	52,374	11,539	34	592	12,165	23.23
3	六本木ヒルズ	H16	84,572	16,633	1,114	8,121	25,868	30.59
4	西町ハウス	H16	322	33	0	67	101	31.25
5	日本基督教団安藤記念教会	H16	226	51	0	0	51	22.76
6	青山ライズスクエア	H17	3,197	703	0	86	789	24.69
7	日本テレビタワー・汐留タワー	H17	15,709	847	14	1,283	2,145	13.65
8	ガーデンコート元麻布	H17	2,043	355	3	28	386	18.90
9	ビュロー品川	H17	1,920	489	290	0	779	40.59
10	猪股邸	H17	253	75	0	0	75	29.68
11	青山ザ・タワー	H18	3,288	1,479	0	73	1,553	47.22
12	味の素グループ高輪研修センター	H18	3,221	531	2	224	757	23.49
13	パークハウス麻布鳥居坂	H18	1,510	509	39	33	582	38.53
14	パークマンション南麻布	H18	3,599	1,325	0	134	1,459	40.55
15	コスモポリス品川	H18	6,915	2,442	209	154	2,805	40.56
16	赤坂インターシティ・ホームマートバイカウント	H19	8,079	3,870	21	221	4,112	50.89
17	東京 芝 とうふ屋うかい	H19	5,316	2,295	0	0	2,295	43.17
18	パークタワー品川ベイワード	H19	4,129	1,335	52	0	1,387	33.58
19	白金アエルシティ	H19	12,607	2,358	164	367	2,888	22.91
20	ATHERTON PLACE	H19	1,023	337	0	23	360	35.21
21	普連土学園120周年記念館	H20	8,561	1,274	0	97	1,371	16.01
22	三田ツインビル西館	H20	16,822	7,025	948	527	8,500	50.53
23	SS南青山PART-3	H20	486	121	0	0	121	24.78
24	GRACE六本木	H20	493	33	6	12	50	10.21
25	白金K/N邸	H20	335	110	0	1	110	32.91
26	東京ミッドタウン	H21	72,468	16,714	4,045	3,546	24,305	33.54
27	キャピタルマークタワー	H21	11,377	4,356	0	0	4,356	38.29
28	パークコート虎ノ門 愛宕タワー	H21	3,251	1,150	0	168	1,318	40.54
29	赤坂タワーレジデンス トップオブザヒル	H21	5,615	2,340	0	20	2,360	42.03
30	藤田邸	H21	250	73	0	0	73	29.16

表 3.13.11 港区みどりの街づくり賞受賞施設の緑化状況 (2)

ID	受賞施設	年度	敷地面積(m <sup>2</sup> )	緑化状況			緑被地(m <sup>2</sup> )	緑被率(%)
				樹木被覆地(m <sup>2</sup> )	草地(m <sup>2</sup> )	屋上緑地(m <sup>2</sup> )		
31	赤坂サカス	H22	31,248	6,526	88	1,052	7,666	24.53
32	京阪神不動産 御成門ビル	H22	554	0	0	89	89	16.07
33	芝浦ルネサイト	H22	7,686	2,599	0	286	2,885	37.53
34	品川サンケイビル	H22	481	17	0	200	217	45.11
35	NS麻布十番	H22	361	5	0	0	5	1.41
36	始弘ビル	H22	688	98	0	58	157	22.76
37	麻布ガーデンズ	H23	1,402	378	0	485	863	61.59
38	ウエスト青山ガーデン	H23	563	111	0	0	111	19.74
39	グランドメゾン白金台	H23	2,510	731	0	134	865	34.47
40	パークコート赤坂 ザタワー	H23	8,427	3,184	60	804	4,048	48.03
41	品川フロントビル	H24	2,900	275	0	148	423	14.57
42	虎ノ門ファーストガーデン	H24	1,405	220	0	261	480	34.18
43	南青山サンタキア教会	H24	503	121	0	0	121	24.11
44	赤坂Kタワー	H25	5,342	1,250	0	131	1,382	25.86
45	NFD花ファッションハウス	H25	347	17	0	130	148	42.52
46	THE ROPPONGI TOKYO	H25	6,250	1,306	120	1,317	2,743	43.89
47	アークヒルズ仙石山森タワー	H26	16,290	5,872	336	2,003	8,210	50.40
48	港南ビル	H26	855	23	0	283	306	35.78
49	ザ・パークハウスアーク御成門	H26	460	61	0	0	61	13.28
50	プラウド南麻布	H27	3,256	456	14	164	634	19.48
51	アークヒルズサウスタワー	H27	5,633	1,373	0	393	1,766	31.35
52	北青山3丁目ビル	H27	376	71	0	0	71	18.93
53	日土地虎ノ門ビル	H27	2,061	230	0	0	230	11.15
54	オアーズ芝浦	H28	3,194	152	0	59	211	6.60
55	虎ノ門ヒルズ	H28	18,245	2,088	10	2,731	4,829	26.47
56	品川シーズンテラス	H28	11,123	1,174	0	1,635	2,810	25.26
57	TRI-SEVEN ROPPONGI	H29	3,570	904	0	33	937	26.24
58	AZABU GARDENS WEST	H29	4,700	1,068	0	731	1,799	38.28
59	パークマンション三田綱町ザフォレスト	H29	4,720	1,585	0	41	1,625	34.44
60	GLOBAL FRONT TOWER	H29	10,036	3,401	439	0	3,840	38.26
61	日本交通公社ビル	H30	828	115	23	83	221	26.71
62	銀泉新橋第2ビル	H30	944	36	0	12	48	5.09
63	ホテルマイステイズプレミア赤坂	H30	1,997	380	0	60	440	22.02
64	ザ・パークハウスグラン南青山	H30	4,385	448	0	84	532	12.14
65	ラフォンテ麻布十番	H30	426	60	0	0	60	14.00
66	赤坂インターシティAIR	R元	16,710	7,475	0	636	8,111	48.54
67	パークコート赤坂檜町ザタワー	R元	5,589	2,042	90	290	2,422	43.33
68	浜松町エクセレントビル	R元	616	27	0	36	63	10.26
69	G-BASE田町	R元	2,270	509	0	134	643	28.33
70	パークコート青山ザタワー	R元	4,000	1,702	573	0	2,275	56.87
71	住友不動産御成門タワー	R2	3,515	991	0	22	1,012	28.80
72	バウスステージ南青山	R2	862	60	0	0	60	6.92
合計			528,403	129,753	8,694	30,449	168,896	31.96

※ GRACE六本木(H20)、NS麻布十番(H22)は、大規模な壁面緑化が評価されて受賞した  
 ※ 小数第1位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

### 3.13.4 大規模民間施設の緑被状況

○ 大規模民間施設 379 件の緑被率は 25.59%であった。

大規模民間施設として、敷地面積 1,000 m<sup>2</sup>以上の主な商業・業務系の建築物のある敷地を抽出し、緑被率の集計を行った。地区別の緑被状況を表 3.13.12、面積規模別の状況を表 3.13.13 に示す。

大規模民間施設 379 件のうち、緑被地（樹木被覆地、草地、屋上緑地）が確認できた施設は 363 件で、全体の 96%であった。屋上緑地が確認できた施設は 157 件で全体の 41%であった。施設全体の緑被率は 25.59%で、区全体の緑被率（22.62%）よりは高くなっている。

地区別では、芝地区（52 か所）の緑被率が最も高く 38.40%で、次いで芝浦港南地区（25 か所）が 33.99%であった。最も低い地区が麻布地区（103 か所）の 16.68%であった。

面積規模別では規模が大きくなるほど緑被率も高くなる傾向がある。最も緑被率が高い規模は 10,000 m<sup>2</sup>以上 30,000 m<sup>2</sup>未満（49 か所）で 32.42%であった。箇所数が最も多い 1,000 m<sup>2</sup>以上 3,000 m<sup>2</sup>未満（185 か所）では緑被率 13.62%と低い数値であった。

表 3.13.12 地区別の大規模民間施設の緑被状況

地区	箇所	面積 (ha)	緑被地(ha)				緑被率 (%)
			樹木被覆地	草地	屋上緑地	計	
芝地区	52	42.12	14.24	1.37	0.56	16.17	38.40
麻布地区	103	69.92	9.31	0.95	1.40	11.66	16.68
赤坂地区	130	83.91	17.41	1.67	2.15	21.23	25.30
高輪地区	69	42.10	8.62	0.46	1.32	10.40	24.70
芝浦港南地区	25	17.55	4.31	0.38	1.27	5.96	33.99
区全体	379	255.60	53.90	4.82	6.70	65.42	25.59

※ 小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

表 3.13.13 面積規模別の大規模民間施設の緑被状況

敷地面積	箇所	面積 (ha)	緑被地(ha)				緑被率 (%)
			樹木被覆地	草地	屋上緑地	計	
1000~3000m <sup>2</sup>	185	36.29	3.92	0.14	0.89	4.94	13.62
3000~5000m <sup>2</sup>	71	27.63	4.39	0.08	0.86	5.33	19.30
5000~10000m <sup>2</sup>	65	44.98	7.29	0.39	0.90	8.59	19.09
10000~30000m <sup>2</sup>	49	89.98	24.17	2.39	2.61	29.17	32.42
30000m <sup>2</sup> 以上	9	56.73	14.14	1.82	1.43	17.39	30.65
区全体	379	255.60	53.90	4.82	6.70	65.42	25.59

※ 小数第3位を四捨五入により集計値が合わない場合がある

### 3.14 エコロジカルネットワーク形成の効果の検証調査

#### 3.14.1 検証方法

港区では、平成 26 年に港区における生物多様性の保全と持続可能な利用を、様々な主体との協働により総合的に推進する「港区生物多様性地域戦略」を策定し、この戦略の目標の一つである「自然や生きものと共存できるまちづくりが進んでいる」を実現するため平成 28 年に「生物多様性緑化ガイド」を策定した。「生物多様性緑化ガイド」では、緑化計画書制度を活用することで、公共・民間施設の建設時に生物多様性緑化ガイドに基づいた緑化を整備し、「生物多様性緑化」を誘導するものである。このように港区では、生きものが生息しやすい環境や生息拠点となる緑地がつながれた状態であるエコロジカルネットワークの形成を図っている。

今回、エコロジカルネットワーク形成の検証を行う対象区域は、次の 2 地区とした。

- ・自然教育園から半径 500m 以内の区域
- ・赤坂一丁目・二丁目区域

また、「拠点」は 200 m<sup>2</sup>以上の緑地、「点在する緑」は 50 m<sup>2</sup>以上 200 m<sup>2</sup>未満の緑地とし、第 8 次、第 9 次、第 10 次調査による緑地の変化から検証を行うこととした。

#### 検証方法 1

1. 各対象区域内に存在する「拠点（200 m<sup>2</sup>以上の樹林または草地）」、「点在する緑（50 m<sup>2</sup>以上 200 m<sup>2</sup>未満の樹林または草地）」を抽出する。
2. 各対象区域の 10m メッシュデータを作成し、メッシュ内に占める「拠点」及び「点在する緑」の面積を算出する。
3. 第 8 次～第 10 次のメッシュ内の樹林または草地の面積別のメッシュ数の変化を算出する。

#### 検証方法 2

1. 自然教育園から半径 500m 以内の区域は自然教育園の外周、赤坂一丁目・二丁目区域はアメリカ大使館の外周を基準とし、「拠点」及び「点在する緑」との距離（最短距離）を計測する。「拠点」または「点在する緑」の距離計測は、第 8 次、第 9 次、第 10 次の 3 時期とする。
2. 第 8 次～第 10 次の各基準からの距離別の「拠点」及び「点在する緑」の数の変化を算出する。距離の区分は 100m ごととする。

### 3.14.2 自然教育園から半径 500m以内

- 「拠点」となる樹林はやや減少している。
- 小型の鳥類の飛翔距離を考慮したエコロジカルネットワーク形成状況は大きな変化はなく、ネットワークは維持されている。

自然教育園から半径 500m以内の 50 m<sup>2</sup>以上樹林のメッシュ内面積別のメッシュ数を表 3.14.1、平成 23 年度（第 8 次）調査の樹林メッシュ図を図 3.14.1、平成 28 年度（第 9 次）調査の樹林メッシュ図を図 3.14.2、令和 3 年度（第 10 次）調査の樹林メッシュ図を図 3.14.3、200 m<sup>2</sup>以上の緑被変化図を図 3.14.4 に示す。

メッシュ内に占める 50 m<sup>2</sup>以上の樹林面積が 0 m<sup>2</sup>（50 m<sup>2</sup>以上の樹林が存在しない）のメッシュ数は、第 8 次から第 9 次調査では増加したが、第 9 次から第 10 次調査では減少している。第 8 次調査からの 10 年間では 68 メッシュが減少し、樹林のない空白域が少なくなったことが分かる。樹林のあるメッシュ内の面積別の状況では、第 8 次調査からの 10 年間では 50 m<sup>2</sup>未満のメッシュ数は 167 メッシュ増加しているが、50 m<sup>2</sup>以上 100 m<sup>2</sup>未満は 11 メッシュ、100 m<sup>2</sup>は 88 メッシュの減少であった。これより小型の鳥類の飛翔距離を考慮したエコロジカルネットワーク形成状況は大きな変化はなく、ネットワークは維持されていることが分かる。

表 3.14.1 自然教育園半径 500m以内の 50 m<sup>2</sup>以上樹林のメッシュ内面積別メッシュ数

単位:メッシュ数

10mメッシュ内の50m <sup>2</sup> 以上樹林の面積	平成23年 (第8次)	平成28年 (第9次)	令和3年 (第10次)	平成23年→ 平成28年	平成28年→ 令和3年	平成23年→ 令和3年
0m <sup>2</sup>	2,967	3,037	2,899	70	△ 138	△ 68
50m <sup>2</sup> 未満	2,122	2,039	2,289	△ 83	250	167
50m <sup>2</sup> 以上100m <sup>2</sup> 未満	1,276	1,230	1,265	△ 46	35	△ 11
100m <sup>2</sup>	1,831	1,890	1,743	59	△ 147	△ 88

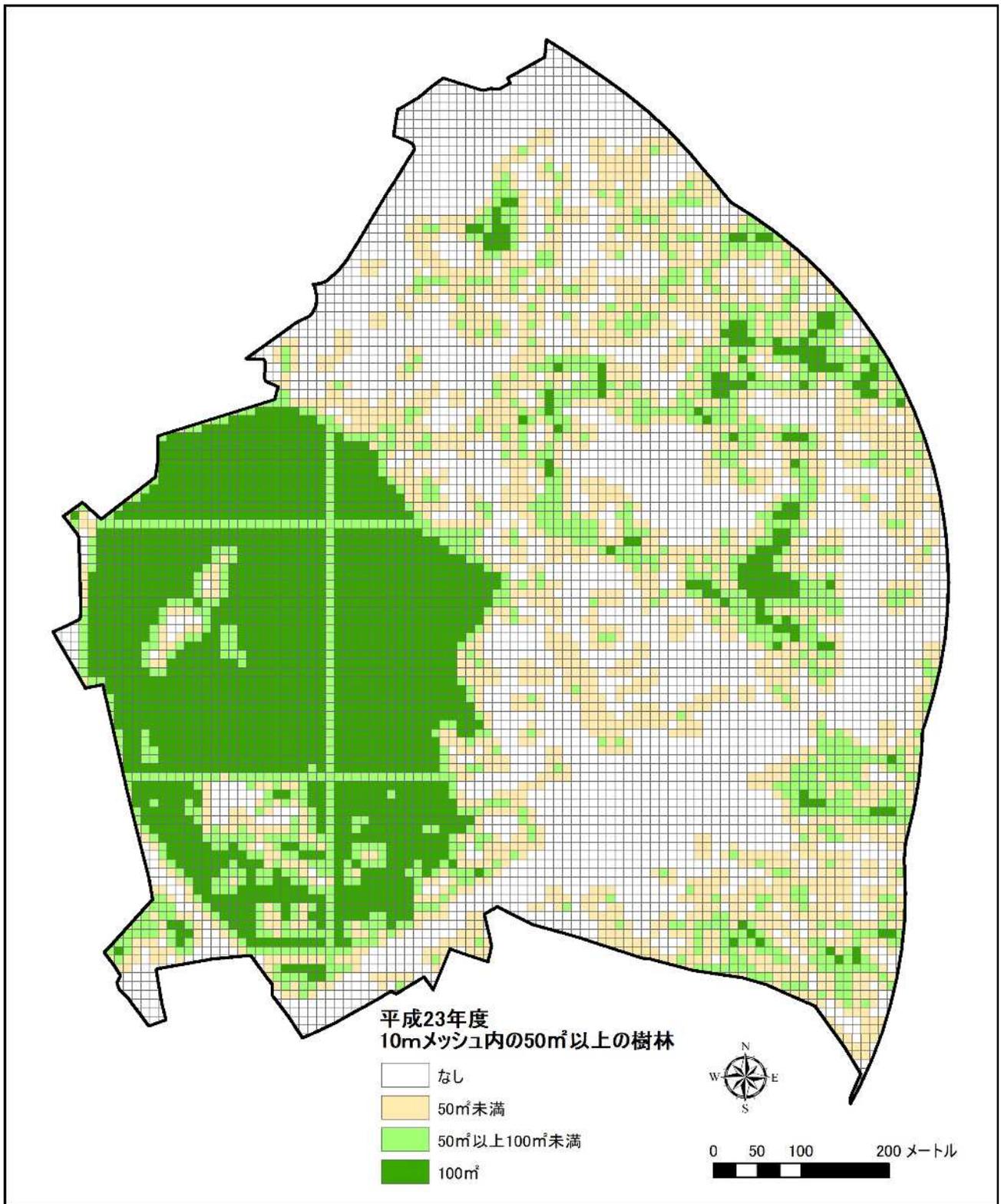


図 3.14.1 平成 23 年度（第 8 次）調査樹林メッシュ図

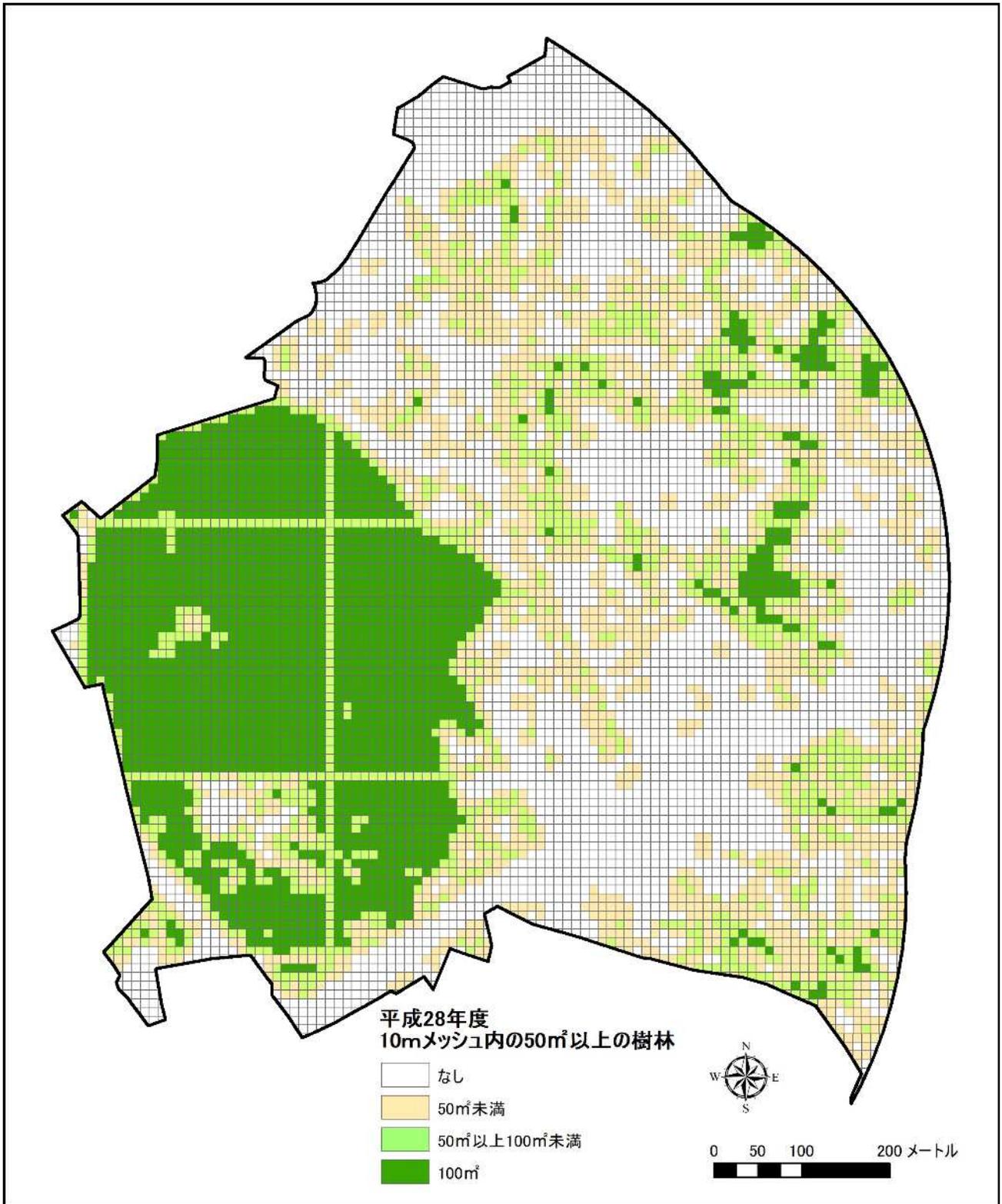


図 3.14.2 平成 28 年（第 9 次）調査樹林メッシュ図

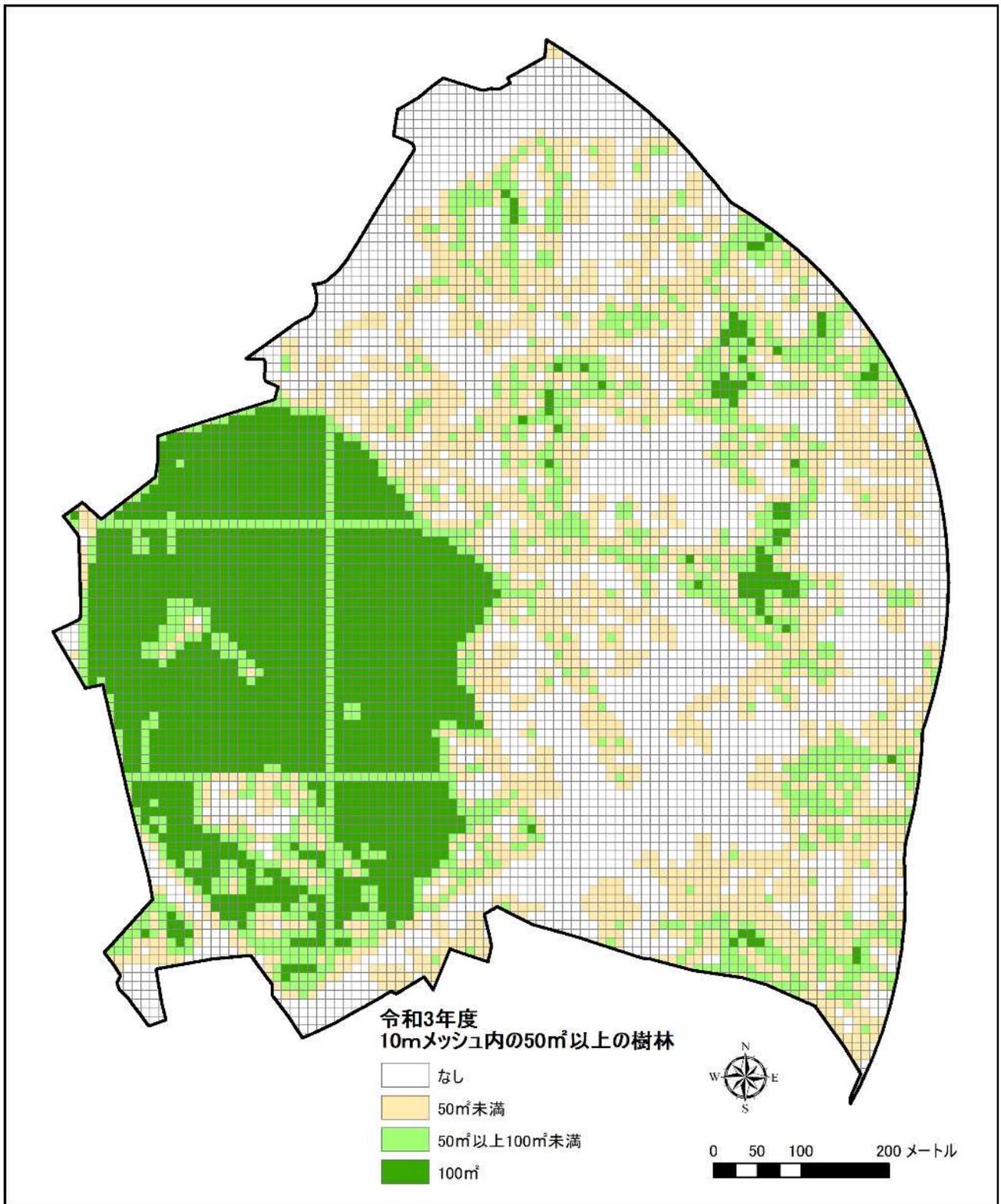


図 3.14.3 令和3年度（第10次）調査樹林メッシュ図

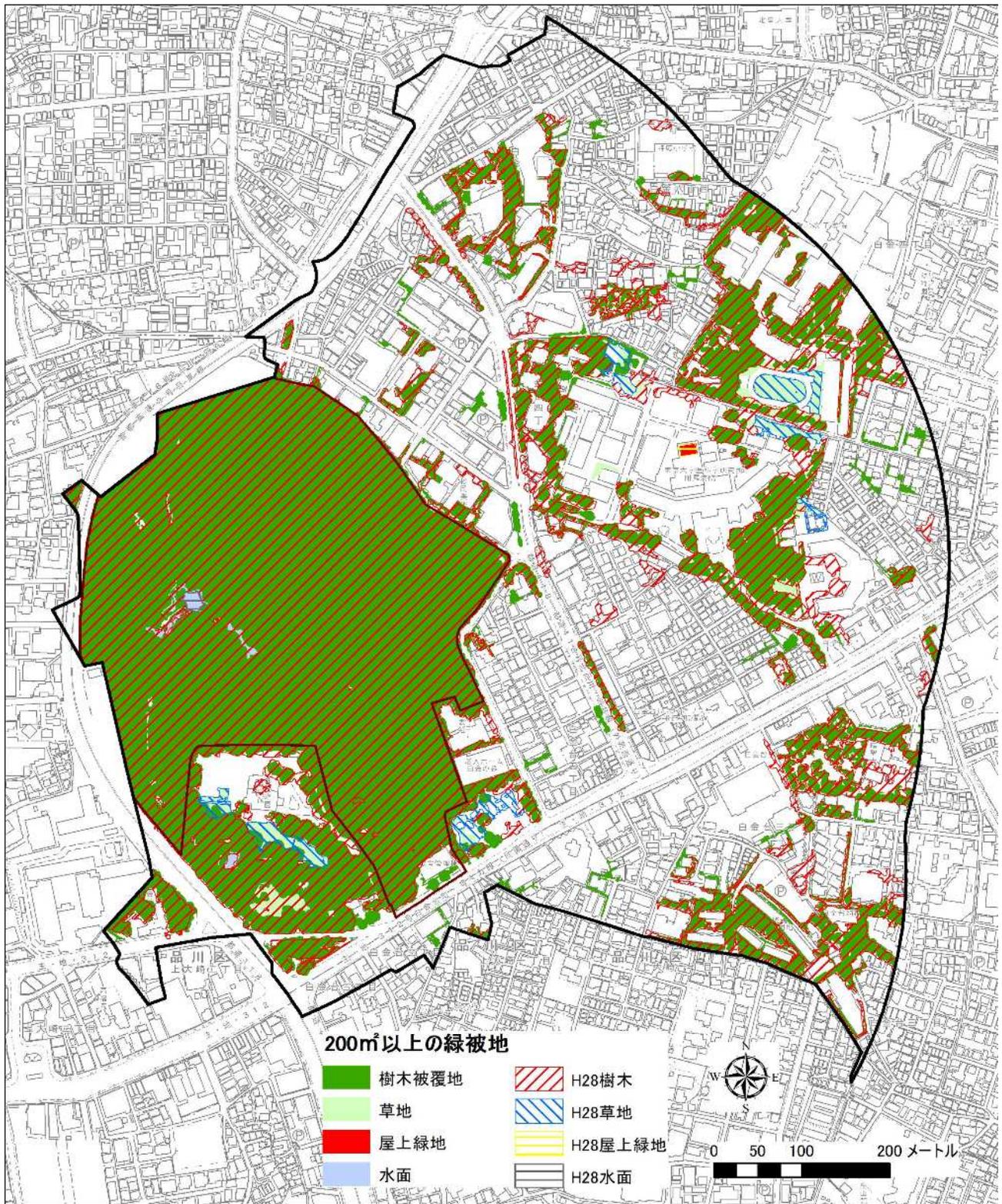


図 3.14.4 拠点となる緑地（200㎡以上の緑被地）変化図

自然教育園から半径 500m以内の 50 m<sup>2</sup>以上草地のメッシュ内面積別のメッシュ数を表 3.14.2、平成 23 年度（第 8 次）調査の草地メッシュ図を図 3.14.5、平成 28 年度（第 9 次）調査の草地メッシュ図を図 3.14.6、令和 3 年度（第 10 次）調査の草地メッシュ図を図 3.14.7 に示す。緑被データの各区分の判読は上位優先となるため、草地の上部に樹木被覆地がある場合は樹木被覆地として判読している。そのため本調査では上部に樹木被覆地のない草地のみを対象としている。

上部に樹木被覆地がない草地は非常に少なく、自然教育園から半径 500m以内のメッシュ数約 8,200 のうち、50 m<sup>2</sup>以上の草地が存在するものは、令和 3 年度調査では約 550 メッシュ（約 7%）であった。そのため緑被データ上ではネットワークとしてのつながりはないが、草地のまとまりが点在していることが分かる。

メッシュ内に占める 50 m<sup>2</sup>以上の草地面積が 0 m<sup>2</sup>（50 m<sup>2</sup>以上の草地が存在しない）は、第 8 次から第 9 次調査では増加したが、第 9 次から第 10 次調査では減少している。第 8 次調査からの 10 年間では 67 メッシュの増加であった。草地のあるメッシュ内の面積別の状況では、第 8 次調査からの 10 年間の変化は 50 m<sup>2</sup>未満が 7 メッシュ、50 m<sup>2</sup>以上 100 m<sup>2</sup>未満が 50 メッシュ、100 m<sup>2</sup>以上が 10 メッシュの減少であった。緑被データの草地を用いたエコロジカルネットワーク検証としては、ネットワーク形成は進んでいないという結果であった。しかし、ある程度まとまった樹木被覆地には、下層部に草地が存在するものがあるため、緑被データの草地のみでの検証は難しいと思われる。

表 3.14.2 自然教育園半径 500m以内の 50 m<sup>2</sup>以上草地のメッシュ内面積別メッシュ数

単位:メッシュ数

10mメッシュ内の50m <sup>2</sup> 以上草地面積	平成23年 (第8次)	平成28年 (第9次)	令和3年 (第10次)	平成23年→ 平成28年	平成28年→ 令和3年	平成23年→ 令和3年
0m <sup>2</sup>	7,583	7,878	7,650	295	△ 228	67
50m <sup>2</sup> 未満	460	233	453	△ 227	220	△ 7
50m <sup>2</sup> 以上100m <sup>2</sup> 未満	136	78	86	△ 58	8	△ 50
100m <sup>2</sup>	17	7	7	△ 10	0	△ 10

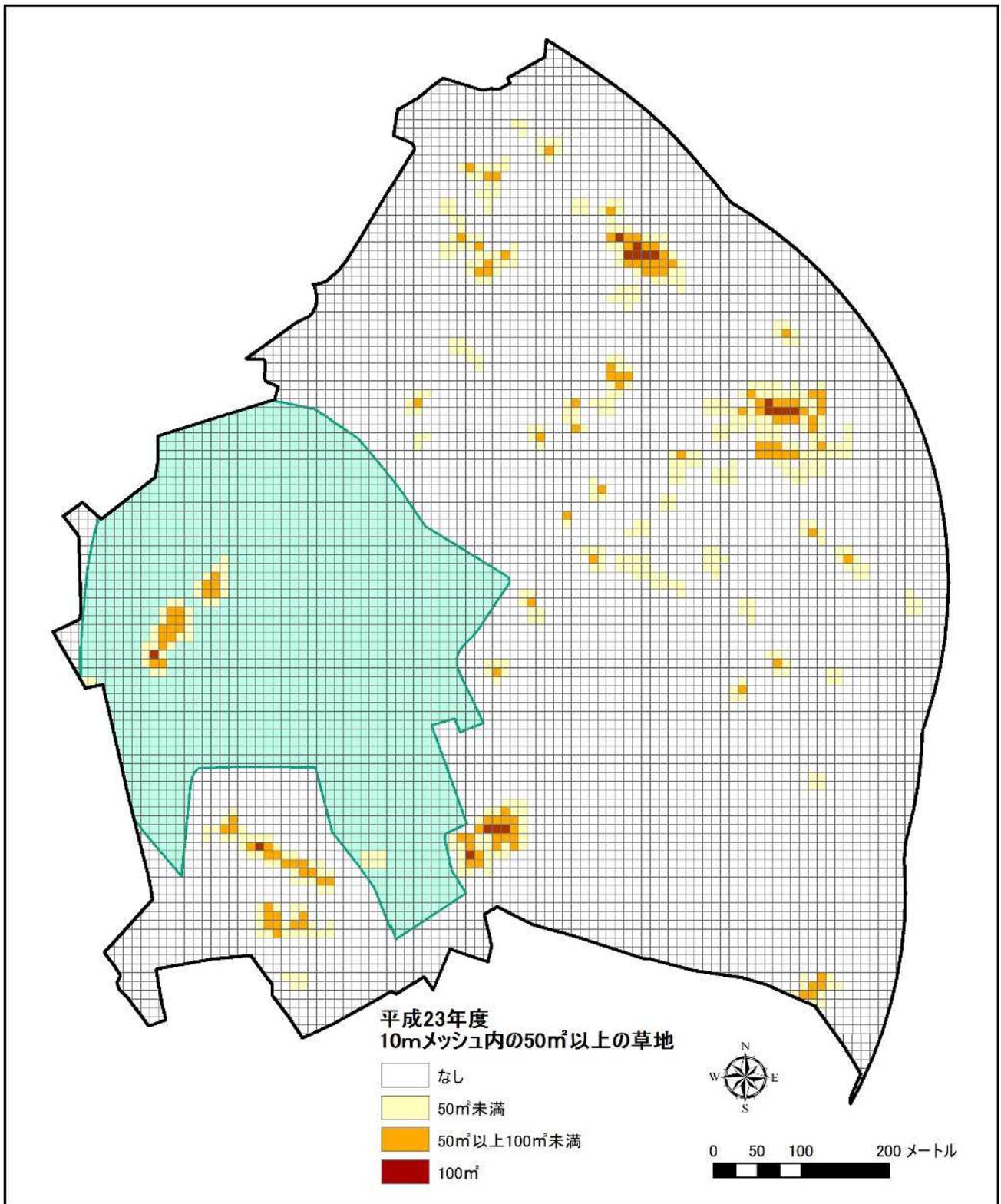


図 3.14.5 平成 23 年度（第 8 次）調査草地メッシュ図

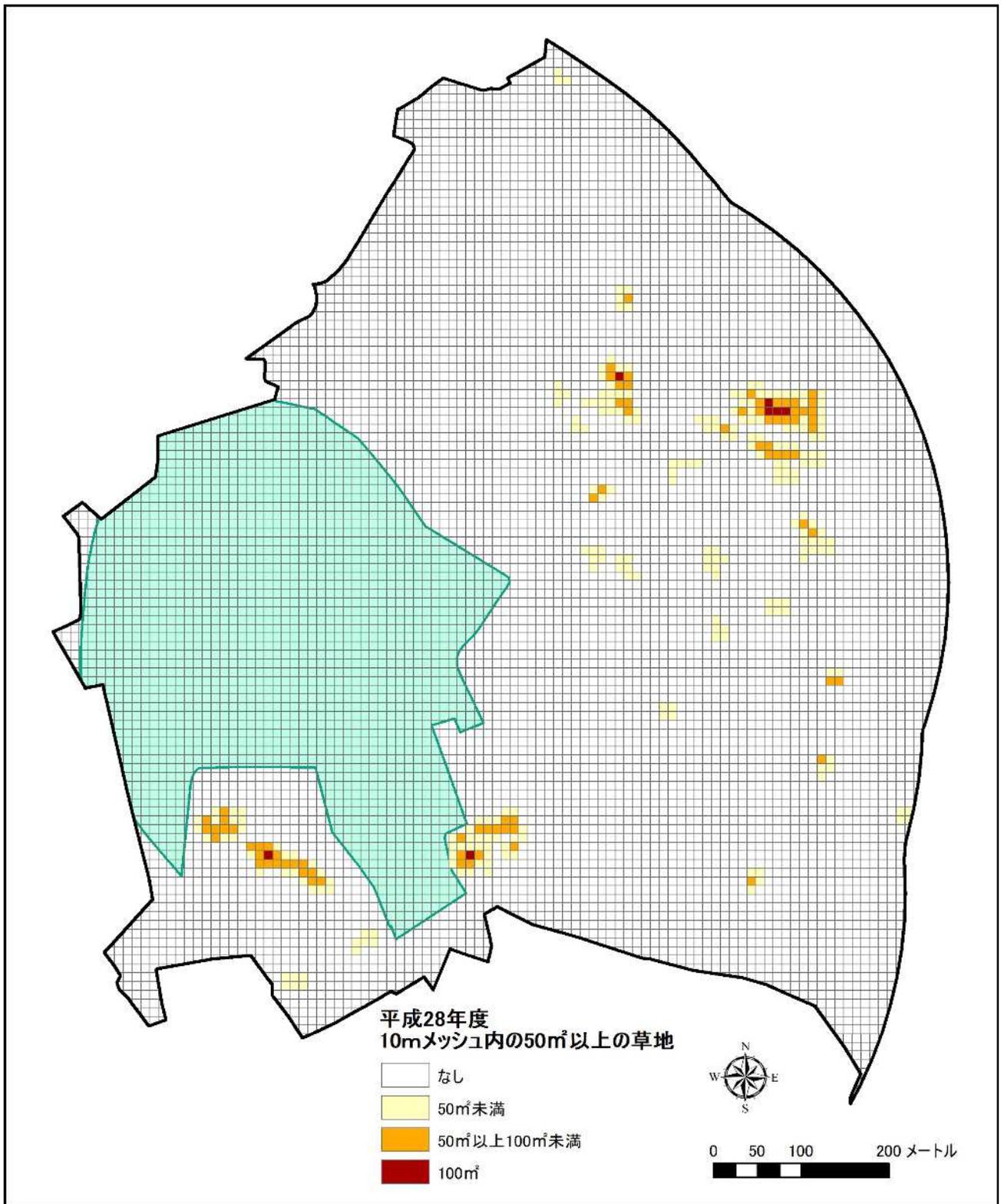


図 3.14.6 平成 28 年度（第 9 次）調査草地メッシュ図

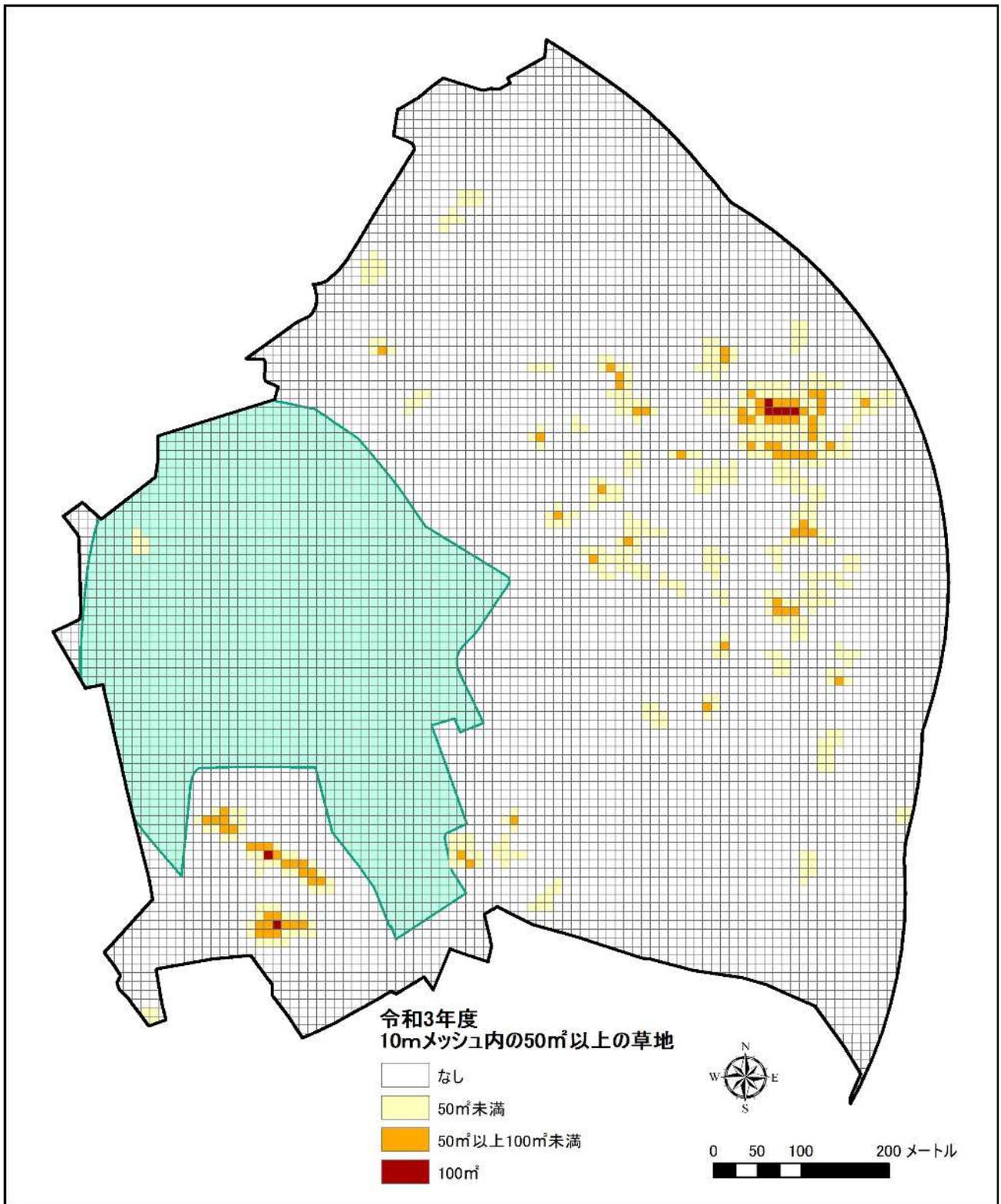


図 3.14.7 令和3年度（第10次）調査草地メッシュ図

自然教育園を「供給地」として、小型の鳥類や昆虫類の飛翔距離を考慮し 100mごとに「拠点」または「点在する緑」の箇所数とその変化を把握した。自然教育園からの距離別の「拠点（200 m<sup>2</sup>以上）」または「点在する緑（50 m<sup>2</sup>以上 200 m<sup>2</sup>未満）」の樹林の箇所数を表 3.14.3、草地の箇所数を表 3.14.5、調査年毎の変化を表 3.14.4、表 3.14.6 に示す。

各調査年ともに「拠点」となる樹林は 10～20 か所程度、「点在する緑」としての樹林は 30～50 か所程度あり、小型の鳥類が自然教育園から半径 500m以内を移動することが可能な状態にあるといえる。第 8 次から第 10 次調査の箇所数の変化では、自然教育園から 100m未満は「点在する緑」としての樹林が 14 か所増加している。100 mを超える範囲では増減はあるものの大きな変化は少なく、小型の鳥類のエコロジカルネットワークは維持されているといえる。

草地については、上部に樹木被覆地がない草地のみを対象としているため各範囲の箇所数は少ない。草地を生息地とし飛翔するバツタ類のエコロジカルネットワークとなるが、自然教育園から 100mごとの草地数は、各調査年とも 10～20 か所程度と少なく、調査対象とした草地のみでは移動が限られる。第 8 次から第 10 次調査の箇所数の変化では、各距離において大きな変化はなかった。

表 3.14.3 距離別の樹林箇所数

単位：か所

調査年	規模	100m未満	100m以上 200m未満	200m以上 300m未満	300m以上 400m未満	400m以上 500m未満	合計
平成23年 (第8次)	200m <sup>2</sup> 以上	20	10	16	15	16	77
	50m <sup>2</sup> 以上200m <sup>2</sup> 未満	39	38	26	29	42	174
	合計	59	48	42	44	58	251
平成28年 (第9次)	200m <sup>2</sup> 以上	19	12	10	15	16	72
	50m <sup>2</sup> 以上200m <sup>2</sup> 未満	43	37	32	26	37	175
	合計	62	49	42	41	53	247
令和3年 (第10次)	200m <sup>2</sup> 以上	19	16	13	14	23	85
	50m <sup>2</sup> 以上200m <sup>2</sup> 未満	54	29	28	35	34	180
	合計	73	45	41	49	57	265

表 3.14.4 距離別の樹林箇所数の変化

単位:か所

調査年	規模	100m未満	100m以上 200m未満	200m以上 300m未満	300m以上 400m未満	400m以上 500m未満	合計
平成23年→ 平成28年	200㎡以上	△ 1	2	△ 6	0	0	△ 5
	50㎡以上200㎡未満	4	△ 1	6	△ 3	△ 5	1
	合計	3	1	0	△ 3	△ 5	△ 4
平成28年→ 令和3年	200㎡以上	0	4	3	△ 1	7	13
	50㎡以上200㎡未満	11	△ 8	△ 4	9	△ 3	5
	合計	11	△ 4	△ 1	8	4	18
平成23年→ 令和3年	200㎡以上	△ 1	6	△ 3	△ 1	7	8
	50㎡以上200㎡未満	15	△ 9	2	6	△ 8	6
	合計	14	△ 3	△ 1	5	△ 1	14

表 3.14.5 距離別の草地箇所数

単位:か所

調査年	規模	100m未満	100m以上 200m未満	200m以上 300m未満	300m以上 400m未満	400m以上 500m未満	合計
平成23年 (第8次)	200㎡以上	5	1	3	6	1	16
	50㎡以上200㎡未満	11	11	10	17	4	53
	合計	16	12	13	23	5	69
平成28年 (第9次)	200㎡以上	4	0	2	4	0	10
	50㎡以上200㎡未満	5	5	7	8	2	27
	合計	9	5	9	12	2	37
令和3年 (第10次)	200㎡以上	5	2	2	6	0	15
	50㎡以上200㎡未満	8	12	9	21	6	56
	合計	13	14	11	27	6	71

表 3.14.6 距離別の草地箇所数の変化

単位:か所

調査年	規模	100m未満	100m以上 200m未満	200m以上 300m未満	300m以上 400m未満	400m以上 500m未満	合計
平成23年→ 平成28年	200㎡以上	△ 1	△ 1	△ 1	△ 2	△ 1	△ 6
	50㎡以上200㎡未満	△ 6	△ 6	△ 3	△ 9	△ 2	△ 26
	合計	△ 7	△ 7	△ 4	△ 11	△ 3	△ 32
平成28年→ 令和3年	200㎡以上	1	2	0	2	0	5
	50㎡以上200㎡未満	3	7	2	13	4	29
	合計	4	9	2	15	4	34
平成23年→ 令和3年	200㎡以上	0	1	△ 1	0	△ 1	△ 1
	50㎡以上200㎡未満	△ 3	1	△ 1	4	2	3
	合計	△ 3	2	△ 2	4	1	2

### 3.14.3 赤坂一丁目・二丁目

○ 緑地の線としての連続的なつながりはないが、公開空地の緑地を中心に飛び石状につながっている。

赤坂一丁目・二丁目の50㎡以上樹林のメッシュ内面積別のメッシュ数を表3.14.7、平成23年度（第8次）調査の樹林メッシュ図を図3.14.8、平成28年度（第9次）調査の樹林メッシュ図を図3.14.9、令和3年度（第10次）調査の樹林メッシュ図を図3.14.10、200㎡以上の緑被変化図を図3.14.11に示す。

赤坂一・二丁目では赤坂インターシティAIRが新たに整備され、旧国際赤坂ビルが建替えのため更地となっている。公開空地内のメッシュ内に占める50㎡以上の樹林面積が0㎡のメッシュ数は第8次～第10次調査で減少が続いている。一方で樹林が存在する各面積区分は増加傾向にある。公開空地以外では、アメリカ大使館と隣接する寺院及び衆議院赤坂議員宿舎が「拠点」となっている。公開空地以外の50㎡以上の樹林面積0㎡のメッシュ数は増加しており、樹林が存在するメッシュ数も減少傾向を示している。公開空地以外の減少の主な要因は、衆議院赤坂議員宿舎に隣接する敷地の建替え工事等に伴う樹林の減少である。赤坂一丁目・二丁目では、公開空地の緑地がエコロジカルネットワークにおける「点在する緑」となっている。赤坂一丁目側ではアメリカ大使館と隣接する寺院の緑地を取り囲むように公開空地が位置しており、赤坂二丁目側では衆議院赤坂議員宿舎と隣接して公開空地が整備されていることから、緑地の線としての連続的なつながりはないが、公開空地の緑地を中心に飛び石状につながっている。

表 3.14.7 赤坂一丁目・二丁目の50㎡以上樹林のメッシュ内面積別メッシュ数

単位:メッシュ数

10mメッシュ内の 50㎡以上樹林面積		平成23年 (第8次)	平成28年 (第9次)	令和3年 (第10次)	平成23年→ 平成28年	平成28年→ 令和3年	平成23年→ 令和3年
公開 空地	0㎡	396	370	223	△ 26	△ 147	△ 173
	50㎡未満	255	260	324	5	64	69
	50㎡以上100㎡未満	177	194	273	17	79	96
	100㎡	27	31	35	4	4	8
公開空地 以外	0㎡	2,274	2,341	2,345	67	4	71
	50㎡未満	490	464	468	△ 26	4	△ 22
	50㎡以上100㎡未満	166	125	121	△ 41	△ 4	△ 45
	100㎡	19	19	15	0	△ 4	△ 4

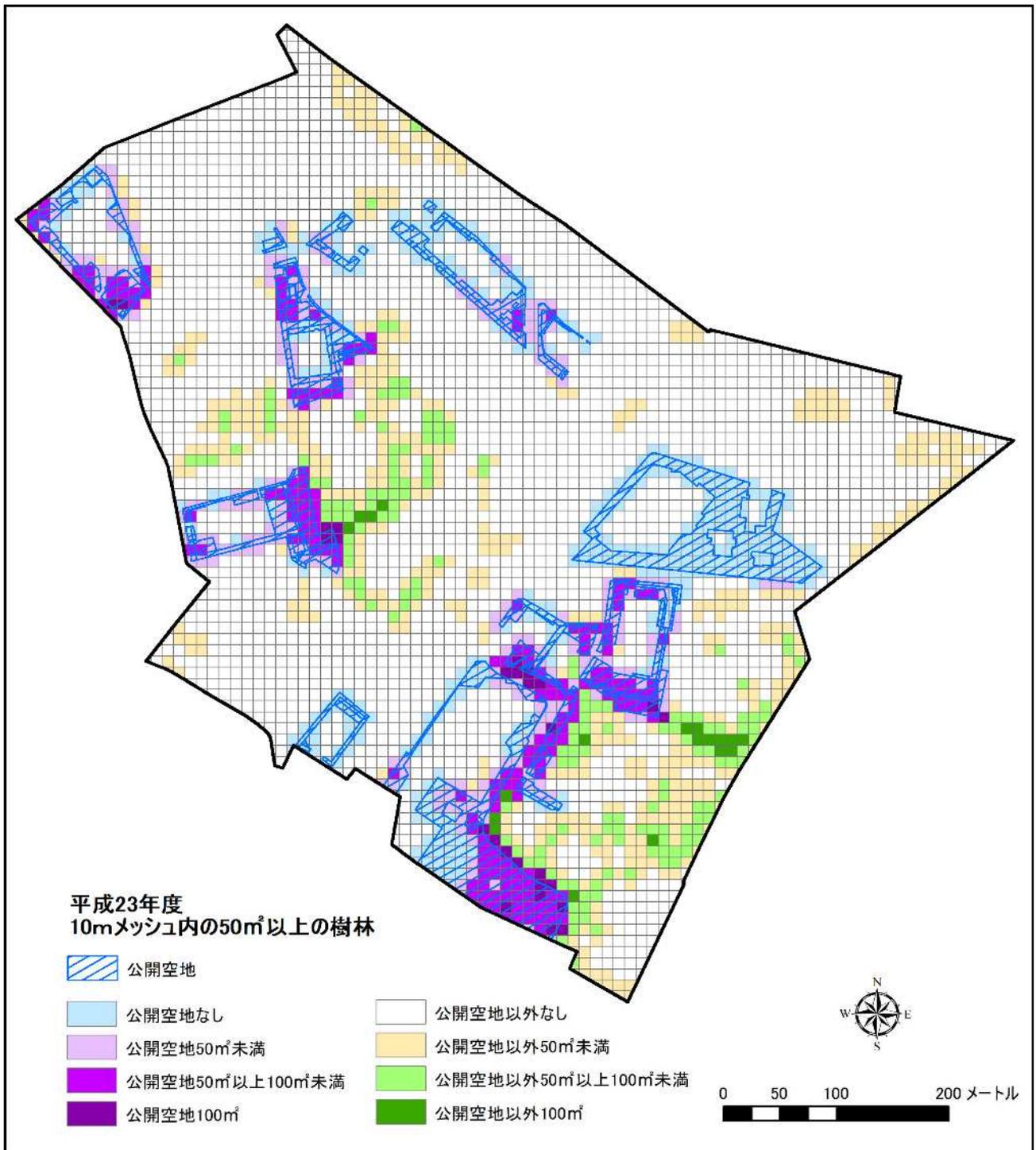


図 3.14.8 平成23年度（第8次）調査樹林メッシュ図

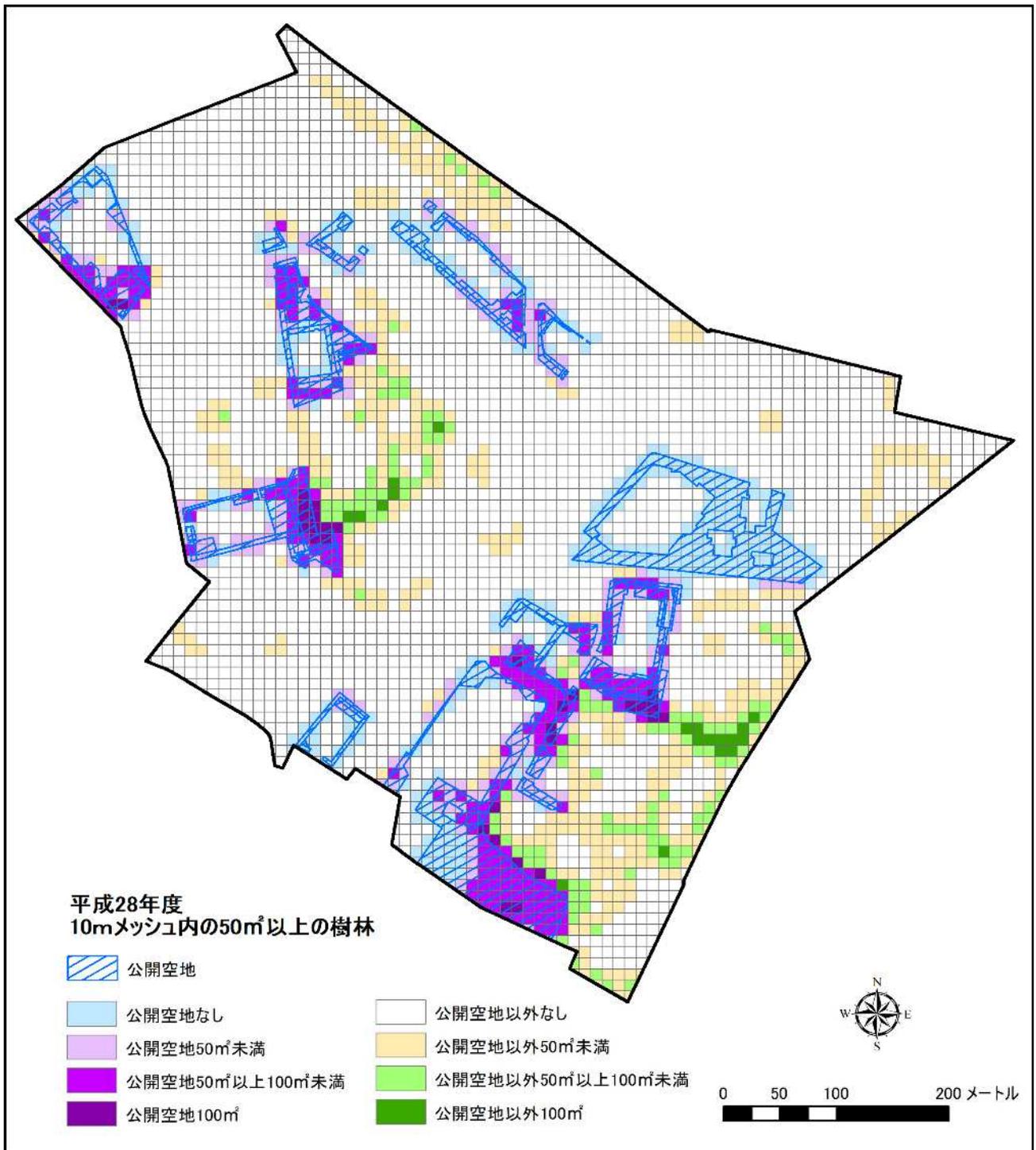


図 3.14.9 平成28年度（第9次）調査樹林メッシュ図

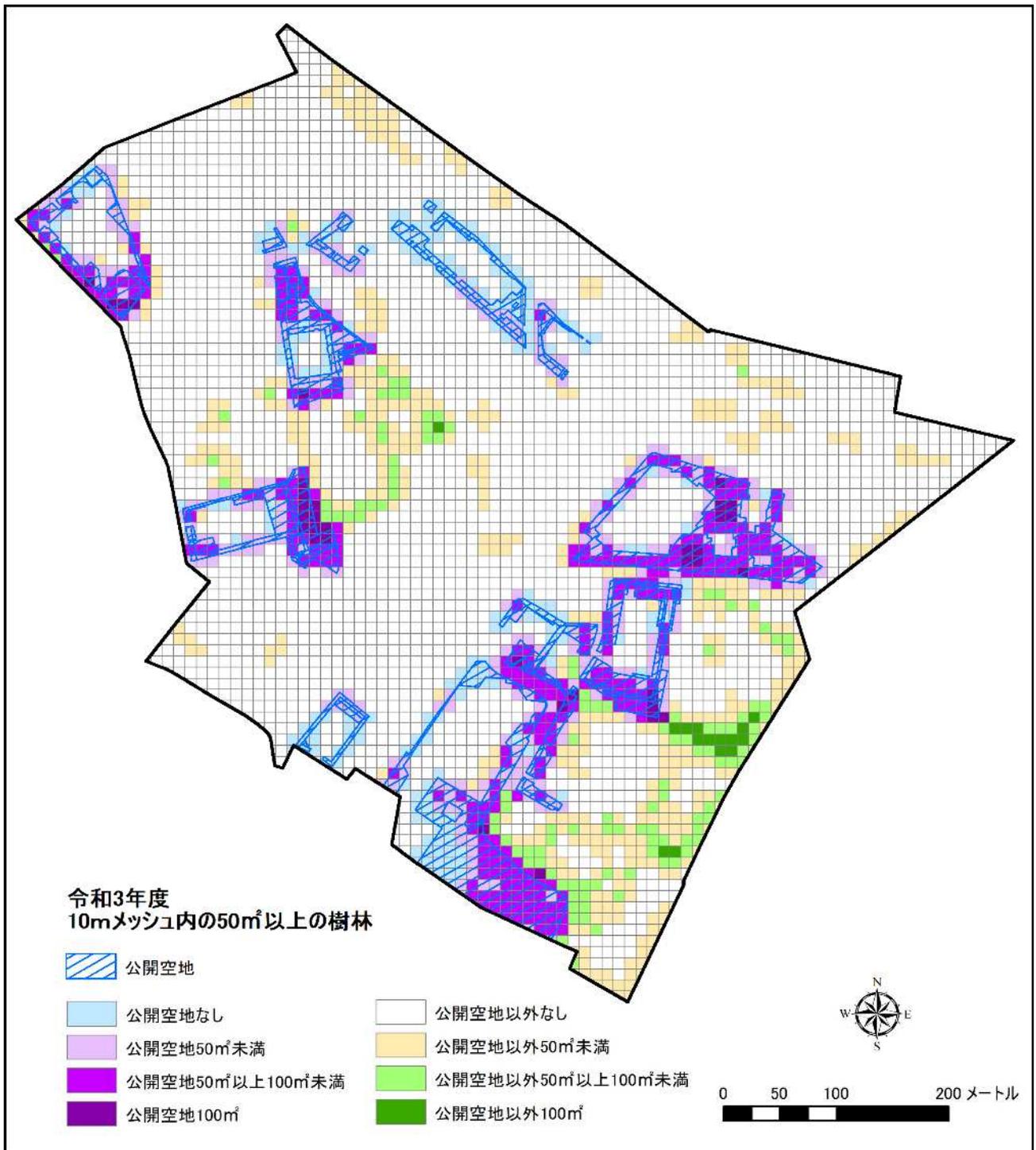


図 3.14.10 令和3年度（第10次）調査樹林メッシュ図



図 3.14.11 拠点となる緑地（200㎡以上の緑被地）変化図

赤坂一丁目・二丁目の50㎡以上草地のメッシュ内面積別のメッシュ数を表3.14.8、平成23年度（第8次）調査の草地メッシュ図を図3.14.12、平成28年度（第9次）調査の草地メッシュ図を図3.14.13、令和3年度（第10次）調査の草地メッシュ図を図3.14.14に示す。

赤坂一丁目・二丁目の50㎡以上の上部に樹木被覆地がない草地が存在するメッシュ数は非常に少なく、100メッシュ程度（約3%）である。これらの草地は公開空地、アメリカ大使館、衆議院赤坂議員宿舎に分布がみられる。公開空地も樹木が主体であるため、上部に樹木のない草地はほとんど存在していない。緑被データの上部に樹木被覆地がない草地のメッシュ数の変化においても、第8次調査からの10年間では大きな変化は少なく、バッタなどの飛翔性昆虫のエコロジカルネットワークが形成されている状況ではない。

表 3.14.8 赤坂一丁目・二丁目の50㎡以上草地のメッシュ内面積別メッシュ数

単位：メッシュ数

10mメッシュ内の 50㎡以上草地面積		平成23年 (第8次)	平成28年 (第9次)	令和3年 (第10次)	平成23年→ 平成28年	平成28年→ 令和3年	平成23年→ 令和3年
公開 空地	0㎡	830	841	842	11	1	12
	50㎡未満	22	12	10	△ 10	△ 2	△ 12
	50㎡以上100㎡未満	3	2	3	△ 1	1	0
	100㎡	0	0	0	0	0	0
公開空 地以外	0㎡	2,850	2,870	2,864	20	△ 6	14
	50㎡未満	84	64	67	△ 20	3	△ 17
	50㎡以上100㎡未満	15	13	18	△ 2	5	3
	100㎡	0	2	0	2	△ 2	0

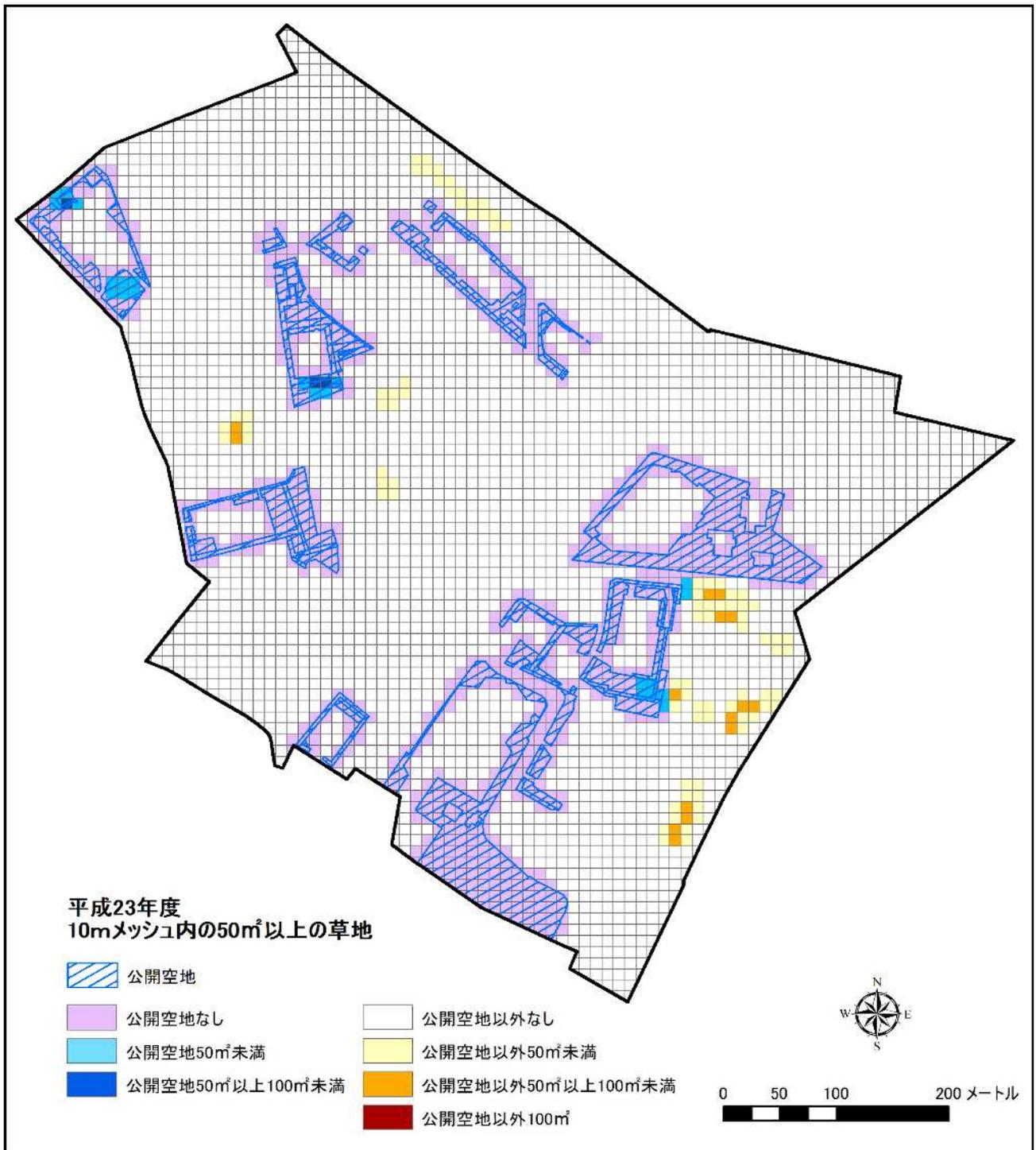


図 3.14.12 平成 23 年（第 8 次）調査草地メッシュ図

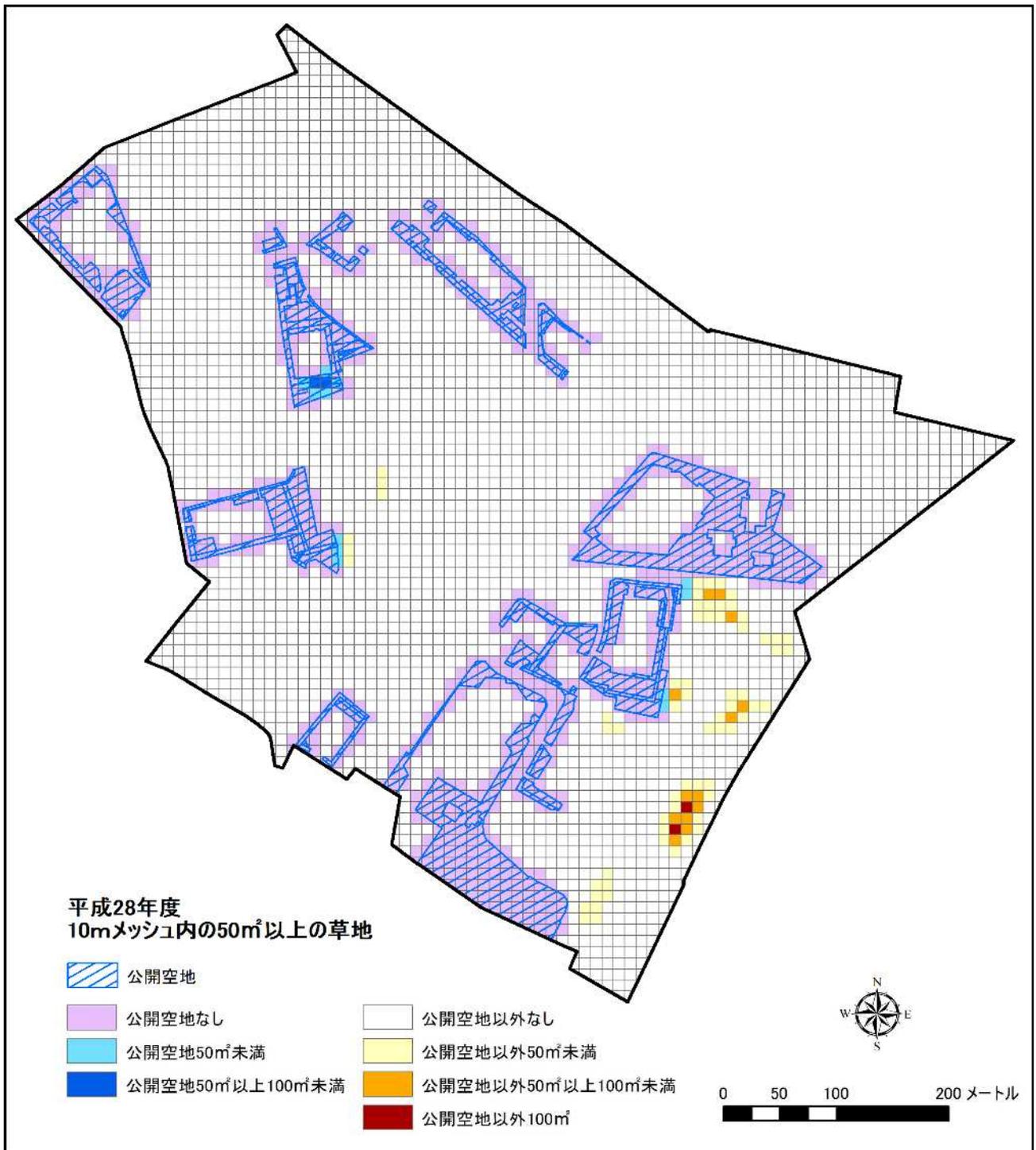


図 3.14.13 平成 28 年（第 9 次）調査草地メッシュ図

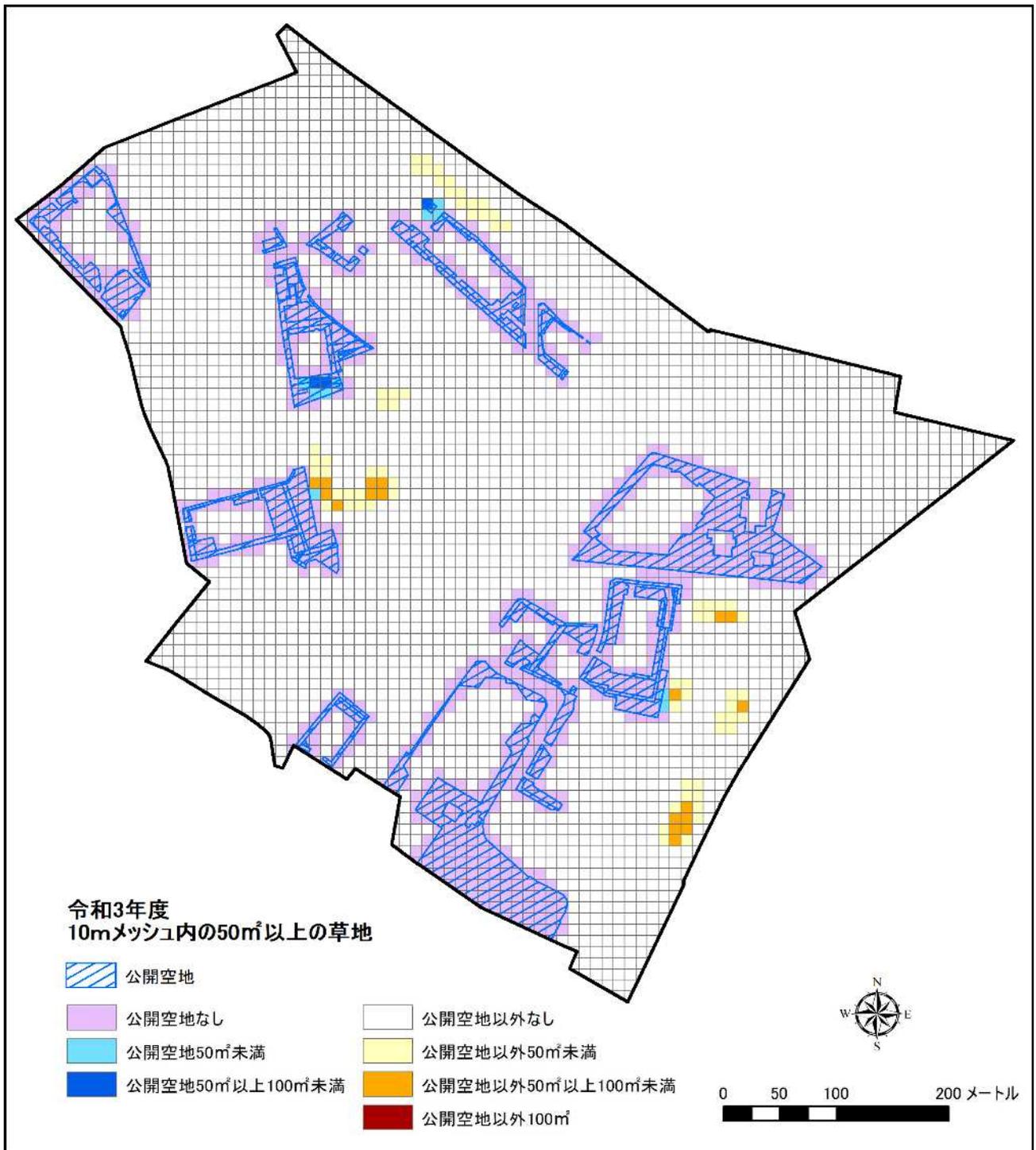


図 3.14.14 令和3年（第10次）調査草地メッシュ図

赤坂一丁目・二丁目では、アメリカ大使館を「拠点」として、小型の鳥類や昆虫類の飛翔距離を考慮し100mごとに「拠点」または「点在する緑」の箇所数とその変化を把握した。アメリカ大使館からの距離別の「拠点（200㎡以上）」または「点在する緑（50㎡以上200㎡未満）」の樹林の箇所数を表3.14.9、草地の箇所数を表3.14.11、調査年毎の変化を表3.14.10、表3.14.12に示す。

各調査年ともに、アメリカ大使館から500m未満では樹林は10～20か所程度が分布しているが、500mを超えると箇所数は減少し、数か所程度となっている。100m未満の「拠点」は増加しているが、100m以上では減少している。「点在する緑」としての樹林においても、300m未満の比較的距離が近いところでは増加しているが、300m以上では箇所数は減少傾向にある。新たに整備された公開空地である赤坂インターシティAIRはアメリカ大使館と隣接しており、アークヒルズの公開空地内の樹林も面積が増えていることから、アメリカ大使館近辺でのエコロジカルネットワークは充実していることが分かる。アメリカ大使館から距離が離れたところでは、建替え等に伴う緑地の消失箇所があることから、ネットワーク形成が進んでいない状況である。さらに赤坂五丁目に近い区域では、50㎡以上の樹林が存在しない区域が広がっていることから、樹林の箇所数も少なくなっており、第8次調査からの10年間においても樹林の分布状況には変化がないことが分かる。

表 3.14.9 距離別の樹林箇所数

単位：か所

調査年	規模	100m未満	100m以上 200m未満	200m以上 300m未満	300m以上 400m未満	400m以上 500m未満	500m以上 600m未満	600m以上 700m未満
平成23年	200㎡以上	5	3	6	4	5	2	2
	50㎡以上 200㎡未満	12	13	8	10	13	4	1
	合計	17	16	14	14	18	6	3
平成28年	200㎡以上	6	3	3	5	4	2	0
	50㎡以上 200㎡未満	14	11	10	9	18	2	2
	合計	20	14	13	14	22	4	2
令和3年	200㎡以上	9	2	2	1	2	2	1
	50㎡以上 200㎡未満	13	19	11	8	15	3	2
	合計	22	21	13	9	17	5	3

表 3.14.10 距離別の樹林箇所数の変化

単位:か所

調査年	規模	100m未満	100m以上 200m未満	200m以上 300m未満	300m以上 400m未満	400m以上 500m未満	500m以上 600m未満	600m以上 700m未満
平成23年 →平成28 年	200㎡以上	1	0	△ 3	1	△ 1	0	△ 2
	50㎡以上 200㎡未満	2	△ 2	2	△ 1	5	△ 2	1
	合計	3	△ 2	△ 1	0	4	△ 2	△ 1
平成28年 →令和3 年	200㎡以上	3	△ 1	△ 1	△ 4	△ 2	0	1
	50㎡以上 200㎡未満	△ 1	8	1	△ 1	△ 3	1	0
	合計	2	7	0	△ 5	△ 5	1	1
平成23年 →令和3 年	200㎡以上	4	△ 1	△ 4	△ 3	△ 3	0	△ 1
	50㎡以上 200㎡未満	1	6	3	△ 2	2	△ 1	1
	合計	5	5	△ 1	△ 5	△ 1	△ 1	0

表 3.14.11 距離別の草地箇所数

単位:か所

調査年	規模	100m未満	100m以上 200m未満	200m以上 300m未満	300m以上 400m未満	400m以上 500m未満	500m以上 600m未満	600m以上 700m未満
平成23年	200㎡以上	0	0	0	0	0	0	0
	50㎡以上 200㎡未満	1	0	1	2	2	1	1
	合計	1	0	1	2	2	1	1
平成28年	200㎡以上	0	0	0	0	0	0	0
	50㎡以上 200㎡未満	2	0	1	2	0	0	0
	合計	2	0	1	2	0	0	0
令和3年	200㎡以上	0	0	0	1	0	0	0
	50㎡以上 200㎡未満	0	0	1	3	1	0	0
	合計	0	0	1	4	1	0	0

表 3.14.12 距離別の草地箇所数の変化

単位:か所

調査年	規模	100m未満	100m以上 200m未満	200m以上 300m未満	300m以上 400m未満	400m以上 500m未満	500m以上 600m未満	600m以上 700m未満
平成23年 →平成28 年	200㎡以上	0	0	0	0	0	0	0
	50㎡以上 200㎡未満	1	0	0	0	△ 2	△ 1	△ 1
	合計	1	0	0	0	△ 2	△ 1	△ 1
平成28年 →令和3 年	200㎡以上	0	0	0	1	0	0	0
	50㎡以上 200㎡未満	△ 2	0	0	1	1	0	0
	合計	△ 2	0	0	2	1	0	0
平成23年 →令和3 年	200㎡以上	0	0	0	1	0	0	0
	50㎡以上 200㎡未満	△ 1	0	0	1	△ 1	△ 1	△ 1
	合計	△ 1	0	0	2	△ 1	△ 1	△ 1